

日本の文学

堀尾幸平

1~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本の文学の歴史をふまえながら、代表的な文学作品を紹介し、鑑賞する。若い世代の文学への関心が薄らいでいるといわれる今、文学への興味と関心を喚起したい。

【授業計画】

1. 文学とは何か
2. 明治期の文学
3. 坪内逍遙. 二葉亭四迷
4. 三輪弘忠. 巖谷小波
5. 大正期の文学
6. 小川未明. 鈴木三重吉
7. 千葉省三. 浜田廣介
8. 童謡. 少年詩. 少女小説
9. 昭和期の文学
10. 佐藤紅緑. 江戸川乱歩
11. 宮澤賢治
12. 新美南吉. 坪田謙治
13. 平成期の文学
14. 創作の方法
15. 試験

【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

日本児童文学論（堀尾幸平著、中日文化、2,200円）

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

英米の文学

小野迪雄

1~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

文学作品にはそれぞれの国の文化が反映している。主に20世紀の英米の文学の思潮をたどりながら、伝統的な英国文学や移民の国として新しい文化を作った米国学を中心 to 考察する。

【授業計画】

本年度はアメリカ文学を中心に講義をする。アメリカは移民の国として、先進国の中では非常に遅い出発をした国であるが、それだけに歴史の古い国にみられる伝統に欠ける面があるものの、他の先進国にみられない文学の活力や著しい特徴がある。アメリカの文学作品には、どんな特質や問題があるのか考えていく。時間の制約上、個々の作品を細かく扱うことが難しいので、中心は作品を生みだした社会的背景や文学思潮におく。話の展開の中でイギリス文学や日本文学にもふれる。

【評価方法】

レポートや受講態度を加味するが、評価の中心は定期試験による。

【テキスト】

未定。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

中国の文学

寺尾 剛

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

中国の歴史と文化は古くかつ深い。日本はその影響を大きく受けてきたが、特に文学は顕著であった。中国の代表的な文学作品を紹介し、鑑賞する。

＜主なテーマ＞

- ・花木兰（ムーラン）の物語－中国女性は強い？
- ・王昭君の物語－国際結婚、是か？否か？
- ・西施の物語－中国最大の美人は？
- ・孟姜女の物語－万里の長城と女性悲話
- ・詩仙・李白－酒仙、大いに酒を歌う
- ・詩聖・杜甫－戦争と文学と
- ・南宋最大の詩人・陸游－夫婦と嫁姑戦争
- ・妻への愛－「悼亡詩」の系譜
- ・封神演義はどこまで実話？－中国小説の魅力
- ・中国笑話選－下ネタは下品か？
- ・孔子－中国人の知恵と格言
- ・魯迅・周作人兄弟と日本との深い関係
など

【評価方法】

平常点と試験。

【テキスト】

プリント

情報と社会

梅田敏文

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会は情報化社会といわれ、さまざまな情報が送受信されている。日常生活や経済社会の中で「情報」がいかにかわり、有効な活用はどうあるべきかについて考察する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 eビジネスの進展
- 第3講 社会の情報システム（事例1）
- 第4講 社会の情報システム（事例2）
- 第5講 社会の情報システム（事例3）
- 第6講 データと情報
- 第7講 インターネット
- 第8講 機械とコンピュータ
- 第9講 システムの概念
- 第10講 情報システムの構築
- 第11講 情報化社会の課題
- 第12講 まとめ

【評価方法】

受講態度、レポートなどで評価する。

【テキスト】

プリントを適宜、配布する。

情報と社会

沖野皓一

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会は情報化社会といわれ、さまざまな情報が送受信されている。日常生活や経済社会の中で「情報」がいかにかわり、有効な活用はどうあるべきかについて考察する。

【授業計画】

- 第1～2回 歴史に見る情報と社会
情報と文化との関係を軸に、人間社会の歴史を概観する。
- 第3回 情報がモノを造る
モノの生産が、必要性・実用性から嗜好に重点を置くようになってから、生産システムも大きく変わった。いわゆる情報化社会の生産と消費の関係について
- 第4～10回 情報の氾濫がもたらすもの
次々と繰り出される扇情的な情報や、人々の行動を先取りするような情報の氾濫の結果、私たちはかえって情報への関心を失い、情報喪失の状態に陥りかねない。情報過剰の現状について
- 第11回以降 主体性確保のために
ニューメディアは多チャンネルの実現による情報の多元性を売り物にしているが、私たちにとって重要なのは、本当に必要な情報を発信・選択できる双方向性であろう。市民の側からの情報発信、メディアアクセスの現状と可能性について

【評価方法】

出席状況・試験の成績などによって総合的に行う。

【参考文献・資料】

講義の中で、その都度紹介する。

ジェンダーと社会1

國信潤子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会において女性と男性の社会的関係は変容しつつある。男女がともに社会参画をして初めて社会における平等が確保できる。この視点から現代社会におけるジェンダー（社会・文化的性）のさまざまな問題を指摘し、検討する。

【授業計画】

男女共同参画社会の形成にむけて日本社会の各方面で努力が続いている。この講座ではグローバル化する国際・民際交流の領域についてジェンダー（社会・文化的に形成される性別）の視点から開発途上国の現状について学ぶ。地球規模で、南北社会関係（開発途上国と先進国の対立・協同関係）に見られる各種の格差が問題となっている。そこには社会的資源の不平等分配がある。この格差是正のため、また国際・民際交流推進のために国あるいは民間組織による開発支援が行われている。先進産業国から開発途上国に向けて社会的開発支援が行われている。その支援のあり方、文化多様性の確保とジェンダー平等化の試みの関係について考える。

この講座はオムニバス形式であり、社会開発支援の現場で活動する数名の講師による講義形式である。社会開発、国際協力の最前線で活躍する専門家によって現状分析が行われる。テーマとして開発におけるジェンダー、開発実践論、イスラム農村社会、保健・医療現場、外国人労働者などの問題をジェンダー視点から考察する。

【評価方法】

期末レポート、出席状況、履修態度等の総合評価

【テキスト】

特になし、随時配布

【参考文献・資料】

ジェンダー・開発・NGO (C.モーザー 東洋経済社)

ジェンダーと社会2

中島美幸 山下智恵子

オムニバス 1~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

本講座では、ジェンダーの視点で文学作品を分析することによって、〈女/男〉規範がどのようにテキストに織り込まれているかを読み解き、さらに、テキストがどれほど現実の女と男の生を規定してきたかを検証する。それとともに、ジェンダーの呪縛から解放されたいとして、新たな文学表現を試みる作家・作品をできるだけ多く提示する。(オムニバス方式)

(中島美幸兼任講師)「女性の表現」の観点から日本文学を歴史的に跡づける。なかでも、近代以降の女性表現については、他国の女性文学との比較もまじえつつ、読み解いていく。

(山下智恵子兼任講師)現代の文学作品を中心に、家族、母娘など人間関係をジェンダーの視点から検証する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 〈ことば〉とジェンダー
- 第3回 〈書く女〉の登場①
- 第4回 〈書く女〉の登場②
- 第5回 女性を描く男性作家のまなざし①
- 第6回 女性を描く男性作家のまなざし②
- 第7回 母と娘の物語①
- 第8回 母と娘の物語②
- 第9回 家族の物語
- 第10回 文学の政治性
- 第11回 文学と映像文化
- 第12回 まとめ

*第8、9回は山下智恵子担当。他は中島美幸担当。

【評価方法】

毎回の簡単な感想と、学期末のレポートを総合して評価する。

【テキスト】

教科書は使用せず、随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

毎回の講義の際に紹介する。

日本国憲法

大嶽 浩

1~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本国憲法について、その成立の経過や明治憲法との比較を通じ、現行憲法の内容と主要な問題点を講義する。憲法問題における具体的事例にもふれる。

【授業計画】

<前期>

- 1. 憲法と理想
- 2. 憲法と法律
- 3. 憲法と憲法典
- 4. 国民の司法参加
- 5. 憲法の最高法規性 (A)
- 6. 憲法の改正

<後期>

- 1. 憲法と理想
- 2. 憲法と法律
- 3. 憲法と憲法典
- 4. 憲法の最高法規性 (B)
- 5. 直接効力説
- 6. 憲法裁判所
- 7. 公共の福祉と義務
- 8. 人権アラカルト
- 9. 戦争と平和

【評価方法】

<前期>試験とレポートによる評価。

<後期>試験による評価。場合によっては、レポートの追加。

【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

日本国憲法

初谷良彦

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

憲法というのは、人権の保障や国の政治の仕組みを定める最高法規で、たとえてみれば、一国の政治のルールブックといってよい。われわれの生活は未来に開かれた限りない前進の出発点でもある。日本国憲法の正しい運用によってわれわれの未来を輝かしいものにするために人権保障のあり方や統治の仕組みは、現在どのような問題に直面し解決を迫られているのか、等を検討し課題を解明していきたい。

【授業計画】

- 第1回 近代国家と憲法
- 第2回 日本国憲法の基本原理
- 第3～5回 人権総論
- 第6～7回 信教の自由と政教分離
- 第8～9回 情報公開、言論・出版の自由、報道の自由
- 第10～11回 生存権、教育権、労働基本権
- 第12回 国会
- 第13回 内閣
- 第14回 裁判所
- 第15回 地方自治

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

憲法講義I（第2版）（初谷良彦著 成文堂）

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

郷土の歴史と文化

秦達之

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

東海地方は、戦国乱世の時代に織田信長、豊臣秀吉、徳川家康を生んだ土地である。この歴史的風土をふまえ、愛知県を中心に郷土の歴史と文化を講義する。

愛知県は、“三大英傑”以後、一見平穏無事で、バツとしないかみえる。しかし、よくみれば、東西の文化を巧みに織りこんで、波瀾にも富み、歴史上重要な地歩を築いてきた。講義は、尾張と三河とのちがいに留意しつつ、隣県の三重・岐阜・静岡にも時には視野を拡げ、受験時の暗記の歴史から、考え、楽しみ、生きるための歴史へと飛翔することを目指す。

【授業計画】

一回一話の読み切り、いや、語り切りで、さまざまなテーマ、内容を取上げる。通史ではないので、時代の前後を往き来する。その時代を生きた人びとの鼓動が聞こえてくるようなものにしたいが、果してうまくいきますか、どうか？

内容は、「元禄名古屋の世相」「伊勢湾の漂流民たち」「江戸時代の農民運動」「村方騒動と兼帯庄屋」「東海地方の山車（だし）」「渡辺華山とその周辺」「お札降りとええじゃないか」「尾張の洋学者たち」「戦争と女性」「モルフィと魔娼運動」「新聞記者・市川房枝」「シーメンス事件と太田三次郎海軍大佐」その他。私自身の研究と共に、他の地道な研究成果も積極的に取上げたい。

こちらで一時間毎の史料を用意し、それにもとづいて講義する。必要に応じてビデオ、スライドも使用。出席票に感想を書いて貰い、受講者の声を聞く工夫をしている（受講者もぜひご協力を）。

【評価方法】

出席状況（特に厳しいので注意！）と単位認定試験の成績などによるが、毎時間最後に感想を書いて貰い、参考になっている。白紙で出さないように。

【参考文献・資料】

愛知県の百年（塩沢君夫、斎藤勇、近藤哲生共著 山川出版社）

愛知県の歴史（三鬼清一郎編 山川出版社）

都市と環境

谷口 武

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代の都市は生活と文化の面では便利であり、快適であるが、街の緑や空気汚染など、自然環境には恵まれているとはいえない。都市をとりまく自然環境の問題を中心に講義する。

【授業計画】

- 第1講 概論1：自然環境とは
第2講 概論1：自然環境と人間
第3講 各論1：農耕の発見による生活形態の変化
第4講 各論2： 〃
第5講 各論3：都市形成の促進
第6講 各論4： 〃
第7講 各論5：現代都市生活の高度化
第8講 各論6： 〃
第9講 各論7：都市巨大化と自然環境
第10講 各論8： 〃
第11講 各論9：都市環境の改善
第12講 各論10： 〃
第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

- 都市の論理（藤田弘夫著 中央公論社）
なにが環境の危機を招いたか（バリー・コモナー著 講談社）
都市（東京大学公開講座 東京大学出版会）
環境（東京大学公開講座 東京大学出版会）
環境生物学への招待—地球生物圏と人間—（鈴木賢英著 文化書房博文社）

メディアと文化

鎌田基子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

情報化社会の発達と技術の進歩でさまざまなメディアが新しい文化を生み、伝達する。文化の創造の伝達とメディアの関わりを考察する。

【授業計画】

- 第1回 どこからどこまでがメディアなのか？
第2回～7回 「編集」という創造
 ・怪物の作り方
 ・テーマとコンセプト
 ・人の流れと思考の奥行き
 ・発想の手順
 ・WORK SHOP
 フォトストーリー
 コラージュ
 店内レイアウト
 雑誌の企画
第8回～10回 現代美術はなぜ分りにくいのか？
 ・作品が持つ言語
 ・素材の力、場の力
 ・伝達技術と表現手段
 ・WORK SHOP
 即席インスタレーション
第11回～12回 社会が生んだ表現
 ・表現の自由と人権
 ・芸術が果たす役割
第13回 「見る」「聞く」行為について
状況により途中1～2回をゲスト講師の講演にあてる。

【評価方法】

出席状況、レポート等による。

国際情勢

富江良治

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

国際化の時代とか、地球は一つなどといいながら、つい身近なことにとらわれて、視野を広げる努力を怠りがちです。世界では何が起きているのか、その背景には何があるのか、どの方向へ進むと考えられるのか。こうした問題意識と関心を持った人間が育つよう、つぎつぎと起こる新しい動きを手掛かりに分かりやすく、面白く解きほぐしていきます。世界歴史の最先端にふれる興奮と緊張を味わえれば、です。

【授業計画】

日々報じられる新聞の国際記事、解説や特集面、テレビのニュース番組、ドキュメンタリーなどのコピーやビデオを用意し、教室で放映または配布して説明します。発生する出来事の中から興味を引くとみられるものを優先します。したがって政治、経済、社会、文化といった体系的な進め方には必ずしもなりません。

【評価方法】

原則として筆記試験によります。出席状況や意見発表とか質問、問題提起、私語、遅刻など受講態度も参考にします。

【テキスト】

特にありません。

【参考文献・資料】

そのつど、必要に応じて知らせます。

生活と福祉

長谷川真人

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

戦後50年間改正されなかった児童福祉法が平成9年6月11日に改正公布され、平成10年4月1日から施行されました。並行して「介護保険法」が成立し平成12年からスタートしています。平成12年5月17日に児童虐待防止法が成立しました。さらに平成12年11月に少年法が改正されました。今子どもの問題が大変クローズアップされています。そんな社会状況をふまえた福祉の問題について「生活と福祉」の授業を展開していきたいと考えております。しかし、福祉といっても大変幅が広いため半期だけでは全体をカバーできないため、学生の皆さんが現代社会の生活にとって大切な福祉の基礎的な問題から、具体的な現実問題（ビデオ教材導入）への授業内容と考えております。したがって、この授業では福祉の基本的な問題を勉強したい学生を対象に「福祉とは何か」ということを特に乳児期・児童期から青年期を含めた社会的養護（家庭で生活できない場合の福祉対応）と、将来の子育てに役立つためのものになりたい。そのためにも地域社会や家庭問題も視野に入れた内容で皆さんと考えていきたいと思っています。

【授業計画】

- 第1回 社会福祉とは、児童の福祉とは、
- 第2回 「子どもの権利条約」と日本の子どもたち
- 第3回 児童問題に関わる行政機関の仕事と役割
- 第4回 現代の子どもたち（家庭、地域、学校では）
- 第5回 乳児・児童・老人虐待の実態と問題点
- 第6回 乳児・児童・老人虐待への対応と課題
- 第7回 社会福祉サービスの現状（介護保険制度等）
- 第8回 社会的養護の現状（児童福祉施設・里親等）
- 第9回 現代の少年非行問題（少年法改正問題等）
- 第10回 保育、母子・父子家庭問題の現状と課題
- 第11回 国際化問題（国際結婚・国籍問題等）
- 第12回 福祉の仕事、福祉ネットワークの現状と課題

【評価方法】

試験の成績と、途中でのレポート及び出席率等を総合評価する。

【テキスト】

講義テキスト（自費出版）・「児童養護施設の子どもたちはいま」（三学出版）

こころの世界

清水 遵

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

心理学は、人間を「種」として扱い（個人差を捨象し）理解しようとする領域と「個」として理解しようとする領域に大雑把に分けられる。本講義では主として後者の側面に焦点を当て、ヒトの個性（パーソナリティ）の理解にせまる。

【授業計画】

1. 心理学とは
2. パーソナリティとは
3. パーソナリティの類型論
4. パーソナリティの特性論
5. パーソナリティの診断（質問紙法）
6. パーソナリティの診断（作業検査法）
7. パーソナリティの診断（投影法）
8. パーソナリティの異常（その1）
9. パーソナリティの異常（その2）
10. パーソナリティ異常の生物学的背景
11. パーソナリティの変容法（その1）
12. パーソナリティの変容法（その2）
13. 試験

【評価方法】

学期末試験の成績で評価する。

【テキスト】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

こころの世界

新美明夫

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

極度の精神的緊張や不安をはらむ高度情報社会の時代にヒトのこころや行動の仕組みについて改めて熟考することは、将来をより豊かに生きてゆくためにも意義深いと思われる。本講義は心理学的観点から人間を理解することをめざす。

授業は一方的な講義ばかりでなく、簡単な実験やテストなどの実習を行う予定である。学生諸君はこれらを自ら実施することによって、心理学的な方法論や考え方を理解していただきたい。

【授業計画】

1. 見る・覚える・考える
知覚／記憶／学習／認知／思考
2. 自分を深く知る
性格／自我／発達／動機づけ
3. 他者や社会との関わり
社会／集団／対人関係

【評価方法】

実習レポートおよび、試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

ばーじょんあつぷ 自分でできる心理学（宮沢秀次他編著 ナカニシヤ出版）

こころの世界

松尾貴司

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

極度の精神的緊張や不安をはらむ高度情報社会の時代にヒトのこころや行動の仕組みについて改めて熟考することは、将来をより豊かに生きてゆくためにも意義深いと思われる。本講義は心理学的観点から人間を理解することをめざす。

この講義では、実験心理学に基づく知見を中心に、行動科学としての心理学を概観していく。

【授業計画】

1. 心理学の課題と方法
2. 感覚と知覚
3. 学習と思考
4. 記憶と情報処理
5. パーソナリティ
6. 社会的適応
7. 対人行動
8. 集団と個人
9. 空間行動
10. コミュニケーション行動

各トピックスについて1～2回の講義をおこない、最終講に試験をおこなう予定。

【評価方法】

学期末におこなう筆記試験により評価する。レポートの提出を課した場合は、これを加算する。授業への出席状況および受講態度が不良の者は減点する。

【テキスト】

生活にいかす心理学（古城和子編著 ナカニシヤ出版）

こころの世界

森久美子

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

われわれの行動は、一見単純に見えるものであっても、つねに社会の影響を受けており、文化的社会的背景を無視してひとを理解することはできない。この授業では、われわれの日常的な認識の成り立ちについて、社会心理学を中心とした心理学知見をもとに考えてゆく。

【授業計画】

1. 社会の中の人間
2. ひとの知覚と社会（1）
3. ひとの知覚と社会（2）
4. ひとの言語と社会（1）
5. ひとの言語と社会（2）
6. ひとの記憶と社会（1）
7. ひとの記憶と社会（2）
8. ひとの判断や思考と社会（1）
9. ひとの判断や思考と社会（2）
10. ひとのコミュニケーションと社会（1）
11. ひとのコミュニケーションと社会（2）
12. まとめ：心理学とその関連領域
13. 試験

【評価方法】

テストの成績による。

【テキスト】

使用しない。授業時に資料を配布する。

ことばの世界

松本雄子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日常生活において、ことばによるコミュニケーションは、言語的な意味だけでなく、社会的な意味においても行っている。

ことばによる社会的な意味のちがいを地域、社会的階層、性差、年齢などを軸にして考えてみたい。

【授業計画】

私達が日常にげなく行っているコミュニケーションを様々な角度から分析する。コミュニケーションの基礎概念や理論を、現実社会での生活に関連しながら講義する。その中で、地域、社会的階層、性別、年齢によるコミュニケーションの違い等にも焦点をあてる。授業は講義中心ではあるが、ビデオを使つての講義や、グループディスカッション及び自己評価など、学生参加型の授業も取り入れる。

【評価方法】

筆記試験

【テキスト】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

ことばの世界

山本雅子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日常生活において、ことばによるコミュニケーションは、言語的な意味だけでなく、社会的な意味においても行っている。

ことばによる社会的な意味のちがいを地域、社会的階層、性差、年齢などを軸にして考えてみたい。

【授業計画】

- 第1回 ことばと心的距離
- 第2回 ウチとソト①
- 第3回 ウチとソト②
- 第4回 敬語①
- 第5回 敬語②
- 第6回 性差①
- 第7回 性差②
- 第8回 世代差①
- 第9回 世代差②
- 第10回 名古屋方言①
- 第11回 名古屋方言②
- 第12回 ことばのはたらき

【評価方法】

出席状況・プレゼンテーション・レポートなどによる。

【テキスト】

身の回りの“日本語”。日常生活で見聞きする“日本語”に対してたえずアンテナをはっておくこと。

ビジネスの世界

藤井正志

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

21世紀を迎え、いわゆる日本型雇用システムや商慣習は崩壊しつつあるが、ビジネスの世界には、企業を維持・発展させるための企業の倫理や厳しい現実がある。企業での経験をふまえ、ビジネス世界の現実を講義する。

【授業計画】

- 第1講 社会人の心構え(組織人としての意識)
- 第2講 ♪ (組織内のコミュニケーション)
- 第3講 ♪ (海外でのビジネス)
- 第4講 ♪ (異文化とのコミュニケーション)
- 第5講 主要業種の特徴(銀行・証券)
- 第6講 ♪ (商社・マスコミ)
- 第7講 ♪ (製造業・公務員)
- 第8講 ♪ (シンクタンク他)
- 第9講 経済金融用語・解説(株式について)
- 第10講 ♪ (株式とデリバティブ)
- 第11講 ♪ (コホレート・ガバナンス)
- 第12講 ♪ (ITパワー対製造業)

経済金融用語・解説で取上げるテーマは、変更されることがあります。

【評価方法】

出席状況とレポートの成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

ビジネスの世界

真田幸光

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

21世紀を迎え、いわゆる日本型雇用システムや商慣習は崩壊しつつあるが、ビジネスの世界には、企業を維持・発展させるための企業の倫理や厳しい現実がある。企業での経験をふまえ、ビジネス世界の現実を講義する。

【授業計画】

- 第1回 年間計画指示・オリエンテーション
- 第2回 「働く」ことの意義
- 第3回 日本経済概況
- 第4回 米国経済概況
- 第5回 欧州経済概況
- 第6回 アジア経済概況
- 第7回 国際金融ビジネス
- 第8回 国内金融ビジネス
- 第9回 商社ビジネス
- 第10回 製造業ビジネス
- 第11回 通信とビジネス
- 第12回 試験
- 第13回 試験解説

【評価方法】

単位認定試験の成績による。

【テキスト】

授業中に配布する。

メンタルヘルス

江口昇勇

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

今、子どもから大人まで多くの人が心を病んでいるといわれる。心の病は少年期や青年期に特有のものもあれば、時代や社会的要因によるものもある。講義では臨床的事例にふれながらメンタルヘルスについて考える。

【授業計画】

- 1) 事例からこのころの不思議と健康を考えること、事例の取り扱いについて。
- 2) 児童期のメンタルヘルス児童期の発達課題と精神病理
- 3) ヒステリー性失失歩を呈した少年の事例から
- 4) 思春期のメンタルヘルス；思春期の発達課題、性衝動との出会い—グリム童話「かえるの王様」より—
- 5) 箱庭療法により思春期危機を乗り越えた事例
- 6) 青年期におけるメンタルヘルス；同一性拡散の危機
- 7) 夢分析における同一性獲得の事例
- 8) 影の問題、影への気づき—自分の内なる黒い兄弟の存在、二重人格—
- 9) 共依存の精神病理、虐待、いじめの深層—グリム童話「猫とねずみとおともだち」から—
- 10) 女性性と母性性獲得の困難さ—グレート・マザーとの直面化—
- 11) 成人期のメンタルヘルス；自分を引き受けるということ—ガン告知を引き受けるまで—
- 12) 老年期のメンタルヘルス；「障害者元型と個性化—自己実現の厳しい道—」
- 13) まとめ

【評価方法】

レポート課題の成績で評価する。課題レポート以外にも講義に関するレポートやコメントを自発的に提出する受講生が毎年いるが、それらは積極的な受講の態度として評価し、レベルが高いものは講義で紹介する。また受講態度の悪さは当然、成績評価に直結する。

【テキスト】

授業において、随時、資料を配布する。

【参考文献・資料】

なし。

メンタルヘルス

二宮 昭

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

今、子どもから大人まで多くの人が心を病んでいるといわれます。心の病は少年期や青年期特有のものもあれば、時代や社会的要因によるものもあります。臨床的事例にふれながらメンタルヘルスについて考えます。

【授業計画】

1. 健常と障害（正常と異常）ということについて
 - 1) 健常（正常）とは？ 障害（異常）とは？
 - 2) 「障害者」とは？
 - 3) 「障害者」の受け入れ
2. 「こころ」と「からだ」
 - 1) 世界を捉える場としての「からだ」
 - 2) 現代における「こころ」と「からだ」の問題—「からだ」から切り離されてしまった「こころ」
 - 3) 臨床心理学的視点からの「からだ」の捉え直し
3. 現代人とストレス
 - 1) ストレスとは？
 - 2) ストレスの処理—リラクゼーション

授業は通常の講義形式で行うが、場合によっては実際のリラクゼーションのやり方などの体験実習を行うこともある。

【評価方法】

出席状況およびレポートによる。

【テキスト】

使用しない。適時参考資料を配付する。

メンタルヘルス

西出隆紀

1~4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

今、子どもから大人まで多くの人が心を病んでいるといわれます。心の病は少年期や青年期特有のものもあれば、時代や社会的要因によるものもあります。臨床的事例にふれながらメンタルヘルスについて考えます。

【授業計画】

- 第1回 心の正常と異常
- 第2~3回 心の発達と精神的健康
- 第4回 自分を見つめる
- 第5回~10回 青年期の心の問題
 - 家族関係と不登校
 - 食の病理-拒食と過食
 - 思春期妄想症
 - 対人恐怖
 - 強迫神経症
 - パニック発作
 - 感情の障害
 - 精神分裂病
- 第11回~13回 心の援助・治療

【評価方法】

成績は出欠を考慮してテストで評価する。テストは手書きのノートのみ持ち込み可（コピーを持ち込んだ場合は失格）とするので、毎回出席しないとテストの時に慌てることになる。

【テキスト】

使用テキストなし。講義中に参考文献を紹介。

メンタルヘルス

古井景

1~4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

今、子どもから大人まで多くの人が心を病んでいるといわれます。心の病は少年期や青年期特有のものもあれば、時代や社会的要因によるものもあります。臨床的事例にふれながらメンタルヘルスについて考えます。

【授業計画】

資料配付により講義をすすめていきます。

力動精神医学の立場から、心の働き（自我機能）に目を向け、“心の健康と不健康”について学んでいきます。また、世界保健機関（WHO）の作成した疾病分類「ICD-10」第V章「精神および行動の障害」、および、アメリカ精神医学会の疾病分類「DSM-IV」を紹介し、これに力動精神医学的理解を加えていきます。

1. 精神力動
 - 自我の構造モデルと自我機能・防衛機制
 - 人格構造
 - 情緒発達理論
- II. 精神症状学
 - 意識の障害
 - 記憶の障害
 - 幻覚・妄想
 - 精神運動障害
- III. ICD-10・DSM-IV
 - 薬物依存障害
 - 精神分裂病、分裂病様障害および妄想性障害
 - 気分（感情）障害
 - 不安障害、身体表現性障害、解離性障害
 - 摂食障害
 - 適応障害
 - 人格障害
- IV. その他

【評価方法】

学期末の試験、または、レポートによって判定します。

【テキスト】

使用せず、参考図書はその都度提示します。

注）受講生の希望を踏まえ、内容を変更する可能性もあります。受講される方々の積極的な意見、質問に基づいて授業は進展していきます。

暮らしの経済

森下允之

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

生活に密着した経済学の入門。特に今や経済社会もグローバル化しており、国際経済の流れや仕組みにもふれ、日常化している経済用語を解説する。

【授業計画】

- 第1講 国民所得統計
- 第2講 バブル崩壊と平成不況
- 第3講 財政の現状と課題
- 第4講 金融の基礎知識（銀行、金融市場）
- 第5講 同上（金融政策、金融自由化）
- 第6講 貿易と国際収支
- 第7講 為替相場
- 第8講 世界各国、地域の経済（アジア、中東）
- 第9講 同上（ヨーロッパ、アフリカ、南北アメリカ）
- 第10講 アジア通貨危機
- 第11講 欧州統一通貨ユーロ
- 第12講 地域経済統合vsグローバリズム
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

教材はプリントを配布する。

暮らしの経済

村上貴美子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

生活に密着した経済学の入門。特に今や経済社会もグローバル化しており、国際経済の流れや仕組みにもふれ、日常化している経済用語を解説する。

【授業計画】

- 第1回 最近の経済状況と用語解説
生活と経済の関わり
- 第2回 消費者の権利と意思決定
- 第3回 価値観と消費の多様化
- 第4回 生活をとりまく環境変化
- 第5回 本当の「豊かさ」とは何だろうか
- 第6回 「労働」と言う言葉はなぜキライですか
- 第7回 教育と経済
- 第8回 サービスとはタダ（無料）のことでしょうか
- 第9回 余暇の為に働く
- 第10回 住宅とまちづくり
- 第11回 国際化と生活
- 第12回 未来を考える

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

生活の経済学（井原哲夫著 東洋経済新報社）

外国の言語と文化 1

角田達朗

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

中国語の初歩を学ぶとともに中国の風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

近年、中国映画は国際的な賞を獲得する作品が続出し、注目を集めている。この授業では、中国映画の中から、主として現代小説を原作とする作品を、題材の年代順に鑑賞することによって、中国の近現代史についての理解を深めて行く。中国の近現代は、辛亥革命・抗日戦争・文化大革命などに象徴される動乱の時代であった。中国映画がこのような動乱の時代をいかに描いているかを、映像表現についての分析も織りまぜながら検証する。

同時に、映画の中の「生きた中国語」に触れることを通じて、中国語に親しみ、言語についての理解を深める契機としたい。

- 第1～2回 張芸謀『紅いコーリャン』
(原作 莫言『紅高粱一族』)
- 第3～4回 張芸謀『菊豆(チュイトウ)』
(原作 劉恒『菊豆』)
- 第5～6回 陳凱歌『黄色い大地』
(原作 柯蘭『深谷回声』)
- 第7～9回 謝晋『芙蓉鎮』
(原作 古華『芙蓉鎮』)
- 第10～11回 陳凱歌『子供たちの王様』
(原作 阿城『孩子王』)
- 第12～13回 孫周『心の香り』
(原作なし)

【評価方法】

レポート

*受講状況によっては、試験に変更することもある。

【テキスト】

なし。

*授業時に鑑賞する映画が、テキストに相当する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

外国の言語と文化 1

張勤

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

中国の言葉と文化との関係を考えてとともに、中国語の会話もチャレンジする。

【授業計画】

- 第1回 現代中国と現代中国語とは
中国語初歩コーナー：声をかけたいとき
- 第2回 中国語の方言と少数民族の言葉
中国語初歩コーナー：感謝をしたいとき
- 第3回 中国語の挨拶
中国語初歩コーナー：何かを聞きたいとき
- 第4回 中国人の名前
中国語初歩コーナー：好きな気持ちを表したいとき
- 第5回 食べ物と中国語
中国語初歩コーナー：いやな気持ちを示したいとき
- 第6回 中国語の言葉遊び
中国語初歩コーナー：言い方が分からないとき
- 第7回 中国語と日本語の違い
中国語初歩コーナー：何かしてもらいたいとき
- 第8回 中国語の歴史
中国語初歩コーナー：何かさせてもらいたいとき
- 第9回 中国語の文学
中国語初歩コーナー：私はそう思わないよと言いたいとき
- 第10回 中国語の文字
中国語初歩コーナー：信じられない気持ちを表したいとき
- 第11回 中国語の外来語
中国語初歩コーナー：そうしようと提案したいとき
- 第12回 中国語の現実
中国語初歩コーナー：そうしたいと言いたいとき

【評価方法】

出席状況とレポートの成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

講義中に指示する。

【参考文献・資料】

講義中に指示する。

外国の言語と文化 2

尹 大辰

1~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

韓国・朝鮮語の初歩を学ぶとともに、朝鮮半島の風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 訓民正音について
- 第2回 ハングルの文字と発音 (1)
- 第3回 ハングルの文字と発音 (2)
- 第4回 基本的な日常会話 (1)
- 第5回 基本的な日常会話 (2)
- 第6回 基本的な日常会話 (3)
- 第7回 言語と文化 (1) - 衣・食・住
- 第8回 言語と文化 (2) - 社会的構造
- 第9回 言語と文化 (3) - 漢字語比較
- 第10回 朝鮮半島の歴史と文化
- 第11回 朝鮮通信使の意義
- 第12回 まとめ-言語表現から見た文化比較

【評価方法】

期末試験とレポート、出席率を加味して評価する。

【テキスト】

韓国・朝鮮語はプリント教材を使用する。

【参考文献・資料】

韓国 (金両基監修 新潮社)
韓国と日本の比較文化論 (金渙著 明石書店)

外国の言語と文化 3

杉本一直

1~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

ロシア語の初歩を学ぶとともに、ロシアの風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

みなさん、知っていますか？日本の大学になかでロシア語を学ぶことができる場所は本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしててくださいね。

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を覚え、発音を覚え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- a. キリル文字と発音
- b. 大きな声であいさつしよう
- c. 買い物に行ってみよう
- d. 乗り物に乗ろう
- f. おながすいたら…
- g. 自分について話してみよう

【評価方法】

定期試験の成績による。

【テキスト】

ロシア語ミニ辞典 (白水社)

外国の言語と文化 3

丹邊文彦

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

ロシア語の初歩を学ぶとともに、ロシアの風土・歴史・文化について理解を深める。

1. ロシア語文字への習熟
2. ロシア語発音およびリズム感の養成
3. 簡単な日常表現のテキスト（本文）を朗読する習慣づけ
4. ロシア民謡などの鑑賞により、風土・歴史・文化を理解させる

【授業計画】

- 第1回～3回 文字と発音
教科書“文字と表現”(1)～(6)
- 第4回 “文字と表現”(7)
- 第1課 この人は誰ですか？
- 第5回 第2課 知っていますか？
第3課 ノートは机の中です
- 第6回 第4課 私は東京から来ました
第5課 すみません、入っていいですか？
- 第7回 第6課 今日は試験です
第7課 ロシア語はおもしろい
- 第8回 第8課 頭は何のためにあるのでしょうか？
第9課 御兄弟はいらっしゃいますか？
- 第9回 第10課 今私はモスクワにいます
第11課 紅茶とコーヒーどちらがお好きですか？
- 第10回 第12課 どこにいたの？
第13課 これはおいくらですか？
- 第11回 第14課 お店はどこでしょうか？
第15課 あしたは私は出張です
- 第12回 第16課 5時に会いましょう
第17課 私はあさってロシアへ行きます

1期終了の授業で時間が限定されているので、文法および練習問題は最小限に止め、本文（テキスト）中心に授業をすすめる。理解した文章をくり返し朗読して復習することを重視する。

【評価方法】

- a. 朗読 b. 聴取り c. ペーパーテスト の総合

【テキスト】

話すロシア語入門（米重文樹著 白水社）

【参考文献・資料】

ロシア語のすすめ（講談社現代新書）

外国の言語と文化 4

藤井たぎる

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

ドイツ語の初歩を学ぶとともに、ドイツの風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

ドイツ・オーストリアの生活文化とその言語。現代のドイツ・オーストリア事情の一端を紹介しながら、ドイツ・オーストリアのいろいろな「顔」を発見してもらう。具体的には下記のような日常的なテーマをもとに、ドイツ・オーストリアの事情を日本のそれと比較しながら、両者の類似性と差異をみてゆく。また初歩的なドイツ語会話の練習もあわせておこないたい。

- 1) ドイツ・オーストリアの風土
- 2) ドイツ・オーストリアの近現代史
- 3) ドイツ・オーストリアのマス・メディア
- 4) ドイツ・オーストリアの衣食住
- 5) ドイツ・オーストリアの消費生活
- 6) ドイツ・オーストリアの芸術文化

講義形式ではあるが、授業中にいろいろ意見を求め、各自の考えるところを発言してもらう。必要に応じてプリントを配布する。

【評価方法】

筆記試験。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する。

外国の言語と文化 5

清水ベアトリックス

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

ヨーロッパ文明の発祥の国フランスについての理解を深めることはヨーロッパ文化を理解するうえで重要である。フランス語とフランス文化の概要を学ぶことにより、フランスへの関心と理解への動機づけとしたい。

前期

このコースは、受講者の興味を考慮に入れ授業内容を考えたい。現代フランス社会と日常使用されているフランス語を学ぶとともに、担当講師（フランス人）の在日体験談を交え、フランス・日本両国を言語・文化の面から比較検討する。

とにかく、下記のテーマで行う。

ーフランスの地理

ーフランスの建国

ーフランス国民の起源

ーフランスの社会問題

ーフランスの家族

ー教育制度

ーフランスとヨーロッパ

ーフランス人と余暇など。

後期

前期と同じ。

【授業計画】

毎回、担当教員が指定したテキストの章について議論し、テレビや新聞で報道されたフランスに関する時事問題の中で特に学生の関心を引くようなものを選んで、解説したい。

【評価方法】

定期試験を重視するが、宿題（テキストや映画についての感想文）、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

変貌するフランス（西永良成 日本放送出版協会）

外国の言語と文化 6

木下登

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

スペイン語の初歩を学ぶとともに、スペインの風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

1. スペイン語とスペイン語圏の世界
2. スペインの歴史と文化の特色
3. スペイン語を学びましょう
4. アルファベット、音節、アクセント
5. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
6. 人称代名詞、serとestar動詞、hay
7. 否定文、疑問文、関係詞、感嘆文
8. 形容詞（性数の一致）、指示形容詞、所有形容詞
9. 動詞（直説法現在）
10. 再帰動詞
11. 動詞（直説法現在完了）、過去分詞と現在分詞
12. 動詞（直説法過去：点過去と線過去）
13. 動詞（直説法未来と過去未来）
14. 動詞（直説法大過去）
15. 動詞（命令法）、無人称文
16. まとめ

【評価方法】

筆記試験に出席状況を加味して評価。

【テキスト】

授業中に指示します。

文章表現論

加藤孝男

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

「自分にしか書けないことを誰にもわかるように書く」ことを目標にして、文章表現に必要な基本的事項を実践例をふまえながら学習する。

【授業計画】

- 第1講 はじめに
- 2～3 日記について
- 4～6 名文を読む
- 7～8 表現のレトリック
- 9～10 芸術的表現の手法
- 11～12 表現の実践
- 13～14 まとめ

【評価方法】

提出物（表現の実践）で評価します。
また、出席・平常点も重視。

【テキスト】

第一回目の講義で指示します。

文章表現論

青木 健

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

「自分にしか書けないことを誰にもわかるように書く」ことを目標にして、文章表現に必要な基本的事項を実践例をふまえながら学習する。

【授業計画】

- 第1回 人は言葉の織物である。（伝達と表現Ⅰ）
- 第2回 現実という言葉の織物である。（伝達と表現Ⅱ）
- 第3回～6回
例文をテキストに、文章の構成、語法、リズム、形容など具体的に講義。
- 第7回～12回
課題を3回提出し、短文（2～5枚、400字詰）を書かせ、そこから文章表現についての共通の問題点を抽出する。

【評価方法】

出席状況、3回の提出原稿などを基準として評価する。

【テキスト】

当方にて用意します。参考書籍は授業中に数冊指示します。

比較文化

文 嬉眞

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

世界にはさまざまな国家や民族があり、多様な文化が存在する。文化人類学的な見地から外国の文化や伝統・風俗を学ぶ。

【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人（見る側）が日本という異文化（見られる側の文化）と直接接触した際、どのように評価（表現方法）・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人（見る側）がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人（見る側）が「異文化」（見られる側の文化）を見るまなざしに関して考察することによって、自文化（見る側の文化）を再認識するだろう。

1. 異文化（異民族）との理解・誤解に関する一般的な概論
2. 異文化交流史における本講義の位置付け
3. 前近代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
4. 近・現代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
5. 異文化としての「日本文化論」

【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 学期末レポートで残る50%を評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

比較文化

田所光男

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

世界にはさまざまな国家や民族があり、多様な文化が存在する。文化人類学的な見地から外国の文化や伝統・風俗を学ぶ。

【授業計画】

ワインとか料理、香水にモード、もう少しアカデミック(?)にループルとかオルセー... 皆さんのフランス・イメージはどうでしょうか。この授業では、異文化・異民族との関係の中にあるフランスを眺めて行きます。恐らくこれまでのフランス・イメージとはかなり違うフランスの姿にぶつかることになると思います。フランスを少し再発見してみる、ことができるのではないのでしょうか。また、フランスばかりではなく、現代世界に生じている様々な文化摩擦・民族衝突の問題を理解して行くために必要な、いくらかの知的枠組みを自分の中に取り入れることも可能だと思います。

具体的には、まず、異文化・異民族の接触・交渉・衝突についての概論を行います(7回)。次に、フランスの内部にある異文化接触の問題として、ユダヤ人、特に、ジェノサイド以降の、戦後生まれの世代の動向に注目します(5回)。

こうした検討を通して、同化、植民地化、移民、ヨーロッパ中心主義、反ヨーロッパ主義、文化相対主義、普遍主義、差異への権利、多文化主義など、様々な問題を考えて行きます。

【評価方法】

授業への積極的な参加、及びレポート(大小二回を予定しています)。

【テキスト】

異文化への視線(佐々木英昭編著 名古屋大学出版会)
その他、適宜プリントを配布します。

現代芸術 1

天野節子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての「書道」の意義と意味を問い、名筆の鑑賞と書写の実技をする。

【授業計画】

第1回 年間の授業計画として使用する教本の鑑賞の方法を説明する。

第2回～10回

書写の重要なポイントの説明をしながら実技をする。一人一人について添削指導をする。

第11回～最終回

課題に有名な作家又は詩人等の美しい文章等を各自に表現をして作品を作成させる。

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

ペン字テキスト〔基本編・実務編・応用編〕（氏田菖軒著 書道教育社）

現代芸術 1

森美恵子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての「書道」の意義と意味を問い、名筆の鑑賞と書写の実技をする。

【授業計画】

楷書・行書・草書の古法帖を拡大臨書コピーし、その手本に基づき書作した清書作品を提出する。

書写中心であるが、中国の書論に則り、古法帖の概略等も講ずる。

【評価方法】

授業内で提出する平素の成績物及び出席状況等にて総合的に評価する。

【テキスト】

書の鑑賞と学び方（上田桑鳩 教育図書研究会）

現代芸術 1

小川晃治

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての「書道」の意義と意味を問い、名筆の鑑賞と書写の実技をする。

各時代に於ける日本の書美の変相を、他の美術と文学と対比、関連させて探求させる。そして現代社会の中にあって、書のあり方、価値感を考察し、また生活の中に於ける書文化の諸相を観る。漢字から「かな」を創造した日本人の美意識を追求する。

- 他の美術、文学を対比して、書の美学を学ぶ。
- 基本的書技を実習する。楷、行、草、篆、隸書、かなの六体を実習する。
- 日本の三筆、三蹟の古筆の鑑賞、臨書をする。
- 基本的なかなの実技と、古筆を鑑賞する。
- 漢字の細字の実技の実習をする。王羲之の蘭亭叙を臨書させる。
- 和漢の書道史を通じ、書の美の概要を学ぶ。
- 奈良、平安時代の文学、書に於ける、漢字の意義、かなの創成、大成を通じ、上代文化の成立を学ぶ。
- 鎌倉時代に於ける禅文化を墨跡にふれ、貴族文化と武家文化の対比をさせる。
- 室町、桃山時代の絵画、建築、工芸と書芸の動向を観る。また現代社会に於ける美の淵源を探る。
- 江戸時代に於ける庶民文化隆盛の中の美と、和様、唐様の書の諸相を学ぶ。
- 現代社会に於ける、文字、書文化の社会生活の中での意義を考えさせる。

【授業計画】

講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探求することを基準として進める。

【評価方法】

レポート三種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

【テキスト】

担当者の小文、古典法帖。

現代芸術 2

志水博子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての「音楽」の意義と意味を問い、名曲を鑑賞し、歌唱をする。

【授業計画】

- 第1回 世界の名演奏家によるオペラのビデオ鑑賞
- 第2回 声の出るしくみ 講義と演習
- 第3回 やさしい曲で楽しくハーモニー演習
- 第4回 外国の歌曲を原語でうたう
- 第5回 名演奏家の演奏をビデオ鑑賞
- 第6回 名演奏家の演奏をビデオ鑑賞
- 第7回 実技演奏発表のリハーサル
- 第8回 (選曲や演奏法のアドバイス)
- 第9回 混声合唱練習
- 第10回 混声合唱練習
- 第11回 演奏会形式による実技発表
- 第12回 演奏会形式による実技発表

【評価方法】

出席状況、実技演奏—各自の得意とする楽器又は歌唱例、独唱、アンサンブル、連弾、カラオケ等。

【テキスト】

プリント配布。

現代芸術 2

浅田まり子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての「音楽」の意義と意味を問い、名曲を鑑賞し、歌唱をする。

【授業計画】

- 第1講 音楽について
- 第2講 声のしくみ
- 第3講 ヴォイストレーニング
- 第4講 音楽と教育
- 第5講 音楽療法
- 第6講 音のスケッチ
- 第7講 リズム
- 第8講 メロディー
- 第9講 ハーモニー
- 第10講 表現と技術
- 第11講 まとめ
- 第12講～発表

*各講それぞれのテーマで話し合い、歌唱やキーボード、ギター、鑑賞、創作を、クラスまたはグループの要望にあわせて指導していく。

*発表は、個人またはグループで、歌、楽器の演奏や、コンピューターミュージックなどによる創作とし、ジャンルを問わない。

*音楽の機能を使って、健康的な人間形成に役立てるのにはどうしたらよいかを考え、自分の音楽をよく聴きながら、ノンバーバルコミュニケーションとなる音楽を発表できることを目標とする。

【評価方法】

実技、感想レポート、出席状況、授業態度で評価。

【テキスト】

授業中に指示し、楽譜など貸与する。

現代芸術 3

横山万里

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての「美術」の意義と意味を問い、名画を鑑賞し、又、古画のうちで親しみやすい絵巻について講義をする。

【授業計画】

国宝に指定されている古い絵画あるいは日本の伝統的な絵巻のなかから鳥獣人物戯画をとりあげて日本画の表現、色彩方法を講義する。

また、授業の中で名古屋市内の美術館を訪問し、古画現代画にふれる。

- ・日本画の特徴
- ・鳥獣人物戯画の説明
- ・鳥獣人物戯画における線の強弱と動き
- ・日本画の模写について
- ・日本画の鑑賞

博物館入場料 600円程

美術館入場料 500円程

筆ペン 500円

費用 計 1,600円程度

【評価方法】

出席状況と感想文レポート（6回提出）を総合的に評価。

【テキスト】

日本の絵巻6「鳥獣人物戯画」

コピーした図を見る。

【参考文献・資料】

なし。

現代芸術 3

川口 杲

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての「美術」の意義と意味を問い、名画を鑑賞し、作品を作る。特に現代美術には様々な分野がある。絵画・彫刻・工芸・デザイン・書・鑑賞のほかに、最近では映像・コンピューター・建築・環境・都市計画などでも美術の分野として考えられるようになった。

本講ではそれらの造形美術の概観、実技（課題制作）を通して基礎的な絵画表現・工芸表現・デザイン表現などの創造的能力を養う。（テキストは使用せず。）

〈前期〉

●課題1. 紙による立体造形

われわれの身のまわりには様々な素材があるが、その中でも一番身近で何気なく使っている「紙」から立体造形作品をつくる。

●課題2. 直定規とコンパスを使った平面構成

単紙な構成道具である「直定規とコンパス」を使って画面を平面構成する。

〈後期〉

●課題1. 風景写生

キャンパス内の建物および植物などを、忠実に写生する。

●課題2. 切絵からパズルへ

幾何学的な基本形態である、正方形、長方形、正三角形、円の色紙を直線または曲線で切り、各部品を再構成することによって、具象的な形態をつくる。

●課題3. 一切文字

正方形の紙を何回折ってもよいが、一回だけ直線で切る。（その直線に並行にある幅を持たせて切る。）それを広げるとアルファベット、数字、カタカナの全部および漢字の一部ができる。

【授業計画】

各週とも机間巡視・プロセスのチェックにより、個別に指導・助言をする。

【評価方法】

各課題の制作過程・成果、出欠席、受講態度等により総合して評価する。

女性学・男性学

井深淳子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

本授業を通して、私達の生活を、女性学・男性学から点検し、そこに「どういう困難があり、どういう課題があるのかを具体的に知ること」をめざす。

【授業計画】

第1回 はじめに

第2～5回 家族問題

第6～9回 子育て

第10～11回 現代の病巣

第12～13回 女性が働き続けることについて

【評価方法】

期末試験、講義時に行う課題や、受講態度等、総合的に評価する。

【テキスト】

学んでみたい女性学（中田照子他著 ミネルヴァ書房）

テキストとともに、講義中に適宜配布する関連資料を用いてすすめる。

女性学・男性学

伊藤公雄

集中 1~4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現代日本社会におけるジェンダー問題について、おもに男性学の視点から考察を加える。

はじめに ジェンダー論入門

1. 女性問題の発展
2. 現代日本の女性問題
3. 男性問題の時代
4. 作られる「男らしさ」「女らしさ」
5. 体験の主夫論／働く主夫の生活と意見
6. ニッポンのお父さん／男性の育児をめぐる
7. 男性学と男性運動の展開
8. 試験

＜参考図書＞ 伊藤公雄・牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社）

【授業計画】

講義を中心に、ビデオ教材なども使用しつつ進める予定である。

【評価方法】

試験によって成績評価を行う。

【テキスト】

男性学入門（伊藤公雄 作品社 1,680円）

女性学・男性学

松井やより

集中 1~4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

21世紀に一層進行する経済のグローバル化が女性にどのような影響を与えるのか、女性たちはどう対応するのか—日本とアジアの関係に重点を置いて、現地の最新情報を教材に参加型の授業を行なう。

【授業計画】

- 第1講 国際的に見た女性問題—北京からニューヨークへ
- 第2講 グローバル化とは何か—女性の人權の視点から
- 第3講 貧国の女性化—アジアの現実を見る
- 第4講 人身売買と日本の性産業—タイ女性支援活動
- 第5講 国際移住労働の女性化とJFC問題
- 第6講 観光開発の問題点を考える—南北問題として
- 第7講 先住民族とマイノリティ女性はいま
- 第8講 熱帯雨林の破壊—アジアの環境問題
- 第9講 ODAとアジアの開発問題—日本の責任
- 第10講 「慰安婦」問題と戦後責任—「女性国際戦犯法廷」
- 第11講 現代の武力紛争と女性—戦時性暴力不処罰問題
- 第12講 暴力のない21世紀へ—グローバル市民社会とNGOの役割

【評価方法】

出席状況とレポートで評価する

【テキスト】

「グローバル化と女性への暴力—市場から戦場まで」
（松井やより著 インパクト出版会）

【参考文献・資料】

女たちがつくるアジア（松井やより著 岩波新書）
買春社会日本へ—タイ人女性からの手紙（明石書店）
語りはじめたタイの人びと（サニッスダー・エーカチャイ 明石書店）
日本のお父さんに会いたい（松井やより編 岩波ブックレット）
第三世界の農村開発（ロバート・チェンバース 明石書店）
戦時性暴力をどう裁くか（国連マクドゥガル報告全訳 凱風社）
2000年女性国際戦犯法廷の記録全5巻（緑風出版）
女たちの21世紀9号～26号（アジア女性資料センター）
ニューヨーク2000世界女性会議 「成果文書」をどう読むか（同）
買春に対する男性意識調査（同）
憎悪のナショナリズムを越えて（VAWW-NET ジャパン）

エコロジー

大島光昭

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

今や地球規模で自然の環境破壊が進んでいる。自然を保護し、環境を守る観点から地球のエコロジーを考える。

エコロジーとは、生物とそれをとりまく外界すなわち環境との関係についての総合科学である。生物の生存は均衡のとれた有機的および無機的環境の上に成り立っており、均衡の崩壊は人類を含む生物界の未来を危うくする。人類の生活および生産活動はこれらの均衡を乱して多くの生物の生存を脅かしつつあり、地球の未来に様々な問題を投げかけている。それらの状況について解説するとともに、今後どうあるべきかについて問題提起を行う。

【授業計画】

エコロジーの歴史

自然環境の保護と育成

陸地環境

水域環境

流域圏環境

化石燃料と環境

地球の温暖化

酸性雨

光化学オキシダント

浮遊粉塵

化学物質と環境

オゾン層の破壊

生物濃縮と生態系の攪乱

ヒトの健康被害

【評価方法】

出席状況と試験成績をもとに評価する。

【参考文献・資料】

環境白書（環境庁編）

伝統文化

林和利

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

国際化が進み、さまざまな異文化にふれる機会も多くなったが、日本の伝統文化にも目を向けることが大切だ。伝統文化の中でも芸能・演劇を中心に講義する。舞楽・能・狂言・歌舞伎・文楽など、実際の舞台をビデオ等で確認しつつ、その歴史や演技・作品などについて講じる。

【授業計画】

第1回 授業の目的と方針を提示。

第2回 日本芸能演劇史概説。

第3回 芸能の発生について

第4回 神楽について

第5～7回 伎楽・舞楽・散楽について

第8～10回 能について

第11～12回 狂言について

第13～14回 歌舞伎について

第15回 文楽について

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

日本文化論序説（林和利著 青山社）

アジアの生活と文化

楊 衛平

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本は生活も文化もアジアの影響を強く受けている。特に日本と歴史的にも関係の深い近隣の国を中心にアジアの生活と文化を講義する。

【授業計画】

1. 中国の少数民族の構成
2. 仏教と道教の相異
3. 中国の年中行事
4. 南北食文化の比較
5. 中医学と西洋医学
6. 気の文化と気功術
7. 飲茶の文化と歴史
8. 伝統武術と健康
9. 少数民族の音楽
10. 少数民族の服装
11. 中国人の姓の色々
12. 中国の名勝物語
13. 中国人と日本人の考え方の相異

【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリント配布。

生命の科学

富田 武

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

動物の生命の誕生、生体を構成する物質や生殖と遺伝の仕組みなど、動物の生命の維持のメカニズムについて学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 生命の科学序説
- 第2講 生命誕生と進化
- 第3講 動物細胞の分化
- 第4講 動物体を構成する物質
- 第5講 動物の生殖と発生
- 第6講 動物の遺伝（1）
- 第7講 動物の遺伝（2）
- 第8講 動物の生命維持（1）
- 第9講 動物の生命維持（2）
- 第10講 脳の進化、成長、老化
- 第11講 動物の生殖現象操作
- 第12講 動物の遺伝現象操作
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験で総合的に評価する。

【参考文献・資料】

生命科学への誘い（大島泰郎他編 東京化学同人）
生物小事典（丘英通、岩波洋造監修 三省堂）

食品の科学

千葉善根

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

基礎的な科学と食品の科学との関わり、食品のもつ機能や性質、貯蔵などを学び、食品と酵素の関係や化学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

【授業計画】

1. 現代食生活の問題点
食生活の変化と食糧資源について。
2. 糖質と食品
デンプンの機能と利用、食物せんい、最近の甘味料について。
3. たんぱく質と食品
変性と加工・調理との関係、加工食品と食物性たんぱく質の利用。
4. 脂質と食品
脂肪の性質と脂肪酸、油脂の劣化、乳化と乳化食品。
5. 無機質と食品
骨粗鬆症等。
6. ビタミン
食品加工・調理との関係、生物学的触媒としての働き。
7. 発酵食品
食品と酵素・微生物との関係。

【評価方法】

定期試験にて評価。

【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

生活の化学

八代有

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

健康で豊かな生活を維持していくには、化学の知識と活用は必要欠くべからざるものである。身近な生活に必要な化学の知識と関係について事例をあげて学ぶ。

【授業計画】

1. 栄養のバランスと健康増進を考える
2. 食品成分の化学と食品の安全性
3. ビタミンの化学的性質と病気のしくみ
4. 生活習慣の改善と疾病予防
5. 薬についての正しい認識
6. 薬が生体に影響を与える因子
7. 尿はからだの健康情報源
8. 食べ物および体内における酵素の働き
9. 話題となった環境公害
10. 生活のなかでの不思議

【評価方法】

テストおよび出席状況により総合的に判定する。

【テキスト】

テキスト使用せず、プリントを適宜配布する。

生き物の世界 1

服部一三

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

地球上には多種多様な植物が生存しているが、これらの植物は食物連鎖の基本を成すものである。植物の生物界における位置付けや植物の成育地について紹介し、植物と人間との関わりについて認識を深める。

【授業計画】

- 第1回 1. 生物界の分類
2. 生物の進化
- 第2～6回 3. 植物と人の関わり
1) 農耕の始まり
2) 世界の農耕文化
3) 日本農耕文化の起源と発展
4. 人が手を加えた植物—作物
1) 作物とは？
2) 世界の作物の起源
- 第7～8回 5. 作物改良の原理と方法
1) 作物改良の原理
(1) メンデルの法則—遺伝学
(2) 遺伝の物質的基礎
- 第9回 (2) 遺伝の物質的基礎
- 第10回 2) 作物の改良方法
- 第11～12回 6. バイオテクノロジー
1) バイオテクノロジーとは？
2) 作物の改良とバイオテクノロジー
(1) 細胞・組織培養
(2) 遺伝子操作
(3) バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか？
(1) 倫理
(2) 安全性

【評価方法】

受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。

生物的自然と人間 (平田豊著 開成出版)

生き物の世界 2

石崎宏矩

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

身近に見られる昆虫や鳥などの生態のメカニズムを解説し、生命の進化について学び、動物への関心といたわりを深めたい。

【授業計画】

次のような項目について講義する。○カイコはどうしてクワシか食べないのか○モンシロチョウの雄はどのようにして雌を見分けるか○生物がもっている時計(生物時計)とはどういうものか、時差ボケはどうして起こるか○モンシロチョウの蛹はどのようにして寒い冬をのりこえるか○アヒルのひなは生まれて初めて見た生き物を親として認識し、終生変わらない(刷り込み)。刷り込みの起こる機構は？○生命が地球上に生まれてから40億年、さまざまな生物はどのようにして進化してきたのか、DNAの性質、遺伝子の突然変異、自然淘汰とは。

他に、NHKスペシャル「生命—40億年はるかな旅」他のVTRを放映し、解説を加える。

全体として、生物の進化、近未来における地球上の生命—人間を含めて—の危機について、正しく理解してもらえようにつとめる。

【評価方法】

出欠、レポート、期末試験によって総合評価する。欠席した時は、友人のノートを写させてもらって、内容を理解しておくこと。試験問題が、たまたま欠席した日の授業内容だったからといって白紙であれば、特に区別はしない。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

随時、授業で指示する。図書館に備えつけてあるので、自主的に勉強してほしい。

人類と宇宙

安野志津子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

宇宙観の始まり、星の生と死、地球の生成と進化など、日進月歩の宇宙の科学の課題をふまえつつ、人類にとっての宇宙についても考察する。

【授業計画】

—地球のまわり、太陽系、銀河系を知り、宇宙を身近に引き寄せるために—

1. 宇宙観の変遷
2. 宇宙を観測する手段
3. 太陽系を探る
4. 星の世界
5. 銀河から宇宙へ
6. 宇宙の始めと未来

毎回プリントを配布し、講義を主とするがその内容を中心としたOHP、ビデオ等も利用する。また、講義に関連した質問を出してもらい次回に解答する。なお、随時ホットな話題も取り入れたい。

【評価方法】

基本的には、期末テスト（配布プリント、ノート持ち込み可）によるが、出席状況も考慮して判定する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

- (1) 宇宙論のすべて 池内 了（新書館）
- (2) 図解雑学 天文学 二間瀬敏史（ナツメ社）
- (3) 星と宇宙の物理学読本 並木雅俊（丸善）
- (4) 図解 SPACE ATLAS 宇宙のすべてがわかる本 三品隆司・河島信樹（PHP）
- (5) 見えてきた宇宙の神秘 野本陽代（草思社）
- (6) 太陽 —その素顔と地球環境との関わり— ケネス.R.ラング著 渡辺 克/桜井邦朋訳（シュプリンガー・フェアラーク東京）
- (7) 理科年表 国立天文台編（丸善）

数学の世界

岡田克彦

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

我々は日常生活の中で、数学の恩恵を受けて暮らしている。数学は云うまでもなく膨大な内容を持つ学問体系であるが、ここではいろいろな分野の入門的・基本的な事項を解説し、演習により少しでも多く身につけることをめざす。

【授業計画】

以下の各項目について説明し、演習を行う。

- 1 場合の数 順列・組合せ
- 2 確率
- 3 統計、偏差値
- 4 極限值
- 5 数列・級数
- 6 ベクトル
- 7 関数・グラフ
- 8 微分
- 9 積分

【評価方法】

課題及び試験で評価する。

【テキスト】

特に使用しない。随時プリントを配布する。

生命の倫理

加藤太喜子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代の医学の進歩と発達によって今や人間の生命の誕生も医学よりも倫理の問題になった。現代社会が抱えている「生命」を倫理や哲学の面から考察する。

【授業計画】

次の主な項目に従って授業を展開する。

1. 生命倫理学の成り立ち
2. インフォームド・コンセント
3. 安楽死・尊厳死
4. 移植医療
5. 生殖医療
6. 人工妊娠中絶
7. 出生前診断
8. 優生思想とは
9. よりよい自己決定に向けて

【評価方法】

レポート及び期末に行う筆記試験により評価する。

【テキスト】

死の選択（森下直貴著 窓社）

【参考文献・資料】

生命観を問いなおす（森岡正博著 ちくま新書）
優生学と人間社会（米本昌平ほか著 講談社現代新書）

健康と医学

阪正和

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本はますます高齢化社会に入り、人生80年の時代になった。しかし、長生きするための健康は自分で管理し、自立自助によって初めて達成される。健康を保ち、命を守り育てるにはどうすればよいか。出生から死まで分りやすく講義する。

【授業計画】

- 1) 健康とは何か
健康の定義 健康管理 生命の尊さ
- 2) 母と子の絆
母子相互作用 児童虐待
- 3) 子どもの心と身体
子どもの特徴 発育・発達 しつけ（基本的生活習慣）
- 4) 女性の健康
思春期への対応 ビル 更年期
- 5) 生活習慣病（成人病）とは
その予防は幼児期から KYB運動
- 6) アレルギーの話
アレルギーと免疫 アレルギー病（気管支喘息など）
- 7) 食物と健康
母乳と人工乳 離乳 幼児食 食中毒
- 8) 歯の健康
歯の生理 虫歯と歯周病 高齢者と歯
- 9) 嗜好品と健康
アルコール タバコ
- 10) セクシュアリティに関わる問題
性感染症（クラミジア感染症・B型肝炎）性教育
- 11) 高齢社会の健康問題
ライフスタイルへの介入 介護 死を考える
- 12) インフォームド・コンセントとは
3大要素 ムンテラとの違い 診療情報の提供

【評価方法】

主に筆記試験によるが、講義の理解度をみるために小テストを2回、行なう。

【テキスト】

健康と保健の科学（坂口他著 日本小児医事出版社）

健康とくすり

永井慎一

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代は飽食の時代といわれ、運動不足やストレス過多のため薬品の助けがなければ健康の維持が難しい。薬品についての正しい知識を学び、薬品への依存性や副作用について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 受講生に「病気とくすりについて、今最も知りたいこと」をアンケート調査後、くすりとは何か、創薬の歴史から新薬開発まで解説
- 第2～3回 くすりの基礎知識について、くすりのしくみと生体内運命、くすりの効くメカニズムと受容体など2回にわたり解説
- 第4回 くすりの正しい知識をイラスト入りの質問形式でわかりやすく教える
- 第5～6回 常用される一般用医薬品（OTC）500種と医者がよく処方する医療用医薬品200種を薬効別に解説
- 第7回 頭痛、生理痛の原因と治療薬のメカニズム
- 第8回 受講生の多くが苦しむアトピー性皮膚炎や花粉症の発症メカニズムとくすりの効き方
- 第9回 病気の早期発見に役立つ成人病検査値の見かたと最新の画像診断法
- 第10～13回 検診で見つかる生活習慣病を中心に、高血圧、ガン、糖尿病、エイズなどの発症原因、予防法と現在開発中の治療薬を含めた治療薬の作用機作

【評価方法】

配布したプリントからテーマを出題し、レポートの内容で成績評価する。

【テキスト】

家庭でも保存、利用できるようA3大の両面プリントを毎回配布し（21枚）、講義する。

ライフサイクルと健康

松田秀子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルに合わせた運動と健康の維持について身近な問題を取りあげて講義する。

【授業計画】

1. ライフサイクルと健康とは
2. 姿勢
3. プロポーション（理想と現実）
4. 身体意識
5. 肥満とやせ
6. 隠れ肥満
7. 自分のからだを判定しよう
8. 体脂肪
9. 体脂肪を正しく落とす方法
10. 筋肉と運動神経
11. 健康づくりのための運動
12. Walking
13. 学生の性意識
14. 性への理解（避妊法）
15. 学生生活と健康

【評価方法】

出席状況とレポートによって評価する。

【テキスト】

使用せず。
必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

スポーツ基礎

杉山 和 山本啓子 松田秀子 寺田邦昭 門間 博

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

各種スポーツ（テニス、ゴルフ、バドミントン）をはじめ、ストレッチ体操、トレーニングなどの運動の基礎技術を習得することを目標として行う。

【授業計画】

曜日	限	担当者	種 目	
月	2	杉山	テニス	バドミントン
	3	寺田	バドミントン	ゴルフ
		杉山	テニス	バドミントン
	4	寺田	バドミントン	ゴルフ
火	1	松田	テニス	ゴルフ
	2	松田	テニス	ゴルフ
	3	山本	卓球	バレーボール
		松田	バドミントン	ゴルフ
4	山本	卓球	バレーボール	
水	2	門間	バドミントン	テニス
	3	門間	バドミントン	テニス
		山本	卓球	バレーボール
	4	門間	バドミントン	テニス
木	2	杉山	テニス	バドミントン
	3	山本	卓球	バレーボール
	4	山本	卓球	バレーボール
金	2	杉山	テニス	バドミントン
	3	杉山	テニス	バレーボール
	4	杉山	テニス	バレーボール

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・原則として、半期間に2種目を行います。(天候によって種目を変更する場合があります。)
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

【評価方法】

70点－(欠席回数×2/授業実施回数×70点)＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用

杉山 和

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

曜日	限	種 目	
月	2	ゴルフ	・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
	3	ゴルフ	
木	2	ゴルフ	・天候によって種目を変更する場合があります。
金	2	バレーボール	・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
	3	バドミントン	
	4	バドミントン	

〔ゴルフ〕

1. ガイダンス
2. グリップ、スタンス、アドレス
- 3～6. アイアン練習 (ショート・ミドルアイアン)
- 7～8. ウッド練習 (1、3ウッド)
9. 学外のゴルフ練習場にて練習
- 10～12. PW、SW、パッティング練習
- 13～14. ショートコース (グラウンドにて)
15. 学外のゴルフ練習場にて練習

〔バレーボール〕

1. ガイダンス
2. ボールに慣れる、構え、動きの基本姿勢
3. サーブの種類と打ち方
- 4～6. パス、トス、レシーブ、スパイク、ブロック
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ゲーム

〔バドミントン〕

1. ガイダンス
- 2～3. 歴史的ゲームの追体験、ラケットワーク
4. ストローク練習 (アンダーハンドを中心に)
5. ストローク練習 (サイドハンドを中心に)
6. ストローク練習 (オーバーヘッドを中心に)
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ダブルスゲーム

【評価方法】

70点－(欠席回数×2/授業実施回数×70点)＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用

山本啓子

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

曜日	限	種目
火	3	バドミントン
	4	バドミントン
水	3	バドミントン
	4	バドミントン
木	3	バドミントン
	4	バドミントン

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[バドミントン]

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの追体験
3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～15. ダブルスゲーム

【評価方法】

70点－（欠席回数×2／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用

松田秀子

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

曜日	限	種目
火	1	バドミントン
	2	バドミントン
	3	テニス

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[バドミントン]

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの追体験
3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～15. ダブルスゲーム

[テニス]

1. ガイダンス
2. ボールとラケットに慣れる
3. グランドストローク（フォアハンドを中心に）
4. グランドストローク（バックハンドを中心に）
5. サービス、レシーブ
6. ボレー、スマッシュ
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～15. ダブルスゲーム

【評価方法】

70点－（欠席回数×2／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用

寺田邦昭

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

曜日	限	種 目
月	3	テニス
	4	テニス

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[テニス]

1. ガイダンス
2. ボールとラケットに慣れる
3. グランドストローク (フォアハンドを中心に)
4. グランドストローク (バックハンドを中心に)
5. サービス、レシーブ
6. ボレー、スマッシュ
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム (フォーメーションを中心に)
- 9～15. ダブルスゲーム

【評価方法】

70点－(欠席回数×2÷授業実施回数×70点)＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用

門間 博

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

曜日	限	種 目
水	2	ソフトボール
	3	サッカー
	4	サッカー

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[ソフトボール]

1. ガイダンス
2. キャッチボールの基本、練習、ゲーム
- 3～5. バッティングの基本、練習、ゲーム
- 6～8. 守備の基本、練習、ゲーム
- 9～11. リーグ戦 1
- 12～15. リーグ戦 2、まとめ(記録整理・レポート)

[サッカー]

1. ガイダンス
2. 個人技能の確認
- 3～5. ボールコントロールの正確性、巧みに運ぶための基本技術、基本技術を生かしたミニゲーム
- 6～7. 個人技能をもとにチーム編成をし、ミニゲーム
- 8～10. ミニゲームのリーグ戦
- 11～15. リーグ戦、まとめ(記録整理・レポート)

【評価方法】

70点－(欠席回数×2÷授業実施回数×70点)＝出席点
30点＝実技点

スポーツ文化論

勝部篤美

1~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的・社会的事実から論証し、さらにスポーツの生成・発展・衰退に関係する諸要因（政治・経済・産業・社会・教育・科学・宗教・地理的環境等）について考え、現代社会における「人間性復権」への道程を展望する。

【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発する
2. スポーツは技能を追求する
3. スポーツは競争と協力の両面をもつ
4. スポーツはフェアプレイの精神によって成り立つ
5. スポーツは自己実現を志向させる
6. スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
7. スポーツには富と閑暇が関係する
8. スポーツは社会生活と関係が深い
9. スポーツには教育が関係する
10. スポーツには政治が関係する
11. スポーツには科学が関係する
12. スポーツは地理的環境に影響されることが大きい
13. スポーツには民族性が反映される
14. スポーツには商業主義がつきまとう
15. スポーツにはジャーナリズムがつきまとう
16. スポーツはガス抜き装置としての役割を果たす
17. スポーツのルールは法の体系に似た構造をもつ
18. スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある
19. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
20. スポーツは今や人間性の復権へ向って進む
21. スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場合と同じである

【評価方法】

単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

使用せず。参考図書は授業のとき指示する。

スポーツ文化論

松田秀子

1~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的・社会的事実から論証し、さらにスポーツの生成・発展・衰退に関係する諸要因（政治・経済・産業・社会・教育・科学・宗教・地理的環境等）について考え、現代社会における「人間性復権」への道程を展望する。

【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発する
2. スポーツは技能を追求する
3. スポーツは競争と協力の両面をもつ
4. スポーツはフェアプレーの精神によって成り立つ
5. スポーツは自己実現を志向させる
6. スポーツ舞踊とともに祭礼と結びついていた
7. スポーツには富と閑暇が関係する
8. スポーツは社会生活と関係が深い
9. スポーツには教育が関係する
10. スポーツには政治が関係する
11. スポーツには科学が関係する
12. スポーツには地理的環境に影響されることが大きい
13. スポーツには民族性が反映される
14. スポーツには商業主義がつきまとう
15. スポーツにはジャーナリズムがつきまとう
16. スポーツはガス抜き装置としての役割を果たす
17. スポーツのルールは法の体系に似た構造をもつ
18. スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある
19. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
20. スポーツは今や人間性の復権へ向って進む
21. スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場合と同じである

【評価方法】

出席状況とレポートによって評価する。

【テキスト】

使用せず。

必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

西洋史

山澤啓造

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

(第二次世界大戦までのアメリカ史)

アメリカ合衆国は、最古の共和国・最古の現代民主主義国家・最古の成文憲法をもつ国である。西洋史の授業は、この合衆国の歴史を政治・外交中心に第二次世界大戦まで学ぼうとするものである。

【授業計画】

テキストにしたがい、次の順序で学ぶ。

- ①アメリカを知るための基礎知識などを考察する。
- ②新大陸発見、人種、民族・移民・アメリカ独立革命、アメリカ合衆国の成立を考察した後、第二次世界大戦までの著名な10名ほどのアメリカ大統領の略歴と、その間の合衆国の政治・外交の要点を考察する(序章、第一章～第十七章)。最もアメリカ人らしいアメリカ人であるベンジャミン・フランクリンやマニフェスト・デスティニーなどにも文章中で触れる。テキストに沿って授業を進めるので、予習することが望ましい。学生の質問や討論を歓迎する。

【評価方法】

定期試験と出席などで評価する。

【テキスト】

西洋史…アメリカ史点描…(山澤啓造、平成10年、改訂増補版、自費出版)

【参考文献・資料】

西洋史…アメリカ史点描…(山澤啓造、平成10年、改訂増補版、自費出版)の最後ページの主要参考文献を参照

日本史

岩口和正

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

私たちの日常生活はもとより、社会全体を秩序づけているもののひとつに、年号や暦といった時間まつわる文化があります。この点では、過ぎ去った歴史時代も例外ではありません。人々の日々の暮らしや政治や社会のあり方を理解する上で、このような時間の文化・制度についての知識が必要となるゆえんです。他方、この分野ほど近代と前近代の相違の大きい領域も少なく、そのため、とりわけて前近代のそれについて誤解されることもしばしばです。そこで、講義では前近代の時間の制度を概観し、その背景となる政治文化について考えます。

中国における年号制度の成立

日本における年号制度の成立

日本における年号制度の変質

辛酉革命・甲子革命説について

日本近代における太陽暦の採用の意義

太陽太陰暦のしくみ

日本における太陽太陰暦の沿革

年号・暦と政治

【授業計画】

参考史料はプリントとして配布し、講義はこれらの史料を解説しながら進めます。

【評価方法】

学期末テストによって成績評価をおこないます。

【テキスト】

教科書：使用しません。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介します。

異文化交流論

鈴木 互

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

動態的記号学である文化記号学は、言語・記号・文化を考察の射程に入れることのできる有効な装置である。この考え方を身に付けたうえで、異文化間の差異の具体的な事例を多角的に検討し、さらに異文化との交流に関する諸問題について考察したい。

学習意欲のある、明るく元気な学生の受講を心から歓迎する。

【授業計画】

- 1 文化記号学とその射程
- 2 言語的世界の異文化交流（文学、思想・哲学、宗教など）
- 3 記号的世界の異文化交流（身振り、舞踏、音楽、絵画、演劇、映画、漫画など）
- 4 異文化の実態（韓国、中国語圏、インドネシア、タイ、イギリス、ドイツ、フランス、スペイン、ギリシアなど）
- 5 ナショナリズムと日本文化論
- 6 ポストモダンと多元主義的アプローチ
- 7 インターネットの可能性と限界
なお、講義内容の順番は変更することがある。

【評価方法】

出席・提出物等によって総合的に評価する。

【テキスト】

異文化接触の心理学（渡辺文夫編著 川島書店）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

ポピュラー文化論

文 嬉眞

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

「なぜ文化が大衆化するのか」を基本にして考える。第一に、江戸時代に視点をおき、当時の日本社会における文化の「大衆化」の徴候を考え、その文化が大衆へ浸透していく諸要因や過程を考察してみる。第二に、近・現代における「近代化」・「都市化」・「情報化」が「大衆文化」や「ポピュラー文化」に及ぼす影響およびそれを受け容れる民衆の心理状態、生活様式、人間関係などがどのように変化していくのかを追及する。最後に、現在われわれの周囲に見られる文化の諸相から「文化的多様化」を考え、各自検討する。

【授業計画】

- 第1回 本講義における「文化」とは
- 第2～4回 江戸時代における文化の「大衆化」の過程および要因
- 第5～6回 戦前の日本社会における「大衆文化」
- 第7～8回 戦後の日本社会における「大衆文化」
- 第9回 「都市化」・「情報化」がもたらした社会での「大衆文化」とは
- 第10回 「大衆文化」と「ポピュラー文化」とは
- 第11～12回 今日の文化現象からみる日本の社会や人間関係および「文化」の行方

【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 定期試験またはレポート（未定）で残る50%を評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

文化人類学

三木 誠

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間とその他の生物との本質的な違いの一つは、言語を媒体とした文化形成の有無である。文化は地球上の生物で人間だけが持つものであり、人間は無意識のうちに自身の生まれ育った文化から様々な影響を受けている。文化人類学という学問は、このような文化を切り口として、人間という存在の普遍性と多様性を追求していく学問である。授業では、世界中の社会に見られる様々な文化的事象を解説し、できるだけ数多くの事例を交えながら、人間の持つ文化の魅力や不可解さを伝えていきたいと考えている。

【授業計画】

以下のようなテーマで講義を行う。それぞれのテーマを総合的に理解するのに不可欠な概念や用語の解説と、テキスト、プリント等を利用した事例研究が主になる。異文化に対する興味や好奇心を喚起するためにVTR資料なども活用する。

- 文化
- 性差
- 婚姻
- 家族
- 交換
- 宗教
- 性
- エスニシティー
- 異文化解題

【評価方法】

あらかじめ問題を公開したレポート形式の簡単な試験により評価する。異文化に対する興味を養うことを主眼とするので、暗記等は必要ないが、ノートはとること。

【テキスト】

文化人類学への誘い（水谷他編 みらい）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

現代思想

大野波矢登

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

今世紀の英米で展開されてきた倫理学の諸理論（功利主義、直覚主義、情緒主義、等）を中心に、近代以降の西洋倫理思想の歴史を概説する。そして、それらの理論によって与えられた議論の類型や概念装置を理解するとともに、今日のわれわれを取り巻く現実、特に医療、環境、情報、科学技術といった領域で提起されている課題について倫理的視点から考察する。

なお、授業はすべて講義形式で行う。

【授業計画】

- 第1回：現代世界が抱える課題と、それに対する倫理的アプローチとは
- 第2回：西洋倫理学の基本概念
- 第3回：功利主義の思想
- 第4回：20世紀の倫理思想（1）－伝統的功利主義に対する批判と見直し
- 第5回：20世紀の倫理思想（2）－応用倫理学との接点
- 第6～7回：環境倫理
- 第8～9回：生命倫理と医の倫理
- 第10～11回：情報倫理
- 第12回：科学的技術の倫理（医療技術、情報通信技術については第8～11回でも取り上げる）
- 第13回：単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績をもとに評価する。

【テキスト】

情報倫理学：電子ネットワーク社会のエチカ（越智貢、土屋俊、水谷雅彦編 ナカニシヤ出版）

視覚芸術論

海上宏美

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

近現代以降の多様な視覚芸術を二次元・三次元・四次元という視座から捉え、それぞれの次元における視覚の位置とそこから発生する問題系を現代芸術全般を参照しつつ理解していく。随時、ビデオ等を用い、図像や映像を鑑賞する。

【授業計画】

第1講～第4講

二次元における視覚芸術（絵画を中心に～平面、キュビズム、写真、網膜の絵画）

第5講～第8講

三次元における視覚芸術（インスタレーションを中心に～彫刻、モダニズム、メディア・アート）

第9講～第12講

四次元における視覚芸術（劇場を中心に～スペクタクル、パフォーマンス、ボディ・イメージ）

最終的に課題レポートを提出してもらう。

【評価方法】

出席状況と課題レポートの成績によって評価。

【参考文献・資料】

授業中に指示。

文献入門

伊藤真理

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

「文献」を広く捉え、様々な学問分野において有効な情報源となり得る各種情報メディアをとりあげる。

各情報メディアについてその定義、歴史、特徴をわかりやすく解説し、その利用方法や探し方についても具体例をとりまぜて紹介する。

【授業計画】

- 1 文献とは
- 2 文献の定義、歴史、特徴
 - 2.1 本・図書
 - 2.2 雑誌
 - 2.3 新聞
 - 2.4 地図
 - 2.5 絵画
 - 2.6 楽譜
 - 2.7 テレビジョン
 - 2.8 インターネット
 - 2.9 データベース
- 3 文献の利用方法
- 4 文献の探し方

【評価方法】

レポートによって評価する。

【テキスト】

使用せず。

メディア表現

村主千賀

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

メディアとは、知的活動もしくは芸術活動の成果の「表れ」に対する一つのとらえ方であり、その生成過程は「表現」という側面から見るができる。そこで、様々な技術革新によってメディアにもたらされた「表現」の多様性、可能性について、情報伝達における表現者と受容者の関係なども含めて考察する。

【授業計画】

第1～3回

0 (初回) 授業について

1 「表現」とは：「表現」という語からの考察

2 「メディア」とは：

メディアのとらえ方；『メディアの階層』を参考に

第4～6回

3 メディア表現への歴史的アプローチ：概説

3-1 メディアの物理的、技術的側面から

3-2 表現の目的、用途に関する側面から

第7～8回

4 様々なメディア表現：概説、鑑賞

芸術作品、文学作品、学術的メディアetc.

第9～11回

5 メディア表現とその受容：プロセスを中心に

5-1 表現と意図

5-2 表現者と受容者

第12回

6 「表現」をめぐる諸問題と法律…著作権等について

【評価方法】

課題小レポート、期末レポート。

【テキスト】

特に指定しないが、参考文献等はその都度提示、紹介。

統計学入門

鈴木有美

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

初めて統計学を学ぶ者が理解できることを念頭に、統計学の基礎的な知識を身につけ、かつ実践的な統計的技法を理解できるようになることを目指します。

1. 変数の性質
2. 基礎統計量
3. 確率変数と確率分布
4. 変数の変換
5. 母集団と標本
6. 統計的推定一点推定・区間推定
7. 統計的検定—母平均検定・母分散検定・母比率検定
8. 2変量の関係—相関・回帰
9. 平均値の差の検定—t検定・分散分析
10. ノンパラメトリック検定

【授業計画】

講義の内容については、基本的に上記の順に進めますが、受講者の理解・興味に応じて構成していく予定です。また、講義で学んだことについて理解を深めるための課題を随時設けます。

【評価方法】

課題の提出とその結果、および定期試験の結果をあわせて評価します。

【テキスト】

本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本 (吉田寿夫著 北大路書房)

【参考文献・資料】

授業中に紹介します。

脳の働き

富田 武

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間の精神活動の中核としての脳の構造と、その進化の過程を学び、本能と理性、感情と行動など高度の精神活動の発現と制御の機構を考える。

【授業計画】

- 第1講 精神活動の中核を求めて
- 第2講 脳の進化と発達
- 第3講 脳と神経細胞の構築
- 第4講 興奮と抑制
- 第5講 大脳皮質の分業体制
- 第6講 感覚と姿勢運動の制御
- 第7講 喜び、意欲し、言語する脳
- 第8講 利き手、利き脳、大脳辺縁系
- 第9講 本能をうみだし、怒る脳
- 第10講 内臓の統御と、学習、記憶をする脳
- 第11講 睡眠、夢、意識の狭間
- 第12講 行動を操る脳
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績で総合的に評価する。

【テキスト】

脳の話（時実利彦著 岩波書店）

【参考文献・資料】

脳の不思議（伊藤正男著 岩波書店）

脳のしくみと不思議（鈴木智子著 日本文芸社）

Practical English 1 C

間瀬欣英

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

国際社会で求められる「英語によるコミュニケーション能力」、つまり英語4技能のバランスのとれた運用能力の修得を目標にして、特に前期は、日本人が不得意とするリスニングの力の向上を中心に英語の総合力を高め、またTOEIC等の問題にも対応できる実際の能力を養いたい。

【授業計画】

毎回次のような実際の問題に取り組む。

1. 写真描写問題
2. 応答問題
3. 会話問題
4. 説明文問題

【評価方法】

定期試験、小テスト、プレゼンテーション、出席状況などによって総合的に評価する。

【テキスト】

Skills And Strategies For The ToEIC Test (Macmillan Language house ¥1,800)

Practical English 1Cは、週2回コースの授業である。間瀬先生（月1限）、横関先生（水1限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 1 C

横関美津紀

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

本講義は、英文の内容を速く、正確に読み取る能力を向上させることを目的とする。

【授業計画】

まず、パラグラフの概念や、その構成パターンおよび構成要素について学習することにより、英文を能動的に読む意識を高めたい。エッセイ、新聞や雑誌の記事、評論など、様々な分野の英文を読む予定である。逐次和訳をするのではなく、内容の把握に重点を置き、学習者が理解する上で困難を覚えた箇所の基本的な文法事項や語法の確認と、語彙力を増やすことに力を入れる。また、授業内で時間制限をもうけ、TOEICやTOEFLなどの英語検定試験における読解問題形式をふまえたクイズに取り組む。

なお、できるだけ多くの英文を読むために、毎週課題を出す予定である。

第1回 インTRODククション

第2回～第13回 テキストを用いた演習

【評価方法】

出席状況、授業中の学習態度および課題や小テストを含めた平常点、定期試験等によって総合的に評価する。

【テキスト】

JACET：リーディングの総合演習 [改訂版]

(大学英語教育学会教材研究会 編著 朝日出版社)

Practical English 1Cは、週2回コースの授業である。間瀬先生（月1限）、横関先生（水1限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 1 C

山田久美子

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

この講義では、社会・文化の問題、女性の問題、旅行などをテーマとする異文化理解のためのエッセイを読み、英語の読解力の向上をめざす。また、英語検定、TOEFL、TOEICなどの出題形式と同じ練習問題を行うことにより、資格試験対策を視野に入れた英語の運用能力を養う。

【授業計画】

1. Japanese Avoid Movies
2. Cats
3. Oxford Goes with New Flow of Words
4. A Survey of Japan in Comics
5. A Big Mac by Any Other Name
6. Changing Japanese Perceptions of English Food
7. South African Wine
8. Out of this World
9. Like the Hotel Furnishings? Buy them!
10. Unusual Cruises Break the Ice
11. Subaru Telescope Project
12. Birthrate Decline Explains Japan's Economic Woes

【評価方法】

出席状況、定期試験により評価する。

【テキスト】

Developing English Test Taking Skills

(清水義和他編著 成美堂 ¥1,700)

Practical English 1Cは、週2回コースの授業である。山田久美子先生（火1限）、山田豊先生（水1限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 1 C

山田豊

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

TOEICや英検等の資格テストにも含まれる、リーディングの部分で点数を向上すべく、読む力をつけるために、音読、速読、内容の理解、文法知識を中心とした授業。発音等も重視する。

【授業計画】

1回目にプリントを配付し、目的や授業担当者の意図を説明し、テキストの利用のしかた、予習・復習等の要求の程度、授業の進め方や、速度について伝える。

2回目以降は受講する学生が音読したり、テープ等を使い通常の講読のような部分も当然あるが、一定の時間内に読み、理解することがPracticalであるためには不可欠であろうと考えている。ミニテストの様なことも練習したい。その時は英検等の実際のテストの一部を使う予定。

【評価方法】

出席やクラスのパフォーマンス、ミニテスト及び最後のテストを点数化し、金曜限の授業と合算して、2単位の科目として成績を出す。

【テキスト】

Developing English Test Taking Skills

(清水義和他編著 成美堂 ¥1700)

Practical English 1Cは、週2回コースの授業である。山田久美子先生（火1限）、山田豊先生（水1限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 1 D

間瀬欣英

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

国際社会で求められる「英語によるコミュニケーション能力」、つまり英語4技能のバランスのとれた運用能力の修得を目標にして、特に後期は読む力を中心に英語の総合力を高め、またTOEICの問題にも対応できる実際のな力を養いたい。

【授業計画】

毎回次のような実際の問題に取り組む。

1. 文法・語彙問題
2. 誤文訂正問題
3. 読解問題

【評価方法】

定期試験、小テスト、プレゼンテーション、出席状況などによって総合的に評価する。

【テキスト】

5-Minute Quizzes for TOEIC Reading (Macmillan Languagehouse ¥952)

Practical English 1Dは、週2回コースの授業である。間瀬先生（月1限）、横関先生（水1限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 1 D

横関美津紀

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

本講義は、英文の内容を速く、正確に読み取る能力を向上させることを目的とする。

【授業計画】

まず、パラグラフの概念や、その構成パターンおよび構成要素について学習することにより、英文を能動的に読む意識を高めたい。エッセイ、新聞や雑誌の記事、評論など、様々な分野の英文を読む予定である。逐次和訳をするのではなく、内容の把握に重点を置き、学習者が理解する上で困難を覚えた箇所の基本的な文法事項や語法の確認と、語彙力を増やすことに力を入れる。また、授業内で時間制限をもうけ、TOEICやTOEFLなどの英語検定試験における読解問題形式をふまえたクイズに取り組む。

なお、できるだけ多くの英文を読むために、毎週課題を出す予定である。

- | | |
|----------|------------|
| 第1回 | イントロダクション |
| 第2回～第13回 | テキストを用いた演習 |

【評価方法】

出席状況、授業中の学習態度および課題や小テストを含めた平常点、定期試験等によって総合的に評価する。

【テキスト】

JACET：リーディングの総合演習 [改訂版]
(大学英語教育学会教材研究会 編著 朝日出版社)

Practical English 1Dは、週2回コースの授業である。間瀬先生（月1限）、横関先生（水1限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 1 D

山田久美子

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

この講義では、社会・文化の問題、女性の問題、旅行などをテーマとする異文化理解のためのエッセイを読み、英語の読解力の向上をめざす。また、英語検定、TOEFL、TOEICなどの出題形式と同じ練習問題を行うことにより、資格試験対策を視野に入れた英語の運用能力を養う。

【授業計画】

1. Women Doctors
2. Paris Perfumeries Let You See the World of Scents
3. Women's Day Celebration
4. How the Shannon Acquired its Name
5. Stories, Ideas Lost with Disappearing Languages
6. Celtic Tiger
7. Teachers Find Exams Difficult
8. If I Had a Hammer
9. Many Japanese Suffer from Fatigue
10. A Mirror of Japan
11. A Mission of Love for a Japanese Nikkei
12. "Doting Dads" Ads Provoke Angry Outburst

【評価方法】

出席状況、定期試験により評価する。

【テキスト】

Developing English Test Taking Skills
(清水義和他編著 成美堂 ¥1,700)

Practical English 1Dは、週2回コースの授業である。山田久美子先生（火1限）、山田豊先生（水1限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 1 D

山田 豊

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

TOEICや英検等の資格テストにも含まれる、リーディングの部分で点数を向上すべく、読む力をつけるために、音読、速読、内容の理解、文法知識を中心とした授業。発音等も重視する。

【授業計画】

1回目にプリントを配付し、目的や授業担当者の意図を説明し、テキストの利用のしかた、予習・復習等の要求の程度、授業の進め方や、速度について伝える。

2回目以降は受講する学生が音読したり、テープ等を使い通常の講読のような部分も当然あるが、一定の時間内に読み、理解することがPracticalであるためには不可欠であろうと考えている。ミニテストの様なことも練習したい。その時は英検等の実際のテストの一部を使う予定。

【評価方法】

出席やクラスでのパフォーマンス、ミニテスト及び最後のテストを点数化し、金曜限の授業と合算して、2単位の科目として成績を出す。

【テキスト】

Developing English Test Taking Skills
(清水義和他編著 成美堂 ¥1700)

Practical English 1Dは、週2回コースの授業である。山田久美子先生（火1限）、山田豊先生（水1限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 2 C

山田 豊

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

TOEICや英検等の資格テストにも含まれる、リーディングの部分で点数を向上すべく、読む力をつけるために、音読、速読、内容の理解、文法知識を中心とした授業。発音等も重視する。

【授業計画】

1 回目にプリントを配付し、目的や授業担当者の意図を説明し、テキストの利用のしかた、予習・復習等の要求の程度、授業の進め方や、速度について伝える。

2 回目以降は受講する学生が音読したり、テープ等を使い通常の講読のような部分も当然あるが、一定の時間内に読み、理解することがPracticalであるためには不可欠であろうと考えている。ミニテストの様なことも練習したい。その時は英検等の実際のテストの一部を使う予定。

【評価方法】

出席やクラスでのパフォーマンス、ミニテスト及び最後のテストを点数化し、金曜限の授業と合算して、2単位の科目として成績を出す。

【テキスト】

Practice for Communicative English: An Introduction
(伊勢村定雄 北星堂 ¥1900)

Practical English 2Cは、週2回コースの授業である。山田豊先生（水2限）、天野先生（金1限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 2 C

天野純子

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

TOEICテスト対策（主にリーディング、structureの練習）を行ない、3カ月後、6カ月後のTOEICスコアの高得点を目指す。新聞記事なども取り上げる予定。

【授業計画】

第1	
2	
3	
4	42 key test-taking strategies
5	
6	
7	ハーフテスト
8	
9	
10	42 key test-taking strategies
11	
12	
13	

【評価方法】

出席、ハーフテストスコア、期末テストによる。

【テキスト】

5-Minute Quizzes for TOEIC (Reading)
(Macmillan 952円)

Practical English 2Cは、週2回コースの授業である。山田豊先生（水2限）、天野先生（金1限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 2 C

横関美津紀

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

本講義は、英語の基礎力を養うことを目的とする。

【授業計画】

文法・語法・熟語・構文に関する基本的な事項を、TOEIC や TOEFL、英検などの検定試験の形式に則した実践問題を通して身につける。また、リスニング力の向上を目指して、会話等を聞き取る練習に取り組む予定である。様々な分野に関連する語彙を増やすことにも力を入れたい。テキスト以外に適宜プリントを用いて、できるだけ多くの問題にふれる機会をもうけたいと考えている。課題や小テストも取り入れる予定である。

第1回 インTRODクシヨン

第2回～第13回 テキストを用いた演習

【評価方法】

出席状況、授業中の学習態度および課題や小テストを含めた平常点、定期試験等によって総合的に評価する。

【テキスト】

TOEIC TEST 基本文法+会話・リスニング問題 (小池直己著 北星堂)

Practical English 2Cは、週2回コースの授業である。横関先生(水2限)、今井先生(金1限)の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 2 C

今井加寿

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

イギリスで1997年6月に発売されて以来、30カ国語以上に翻訳され、いまや世界中でベストセラーとなっている「ハリー・ポッターシリーズ」の第1巻、『ハリー・ポッターと賢者の石』前半を原書で読む。テープを聞きながらの速読による大筋の理解、部分的な精読による人物像細部の理解など、異なった読み方に挑戦しながら、原書の持つ「ハリー・ポッターの世界」の魅力を探る。またベストセラーとなる要素はどこにあるのかについてのディスカッションも試みる。

【授業計画】

第1回 授業の進め方および評価方法の説明

第2回 Chapter One: The Boy Who Lived

第3回 Chapter One: The Boy Who Lived

第4回 Chapter Two: The Vanishing Glass

第5回 Chapter Three: The Letters from No One

第6回 Chapter Four: The Keeper of the Keys

第7回 Chapter Five: Diagon Alley

第8回 Chapter Five: Diagon Alley

第9回 Chapter Six: The Journey from Platform Nine and Three-Quarters

第10回 Chapter Six: The Journey from Platform Nine and Three-Quarters

第11回 Chapter Seven: The Sorting Hat

第12回 Chapter Eight: The Potions Master

第13回 復習・まとめ

【評価方法】

出席・授業態度30%、筆記試験70%

【テキスト】

Harry Potter and the Philosopher's Stone

(J.K.Rowling, Bloomsbury)

Practical English 2Cは、週2回コースの授業である。横関先生(水2限)、今井先生(金1限)の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 2 D

山田 豊

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

TOEICや英検等の資格テストにも含まれる、リーディングの部分で点数を向上すべく、読む力をつけるために、音読、速読、内容の理解、文法知識を中心とした授業。発音等も重視する。

【授業計画】

1 回目にプリントを配付し、目的や授業担当者の意図を説明し、テキストの利用のしかた、予習・復習等の要求の程度、授業の進め方や、速度について伝える。

2 回目以降は受講する学生が音読したり、テープ等を使い通常の講読のような部分も当然あるが、一定の時間内に読み、理解することがPracticalであるためには不可欠であろうと考えている。ミニテストの様なことも練習したい。その時は英検等の実際のテストの一部を使う予定。

【評価方法】

出席やクラスでのパフォーマンス、ミニテスト及び最後のテストを点数化し、金曜限の授業と合算して、2単位の科目として成績を出す。

【テキスト】

Practice for Communicative English: An Introduction
(伊勢村定雄 北星堂 ¥1900)

Practical English 2Dは、週2回コースの授業である。山田豊先生（水2限）、天野先生（金1限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 2 D

天野純子

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

TOEFL対策を行ない高得点を目指す。リーディング中心で行ない、新聞記事、短編小説なども取り上げる予定。

【授業計画】

第1回	}	Test skills, Language skills
2		
3		
4		
5		
6	}	模擬テスト
7		
8	}	Test skills, Language skills
9		
10		
11		
12		
13		

【評価方法】

出席、模擬テスト、期末テストによる。

【テキスト】

Developing TOEFL skills (Macmillan 2,800円)

Practical English 2Dは、週2回コースの授業である。山田豊先生（水2限）、天野先生（金1限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 2 D

横関美津紀

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

本講義は、英語の基礎力を養うことを目的とする。

【授業計画】

文法・語法・熟語・構文に関する基本的な事項を、TOEIC や TOEFL、英検などの検定試験の形式に則した実践問題を通して身につける。また、リスニング力の向上を目指して、会話等を聞き取る練習に取り組む予定である。様々な分野に関連する語彙を増やすことにも力を入れたい。テキスト以外に適宜プリントを用いて、できるだけ多くの問題にふれる機会をもうけたいと考えている。課題や小テストも取り入れる予定である。

第1回 インTRODクシヨン

第2回～第13回 テキストを用いた演習

【評価方法】

出席状況、授業中の学習態度および課題や小テストを含めた平常点、定期試験等によって総合的に評価する。

【テキスト】

TOEIC TEST 基本文法+会話・リスニング問題

(小池直己著 北星堂)

Practical English 2Dは、週2回コースの授業である。横関先生(水2限)、今井先生(金1限)の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 2 D

今井加寿

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

イギリスで1997年6月に発売されて以来、30カ国語以上に翻訳され、いまや世界中でベストセラーとなっている「ハリー・ポッターシリーズ」の第1巻『ハリー・ポッターと賢者の石』後半を原書で読む。テープを聞きながらの速読による大筋の理解、部分的な精読による人物像細部の理解など、異なった読み方に挑戦しながら、原書の持つ「ハリー・ポッターの世界」の魅力を探る。またベストセラーとなる要素はどこにあるのかについてのディスカッションも試みる。

【授業計画】

第1回 授業の進め方および評価方法の説明

第2回 Chapter Nine: The Midnight Duel

第3回 Chapter Nine: The Midnight Duel

第4回 Chapter Ten: Hallowe'en

第5回 Chapter Eleven: Quidditch

第6回 Chapter Twelve: The Mirror of Erised

第7回 Chapter Twelve: The Mirror of Erised

第8回 Chapter Thirteen: Nicolas Flamel

第9回 Chapter Fourteen: Norbert The Norwegian Ridgeback

第10回 Chapter Fifteen: The Forbidden Forest

第11回 Chapter Sixteen: Through the Trapdoor

第12回 Chapter Seventeen: The Man with Two Faces

第13回 復習・まとめ

【評価方法】

出席・授業態度30%、筆記試験70%

【テキスト】

Harry Potter and the Philosopher's Stone

(J.K.Rowling, Bloomsbury)

Practical English 2Dは、週2回コースの授業である。横関先生(水2限)、今井先生(金1限)の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 3 C

ジョアン・M. ウッドマン ハリー・T. ノリス ボール・C. リンガー
キース・イーズリー テリー・ワコルツ ベヴァリー・F・M. カレン

1・2年 前期 選択 2単位

【Course Content】

This course is available to all English Department students. Preference will be given to 1st and 2nd year students.

This course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills along with vocabulary, comprehension, and grammar will also be cultivated. The work will help students to prepare for Eiken and TOEIC /TOEFL.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching this course, providing a well-rounded consideration of contemporary themes.

The course will be graded and students will sit a placement test. (See student handbook for more detailed information.)

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

ATTENDANCE

CLASS PARTICIPATION/EFFORT

HOMEWORK AND ASSIGNMENTS

END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

To be announced

Practical English 3Cは、週2回コースの授業である。月曜1限、木曜1限の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 3 D

ジョアン・M. ウッドマン ハリー・T. ノリス ボール・C. リンガー
キース・イーズリー テリー・ワコルツ ベヴァリー・F・M. カレン

1・2年 後期 選択 2単位

【Course Content】

This course is available to all English Department students. Preference will be given to 1st and 2nd year students.

This course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills along with vocabulary, comprehension, and grammar will also be cultivated. The work will help students to prepare for Eiken and TOEIC /TOEFL.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching this course, providing a well-rounded consideration of contemporary themes.

The course will be graded and students will sit a placement test. (See student handbook for more detailed information.)

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

ATTENDANCE

CLASS PARTICIPATION/EFFORT

HOMEWORK AND ASSIGNMENTS

END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

To be announced

Practical English 3Dは、週2回コースの授業である。月曜1限、木曜1限の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 4 C・D

ハリー・T. ノリス ポール・C. リンガー ジョナサン・E. ロング
ジョアン・M. ウッドマン ベヴァリー・F・M. カレン

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This course will be available to all English department students. Preference will be given to first and second year students. It's aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal goals.

The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills including vocabulary, comprehension, and grammar will also be cultivated.

The work will also help students to prepare for EIKEN and TOEIC/TOEFL.

Teachers from the United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching this course, providing a well-rounded perspective of contemporary themes.

The course will be graded and students will sit a placement test. (See student handbook for more detailed information).

【Schedule】

Each topic will be covered over a one or two week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria :

ATTENDANCE

CLASS PARTICIPATION/EFFORT

HOMEWORK AND ASSIGNMENTS

END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

To be announced

Practical English 4C (前期) は、週2回コースの授業である。火曜5限、金曜5限の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 4D (後期) は、週2回コースの授業である。火曜5限、金曜5限の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Rapid Reading 1

間瀬欣英

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

今世紀の著名な英米作家5人の短編小説を読んで英語の読解力を養うとともに、小説という言葉の芸術の醍醐味を味わい、人間と人生の機微にふれ、あわせて私達自身の生き方も考えていきたい。

【授業計画】

- | | |
|-----------------------|---|
| 1. W.Somerset Maugham | The Luncheon |
| 2. Erskine Caldwell | The Visitor |
| 3. William Saroyan | The Summer of The Beautiful White Horse |
| 4. O. Henry | After Twenty Years |
| 5. Roald Dahl | Lamb to the Slaughter |

【評価方法】

定期試験、小テスト、発表、出席状況などによって総合的に評価する。

【テキスト】

Collected Modern Short Stories Love&Humor (Macmillan Languagehouse ¥1,350)

Rapid Reading 1

太田晶子

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

できるだけ多くの英文を読むことによって、著者の意図を適確に読みとる訓練をする。

毎回授業の始めに5分間リーディングを行う。

【授業計画】

第1回～3回 リーディングの基礎

第4回～7回 Unit 1 Ecology

第8回～13回 Unit 2 Communication

【評価方法】

出席、授業態度、定期試験を同等に評価する。

【テキスト】

JACETリーディングの総合演習 (Interactive Reading)
(大学英語教育学会教材研究会 朝日出版¥1,900)

Rapid Reading 1

今井加寿

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

一般に読み方は速読 (speed reading)、多読 (extensive reading)、精読 (intensive reading) などに分類されるが、このコースはそのうちの速読を目指す技術を学ぶことを目的とする。すなわち英語文の情報をすばやく読み取るヒントを学び、そのヒントを実際に応用させて、読解力の向上をはかることを目的とする。

【授業計画】

第1回 授業計画及び評価方法の説明

第2回 リーディングの基礎 1

第3回 リーディングの基礎 2

第4回

| テキストに沿って演習

第12回

第13回 復習・まとめ

【評価方法】

出席・授業態度30%、筆記試験70%

【テキスト】

Interactive Reading

-Global Communication-

ISBN 4-255-15223-3

(JACET、朝日出版社)

Rapid Reading 2

間瀬欣英

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

今世紀の著名な英米作家5人の短編小説を読んで英語の読解力を養うとともに、小説という言葉の芸術の醍醐味を味わい、人間と人生の機微にふれ、あわせて私達自身の生き方も考えていきたい。

【授業計画】

- | | |
|------------------------|-----------------------------------|
| 1. Graham Greene | I Spy |
| 2. Ernest Hemingway | Indian Camp |
| 3. Katherine Mansfield | The Little Girl |
| 4. Saki | The Open Window |
| 5. Irwin Shaw | The Girls in Their Summer Dresses |

【評価方法】

定期試験、小テスト、発表、出席状況などによって総合的に評価する。

【テキスト】

Collected Modern Short Stories Love&Humor (Macmillan Languagehouse ¥1,350)

Rapid Reading 2

太田晶子

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

できるだけ多くの英文を読むことによって、著者の意図を適当に読みとる訓練をする。

毎回授業の始めに5分間リーディングを行う。

【授業計画】

- | | |
|---------|----------------------|
| 第1回～4回 | Unit 3 Communication |
| 第5回～8回 | Unit 4 Culture |
| 第9回～13回 | Unit 5 Language |

【評価方法】

出席、授業態度、定期試験を同等に評価する。

【テキスト】

JACETリーディングの総合演習 (Interactive Reading)
(大学英語教育学会教材研究会 朝日出版社 ¥1,900)

Rapid Reading 2

今井加寿

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

一般に読み方は速読 (speed reading)、多読 (extensive reading)、精読 (intensive reading) などに分類されるが、このコースはそのうちの速読を目指す技術を学ぶことを目的とする。すなわち英語文の情報をすばやく読み取るヒントを学び、そのヒントを実際に応用させて、読解力の向上をはかることを目的とする。

【授業計画】

- 第1回 授業計画及び評価方法の説明
- 第2回 リーディングの基礎1
- 第3回 リーディングの基礎2
- 第4回
| テキストに沿って演習
- 第12回
- 第13回 復習・まとめ

【評価方法】

出席・授業態度30%、筆記試験70%

【テキスト】

Interactive Reading
-Global Communication-

ISBN 4-255-15223-3
(JACET、朝日出版社)

Rapid Reading 3 (金曜3限)

森本素世子

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

アメリカ、カナダ、日本という三国の人びとの価値観の相違や、そうした価値観がどのようにして生まれてきたかを、自然環境から、教育、住まいなどにまで広げて考察した興味深い比較文化論を題材に、人間の思考の差異と類似を探ると同時に、英語の読解力をも養っていきたい。

【授業計画】

下記のテキストを適宜、質疑応答を加えながら精読する。各自の予習を前提にテキストを読み進めるが、ただ字面だけを追うのではなく、パラフレーズを通して筆者の意図するところを読み取り、それに対する自らの意見も述べてもらいたい。

- Preface
- Chapter 1
- Chapter 2
- Chapter 3
- Chapter 4
- Chapter 5
- Chapter 6
- Chapter 7
- Chapter 8
- Chapter 9

【評価方法】

定期試験および授業時の発表・参加度と出欠状況から総合的に評価する。

【テキスト】

Exploring Hidden Culture (Paul Stapleton 金星堂)

Rapid Reading 3 (金曜4限)

森本素世子

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

ストーリー・テラーの名手と言われる英語圏作家の短編小説を読みながら、それぞれの作家の特徴やその文化的背景を探っていききたい。短編に付き物の、結末の意外性を味わうには速読を必要とするが、短編小説には「全体としての構想に合わない語が一語たりともあってはならない」というポーの言葉からも離れぬように考慮しながら英語の読解力を養っていききたい。

【授業計画】

下記のテキストを適宜、質疑応答を加えながら精読する。各自の予習を前提にテキストを読み進めるが、ただ字面だけを追うのではなく、パラフレーズを通して筆者の意図するところを読み取り、それに対する自らの意見も述べてもらいたい。

The Hitch-hiker

Home

An Astrologer's Day

【評価方法】

定期試験および授業時の発表・参加度と出欠状況から総合的に評価する。

【テキスト】

AN INVITATION TO ENGLISH SHORT STORIES (真田時蔵 註解 成美堂)

Rapid Reading 3

松本一喜

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

1. “Words to Remember” を講読する。テキストは、J.F.ケネディ、マザー・テレサ、チャップリン等のスピーチを集めたものである。口語で書かれたものであるので内容は深遠ながらも平易なスタイルのものとなっている。

2. 授業では、①準拠テープのリスニング及びシャドウイング、②テキストのリーディング、③和訳等を学生の参加によって行なう。講師の側からの一方的講義とはならない。リスニングやスピーキングの習熟も兼ねたリーディングの授業と考えてもらえればよい。

3. 授業は、5～6人のグループに分かれてのグループ学習という体裁をとる。各グループ内でリーディングや和訳の発表を行なうので予習が行なわれていないと辛い授業になる。

4. 必要に応じ、テキストに関連する映画等を視聴する。英語の学習のみならず、偉人の魂にも触れてみたいからである。

【授業計画】

ほぼテキストの前半部をカバーするつもりです。一回目の授業で計画予定を掲示するつもりです。

【評価方法】

単位の取得条件は、1. 3分の2以上の出席率、遅刻は3分の1の欠席としてカウントする。2. 3回のレポート(各期)の提出。3. 試験で60点以上を取ることで3点をクリアすることとする。成績は、試験結果を2分の1、出席率・レポートを2分の1の割合で考慮する。

【テキスト】

Words to Remember (桐原書店)

Rapid Reading 4 (金曜3限)

森本素世子

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

アメリカ、カナダ、日本という三国の人びとの価値観の相違や、そうした価値観がどのようにして生まれてきたかを、自然環境から、教育、住まいなどにまで広げて考察した興味深い比較文化論を題材に、人間の思考の差異と類似を探ると同時に、英語の読解力をも養っていきたい。

【授業計画】

下記のテキストを適宜、質疑応答を加えながら精読する。各自の予習を前提にテキストを読み進めるが、ただ字面だけを追うのではなく、パラフレーズを通して筆者の意図するところを読み取り、それに対する自らの意見も述べてもらいたい。

Chapter10

Chapter11

Chapter12

Chapter13

Chapter14

Chapter15

Chapter16

【評価方法】

定期試験および授業時の発表・参加度と出欠状況から総合的に評価する。

【テキスト】

Exploring Hidden Culture (Paul Stapleton 金星堂)

Rapid Reading 4 (金曜4限)

森本素世子

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

ストーリー・テラーの名手と言われる英語圏作家の短編小説を読みながら、それぞれの作家の特徴やその文化的背景を探っていききたい。短編に付き物の、結末の意外性を味わうには速読を必要とするが、短編小説には「全体としての構想に合わない語が一語たりともあってはならない」というポーの言葉からも離れぬように考慮しながら英語の読解力を養っていききたい。

【授業計画】

下記のテキストを適宜、質疑応答を加えながら精読する。各自の予習を前提にテキストを読み進めるが、ただ字面だけを追うのではなく、パラフレーズを通して筆者の意図するところを読み取り、それに対する自らの意見も述べてもらいたい

The Fly-paper

The Voyage

【評価方法】

定期試験および授業時の発表・参加度と出欠状況から総合的に評価する。

【テキスト】

AN INVITATION TO ENGLISH SHORT STORIES (真田時蔵 注解 成美堂)

Rapid Reading 4

松本一喜

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

1. “Words to Remember” を講読する。テキストは、アンネ・フランクの日記、ヘレン・ケラーの手記、マンデラ・南アフリカ大統領等のスピーチを集めたものである。口語で書かれたものであるので内容は深遠ながらも平易なスタイルのものとなっている。

2. 授業では、①準拠テープのリスニング及びシャドウイング、②テキストのリーディング、③和訳等を学生の参加によって行なう。講師の側からの一方的講義とはならない。リスニングやスピーキングの習熟も兼ねたリーディングの授業と考えてもらえればよい。

3. 授業は、5～6人のグループに分かれてのグループ学習という体裁をとる。各グループ内でリーディングや和訳の発表を行なうので予習が行なわれていないと辛い授業になる。

4. 必要に応じ、テキストに関連する映画等を視聴する。英語の学習のみならず、偉人の魂にも触れてみたいからである。

【授業計画】

ほぼテキストの後半部をカバーするつもりです。一回目の授業で計画予定を掲示するつもりです。

【評価方法】

単位の取得条件は、1. 3分の2以上の出席率、遅刻は3分の1の欠席としてカウントする。2. 3回のレポート（各期）の提出。3. 試験で60点以上を取ることの3点をクリアすることとする。成績は、試験結果を2分の1、出席率・レポートを2分の1の割合で考慮する。

【テキスト】

Words to Remember (桐原書店)

英語コミュニケーション

ハリー・T. ノリス

1・2年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

This course aims to improve the students' ability to talk confidently about their ideas and feelings using English. An emphasis will be put on developing the students' confidence to deal with situations in which they may need to use English. Group work activities and games will often be used and many cultural points will be discussed. Teaching materials will include videos, short stories, songs, poems and other media. Active participation in class will be essential.

【Schedule】

Introductions

Pronunciation L/R and B/V

Natural word groups.

Homonyms

Large numbers

Word groups and word relationships

Giving and receiving directions

Students will be expected to write a diary of their day to day life.

【Assessment】

Assessment will be based on class work, homework, speaking and listening ability and a diary.

【Textbooks】

No text as worksheets will be used.

英語コミュニケーション

ジョアン・M. ウッドマン

1・2年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

The aim of this course is to improve the students ability to talk confidently about themselves, their family, their leisure activities, their likes and dislikes etc., in English. The majority of class time will be spent doing things which will promote English oral communication.

Pair work activities, videos and games will frequently be used. Cultural issues will be highlighted and discussed.

The students will be required to keep a shared diary in English , which will account for 40 % of their grade.

【Schedule】

Section 1 . Topics. Self/Family/Free Time/Occupations/Sport

2 . Topics. Food/Shopping/Music/Xmas/New Year

【Assessment】

- Shared Diary - 40%
- Class activities / reports - 40%
- Conversation Test - 20%

【Textbooks】

none

中国語基礎会話 1 C

曹 述 雙

1・2年 前期 選択 4単位

【授業の概要】

始めて中国語に接する学生を対象に、中国語の子母音と声調による音声の成り立ち、その音節のローマ字表記法、正しい発音等の中国語学習の基礎知識を習得させ簡単な構文が理解できる実力を養成する。

【授業計画】

教科の進行中に中国語の読み方を身につける練習をおこなう。時に応じてビデオ教材を併用する予定。

第1回～4回：中国語学習の基礎としての声調・子母音・鼻音・声調変化など

第5回～7回：中国語の慣用的挨拶語句と基礎構文

第8回～14回：基本会話と中国人の生活習慣

【評価方法】

期末のテストと授業中の学習成果テストを総合して判定する。そして語学ははじめが肝心。基礎を築き上げるまでは出席不可欠。

【テキスト】

初級中国語（郭春貴著 白帝社）

中国語基礎会話1Cは、週2回コースの授業である。曹先生（水3限）＋楊先生（金4限）または曹先生（水4限）＋楊先生（金3限）の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語基礎会話 1 C

楊 衛 平

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

中国語の修得のために、発音・会話・文法・訳読を中心とする講義を行う。特に入門者やさしく楽しく学べるように、短い、実用的な日常会話の練習に重点を置く。単語・テキスト本文を説明する際、現在中国の実情を紹介し、短く、興味深いコミカルな事例を通して、異文化に対する理解を深め、学生諸君の中国への正しい関心を醸成する。同時に、中国語に対して興味と自信を持って貰うように、負担が軽く、なおかつ効率的な会話の復習を繰り返して行う。全講義を通じて、中国語の基礎会話の実力を身に付けることを目指す。

【授業計画】

最初に中国語と日本語のちがいを、および中国語の特徴を紹介する。次に、発音練習を中心に繰り返しながら、初対面からのあいさつと自己紹介用語を暗唱させ、毎回一人一人に日本語にない声調が発音でき、また、その違いを聞き取れるように指導を進める。その後、会話形式で、学生を中心にして本文を朗読、暗唱させ、一対一の会話練習を展開する。ヒアリングの実力をアップするため、録音テープ、映画のビデオカセットを利用し、文法の系統性とまとまりのよさも重視して、文型と表現についてもよく理解できるように練習する。

下記の内容通りに授業を展開してゆく予定である。

発音と自己チェック

あいさつと自己紹介

人との出会い

食事を誘おう

買い物に行く

テストの成績

二人でのデート

あくる日の言い方

バースデイプレゼント

餃子の作り

電話とお見舞い

春休みの計画

旅たち

【評価方法】

授業での平常点を参考に、期末テストの成績による評価

【テキスト】

一年生ころ（ビデオで学ぶ入門中国語）（相原茂他 朝日出版社）

中国語基礎会話1Cは、週2回コースの授業である。曹先生（水3限）＋楊先生（金4限）または曹先生（水4限）＋楊先生（金3限）または鄭先生（火5限）＋楊先生（水1限）の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語基礎会話 1 C

鄭 澤 善

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

一年間の勉強を通じて、中国語の基礎的な知識の把握と、初歩的な日常会話の習得を目指す。具体的には、中国語におけるピンイン及び四声の集中的練習を経て、単語から文章の構造へと段階的に理解させることによって、簡単な日常会話の応用能力の養成に努めたい。

【授業計画】

- 第1回：ガイダンス、中国語とは？ピンイン入門。
- 第2－5回：ピンインと四声の集中練習。
- 第6－12：1回の授業につき、1課のペースで、テキストの内容の説明とともに、朗読させ、練習問題をやらせよう。
- 第13回：前期勉強の総括。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

中国語基礎会話1Cは、週2回コースの授業である。鄭先生（火5限）、楊先生（水1限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語基礎会話 1 D

曹 述 燮

1・2年 後期 選択 4単位

【授業の概要】

中国語学習の基礎知識を習得して簡単な構文が理解できる実力を持っている学生を対象に、中国語の会話を楽しみながら中国の社会と文化に接することができる授業をめざす。

【授業計画】

中国語の学習をとらえて自然に中国社会とその文化がしたしめるように心がけ、授業ごとに身近なトピックを取りあげていく。

第1回～4回：中国人の大学生活と家庭生活

第5回～7回：中国での旅行

第8回～10回：中国人の食文化

第11回～14回：慣用表現と中国現代社会

【評価方法】

期末のテストと授業中の学習成果テストを総合して判定する。そして語学をはじめが肝心。基礎を築き上げるまでは出席不可欠。

【テキスト】

初級中国語（郭春貴著 白帝社）

中国語基礎会話1Dは、週2回コースの授業である。曹先生（水3限）＋楊先生（金4限）または曹先生（水4限）＋楊先生（金3限）の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語基礎会話 1 D

楊 衛 平

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

中国語の修得のために、発音・会話・文法・訳読を中心とする講義を行う。特に入門者やさしく楽しく学べるように、短い、実用的な日常会話の練習に重点を置く。単語・テキスト本文を説明する際、現在中国の実情を紹介し、短く、興味深いコミカルな事例を通して、異文化に対する理解を深め、学生諸君の中国への正しい関心を醸成する。同時に、中国語に対して興味と自信を持って貫くように、負担が軽く、なおかつ効率的な会話の復習を繰り返して行う。全講義を通じて、中国語の基礎会話の実力を身に付けることを目指す。

【授業計画】

最初に中国語と日本語のちがいが、および中国語の特徴を紹介する。次に、発音練習を中心に繰り返しながら、初対面からのあいさつと自己紹介用語を暗唱させ、毎回一人一人に日本語にない声調が発音でき、また、その違いを聞き取れるように指導を進める。その後、会話形式で、学生を中心にして本文を朗読、暗唱させ、一対一の会話練習を展開する。ヒアリングの実力をアップするため、録音テープ、映画のビデオカセットを利用し、文法の系統性とまとまりのよさも重視して、文型と表現についてもよく理解できるように練習する。

下記の内容通りに授業を展開してゆく予定である。

発音と自己チェック
あいさつと自己紹介
人との出会い
食事を誘おう
買い物に行く
テストの成績
二人でのデート
あくる日の言い方
バースデイプレゼント
餃子の作り
電話とお見舞い
春休みの計画
旅たち

【評価方法】

授業での平常点を参考に、期末テストの成績による評価

【テキスト】

一年生ころ（ビデオで学ぶ入門中国語）（相原茂他 朝日出版）

中国語基礎会話1Dは、週2回コースの授業である。曹先生（水3限）＋楊先生（金4限）または曹先生（水4限）＋楊先生（金3限）または鄭先生（火5限）＋楊先生（水1限）の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語基礎会話 1 D

鄭澤善

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

一年間の勉強を通じて、中国語の基礎的な知識の把握と、初歩的な日常会話の習得を目指す。具体的には、中国語におけるピンイン及び四声の集中的練習を経て、単語から文章の構造へと段階的に理解させることによって、簡単な日常会話の応用能力の養成に努めたい。

【授業計画】

- 第1回：前期勉強した内容の復習、ピンインと正しい発音が主眼。
- 第2－7回：テキストの勉強とともに、年代、曜日、電話等の会話練習。
- 第8－12回：テキストの内容と関連する時刻、出身、年齢、買い物、挨拶、自己紹介等の会話練習に重点を置く。
- 第13回：一年間勉強した内容の総括。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

中国語基礎会話1Dは、週2回コースの授業である。鄭先生（火5限）、楊先生（水1限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語会話 1 C

馮 富 榮

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

中国人の実際の日常生活によく使われる表現を題材にして授業を進める。短期間で、学生たちの会話能力を最大限に引き伸ばすために、一方的な講義という形ではなく、中国語で学生たちとコミュニケーションを取りながら授業を進める予定である。

【授業計画】

以下のステップを踏んで、授業を展開をする予定である。

- ① まず常用表現について、統語論と語用論の両方から説明する。つまり文法現象のみでなく、中国語の表現習慣と日本語の表現習慣の違いについても説明を加える。
- ② 読む練習を繰り返し行う。初歩から正しい発音を身につけるよう徹底的に訓練を行う。
- ③ 本文の内容をめぐって学生と中国語で会話する。
- ④ 単語リストを配って、置き換え練習などをする。それによって学生たちの会話の応用能力を高める。
- ⑤ 時間の許す時は、本文の内容と関連する場面を設定して、学生をグループに分けて、会話の練習を行う。

【評価方法】

学期末試験の成績に、出席状況及び平日の宿題の完成状況、小テストの成績を加味して、総合的に判断する。

【テキスト】

未定。

【参考文献・資料】

《30天漢語通》 初級編 華語教学出版社

中国語会話1Cは、週2回コースの授業である。馮先生（火5限）、鄭先生（木5限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語会話 1 C

鄭 澤 善

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

一年間の勉強を通じて、正しい中国語の発音及び基礎文法を身に付けるようにする。簡単な会話及び平易な読み物が理解できる程度の中国語能力の養成を目指す。

【授業計画】

- 第1回：ガイダンス、中国語とは？共通語と方言、ピンイン入門。
- 第2回～5回：ピンイン及び発音の練習、一人一人に発音の練習を指導する。
- 第6回～12回：1回の授業につき、1課のペースで、テキストの内容を説明するとともに朗読させ、練習問題をやらせよう。
- 第13回：前期勉強の総括。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

中国語会話1Cは、週2回コースの授業である。馮先生（火5限）、鄭先生（木5限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語会話 1 D

馮 富 榮

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

中国語会話1Cの授業の延長として考えてよい。会話1Cと比べると、授業の内容はやや上のレベルになるが、やはり中国人の日常生活によく使われる表現を題材にして授業を進める。また中国語会話1Cと同じように、学生たちの会話能力を最大限に引き伸ばすために、一方的な講義という形ではなく、中国語で学生たちとコミュニケーションを取りながら授業を進める予定である。

【授業計画】

以下のステップを踏んで、授業を展開をする予定である。

- ⑥ まず常用表現について、統語論と語用論の両方から説明する。つまり文法現象のみでなく、中国語の表現習慣と日本語の表現習慣の違いについても説明を加える。
- ⑦ 読む練習を繰り返し行う。初歩から正しい発音を身につけるよう徹底的に訓練を行う。
- ⑧ 本文の内容をめぐって学生と中国語で会話をする。
- ⑨ 単語リストを配って、置き換え練習などをする。それによって学生たちの会話の応用能力を高める。
- ⑩ 時間の許す時は、本文の内容と関連する場面を設定して、学生をグループに分けて、会話の練習を行う。

【評価方法】

学期末試験の成績に、出席状況及び平日の宿題の完成状況、小テストの成績を加味して、総合的に判断する。

【テキスト】

未定。

【参考文献・資料】

《30天漢語通》 中級編 華語教学出版社

中国語会話1Dは、週2回コースの授業である。馮先生（火5限）、鄭先生（木5限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語会話 1 D

鄭 澤 善

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

一年間の勉強を通じて、正しい中国語の発音及び基礎文法を身に付けるようにする。簡単な会話及び平易な読み物が理解できる程度の中国語能力の養成を目指す。

【授業計画】

- 第1回：前期勉強した内容の復習、ピンインと正しい発音の復習に重点を置く。
- 第2回～7回：テキストの勉強とともに年代、曜日、電話等の会話練習。
- 第8回～12回：テキストの内容と関連する時刻、出身、年齢、買い物、挨拶、自己紹介等の会話練習に主眼を置く。
- 第13回：一年間勉強した内容の総括。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

中国語会話1Dは、週2回コースの授業である。馮先生（火5限）、鄭先生（木5限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語コミュニケーション1

丁秀山

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

初めて中国語を学ぼうとする学生のために、中国語の一から十までを詳しく説明し、短かいやさしい表現から入り、日常のきまり文句などを修得して、さらに普段よく使われる日常会話を学びます。中国語の発音・表記システムを身につけ、中国語の構造や語彙もマスターします。中国語を通して、中国事情を多少理解できるようにします。

【授業計画】

1. 拼音・声調
2. 発音
3. 挨拶語
4. やさしい語法文型
5. ヒアリング

【評価方法】

普段の勉強意欲を重視。

【テキスト】

大学中国語初級テキスト
やさしい中国語基礎会話『海儿的日記』丁秀山・坂井田
ひとみ著（金星堂）

【参考文献・資料】

中国語百問百答（丁秀山著 東方書店）

中国語コミュニケーション2

丁秀山

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

一年次前期で学んだことを基礎として、さらに中国語の「聴く」「話す」「書く」「読む」力を発展させ、基礎的な日常会話の運用能力を高め、応用力が身につくようにします。さらに中国語を通して、中国人の生活や風俗習慣などに触れ、中国事情が多少理解できるようにします。

【授業計画】

1. 基礎の復習
2. 発音をより正確に
3. さまざまな文型と表現方法
4. ヒアリング
5. 会話の練習

【評価方法】

普段の勉強意欲を重視。

【テキスト】

大学中国語初級テキスト
やさしい中国語基礎会話『海儿的日記』丁秀山・坂井田
ひとみ著（金星堂）

【参考文献・資料】

中国語百問百答（丁秀山著 東方書店）

中国語コミュニケーション3

丁秀山

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

初めて中国語を学ぼうとする学生のために、日常会話を習得するという見地から、まず挨拶語から入り、日常のきまり文句や生活の中で必須な常用表現を学びます。正確な発音と文型を中心に、短くてやさしい文で普段よく使われる日常表現が身につくようにします。

【授業計画】

1. 拼音・声調
2. 発音
3. 挨拶語
4. やさしい語法文型
5. ヒアリング

【評価方法】

普段の勉強意欲を重視。

【テキスト】

大学中国語テキスト『基礎漢語講座－旅行会話－』（丁秀山著 金星堂）

【参考文献・資料】

中国語百問百答（丁秀山著 東方書店）

中国語コミュニケーション4

丁秀山

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

一年次前期で学んだことを基礎として、さらに中国語の「聴く」「話す」「書く」「読む」力を発展させ、基礎的な日常会話の運用能力を高め、応用力が身につくようにします。さらに中国語を通して、中国人の生活や風俗習慣などに触れ、中国事情が多少理解できるようにします。

【授業計画】

1. 基礎の復習
2. 発音をより正確に
3. さまざまな文型と表現方法
4. ヒアリング
5. 会話の練習

【評価方法】

普段の勉強意欲を重視。

【テキスト】

大学中国語テキスト I 『基礎漢語講座－旅行会話－』（丁秀山著 金星堂）

【参考文献・資料】

中国語百問百答（丁秀山著 東方書店）

中国語読解 1・2

郭伏良

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

この授業では、主として中国の社会と文化を表現する文章を読む。目的は、学生の中国語の読む力を伸ばすことにあるが、より具体的に言うと、①読むスピードを上げること、②中国語への理解を深めること、そして③中国語の表現を習得することである。

【授業計画】

授業を二つの段階に分けて進めていく。

第一段階では、中国語の文章を細かく読むことからスタートする。細かく読むということは、文章に出ている慣用表現や新しい単語の使い方などを詳しく説明しながら読んでいく。すなわち時間をかけて一つの文書をじっくり読む。ここでは、中国語に対する徹底的な理解を求める。

第二段階では、概略的に中国語の文章を読む。つまり、文章に出ている新しい単語や新しい表現などを一々細かくやらず、そのかわりに、文章の大体の意味を掴めばよいことである。

この二段階の授業を経て中国語を速く読み、速く理解することができるようになる。

【評価方法】

学期末試験の成績に、出席状況及び平日の宿題の完成状況、小テストの成績を加味して、総合的に判断する。

【テキスト】

プリントを配布する。

中国語読解 3・4

郭伏良

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

この授業では、主として中国人の価値観や風俗習慣などを表現する文章を読む。目的は、学生の中国語の読む力を伸ばすことにあるが、より具体的に言うと、①読むスピードを上げること、②中国語への理解を深めること、そして③中国語の表現を習得することである。

【授業計画】

授業を二つの段階に分けて進めていく。

第一段階では、中国語の文章を細かく読むことからスタートする。細かく読むということは、文章に出ている慣用表現や新しい単語の使い方などを詳しく説明しながら読んでいく。すなわち時間をかけて一つの文章をじっくり読む。ここでは、中国語に対する徹底的な理解を求める。

第二段階では、概略的に中国語の文章を読む。つまり、文章に出ている新しい単語や新しい表現などを一々細かくやらず、そのかわりに、文章の大体の意味を掴めばよいことである。

この二段階の授業を経て中国語を速く読み、速く理解することができるようになる。

【評価方法】

学期末試験の成績に、出席状況及び平日の宿題の完成状況、小テストの成績を加味して、総合的に判断する。

【テキスト】

プリントを配布する。

情報処理基礎技術 a・b

原 伸之

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

パソコン活用の要である「ワープロ」「表計算」「データベース」の習得をめざす。また、パソコンのしくみ、ソフトウェアの機能およびソフトウェアをとりまく諸問題についても学習する。

1. コンピュータの活用—I
 - 1) Windows-98の理解
 - 2) ワープロ「Word」の実習
 - ①基礎編（入力・編集）
 - ②応用編（作表・計算）
 - 3) コンピュータのしくみ
 - 4) ソフトウェアの機能
 - 5) システムの概念
 - 6) プログラミング
 - ①アルゴリズムの理解
 - ②フローチャートによる演習
2. コンピュータの活用—II
 - 1) 表計算「Excel」の実習
 - ①基礎編（入力・編集）
 - ②応用編—1（グラフ作成・編集）
 - ③応用編—2（データベース作成・抽出・集計）
 - 2) データベース「Access」
 - ①データベースの考え方
 - ②基礎編（入力・抽出・出力）
 - ③応用編（関数・集計）
 - 3) ソフトウェアをとりまく課題
 - 4) 日本の情報サービス産業

【授業計画】

配布されたプリントに基づいて、講義・実習を行う。Word、Excel、Accessの実習では、基本を習得して演習に取組む方法で、理解を深めたい。講義では、テクニカル・タームの説明から始めて正しく理解するように努める。

【評価方法】

Word、Excel、Accessの実習では、その理解度を確認するために小テストを実施し、期末テストの評価とを合わせた総合評価を行う。

情報処理基礎技術 a・b

梅田敏文

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

パソコンのハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの基本的な知識を習得すると共に、WORD、EXCELの基礎知識と操作を学習する。

【授業計画】

- (前期)
1. ガイダンスとマシンの機能
 2. Windows98の操作
 3. WORDの操作（1）
 4. NETWORK
 5. WORDの操作（2）
 6. まとめ
- (後期)
1. ガイダンスとEXCEL概説
 2. データ入力とワークシート操作
 3. 式の作成
 4. 相対セルと絶対セル参照
 5. データの書式設定
 6. 関数
 7. グラフ作成
 8. エラー分析
 9. まとめ

【評価方法】

ひとつのテーマが終了した時点でミニテストを実施する（2－3回）。出席点40%、ミニテストその他60%で評価する。

【テキスト】

最初に全体のプリントを配布する。
授業の途中に適宜、資料を配布する。

情報処理基礎技術 a・b

三和義秀

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

アプリケーション・ソフトウェアやインターネットなどのネットワーク・ツールを上手く使いこなし、コンピュータを問題解決の技法や思考方法をひろげるメディアとして活用できる技術を身に付ける。

(a：前期)

- 第1回 情報、データ、情報処理とは何か
- 第2回 コンピュータの歴史、人間とコンピュータ
- 第3回 キーボード操作
- 第4回から5回 インターネットの基本操作
- 第6回 情報の表現：10進数、2進数、8進数、16進数、文字符号
- 第7回 オペレーティング・システム、コンピュータ・プログラム
- 第8回～10回 日本語・英文ワープロMS-Wordの操作
- 第11回～13回 表計算ソフトExcelの操作

(b：後期)

- 第1回から第2回 統計処理入門
- 第3回から第5回 Excelを使った統計処理
- 第6回から第7回 ホームページの作成
- 第8回から第9回 プレゼンテーションとPowerPointの基本操作
- 第10回から第13回 Visual Basicによるプログラミング

【評価方法】

定期試験、レポート及び出欠席にて総合評価する。特に出席回数を重視する。

【テキスト】

授業中に指示する。

下記の科目は、本年度開講しません。

遺伝子の世界

哲学的人間論

タナトロジー（死生学）

現代人権論

こども・教育・社会

ボランティア論

市民社会論

知的所有権

メディカルサイエンス

Practical English 1 A

Practical English 2 F

Practical English 1 B

Practical English 2 G

Practical English 1 E

Practical English 2 H

Practical English 1 F

Practical English 3 A

Practical English 1 G

Practical English 3 B

Practical English 1 H

Practical English 3 E

Practical English 2 A

Practical English 3 F

Practical English 2 B

Practical English 3 G

Practical English 2 E

Practical English 3 H

Practical English 4 A

中国語基礎会話 1 F

Practical English 4 B

中国語基礎会話 1 G

Practical English 4 E

中国語基礎会話 1 H

Practical English 4 F

中国語会話 1 A

Practical English 4 G

中国語会話 1 B

Practical English 4 H

中国語基礎会話 1 A

中国語基礎会話 1 B

中国語基礎会話 1 E

英語 A a・b

太田晶子

3・4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

英語を通して、我々を取り巻く様々な文化の中に生きる人々やその生活様式・思想・言語など多方面から学び、見識を深めることを目標とする。

具体的には、テキストを読み進めることが授業の中心となるが、ビデオを使って視覚により理解を補ったり、英語の歌の聞き取りを導入してリスニング能力の向上にも力を注ぎたい。

【授業計画】

原則として、一回の授業で短編を一編ずつ読み進める。指名された学生が順次英文を読みながら和訳していく。

【評価方法】

出席、授業態度、定期試験を同等に評価する。

【テキスト】

Surfing Cultural Waves :

Developing English Test Taking Skills

(文化書房博文社 ¥1,900)

英語 A a・b

千葉洋子

3・4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

現在アメリカで起こっているup-to-dateなトピックを扱ったテキストを使用して、ある程度まとまった量の英文をよみこなすことで、読解力・語い力の増強を目指します。

- 1 SHAME ON YOU!
- 2 BAD BREATH
- 3 THE RACE GAME
- 4 BATTLE OF THE SEXES
- 5 MARIJUANA AS MEDICINE
- 6 CHANCE GLANCE ROMANCE
- 7 McMOUSE?
- 8 BLOOD SPORT
- 9 GANGSTA RAP
- 10 LIFE IN THE LEXUS LANE
- 11 TURNABOUT'S FAIR PLAY
- 12 SCARFACE
- 13 THE LAST OF THE BEATS
- 14 AND THE GOOD NEWS IS!
- 15 UFO-MANIA
- 16 OUR POOR SCHOOLS

【授業計画】

予習がしてあることを前提として、学生を順次指名して読解させ、その後教師が解説する。

【評価方法】

学期末テスト、出席状況、授業態度等を総合的に判断して成績評価をする。

【テキスト】

南雲堂 (Jim Knudsen著 American Dream, American Reality 1800円)

英語 B a ・ b

天野純子

3・4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

この授業では、読解に必要な技術を練習していく。読解をするための準備、重要な情報や全体的な意味を把握すること、接続方法と後の続く情報の予想、要約などを行う。パラグラフ、あるいは、まとまった文章を正確に読解できることを目標にする。予習を前提に授業を進めて行く。

【授業計画】

- 1、 2週 pre-reading preparation
- 3、 4週 scanning
- 5、 6週 understanding referents、小テスト
- 7、 8週 synonyms and antonyms
- 9、 10週 distinguishing facts from opinions、小テスト
- 11、 12週 Transitions (1)、(2)
- 13、 14週 Outlining, Finding the Main Idea

【評価方法】

出席、小テスト、期末テストによる。

【テキスト】

Basic Reading Strategies 英潮社 1,800円

英語 B a ・ b

山田久美子

3・4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

この講義では、社会・文化の問題、女性の問題、旅行などをテーマとする様々なエッセイを読み、異文化を理解すると共に、英語の読解力の向上をめざす。また、練習問題を行ったり、日常会話表現を学ぶことにより、資格試験対策を視野に入れた英語の運用能力を養う。

【授業計画】

1. Japanese Avoid Movies
2. Cats
3. Oxford Goes with New Flow of Words
4. A Survey of Japan in Comics
5. A Big Mac by Any Other Name
6. Changing Japanese Perceptions of English Food
7. South African Wine
8. Out of this World
9. Like the Hotel Furnishings? Buy them!
10. Unusual Cruises Break the Ice
11. Subaru Telescope Project
12. Women Doctors
13. Paris Perfumeries Let You See the World of Scents
14. Women's Day Celebration
15. How the Shannon Acquired its Name
16. Stories, Ideas Lost with Disappearing Languages
17. Celtic Tiger
18. Teachers Find Exams Difficult
19. If I Had a Hammer
20. Many Japanese Suffer from Fatigue

【評価方法】

出席状況、定期試験により評価する。

【テキスト】

Developing English Test Taking Skills

(清水義和他編著 成美堂 ¥1,700)

英語コミュニケーション1

ハリー・T. ノリス

3・4年 前期 選択 2単位

【Course Content】

This course aims to improve the students' ability to talk confidently about their ideas and feelings using English. An emphasis will be put on developing the students' confidence to deal with situations in which they may need to use English. Group work activities and games will often be used and many cultural points will be discussed. Teaching materials will include videos, short stories, songs, poems and other media. Active participation in class will be essential.

【Schedule】

Introductions, Handshake
Pronunciation L/R and B/V
Natural word groups.
Homonyms
Large numbers
Word groups and word relationships
Giving and receiving directions
Students will be expected to write a diary of their day to day life.

【Assessment】

Assessment will be based on class work, homework, speaking and listening ability and a diary.

【Textbooks】

No text as worksheets will be used.

英語コミュニケーション2

ハリー・T. ノリス

3・4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

This course aims to improve the students' ability to talk confidently about their ideas and feelings using English. An emphasis will be put on developing the students' confidence to deal with situations in which they may need to use English. Group work activities and games will often be used and many cultural points will be discussed. Teaching materials will include videos, short stories, songs, poems and other media. Active participation in class will be essential.

【Schedule】

Pronunciation L/R, B/V and Th
Giving directions
Driving in Japan
Christmas and New Year
Time
Students will be expected to write a diary of their day to day life.

【Assessment】

Assessment will be based on class work, homework, speaking and listening ability and a diary.

【Textbooks】

None

フランス語Ⅱ a・b

佐藤 誠

3・4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

フランス語検定試験合格のための準備授業

フランス語の基礎を復習しながら、様々な練習問題を取り扱います。そして、会話表現や文化的な背景も考えていく予定です。したがって、検定試験ばかりではなく、将来フランス小旅行を考えておられる方にも十分に役に立ちます。

就職難の現在、資格の取得は必要ですので、勇気と意欲のある方は、思い切ってチャレンジして下さい。テキストはCD付のものを使います。

【授業計画】

毎回、様々な基礎的な問題をやりながら、フランス語の仕組や文化的な背景を少しずつ学んでいきます。

【評価方法】

簡単なテストで評価しますが、やはり検定試験に合格されることが大切です。頑張ってください。

【テキスト】

フェリシタシオン！（改訂版）—CD付—
（久松健一、駿河台出版社、2,500円）

〈余談ですが…フェリシタシオンFélicitationとは、「おめでとう」という意味です。検定合格ばかりではなく、みなさんの青春に喜びがもたらされるように願っています〉

中国語Ⅰ a・b

梁 紅

3・4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

中国語の勉強をはじめの動機やきっかけは、人それぞれだろうが、多少でも応用能力を身につけようとするのが、共通する目的のはずである。しかし、短期間&低頻度の状況下では、もっとも現実的な目標設定をすべきではないかと思われる。この授業は「練習を中心にした欲張らない語学」を主旨とする。少量に抑えた内容を十分消化して確実にものにしていくよう、受講者の耳と口による練習にできるだけ時間を使う予定である。

【授業計画】

第1～3回 発音の基礎

第4回からは、さまざまな場面における会話を通じて文法・表現を学んでいく。

- ①自己紹介
- ②これは何ですか？
- ③これはいかがですか？
- ④買い物
- ⑤どこにありますか？
- ⑥何がありますか？
- ⑦何時に行きますか？
- ⑧ホテルのフロントで
- ⑨タクシーに乗る
- ⑩試着と支払い
- ⑪苦情を訴える
- ⑫紛失届を出す

【評価方法】

定期試験と平常点（授業参加の積極度など）による

【テキスト】

1年生のコミュニケーション中国語（塚本慶一監修 劉穎著 白水社）

中国語Ⅱ a・b

鄭 澤 善

3・4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

一年次で勉強した中国語の基礎的な力を一層発展させ、応用力を身につけると同時に、読解力を身につけることを目指す。テキストの内容と関連のある中国の社会、文化等についても適当に紹介する。

【授業計画】

- 第1回：1年次で習得したピンイン及び発音を復習する。
- 第2-6回：1回の授業につき、1課のペースでテキストの内容、文法を説明すると同時に、一人ずつ練習問題をやらせ、朗読に重点を置く。
- 第7-13回：テキストの内容を勉強すると同時に、会話の練習、読解力を身につけるように工夫する。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して評価する。

【テキスト】

ドイツ語Ⅱ a・b

浜田義孝

3・4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

ドイツ語Ⅰ a・bで習得した基礎知識をもとに、ドイツ語の読解力や表現力の向上をめざす。またドイツ語の学習を通して、ドイツ語圏の文化と社会について理解を深める。

また随時ビデオなどを使って、ドイツの有名な映画などを鑑賞する。

【授業計画】

ごく日常的な会話ややさしい文章でドイツ語の基本を復習しながら、段々とレベルアップしてかなり難しいドイツ語の文章が読めるように訓練する。

授業は演習形式とする。受講者は辞書を活用してしっかり予習して来ること。

【評価方法】

平常点と期末試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

さあ、ドイツ語で！（三室/シュレヒト共著 三修社）

韓国・朝鮮語Ⅱ a・b

曹 述 燮

3・4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

話せる楽しい韓国・朝鮮語

学修2年目の学習者を対象に、韓国・朝鮮語の基礎的知識を踏まえ、平明な文章が読め、すぐに使える会話を運用する能力を養成する。それに韓国・朝鮮の文化・風俗に関する知識もつけ、理解を深めるものとする。

<前期>

文字、発音の復習と会話、作文への発展

韓国・朝鮮の文化（チマ・チョゴリ、韓屋、市場の風景等）

<後期>

日本文化と韓国、朝鮮文化との交流（猪飼野、郷歌と万葉集等）

【授業計画】

教科の進行中に韓国・朝鮮語の読み方を身につける練習をおこなう。時に応じてプリント、及びビデオ教材を併用する予定。

【評価方法】

前・後期の二回のテストと授業中の学習成果を総合して判定。

【テキスト】

新しい朝鮮語（塚本勲・奥田一廣 白帝社）

日本国憲法

大嶽 浩

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本国憲法について、その成立の経過や明治憲法との比較を通じ、現行憲法の内容と主要な問題点を講義する。憲法問題における具体的事例にもふれる。

【授業計画】

<前期>

1. 憲法と理想
2. 憲法と法律
3. 憲法と憲法典
4. 国民の司法参加
5. 憲法の最高法規性（A）
6. 憲法の改正

<後期>

1. 憲法と理想
2. 憲法と法律
3. 憲法と憲法典
4. 憲法の最高法規性（B）
5. 直接効力説
6. 憲法裁判所
7. 公共の福祉と義務
8. 人権アラカルト
9. 戦争と平和

【評価方法】

<前期>試験とレポートによる評価。

<後期>試験による評価。場合によっては、レポートの追加。

【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

日本語表現

冠木千代子

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本語に関する知識や能力を豊かにし、平明的確で、美しく豊かな表現力を養います。

話す力、聞く力を増すための音声表現法に重点を置きます。姿勢、呼吸法、発声、発音、アクセントの法則等、きれいに声を出すことから始めます。

話し言葉の基本、敬語の知識を中心に、正しい言葉遣いを学びます。そして、歯切れよく、上手く話す力、聞く力を養います。

【授業計画】

講義、討論、発表。

積極的に、言葉によって人とかわかることを心がける。新聞、ニュースから話題、話材を見つけ討論、発表をする。

【評価方法】

出席率を重視。

毎時の点呼の返事から音声表現がはじまります。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

- 国語表現法 話しことばと書きことば
(田中篤子編 嵯峨野書院 定価2,490円)
- コミュニケーションのためのことば学一書、話す、読む一
(言語表現研究会編 ミネルヴァ書房 定価2,678円)

生活と福祉

長谷川真人

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

戦後50年間改正されなかった児童福祉法が平成9年6月11日に改正公布され、平成10年4月1日から施行されました。並行して「介護保険法」が成立し平成12年からスタートしています。平成12年5月17日に児童虐待防止法が成立しました。さらに平成12年11月に少年法が改正されました。今子どもの問題が大変クローズアップされています。そんな社会状況をふまえた福祉の問題について「生活と福祉」の授業を展開していきたいと考えております。しかし、福祉といっても大変幅が広いので半期だけでは全体をカバーできないため、学生の皆さんが現代社会の生活にとって大切な福祉の基礎的な問題から、具体的な現実問題(ビデオ教材導入)への授業内容と考えております。したがって、この授業では福祉の基本的な問題を勉強したい学生を対象に「福祉とは何か」ということを特に乳児期・児童期から青年期を含めた社会的養護(家庭で生活できない場合の福祉対応)と、将来の子育てに役立つためのものにしたい。そのためにも地域社会や家庭問題も視野に入れた内容で皆さんと考えていきたいと思っています。

【授業計画】

- 第1回 社会福祉とは、児童の福祉とは、
- 第2回 「子どもの権利条約」と日本の子どもたち
- 第3回 児童問題に関わる行政機関の仕事と役割
- 第4回 現代の子どもたち(家庭、地域、学校では)
- 第5回 乳児・児童・老人虐待の実態と問題点
- 第6回 乳児・児童・老人虐待への対応と課題
- 第7回 社会福祉サービスの現状(介護保険制度等)
- 第8回 社会的養護の現状(児童福祉施設・里親等)
- 第9回 現代の少年非行問題(少年法改正問題等)
- 第10回 保育、母子・父子家庭問題の現状と課題
- 第11回 国際化問題(国際結婚・国籍問題等)
- 第12回 福祉の仕事、福祉ネットワークの現状と課題

【評価方法】

試験の成績と、途中でのレポート及び出席率等を総合評価する。

【テキスト】

講義テキスト(自費出版)・「児童養護施設の子どもたちはいま」(三学出版)

人体のソフトサイエンス1

杉浦信彦

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

生命のよりどころである体のしくみとその働きについて学習し、人体を形成する成分、組織や器官のメカニズムとその合目的性を理解する。この科目で学んだことが今後の暮らしに活用され、健全なライフスタイルの確立に役立てられることを期待したい。

【授業計画】

1. ガイダンス
- 2～4. 人体の組成
- 5～6. カルシウムの役割
- 7～12. 血液の働き

授業の進め方は主として講義形式をとるが、VTRの視聴や実物標本の観察なども行う予定である。毎回プリントを配布する。

【評価方法】

授業に関連する課題についての研究レポート、小テストにより成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

人体のソフトサイエンス2

杉浦信彦

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

生命のよりどころである体のしくみとその働きについて学習し、人体を形成する成分、組織や器官のメカニズムとその合目的性を理解する。この科目で学んだことが今後の暮らしに活用され、健全なライフスタイルの確立に役立てられることを期待したい。

【授業計画】

- 1～5. 消化管のしくみと働き
- 6～8. 肥満
- 9～12. 生活習慣病予防

授業の進め方は主として講義形式をとるが、VTRの視聴や実物標本の観察、かんたんな実験演習なども行う予定である。毎回プリントを配布する。

【評価方法】

授業に関連する課題についての研究レポート、小テストにより成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

英米文学 1

稲生幹雄

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

英米文学の面白さ・奥の深さを、多面的に考察する。とくに、遠い昔から詩の朗誦や歌を好んだアングロ・サクソン民族の文学的伝統の線上に、『恋の骨折り損』や『ロミオとジュリエット』や『冬物語』をはじめとするシェイクスピアのドラマや、ロマン派の詩人たちの有名な叙情詩や、現代のポップソングなどを位置づけて、それぞれの魅力を探る。

【授業計画】

前期のこの講義では、①英文学の夜明け、②英語史の流れ、③英語の詩と歌、④英国演劇の誕生とシェイクスピア的な演劇世界への推移、⑤400年前のロンドンの劇場と舞台、⑥舞台の可能性を活かしたシェイクスピア演劇の特質、⑦18世紀末から19世紀におよぶロマン主義の詩人たちの世界、⑧叙情詩の伝統と今世紀英米のポップ・ソングの魅力、⑨英語独特の音声構造とリズム、⑩アメリカ英語の誕生とアメリカ文学への展望、などに関して考察してゆく。随時、BBC制作の*The Story of English*というビデオ教材や、シェイクスピア劇などのビデオ教材も使用して、映像と音声の両面から理解を深められるよう心がける。また、テキストに付属している音楽テープを活用し、歌詞(Lyrics)の詩の音声やリズムやメロディを鑑賞して、英語という言語の特質と魅力を探る。

【評価方法】

筆記試験の成績と、出席状況・受講状況とを総合して評価する。(評価方法等の詳細は、学期の初回の授業で説明するので聞き落とさないようにすること。)

【テキスト】

Hit Parade Listening (熊井信弘他著 マクミラン・ランゲージハウス)

このほか、プリントを配布する。

英米文学 2

稲生幹雄

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

英米文学の面白さ・奥の深さを、多面的に考察する。とくに、遠い昔から詩の朗誦や歌を好んだアングロ・サクソン民族の文学的伝統の線上に、『夏の夜の夢』や『お気に召すまま』や『十二夜』をはじめとするシェイクスピアのドラマと、現代のポップソングと、アメリカの(とりわけソーントン・ワイルダーの)演劇を位置づけて、それぞれの魅力を探り、アメリカの言語と文化の特質を考える。

【授業計画】

後期のこの講義では、①Old Englishと呼ばれる遠い昔の英語が現代の英語になるまでの変遷の有様を、その言語を素材として誕生しそれぞれの時代を反映しつつしてきた英文学の歩みとの関連で概観したのち、②英国ルネッサンス演劇の特色を端的に示すシェイクスピアの名場面やすぐれた台詞の分析と鑑賞、③その後の英詩の歩みと今世紀英米のポップ・ソングの魅力、④英語独特の音声構造とリズムの生む効果、⑤アメリカのユニークな劇作家ソーントン・ワイルダーの演劇世界、⑥彼とシェイクスピアとの関係、などについて考えてゆく。BBC制作の*The Story of English*というビデオ教材や、シェイクスピア劇などのビデオ教材を使用して、映像と音声の両面から理解を深められるよう心がける。テキストに付属している音楽テープを活用して、歌詞(Lyrics)の詩の音声やリズムやメロディを鑑賞し、英語という言語の特質と魅力を探る。後期のこの科目での考察は、前期の英米文学1とは異なる劇や詩や曲を題材としてすすめてゆく。

【評価方法】

筆記試験の成績と、出席状況・受講状況とを総合して評価する。(評価方法等の詳細は、学期の初回の授業で説明するので聞き落とさないようにすること。)

【テキスト】

Enjoy Pop Songs (Kim R. Kanel編 成美堂) および*The Best American One-Act Plays* (小川和男他編 開文社)

このほか、プリントを配布する。

英米文学 3

太田直子

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

アメリカの歴史を紐解きながら、その時代の文化・文学に注目する。

ヨーロッパからアメリカに移り住んだ人々、そしてアメリカの原住民インディアンがどうかかわりをもっていたのかをはじめとして、19世紀までのアメリカの歴史と、文学の特徴を見ていく。

講義の中では、代表的なアメリカ文学の本を紹介するので、一冊でも多くの作品を読んでもらいたい。

【授業計画】

プリントを配り、解説する。

【評価方法】

出席、学期末のレポートで評価する。レポートの課題については講義の時に説明する。

【テキスト】

使用せず。

英米文学 4

太田直子

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

南北戦争以後のアメリカ文学について解説する。19世紀末、そして20世紀末のアメリカの状況にはいくつかの類似点があるのではないかとこの視点から、文化と文学作品を考察する。

文学作品の紹介をするので、一冊でも多くの作品を読んでもらいたい。

【授業計画】

プリントを配り、解説する。

【評価方法】

出席と、学期末のレポート。レポートの課題については、講義の時に説明する。

【テキスト】

使用せず。

児童文学 1

堀尾幸平

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

1. 児童文学とは何か。その呼称、定義、特質、形態、研究方法等、児童文学理論を研究する。
2. 児童文学が、どのように発祥、発展してきたか、わが国の文学史を把握し、その今後を展望する。
3. わが国の代表的児童文学作品を鑑賞、研究する。
4. 童話を創作する。

【授業計画】

1. 児童文学とは何か (1)
2. 児童文学とは何か (2)
3. 明治期の児童文学
4. 三輪弘忠、巖谷小波
5. 翻訳児童文学、児童雑誌
6. 押川春浪、立川文庫
7. 大正期の児童文学
8. 小川未明
9. 鈴木三重吉、『赤い鳥』
10. 芸術的児童雑誌
11. 千葉省三、浜田廣介
12. 童謡、少年詩、少女小説
13. 児童文学研究史
14. 童話の創作
15. 試験

【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

日本児童文学論（堀尾幸平著、中日文化、2,200円）

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

児童文学 2

堀尾幸平

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

1. 児童文学とは何か。その呼称、定義、特質、形態、研究方法等、児童文学理論を研究する。
2. 児童文学が、どのように発祥、発展してきたか、わが国の文学史を把握し、その今後を展望する。
3. わが国の代表的児童文学作品を鑑賞、研究する。
4. 童話を創作する。

【授業計画】

1. 児童文学とは何か
2. 昭和期の児童文学
3. プロレタリア児童文学
4. 佐藤紅緑、佐々木邦
5. 宮澤賢治
6. 新美南吉、坪田譲治
7. 戦時下の児童文学
8. 戦後の児童文学
9. 中川李枝子、いぬいとみこ
10. 松谷みよ子、椋鳩十
11. 平成の児童文学 (1)
12. 平成の児童文学 (2)
13. 創作童話
14. 創作童話
15. 試験

【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

日本児童文学論（堀尾幸平著、中日文化、2,200円）

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

美術 1

川口 泉

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

特に美術には様々な分野がある。絵画・彫刻・デザイン・工芸・書・鑑賞のほかに、最近では映像・コンピューター・建築・環境・都市計画などでも美術の分野として考えられるようになった。

本講ではそれらの造形美術の概観、実技（課題制作）を通して基礎的な絵画表現、デザイン表現、工芸表現などの創造的能力を養う。

<前期>

課題 1. 紙による立体造形

われわれの身のまわりには様々な素材があるが、その中でも一番身近で何気なく使っている紙から立体造形作品をつくる。

課題 2. 直定規とコンパスを使った平面構成
単純な構成道具である「直定規とコンパス」を使って画面を平面構成する。

<後期>

課題 1. 風景写生

キャンパス内の風景を、忠実に写生する。

課題 2. 切絵からパズルへ

幾何学的な基本形態である、正方形、長方形、正三角形、円の色紙を直線または曲線で切り、各部品を再構成することによって、具象的な形態をつくる。

課題 3. 一切文字

正方形の紙を何回折ってもよいが、一回だけ直線で切る（その直線に並行にある幅を持たせて切る）。それを広げるとアルファベット、数字、カタカナの全部および漢字の一部ができる。

【授業計画】

各週とも机間巡視・プロセスのチェックにより、個別に指導・助言をする。

【評価方法】

各課題作品の制作過程・成果、出欠席、受講態度等により総合して評価する。

【テキスト】

使用せず。

各課題とも参考作品・資料等を提示し内容を説明する。

美術 2

川口 泉

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

特に美術には様々な分野がある。絵画・彫刻・デザイン・工芸・書・鑑賞のほかに、最近では映像・コンピューター・建築・環境・都市計画などでも美術の分野として考えられるようになった。

本講ではそれらの造形美術の概観、実技（課題制作）を通して基礎的な絵画表現、デザイン表現、工芸表現などの創造的能力を養う。

<前期>

課題 1. 紙による立体造形

われわれの身のまわりには様々な素材があるが、その中でも一番身近で何気なく使っている紙から立体造形作品をつくる。

課題 2. 直定規とコンパスを使った平面構成
単純な構成道具である「直定規とコンパス」を使って画面を平面構成する。

<後期>

課題 1. 風景写生

キャンパス内の風景を、忠実に写生する。

課題 2. 切絵からパズルへ

幾何学的な基本形態である、正方形、長方形、正三角形、円の色紙を直線または曲線で切り、各部品を再構成することによって、具象的な形態をつくる。

課題 3. 一切文字

正方形の紙を何回折ってもよいが、一回だけ直線で切る（その直線に並行にある幅を持たせて切る）。それを広げるとアルファベット、数字、カタカナの全部および漢字の一部ができる。

【授業計画】

各週とも机間巡視・プロセスのチェックにより、個別に指導・助言をする。

【評価方法】

各課題作品の制作過程・成果、出欠席、受講態度等により総合して評価する。

【テキスト】

使用せず。

各課題とも参考作品・資料等を提示し内容を説明する。

音楽 1

浅田まり子

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

音楽はよい音を聴き、耳を育てること、イメージをもってうたうこと、緊張をはぐして集中することを身につけることによって、よりよい表現ができるようになります。ここでは、音楽を発表することによって度胸をつけ、自分らしさを発見することを目標とします。

【授業計画】

- 第1講 音楽とリラックス
- 第2講 声のしくみ
- 第3講 ヴォイストレーニング 1
- 第4講 音楽と教育 1
- 第5講 音楽療法 1
- 第6講 音の聴分け
- 第7講 リズム 1
- 第8講 メロディー 1
- 第9講 ハーモニー 1
- 第10講 表現
- 第11講 まとめ
- 第12講～発表

*各講それぞれのテーマで考え、歌唱やキーボード、ギター、鑑賞、創作を、個人またはグループの要望にあわせて指導する。

*発表は個人またはグループで、歌、楽器の演奏や、コンピューターミュージックなどの創作で、ジャンルを問わない。

【評価方法】

実技、感想レポート、出席状況、授業態度で評価。

【テキスト】

授業中に指示し、楽譜など貸与する。

音楽 2

浅田まり子

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代には様々な音楽があふれています。音楽の機能を使って、健康的な人間形成に役立てるのはどうしたらよいか、考えていきます。自分の音楽をよく聴いて、ノンバーバルコミュニケーションとなる音楽を目指します。

【授業計画】

- 第1講 音楽をするということ
- 第2講 声域と声の発音について
- 第3講 ヴォイストレーニング 2
- 第4講 音楽と教育 2
- 第5講 音楽療法 2
- 第6講 音のスケッチ
- 第7講 リズム 2
- 第8講 メロディー 2
- 第9講 ハーモニー 2
- 第10講 表現と技術
- 第11講 まとめ
- 第12講～発表

*各講それぞれのテーマで話し合い、歌唱やキーボード、ギター、鑑賞、創作を、個人またはグループの要望にあわせて指導する。

*発表は個人またはグループで、歌、楽器の演奏や、コンピューターミュージックなどの創作とし、ジャンルは問わない。

【評価方法】

実技、感想レポート、出席状況、授業態度で評価。

【テキスト】

授業中に指示し、楽譜など貸与する。

書道 1

小川晃治

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会に於ける書美の意義を考察する。時代に於ける書の変相を、他芸術と対比関連させ探求する。そして名筆を鑑賞・臨書させる。現代社会に於ける書の位置づけ価値観を考える。また生活の中の書の諸相を探り、用美一体の美を感得させる。その上で実用書表現の為の実践をさせる。

<前期>

○書道概論

○書の基礎用語を学ぶ、あわせて現代社会に於ける書の美学を、文学、音楽、美術の分野と関連させて指導する。

○基本的書技を実習する。楷、行、草、篆、隸書、かなの六体に力点をおき習熟させる。

○中国書道の名筆の臨書を学ぶ。特に楷書の書風の諸相を理解させる。

○三筆、三蹟の日本の書美を臨書させ、和漢の書美を対比、探求させる。

<後期>

○「かな」の基本的書技を学ぶ

○和様の美「かな」の名筆を鑑賞し、日本書美の特質を他の美術文学との関連を講義・指導する。

○古筆の美 寸松庵色紙を臨書させる。

○漢字細字の実技 蘭亭叙を全臨させる。そして用美一体の実践をはかる。

※前・後期を通じて日本の書美・書道史を他の美術と比較、対比して指導する。

【授業計画】

基本的な書道理論。他の芸術や文字と対比して考察させる。基本的な書技の実習をし、順次高度な書美の表現を可能にさせる。日本の書美を見つめ、あわせて現代社会に於ける書美を考察させることを基準として進める。

【評価方法】

実技作品とレポート三種、学習態度、出欠状況などによる。

【テキスト】

担当者の小文。

書道 2

小川晃治

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会に於ける書美の意義を考察する。時代に於ける書の変相を、他芸術と対比関連させ探求する。そして名筆を鑑賞・臨書させる。現代社会に於ける書の位置づけ価値観を考える。また生活の中の書の諸相を探り、用美一体の美を感得させる。その上で実用書表現の為の実践をさせる。

<前期>

○書道概論

○書の基礎用語を学ぶ、あわせて現代社会に於ける書の美学を、文学、音楽、美術の分野と関連させて指導する。

○基本的書技を実習する。楷、行、草、篆、隸書、かなの六体に力点をおき習熟させる。

○中国書道の名筆の臨書を学ぶ。特に楷書の書風の諸相を理解させる。

○三筆、三蹟の日本の書美を臨書させ、和漢の書美を対比、探求させる。

<後期>

○「かな」の基本的書技を学ぶ

○和様の美「かな」の名筆を鑑賞し、日本書美の特質を他の美術文学との関連を講義・指導する。

○古筆の美 寸松庵色紙を臨書させる。

○漢字細字の実技 蘭亭叙を全臨させる。そして用美一体の実践をはかる。

※前・後期を通じて日本の書美・書道史を他の美術と比較、対比して指導する。

【授業計画】

基本的な書道理論。他の芸術や文字と対比して考察させる。基本的な書技の実習をし、順次高度な書美の表現を可能にさせる。日本の書美を見つめ、あわせて現代社会に於ける書美を考察させることを基準として進める。

【評価方法】

実技作品とレポート三種、学習態度、出欠状況などによる。

【テキスト】

担当者の小文。

書道 3

森美恵子

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

名筆である碑法帖により審美眼を高め、用美一体の書作を体得せしめる。

楷書・行書・草書の古法帖を原則とするも更に拡大臨書コピーして、一層理解に便ならしめる。

【授業計画】

拡大臨書コピー手本に基づき書作した清書作品を提出する。

書写中心ではあるが、中国の書論に則り、古法帖の概略等も講ずる。

【評価方法】

授業内で提出する平素の成績物及び出席状況等にて総合的に評価する。

【テキスト】

書の鑑賞と学び方（上田桑鳩 教育図書研究会）

書道 4

森美恵子

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

名筆である碑法帖により審美眼を高め、用美一体の書作を体得せしめる。

楷書・行書・草書の古法帖を原則とするも更に拡大臨書コピーして、一層理解に便ならしめる。

【授業計画】

拡大臨書コピー手本に基づき書作した清書作品を提出する。

書写中心ではあるが、中国の書論に則り、古法帖の概略等も講ずる。

【評価方法】

授業内で提出する平素の成績物及び出席状況等にて総合的に評価する。

【テキスト】

書の鑑賞と学び方（上田桑鳩 教育図書研究会）

アジアの生活文化

楊 衛平 他

オムニバス 3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

生業、儀礼、音楽、健康などくらしの視点からみたアジアの多様な文化を紹介することにより、今日の私たちにとっては大きな課題である異文化との交流・相互理解への契機としたい。10.1

【授業計画】

1. アジアの健康
アジア保健研修所理事長・愛知国際病院長 川原啓美
2. 韓日両国の食文化について
日韓文化研究所所長 金 渙10.15
3. 北タイの祭りと音楽
三重県立看護大学助教授 馬場雄司10.22
4. 中国の陶磁器と古代文明
日中交流中心代表 唐 啓山10.29
5. アジアのくらしの形態と機能～すまいの材料と環境について
名古屋工業大学名誉教授 宮野秋彦11.5
6. 中国少数民族の構成分類と生活
本学助教授 楊 衛平11.12
7. 琵琶の世界・日中伝統音楽についての比較
琵琶演奏家 涂 善祥11.19
8. 日中両国の武術の相違と実演
南京体育大学客員教授 張 成忠11.26
9. 法文化から見た日中ビジネスの相違
名古屋第一法律事務所中国法律顧問 李 陽根12.3
10. 流行歌で綴る中国の生活（北京生活12年の体験談）
書道家 谷川 雅夫12.10
11. 中国少数民族音楽の分類と実践
金城大学大学院研究科社会学専攻博士課程 戴 琇峰12.17
12. モンゴル遊牧民の生活と社会
愛知県立大学教授 稲村哲也1.7
13. 中国の食文化から生まれた薬膳と健康
本学助教授 楊 衛平1.21

【評価方法】

出席状況、受講態度とレポートによる

【テキスト】

プリントを配布する。

ジャーナリズム論 1

木本恵也

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

マスコミの現場と基礎知識 1

マスコミの問題点とジャーナリズムのあり方 2

最近の学生は新聞や雑誌、本をあまり読みません。これは学生にとっても、日本の将来にとっても不幸なことです。日本のマスコミは幅が広く、力も強いですが、ジャーナリズムは必ずしもそうではありません。欧米と比較しても平和慣れして危機感が乏しいように思えます。とりあえず、新聞を読むことから始めたい。テレビ、ラジオや出版、やがて来るマス・メディア時代についても対応したい。いわゆるアカデミックな講義にはなりません。

【授業計画】

ジャーナリズムとは何かをポイントに置きながら、毎週のニュースについてマスコミの対応の仕方をチェックしていきたい。

【評価方法】

毎時限、テーマにそった作文またはレポートの提出で評価。出席率は重視します。

【テキスト】

なし

ジャーナリズム論 2

木本恵也

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

マスコミの現場と基礎知識 1

マスコミの問題点とジャーナリズムのあり方 2

最近の学生は新聞や雑誌、本をあまり読みません。これは学生にとっても、日本の将来にとっても不幸なことです。日本のマスコミは幅が広く、力も強いですが、ジャーナリズムは必ずしもそうではありません。欧米と比較しても平和慣れして危機感が乏しいように思えます。

とりあえず、新聞を読むことから始めたい。テレビ、ラジオや出版、やがて来るマス・メディア時代についても対応したい。いわゆるアカデミックな講義にはなりません。

【授業計画】

ジャーナリズムとは何かをポイントに置きながら、毎週のニュースについてマスコミの対応の仕方をチェックしていきたい。

【評価方法】

毎時限、テーマにそった作文またはリポートの提出で評価。出席率は重視します。

【テキスト】

なし

ことばと社会

川村陽子

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日常のことばによるコミュニケーションにおいて、人びとは言語的意味のみならず、社会的意味のやりとりも行っている。同じような意味内容を伝える表現であっても、話し手が属する社会的グループが異なれば、これらの表現がもつ社会的意味に違いが生じてくる。授業では、言語使用においてことばがもつ社会的意味について、＜地域性＞・＜社会階級＞・＜性別＞・＜年齢＞をおもな社会的変数として取り上げて講義する。

【授業計画】

第1～2講	ことばと社会の関係
第3～4講	ことばの地域差
第5～6講	ことばと社会階級
第7～8講	ことばとジェンダー
第9～10講	ことばと年齢差
第11～12講	言語使用の状況差
第13講	定期試験

【評価方法】

前期・後期ともに、出席状況と定期試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

スポーツ基礎 a

杉山 和 山本啓子 松田秀子 寺田邦昭 門間 博

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

各種スポーツ（テニス、ゴルフ、バドミントン）をはじめ、ストレッチ体操などの運動の基礎技術を習得することを目標として行う。

スポーツ応用1b、2・3・4・5・7（集中授業）の科目と重複して受講することができる。

【授業計画】

曜日	限	担当者	種 目	
月	2	杉山	テニス	バドミントン
	3	寺田	バドミントン	ゴルフ
		杉山	テニス	バドミントン
	4	寺田	バドミントン	ゴルフ
火	1	松田	テニス	ゴルフ
	2	松田	テニス	ゴルフ
	3	山本	卓球	バレーボール
		松田	バドミントン	ゴルフ
4	山本	卓球	バレーボール	
水	2	門間	バドミントン	テニス
	3	門間	バドミントン	テニス
		山本	卓球	バレーボール
	4	門間	バドミントン	テニス
木	2	杉山	テニス	バドミントン
	3	山本	卓球	バレーボール
	4	山本	卓球	バレーボール
金	2	杉山	テニス	バドミントン
	3	杉山	テニス	バレーボール
	4	杉山	テニス	バレーボール

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・原則として、半期間に2種目を行いません。（天候によって種目を変更する場合があります。）
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

【評価方法】

70点－（欠席回数×2／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用1 b

杉山 和

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

スポーツ基礎 a、スポーツ応用2・3・4・5・7（集中授業）と重複して受講することができます。

【授業計画】

曜日	限	種 目	
月	2	ゴルフ	・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
	3	ゴルフ	
木	2	ゴルフ	・天候によって種目を変更する場合があります。
金	2	バレーボール	・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
	3	バドミントン	
	4	バドミントン	

〔ゴルフ〕

1. ガイダンス
2. グリップ、スタンス、アドレス
- 3～6. アイアン練習（ショート・ミドルアイアン）
- 7～8. ウッド練習（1、3ウッド）
9. 学外のゴルフ練習場にて練習
- 10～12. PW、SW、パッティング練習
- 13～14. ショートコース（グラウンドにて）
15. 学外のゴルフ練習場にて練習

〔バレーボール〕

1. ガイダンス
2. ボールに慣れる、構え、動きの基本姿勢
3. サーブの種類と打ち方
- 4～6. パス、トス、レシーブ、スパイク、ブロック
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ゲーム

〔バドミントン〕

1. ガイダンス
- 2～3. 歴史的ゲームの追体験、ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ダブルスゲーム

【評価方法】

70点－（欠席回数×2／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用1 b

山本啓子

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

スポーツ基礎 a、スポーツ応用 2・3・4・5・7 (集中授業) と重複して受講することができます。

【授業計画】

曜日	限	種目
火	3	バドミントン
	4	バドミントン
水	3	バドミントン
	4	バドミントン
木	3	バドミントン
	4	バドミントン

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[バドミントン]

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの追体験
3. ラケットワーク
4. ストローク練習 (アンダーハンドを中心に)
5. ストローク練習 (サイドハンドを中心に)
6. ストローク練習 (オーバーヘッドを中心に)
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム (フォーメーションを中心に)
- 9～15. ダブルスゲーム

【評価方法】

70点 - (欠席回数 × 2 / 授業実施回数 × 70点) = 出席点
30点 = 実技点

スポーツ応用1 b

松田秀子

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

スポーツ基礎 a、スポーツ応用 2・3・4・5・7 (集中授業) と重複して受講することができます。

【授業計画】

曜日	限	種目
火	1	バドミントン
	2	バドミントン
	3	テニス

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[バドミントン]

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの追体験
3. ラケットワーク
4. ストローク練習 (アンダーハンドを中心に)
5. ストローク練習 (サイドハンドを中心に)
6. ストローク練習 (オーバーヘッドを中心に)
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム (フォーメーションを中心に)
- 9～15. ダブルスゲーム

[テニス]

1. ガイダンス
2. ボールとラケットに慣れる
3. グランドストローク (フォアハンドを中心に)
4. グランドストローク (バックハンドを中心に)
5. サービス、レシーブ
6. ボレー、スマッシュ
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム (フォーメーションを中心に)
- 9～15. ダブルスゲーム

【評価方法】

70点 - (欠席回数 × 2 / 授業実施回数 × 70点) = 出席点
30点 = 実技点

スポーツ応用1b

寺田邦昭

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

スポーツ基礎a、スポーツ応用2・3・4・5・7(集中授業)と重複して受講することができます。

【授業計画】

曜日	限	種 目
月	3	テニス
	4	テニス

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[テニス]

1. ガイダンス
2. ボールとラケットに慣れる
3. グランドストローク (フォアハンドを中心に)
4. グランドストローク (バックハンドを中心に)
5. サービス、レシーブ
6. ボレー、スマッシュ
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム (フォーメーションを中心に)
- 9~15. ダブルスゲーム

【評価方法】

70点 - (欠席回数×2 / 授業実施回数×70点) = 出席点
30点 = 実技点

スポーツ応用1b

門間博

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

スポーツ基礎a、スポーツ応用2・3・4・5・7(集中授業)と重複して受講することができます。

【授業計画】

曜日	限	種 目
水	2	ソフトボール
	3	サッカー
	4	サッカー

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[ソフトボール]

1. ガイダンス
2. キャッチボールの基本、練習、ゲーム
- 3~5. バッティングの基本、練習、ゲーム
- 6~8. 守備の基本、練習、ゲーム
- 9~11. リーグ戦 1
- 12~15. リーグ戦 2、まとめ(記録整理・レポート)

[サッカー]

1. ガイダンス
2. 個人技能の確認
- 3~5. ボールコントロールの正確性、巧みに運ぶための基本技術、基本技術を生かしたミニゲーム
- 6~7. 個人技能をもとにチーム編成をし、ミニゲーム
- 8~10. ミニゲームのリーグ戦
- 11~15. リーグ戦、まとめ(記録整理・レポート)

【評価方法】

70点 - (欠席回数×2 / 授業実施回数×70点) = 出席点
30点 = 実技点

スポーツ応用2

杉山 和

集中 3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

〈スキー・集中〉

スキーを通して大自然の厳しさやおおらかさに接し、スキーの基礎的技術の向上と知識の習得を目標とする。後期の集中授業として行う。

【授業計画】

〈内容〉

1. 期日

実習 平成14年2月24日(日)～2月28日(木)
4泊5日の予定

第1回説明会 平成13年11月7日(水)5限目

第2回説明会 平成14年1月9日(水)5限目

2. 場所 長野県 信州菅平高原スキー場

3. 宿泊所 福美津屋旅館

4. 実習費 約40,000円

(宿泊費・交通費・食事代・保険料・雑費)

5. その他の費用

リフト券代 約12,000円(レベルによって異なる)

レンタルスキー(板、ブーツ、ストック) 6,500円

レンタルウェア 4,000円

小物(帽子、手袋、ゴーグル) 1,500円

6. 定員 約40名

7. オプション企画(体験)

スノーボード(レンタル代、講習費) 6,000円

ヘリスキー(ヘリコプターの搭乗費) 6,000円

スキー検定(検定料) 6,000円

*定員に大きく満たない場合は中止になります。

*実習費及びその他の費用に関する料金は、12年度のものであります。変更になる場合があります。

*説明会には必ず参加すること。(やむを得ない場合を除く)

【評価方法】

1. 実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。
2. 実習期間中、欠席した場合は単位が認められません。

スポーツ応用3

杉山 和

集中 3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

〈スクーバダイビング・集中〉

「海の中」の自然を体験し、より視野を広める、スクーバダイビングに必要な初級のライセンスを取得し、生涯スポーツの実践へつなげる。

前期の集中授業として行う。

【授業計画】

〈内容〉

1. 期日

プール実習 平成13年8月23日(木)～29日(水)

海洋実習 平成13年9月3日(月)～6日(木)

3泊4日

第1回説明会 平成13年5月23日(水)

第2回説明会 平成13年7月21日(土)

2. 場所

プール実習 ロコダイバーズ 室内プール(一社)

海洋実習 沖縄県 伊江島

3. 諸経費

実習費 約50,000円(講習費、テキスト代、申請料)

用具代 約50,000円(重器材レンタル代、個人器材)

海洋実習費 約78,000円(交通費、宿泊費)

その他 約30,000円(ウェットスーツ)希望者のみ

4. 定員 約20名

*諸経費については、12年度のものでありますので変更になる場合があります。

*説明会には必ず参加すること。(やむを得ない場合を除く)。

【評価方法】

1. 実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。
2. 実習期間中、欠席した場合は単位が認められません。

スポーツ応用4

松田秀子

集中 3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

〈スケート・集中〉

スケートを通して、基礎的技術の向上と、知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へつなげる。

後期の集中授業として行う。

【授業計画】

〈内容〉

1. 期日

実習 平成14年2月6日(木)・7日(金)・
8日(金)・12日(火)・
13日(水)・14日(木)
6日間 午前のみ

第1回説明会 平成13年11月7日(水) 5限目

第2回説明会 平成14年1月9日(水) 5限目

2. 場所 名古屋スポーツセンター (大須)

3. 実習費 約7,200円

4. 定員 約40名

*実習費に関しては、12年度のものでありますので変更する場合があります。

*説明会には必ず参加すること。(やむを得ない場合を除く)。

【評価方法】

実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。

スポーツ応用5

松田秀子

集中 3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

〈マリンスポーツ・集中〉

各種のマリンスポーツを通し、海という自然を体験し、より深く理解する。各種目の基礎的技術の向上と知識の習得、生涯スポーツの実践へつなげる。

前期の集中授業として行う。

【授業計画】

〈内容〉

1. 期日

実習 平成13年8月6日(月)～9日(木)
3泊4日

第1回説明会 平成13年5月23日(水) 5限目

第2回説明会 平成13年7月4日(水) 5限目

2. 場所 ヤマハマリーナ浜名湖 静岡県

3. 実習種目

ウェイクボード、ボードセーリング、
セーリングクルザー等

4. 実習費 約74,000円

5. 定員 約20名(定員に満たない場合は中止になります。)

*実習費に関しては、12年度のものでありますので変更する場合があります。

*説明会には必ず参加すること。(やむを得ない場合を除く)

【評価方法】

実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。

スポーツ応用7

松田秀子

集中 3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

〈ボウリング・集中〉

ボウリングを通して、基礎技術の向上と知識の習得を目標とし、生涯スポーツの実践へとつなげる。

前期の集中授業として行う。

【授業計画】

〈内容〉

1. 期日

実習 平成13年9月5日(水)・6日(木)・
7日(金)・10日(月)・
11日(火)・12日(水)

計6日間 午前中のみ

第1回説明会 平成13年5月23日(水) 5限目

第2回説明会 平成13年7月4日(水) 5限目

2. 場所 星ヶ丘ボウル

3. 実習費 6,000円

4. 募集人数 40名

*実習費に関しては、12年度のものでありますので変更する場合があります。

*説明会には必ず参加すること。(やむを得ない場合を除く)

【評価方法】

実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。

メンタルヘルス

加藤雄一

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

- ① 現代を映し出すようなメンタルヘルス上の問題
- ② 発達課題も含めた大学生年代の心理的問題
- ③ 女性の心理的問題(男性の問題でもある)
- ④ 学生さんがこれからの人生を送るにあたって参考になるようなこと
- ⑤ その他

【授業計画】

講義形式である。内容的には、講義者が経験してきた実例を具体的にあげたり、現代問題になっている家族との関係などと関連させながら講義を進める。

第1章 今なぜ心の時代か

第2章 青年期と発達課題(アイデンティティなど)

第3章 モラトリアム延長とキャンパスの精神病理

第4章 今抑うつが増えている一心のかぜー

第5章 On Suicide in Japan

第6章 女性における[食の問題ー不食と過食]

第7章 職場におけるメンタルヘルスーテクノ依存ー

第8章 妊娠・出産の心理・社会的側面

第9章 心理・精神障害と家族間コミュニケーション、乳幼児の発達

第10章 心理カウンセリングー傾聴・共感・理解ー

第11章 精神の健康とはー自分を知る・他人を知るー

【評価方法】

単位認定試験と出席状況によって総合的に評価する

【テキスト】

心の臨床ー増補・改訂版ー 加藤雄一著(700円くらい)

感染症

磯村思无 他

オムニバス 3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

エイズに代表される病気「感染症」とその周辺の学問を、人文・社会系を専攻する学生を対象にわかりやすく講義をします。

現代社会の病根が、これらの病気の感染経路を通してかいま見ることができるでしょう。

【授業計画】

受講するにあたって（日程等のガイダンス）

本学教授（健康科学教育センター長）	杉山 和
エイズⅠ ～どんな病気か～	
名古屋大学教授（国際医療保健学）	磯村 思无
エイズⅡ ～そのひろがり～	
名古屋大学教授（国際医療保健学）	磯村 思无
院内感染の問題 ～MRSAについて～	
名古屋大学教授（細菌学）	太田美智男
ガーナの子供達 ～国際協力の事例～	
名古屋大学教授（国際医療保健学）	磯村 思无
旅行者感染症 ～楽しい海外旅行を～	
名古屋大学教授（国際医療保健学）	磯村 思无
ウイルス性肝炎 ～感染様式と病態～	
愛知医科大学教授（第一内科）	各務 伸一
寄生虫	
岐阜大学教授（寄生虫学）	高橋 優三
輸血とウイルス感染	
愛知県赤十字血液センター（副所長）	神谷 忠
成人T細胞白血病 ～ウイルスと人類学～	
愛知県がんセンター（疫学部長）	田島 和雄
呼吸器感染症 ～かぜとウイルス～	
名古屋大学教授（附属病院予防医療部）	下方 薫
結核の現状と問題点	
本学校医	三輪 太郎

【評価方法】

レポートによる評価、感想文の提出。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布。

食生活と健康

棚橋昌子

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現在、国民の健康づくり対策として「Active 80 Health Plan」が推進されている。成人病は生活習慣病といわれ、成人病予防のためには「バランスのよい食生活」「適度な運動」「ストレス解消を含む休養」を生活の中に習慣化させることが重視されている。食生活の現状をみると、飽食の時代を反映して多種多様な食サービスを楽しむことができる反面、外食や個食の一般化とともに、摂取過多（脂肪など）や摂取不足（カルシウムなど）が健康障害の誘因となっていることが指摘されている。健康を推進する視点から食生活を見直すことを念頭において講義をすすめる。

【授業計画】

1. 健康づくりと食生活
 - 1) 健康づくり対策の現状
 - 2) 食生活の現状と問題点
2. 摂取過多と疾病
 - 1) エネルギーと糖尿病
 - 2) コレステロールと心疾患
 - 3) 塩分と高血圧
演習；自分の食事調査を行う
3. 摂取不足と疾病
 - 1) 食物繊維と大腸ガン
 - 2) 鉄分と貧血
 - 3) カルシウムと骨粗しょう症
4. 最近のトピック
 - 1) 遺伝子組換え食品の現状
 - 2) 未定

プリントを配布し、関連するビデオを放映する。また、簡単な血糖値測定器や血圧計、計量秤つき栄養計算器具などを紹介する。但し講義科目のため測定はできない。

【評価方法】

レポートを提出する。

【テキスト】

使用しない。毎回プリントを配布する。

漢方入門

楊 衛平

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

近年、欧米ばかりでなく、日本でも漢方が見直されて、テレビや新聞などのマスコミも、まじめに漢方の意義を積極的に取り上げようとして、一般の間でも着実に浸透して、ブームとなっている。それにもかかわらず漢方ほど誤解され、正しい知識を知っているものは少ない現状である。本講座は、漢方の基礎と臨床活用を中心に講じることを通じて、漢方への認識を深めていただきたいことを目的とする。

【授業計画】

総論

1. 現代社会における伝統医学の役割
2. 中国伝統医学及び日本漢方の歴史
3. 東洋・西洋両医学の相違点と融合

漢方医学の基礎理論編

4. 陰陽論・五行説・気血水とは
5. 生薬の自然属性と分類
6. 経絡・ツボ・針灸の基本知識

漢方医学の臨床実践編

7. 四季に従う生薬の活用
8. 医食同源と日常の薬膳
9. 健康増進の指圧養生法
10. 生活習慣病の漢方対策
12. 女性の悩みの解消対策
13. 健康保険にきく漢方の解説

【評価方法】

出席状況、受講態度とレポートによる。

【テキスト】

プリントの配布。

【参考文献・資料】

漢方で治す（広瀬滋之 海越出版社）
漢方治療のABC（日本医師会）

国文学概論 a・b

山下宏明

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

前期には、日本文学の研究が、古代の『万葉集』編纂のための巻の構成に始まり、中古には詠歌のための歌学、これを支えるための物語の読みが課題となる。中世には、諸ジャンルが分化し、近世には国学の隆盛を経て近代を迎え、方法の確立を志向することになる。

これら前近代の、対象を相対化する研究を受けて、明治以後、西洋の研究を意識し、特に戦後、研究の批評性を顕著にする。すなわち戦前の文献学的研究から、歴史社会学派、新批評、記号・構造主義、テキスト論、新歴史主義、コロニアリズム、脱構築理論、ジェンダー論、身体論、口誦論などへと展開する。こうした日本文学研究の流れを半年の間に展望する。

後期には、上述の研究史の展望を踏まえ、文学研究の国際的な状況を踏まえて、特に、読者論のための物語の方法を具体的に考察指導する。理論の応用篇である。

【授業計画】

前期には史的展望を行い、後期には、特に読者論や文字・口誦論を、古典はもちろんのこと、近・現代の小説・物語、さらには山田洋次の映画、井上ひさしの演劇にも対象を広げて表現・享受の方法を講義する。

【評価方法】

出席状況と、試験による。時にノートの提出を求め、小テストも行い、講義の把握・理解の状況を探る資料にする。

【テキスト】

前半の批評史の展望、後半の各論を進める上に必要な作品の部分引用など、各種資料をプリントで用意する。その原資料は、これまでの経験から、ほとんど揃っているが、さらに新しい資料をも追加する予定である。

基本的な参考資料として、

T・イーグルトン『文学とは何か』岩波書店

ジェラルド・ジュネット『物語のディスコース』風の薔薇社

大江健三郎『新しい文学のために』岩波書店

大橋洋一『新文学入門』岩波書店

前田愛『文学テキスト入門』筑摩書房

その他を推薦するはずである。

国文学史（1） a・b

山下宏明

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

文学研究が批評史の世界で、その相対化が求められている。いわゆる国文学史のこれまでの実態を展望してみればよい。単なる書誌学上の成果の羅列が文学史たりえないことは、早く、1940年代後半から言い尽くされて来たところで、以後、文学批評のあり方と連動して、各種の文学史が試みられた。最近の成果を見れば、このことは明らかである。文学史が、文化史のなかで相対化され、作者論から、読者論の受容史に変化をとげていると言ってよいだろう。こうした状況を踏まえて、広く各ジャンルに目を配りつつ、特に、時代を画する戦乱に注目する。これを戦乱に巻き込まれた人々の側に配慮しつつ、それらの戦乱を、「いくさ」ととらえる見方を設定して、上代の『古事記』・『日本書紀』に始まり、古代社会の『将門記』・『陸奥話記』、『今昔物語集』、『保元物語』、『平治物語』・『平家物語』、南北朝の『太平記』、室町時代の、赤松氏をめぐる後期軍記、これらを取りまく芸能としての能や幸若舞、物語としての『義経記』や、『曾我物語』から近世の近松の時代物まで及ぶ。その間、当然、それらのいくさ物語に付随する和歌の世界や王朝の物語文学にも言及する。

批評史の展望から、作品の読解としての受容の方法を強く意識した講義になる。

【授業計画】

前期は、文学史の現状を文学批評の中にとらえ、『古事記』から『平治物語』までを取りあげる。後期は、中世を中心に、近世の劇文学にも言及する。この間、地方に伝わる諸伝説にも、いくさ物語のかけを探る。これらを踏まえ、大岡昇平の戦記の意味をあわせて問うことになる。

【評価方法】

講義には、参加することに意義がある。平常の出席状態をも加味し、記述試験により判定する。時にノートの提出を求め、小テストも行う。

【テキスト】

全体の概要は、山下宏明の『いくさ物語の語りと批評』（世界思想社）によるが、本文の引用など、適宜プリントを用意する。

なお上記の〔授業概要〕に述べたような方針から、〔国文学概論〕に参考として掲げた著書を併せて読むことが望ましい。

国文学史（2） a

小倉 斉

2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

〈近代文学の諸相〉

日本の近代文学の諸相を、いくつかのテーマを設定しながら、かなめとなる作家・作品・思潮を検討することによって理解し、あわせて日本文学における「近代」とは何かを考える。

【授業計画】

以下の各テーマにしたがって講義をおこなう。

- 1 〈書く〉ことと〈語る〉こと
村上春樹『風の歌を聴け』
- 2 〈模写〉の意味
坪内逍遙『小説神髓』・『当世書生気質』
二葉亭四迷『浮雲』
- 3 〈わたくし〉の発見
森鷗外『舞姫』
- 4 〈こども〉たちの眼差し
樋口一葉『たけくらべ』
谷崎潤一郎『小さな王国』
芥川龍之介『杜子春』
- 5 〈新しい女〉と戯画化された主人公
田山花袋『蒲団』
- 6 〈自然の愛〉と〈社会の掟〉
夏目漱石『それから』
- 7 観念の崩壊と〈新感覚〉
芥川龍之介『歯車』
横光利一『機械』

【評価方法】

学期末の試験（自筆ノート持ち込み可・論述問題中心）によって評価する。

【テキスト】

舞姫・うたかたの記（森鷗外 岩波文庫）
たけくらべ・にごりえ（樋口一葉 角川文庫）
蒲団・一兵卒（田山花袋 岩波文庫）
それから（夏目漱石 岩波文庫）
歯車（芥川龍之介 岩波文庫）

国文学史（2） b

細谷 博

2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

文学における「近代」とは何か、「現代」とは何か。われわれ自身の〈読むこと〉の問題として考える。

大正後期から昭和期に至る文学の諸相を、要点となる作家・作品を端的におさえることによってたどりなおし、作品の各部をたしかに味わいつつ考える文学史をめざす。

【授業計画】

- 第1回 概論、導入
- 第2回 「城の崎にて」他読解
- 第3回 「鬚気楼」他読解
- 第4回 志賀直哉・谷崎潤一郎・芥川龍之介
- 第5回 関東大震災、芥川の死、円本ブーム
- 第6回 近代と現代
- 第7回 横光利一・川端康成
- 第8回 葉山嘉樹・梶井基次郎
- 第9回 堀辰雄・中野重治
- 第10回 太宰治
- 第11回 井伏鱒二・大岡昇平
- 第12回 三島由紀夫・安部公房
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

小僧の神様・城の崎にて（志賀直哉著 新潮文庫）
河童・或阿呆の一生（芥川龍之介著 新潮文庫）
現代日本の文学（双文社出版）

国語概説 a・b (音声言語及び文章表現を含む)

増井典夫

1年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

前期中心テーマー日本語の音声・音韻・アクセント

後期の中心テーマー方言と共通語

<前期>

日本で使われている言語としてアイヌ語や沖縄の言葉について触れたあと、音声言語という面から、世界の中で日本語の位置を考え、さらには日本語の音韻・アクセント等を考察していく。

<後期>

日本語方言学の研究法・調査法をみながら愛知県方言の位置付け、方言と共通語の使い分け、「新方言」といわれる新しい日本語表現等を考えていく。

【授業計画】

講義を行なっていく。

【評価方法】

記述式テスト（定期試験）。

【テキスト】

国語概説（佐伯・山内編 和泉書院）

国文学講義（1）上代 a

市瀬雅之

2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

奈良時代を代表する歌人の一人に、大伴家持がいる。家持は『万葉集』にもっとも多く歌を残した。『万葉集』の編纂に深く関わったともいわれてきた。そうした家持の人生と作歌を通じて、奈良時代の和歌世界について考えてみたい。また、家持が編んだという『万葉集』の編纂についても触れてみたい。

【授業計画】

- 1 大伴家の歴史
- 2 家持の誕生
- 3 大宰府の家持
- 4 家持の「恋」
- 5 橘諸兄との出会い
- 6 安積皇子の薨去
- 7 十六卷本『万葉集』の形成
- 8 家持の歌日誌
- 9 越中国赴任
- 10 家持の多作期
- 11 帰京後の家持
- 12 『万葉集』の終焉
- 13 まとめ

【評価方法】

試験結果に出席状況を加味して評価を決定する。

【テキスト】

伊藤博校注『万葉集』上・下
角川文庫刊、各820円

国文学講義（1）上代b

島田修三

2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

〈万葉史の考察〉

『万葉集』の4500首余りの歌は、おおよそ7世紀の半ばから100年間に詠まれた。この100年間は古代社会が激しくシフトして行く時期と重なる。古代律令国家の成立をはじめとして中国文化の流入、生活民俗の変容など多様なシフトが万葉和歌の成立や成熟に色濃く影響を及ぼしている。本講義では、この100年間の作品を歴史的に追うことによって、文学的問題にとどまらぬ万葉和歌の歴史社会的な諸問題を考えていく。

〈前期〉

a：初期万葉から白鳳万葉へ

万葉和歌の草創期から古代律令国家成立期に至る万葉和歌の展開を追う。作品としては、雄略天皇御製から柿本人麻呂の宮廷讃歌・高市黒人の羈旅歌のあたりまでを対象とする。

〈後期〉

b：奈良朝万葉の世界

奈良朝初期から天平末期に至る万葉和歌の展開を追う。作品としては、山上憶良・大伴旅人から防人歌・大伴家持のあたりまでを対象とする。

【授業計画】

主として下記のテキストおよびプリント資料を用いながら作品を講読していく。

【評価方法】

前期・後期末それぞれのテストもしくはレポートによって評価する。

【テキスト】

〈前期・後期〉

万葉 文学とその背景(おうふう) (島田修三他著 1,890円)

国文学講義（2）中古a・b

久保朝孝

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

中古文学作品に対する基本的姿勢と読解の基本的方法を身につける。特に本文解釈の多様性の所以と可能性について理解する。さらに、国文学研究のための基本的事項・文献について知識を得るとともに、レポートをまとめる力を身につける。

【授業計画】

〈前期〉

a：伊勢物語

- | | |
|-------------|---------------|
| 1 導入 | 7 伊勢物語各章段の精読 |
| 2 伊勢物語初段の考察 | 8 伊勢物語各章段の精読 |
| 3 伊勢物語初段の考察 | 9 伊勢物語各章段の精読 |
| 4 伊勢物語初段の考察 | 10 伊勢物語各章段の精読 |
| 5 伊勢物語初段の考察 | 11 伊勢物語各章段の精読 |
| 6 伊勢物語初段の考察 | 12 まとめ |

〈後期〉

b：王朝女流日記

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 導入 | 7 紫式部日記 |
| 2 王朝女流日記への招待 | 8 更級日記 |
| 3 土佐日記 | 9 成尋阿闍梨母集 |
| 4 蜻蛉日記 | 10 讃岐典侍日記 |
| 5 枕草子 | 11 王朝女流日記の達成 |
| 6 和泉式部日記 | 12 まとめ |

【評価方法】

次の諸点を総合して評価する。配分については授業時に説明する。

- ア. 出席状況
- イ. 学外の自主的学習
- ウ. 期末レポート

【テキスト】

前期 a：伊勢物語 (校注古典叢書 片桐洋一校注 明治書院 1,400円 税別)

後期 b：王朝女流日記を学ぶ人のために (久保朝孝編 世界思想社 2,300円 税込)

国文学講義（3）中世 a・b

岩下紀之

1年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

古典文学は元来写本・版本のかたちで享受されてきた。過去の人々と同じかたちで読書することなしに、古典を解釈・鑑賞することはできない。自分の国の作品では、このような原則的な立場での研究が可能なので、この特権を生かしてほしい。

散文と韻文に触れてみるべく、前期は、御所本宇治拾遺物語（下）、後期は、御所本百人一首抄を講読する。

【授業計画】

一方的に教授することをさけ、学生にしばしば読ませることにしている。

【評価方法】

学期末の試験をもって評価する。

【テキスト】

御所本うち拾遺物語<下>（笠間書院）

御所本百人一首抄（笠間書院）

仮名変体集（新典社）

国文学講義（4）近世 a・b

阿部一彦

1年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

井原西鶴の浮世草子と近松門左衛門の世話浄瑠璃を読み、近世文学の魅力や面白さを発見し確認していく。同一事件を題材とした、西鶴の『好色五人女』巻一「姿姫路清十郎物語」・巻三「中段に見る暦屋物語」と近松の『五十年忌歌念仏』・『大経師昔暦』を読み解き、鑑賞する。両作品の比較検討を通して、それぞれの作品・作者の特色を確認するとともに、浮世草子、世話浄瑠璃という近世文学独自のジャンルの創作方法や成立基盤をも考察していく。

<前期>

西鶴の『好色五人女』巻一「姿姫路清十郎物語」と近松の『五十年忌歌念仏』を読んでいく。

最初に「近世」の社会的・文化的特徴と文学史を概説する。つづいて、西鶴の文学活動をごくおおまかに概説してから、「姿姫路清十郎物語」を精読する。『五十年忌歌念仏』は受講者それぞれが、西鶴の作品と比較しつつ読んでいくこととなる。この成果を前期試験の課題とする。

<後期>

西鶴の『好色五人女』巻三「中段に見る暦屋物語」と近松の『大経師昔暦』を読んでいく。

最初に歌舞伎・浄瑠璃の成立史を簡単に説明する。今度は逆に、近松の『大経師昔暦』を精読する。受講者に「中段に見る暦屋物語」を読んでもらう。後期試験では、『大経師昔暦』を論じてもらう。

【授業計画】

講義・講読形式で進めていく。

【評価方法】

前期、後期ともにレポートによる。

【テキスト】

西鶴と近松（松崎仁・白石梯三 和泉書院 1,545円）

国文学講義（5）近代 a・b

二瓶浩明

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

- a 日本近現代文学において〈夢〉を扱った作品を取りあげ、「〈夢〉見る日本」近代文学史を構想する。
- b 新感覚派の作家・横光利一の文学テキストを読み直し、昭和戦前期の文学史を書き換える。

【授業計画】

a

- はじめに
- 夏目漱石「夢十夜」（1）第一夜・第三夜
- 夏目漱石「夢十夜」（2）第五夜・第九夜
- 谷崎潤一郎「母を恋ふる記」
- 宮沢賢治「銀河鉄道之夜」
- 折口信夫「死者の書」
- 中島 敦「幸福」
- 夢野久作「ドグラマグラ」
- 津島佑子「大いなる夢よ、光よ」
- 吉本ばなな「白河夜船」
- 宮本 輝「春の夢」
- 長野まゆみ「少年アリス」
- おわりに

b

- はじめに
- 「蠅」
- 「火」「赤い色」
- 「御身」「日輪」
- 「春は馬車に乗って」「花園の思想」
- 「上海」（1）
- 「上海」（2）
- 「機械」
- 「純粹小説論」
- 「旅愁」（1）
- 「旅愁」（2）
- 横光利一の今日的意味
- おわりに

【評価方法】

レポート。
出席不良のものは評価しない。

【テキスト】

上述の文庫本。
各自購入のこと。

国語学講義 a

犬飼 隆

2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

古代日本語の重要問題を取りあげて考察する。諸事実の表面的な説明にとどまるのではなく、それらを研究するにはどのような資料を用いるか、どのような方法があるか、また、それらの現象には日本語の言語としての特徴がどのようにあらわれているか、さらには、言語に歴史的な変化をもたらす動因は何かなど、「考える授業」をめざす。講義形式で行い、毎回まとめの短いレポートを書く。若干の補助プリントを使うときもあるが、口頭の説明が主体になるので、ノートを充分にとる用意が必要である。

【授業計画】

- 第1回 日本語の基本的な特徴
- 第2～4回 古代日本語の資料
- 第5～7回 上代語の音韻
- 第8～10回 係り結び
- 第11～13回 仮名遣いの起源

【評価方法】

期末試験による。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

とくに指定しないが、授業時に紹介する諸論文・著作を読むことが望ましい。

国語学講義 b

増井典夫

2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

1年次「国語概説」の授業に引き続き、日本語の諸問題について概説を行なう。

具体的な内容としては、「文字・表記」「文法・敬語」「文章・文体」の問題を中心とする。

【授業計画】

講義を行なう。

【評価方法】

記述式テスト（定期試験）。

【テキスト】

国語概説（佐伯・山内編 和泉書院）

中国文学講義（1） a・b

寺尾剛

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

＜先秦漢魏晋南北朝の文学＞

唐に至るまでの中国の文学史を理解するとともに漢文の基礎（文法や文化的背景等）を身につける。

＜前期＞

- ・中国文化の特色－中国人の発想法
- ・『詩経』
- ・『楚辞』
- ・『論語』
- ・秦の統一までの文学史

＜後期＞

- ・『古詩十九首』
- ・建安文学－曹操・曹植
- ・『出師表』
- ・『蘭亭序』
- ・陶淵明
- ・謝朓
- ・漢代から六朝までの文学史

【授業計画】

中国の文学の流れを具体的に作品を読みながら理解していく。時間的に余裕があれば輪読していく。

【評価方法】

平常点と試験。

【テキスト】

中国詩文（中国詩文研究会編 1,700円）

中国文学講義（2）

寺尾 剛

3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

〈唐代の文学〉

唐詩と唐代伝奇小説を読むことを通じ、中国文学研究の方法を理解してゆく。

- ・唐代文学史
- ・『長恨歌』
- ・『杜子春伝』
- ・その他

【授業計画】

時間的に余裕があれば輪読していく。

【評価方法】

平常点及び試験。

【テキスト】

中国詩文（中国詩文研究会編）

国文学演習Ⅰ（1） a・b

島田修三

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

〈万葉季節歌群の考察〉

『万葉集』巻10には人麻呂歌集から奈良天平時代の四季の作者未詳歌 540首余りがそれぞれ「雑歌」「相聞」の部立に分かれて収録されている。本授業では、この歌群の子細な読解を通して、四季の節会と歌の場の関係、四季の自然風物が初期の和歌に与えた影響、自然観の深化といった諸問題を考えてみたい。

【授業計画】

〈前期〉 a

- 第1回～2回 古代の自然観と暦の変遷
- 第3回～4回 巻10の概観
- 第5回～10回 春の歌 演習発表
- 第11回～12回 夏の歌 演習発表

〈後期〉 b

- 第1回～3回 夏の歌 演習発表
- 第4回～9回 秋の歌 演習発表
- 第10回～11回 冬の歌 演習発表
- 第12回 総括

※原則として一人数首の作品を担当し、指示に従った調査結果のレジメの用意をしなければならない。発表に基づいて、受講者や島田の質疑が行われる。

【評価方法】

出席状況、授業期間中の発表、学期末レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

〈前期・後期〉

萬葉集（訳文篇）（佐竹昭広ほか著 塙書房）

国文学演習 I (2) a・b

久保朝孝

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

中古文学作品の読解と研究との基礎的方法を、実践的に身につける。

元来自撰であったと見られる『紫式部集』を読み解きながら、物語作家の生涯を追跡するとともに、その感性や精神構造の実質を探る。また、作品としての『紫式部集』自体の構造等についても考察する。

なお、特に作品論の基礎となるべき本文の「読み」(解釈)を、辞書・注釈書等を参照・批判・整理しつつ、自らの力によって築き上げる過程を重視したい。

演習であるから、担当者の発表のみで終わることなく、それに対する質疑・批判、そして回答・反論等が、全員によって躍動的に展開されることを期待する。

なお、夏季休業中に2泊3日の京都・奈良ゼミ旅行(35,000円)を行う。

【授業計画】

- 一、複数のグループを編成する。
- 二、以下の諸点についての分担調査報告(準備学習)。
 - ア、時代背景
 - イ、後宮生活
 - ウ、事典辞書目録
 - エ、研究文献目録
 - オ、研究状況
- 三、担当範囲を決定する。
毎回2～3首。
- 四、研究報告→質疑→回答→討論→助言(毎回)
- 五、学修の成果をレポートにまとめる。

【評価方法】

次の諸点を総合して評価する。配分については授業時に説明する。

- ア、出席状況
- イ、担当範囲についての研究発表(年間数回)
- ウ、授業中の発言(質問・批判等)
- エ、レポート

【テキスト】

紫式部日記 紫式部集(新潮日本古典集成 山本利達校注 新潮社2,200円税込)

国文学演習 I (3) a・b

岩下紀之

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

和歌のうち、当時の社会や、歌をよむにあたっての慣例を知らないと解釈が困難な、恋の歌を教材とする。

<前期>

後拾遺和歌集の恋の部を講読する。三代集の時代が過ぎ、新しい歌風を示すこの集はいろいろな意味で興味深い。しかし、古今、新古今には注釈が多いが、その中間に成立した諸集の研究は、まだこれからと感じられることが多い。

そういう条件から、本集にとりくむのはやりがいのあることと思われる。

<後期>

前期の教材を継続する予定である。

【授業計画】

はじめ二回ほど概説と作業を教員が行ない、以後学生に発表させる。

【評価方法】

レポートを課する。

【テキスト】

新日本古典文学大系 後拾遺和歌集(岩波書店 3,600円)

国文学演習 I (4) a・b

山下宏明

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

『平家物語』を読む。これまでの『平家』論は、戦後の文学批評史の中で、作家論の一環として行われてきたのであるが、最近の動きとして、読者論・受容論の観点が必要されている。こうした状況を受けて、『平家物語』を芸能の語り物として読む。そのために諸本の中の、いわゆる語り系のテキストをとりあげ、現行の語りのあり方に注目する。語り物として読むためである。声の文化と文字の文化の交流を考える。さらに、その語りが行われた中世に配慮し文化史として、その背後にあった源氏将軍の意向をも考慮することから、語り系以外のテキストにも配慮する。

【授業計画】

参加者をグループに分けて作業班を構成し、報告が一巡したところで、グループを解体し、改めて作業班を構成しなおして、グループに偏りが生じないように配慮する。多様な思考性を有する学生相互の交流をはかりたい。発表の方法、自己の表現方法にも反省の機会を与えることになる。

【評価方法】

平常の出席状況、報告の内容と方法を毎回評価しつつ、各期の最後にレポートの提出を求めて総合的に判定する。

【テキスト】

山下宏明・梶原正昭共編『平家物語』岩波文庫4冊 必要に応じて、諸種プリントやスライドをも用意する。

国文学演習 I (5) a・b

阿部一彦

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

近松門左衛門の<世話浄瑠璃>の典型的作品である『冥途の飛脚』を影印本を使って解説・鑑賞していく。金銭と恋愛そして封建制度、そこにおける町人の生きざま(義理と人情)がどのように描かれているかを検証してみたい。『曾根崎心中』・『心中天の網島』をも視野に入れ、現代的視点からも問題にしていこうと思っている。

<前期>

最初に近松の生涯についての論文を受講者全員で輪読していく。次に『曾根崎心中』を読み、内容を把握する。作品の要点を指摘するとともに、「世話浄瑠璃」の第一作としてのこの作品の日本の戯曲・文学史上における意義を明確にしておく。文楽の上演をビデオで鑑賞する。『冥途の飛脚』(影印本)を、受講者が、分担して解説、調査、研究、発表をおこなう。およそ「上の巻」を終えることができるであろう

<後期>

引き続き「中・下の巻」に進んでいく。最後に、受講者を三グループに分け、<人物論>・<悲劇論>・<義理と人情>の観点から問題を提起し、全員で討論し、検討していく。外国人向けのビデオを見て総括とする。なお、機会をみて大阪の国立文楽劇場に足を運びたいと思っている。

【授業計画】

受講者の分担による解説・調査・研究を発表する。

【評価方法】

自らの分担の発表が評価の対象となる。そのうえ、前・後期ともにレポートを課す。

【テキスト】

曾根崎心中・冥途の飛脚(岩波文庫)

国文学演習 I (6) a・b

小倉 斉

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

〈近代小説研究—作品をどう読み、どう論じるか—〉

近代の代表的な小説の精読を通して、「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法や文学研究の方法を実践的に身につける。2～3名のグループで、一つの作品あるいは作品のある部分を担当し、それぞれ読み、話し合い、調べ、分析してきたことを、レジュメにより報告する。自分の〈読み〉と〈考え〉を大切にしつつ、それを対象化するために、すぐれた論を読み、質疑応答にも積極的に参加することが望まれる。

【授業計画】

〈前期〉

- 1 〈読む〉という行為および〈読み〉の実例（1回）
- 2 『それから』（4回）
- 3 『門』（4回）
- 4 『彼岸過迄』（4回）

〈後期〉

- 1 『行人』（4回）
- 2 『ころも』（4回）
- 3 『道草』（3回）
- 4 『彼岸先生』（2回）

【評価方法】

学期末のレポートを中心に、レジュメの内容、発表・質疑応答の様子などから総合的に評価する。

【テキスト】

〈前期〉

それから（夏目漱石 岩波文庫）
門（夏目漱石 新潮文庫）
彼岸過迄（夏目漱石 新潮文庫）

〈後期〉

行人（夏目漱石 新潮文庫）
ころも（夏目漱石 ちくま文庫）
道草（夏目漱石 新潮文庫）
彼岸先生（島田雅彦 新潮文庫）

国文学演習 I (7) a・b

都築久義

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

近代の著名な作家を学生の希望に応じてとりあげ、グループ研究する。

〈前期〉

3人（学生の希望でとりあげる作家を決める）

〈後期〉

3人（学生の希望でとりあげる作家を決める）

【授業計画】

グループ（4～5人）を編成して、グループ単位で発表。発表を中心に全員で討議する。

【評価方法】

平素の学習態度。

【テキスト】

なし。

国文学演習 I (8) a・b

細谷 博

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

太宰治等の作品を対象として〈読みとり〉の現場を問題とし、自分が実際にどのような読み方をしているのかをまずしっかりと把握しつつ、さらなる〈読み〉の可能性をつかむことを目的とする。

具体的な作品本文を丁寧に読みとることと、それを的確に表現すること、さらに、作品全体を端的にとらえて評価し批評することを同時に試みる場としたい。

前期は、主に太宰治を中心とした作品読解。後期は前期の進み具合を見て決める。

【授業計画】

<前期>

第1回 研究方法指導、発表日程・担当の決定

第2～12回 作品研究発表・質疑応答

第13回 まとめ、レポート提出

<後期>

第1回 研究方法指導、発表日程・担当の決定

第2～12回 作品研究発表・質疑応答

第13回 まとめ、レポート提出

【評価方法】

出席状況と担当発表、レジュメ、質疑応答、レポート等から総合的に評価する。

【テキスト】

女生徒（太宰治著 角川文庫）

津軽（太宰治著 新潮文庫）

お伽草紙（太宰治著 新潮文庫）

人間失格 グッド・バイ他一篇（太宰治著 岩波文庫）

太宰治（細谷博著 岩波新書）

国語学演習 I a・b

増井典夫

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

方言と共通語。日本語の変遷。

日本語の歴史を考えながら、自分たちの母語（生まれ持っている言葉）である方言の持つ意味を考え、新しい日本語表現の問題やその研究の可能性を考えていく。なお、後期のレポートの一部として、「言葉に関するアンケート調査の実施とその報告」を課す。

【授業計画】

テキストの担当範囲を割り当て、前期に1回、後期に1回の発表をしてもらう。

その他、ビデオを見ての感想提出や、プリント配布による講読も行う。

【評価方法】

レポート等によって評価する。

なお、毎時点呼によって出欠席を調査する。

【テキスト】

新・方言学を学ぶ人のために（徳川・真田編 世界思想社）

日本語ウォッチング（井上史雄 岩波新書）

中国文学演習 I a・b

寺尾 剛

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

〈李白の女性詩・恋愛詩〉

盛唐の大詩人李白の女性・恋愛を扱った作品を、清の王琦の注釈（『李太白全集』）に基づいて詳細に分析してゆく。中国古典文学に関する高度な知識（とりわけ文法・文化的背景・歴史・地理・資料調査能力）を養ってゆくつもりなので、その覚悟で授業に臨んで欲しい。前・後期それぞれ6～8首程度読む。特に楽府体のジャンルの作品。

【授業計画】

2～3人ずつの班に分かれ、毎回班ごとに事前に調査し、まとめた資料を提出し、それに基づき発表する。

【評価方法】

前後期各1回のレポート提出を求めるが、演習時の発表や発言も考慮して成績評価を行う。

【テキスト】

- ・プリント。
- ・漢文研究の手びき四訂増補版（中国詩文研究会 750円）
- ・中国文学語学文献案内第四次修訂本（中国文学語学文献案内編集委員会 750円）
- ・李白詩選（岩波文庫 720円）

国文学演習 II (1) a・b

島田修三

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

〈天平季節歌の考察〉

『萬葉集』巻8には大伴家持をはじめとする奈良天平期の歌人による四季の歌 250首余りが「雑歌」「相聞」の部立に収録されている。本授業では、この歌群の子細な読解を通して、四季の自然と各歌人の歌風との関係、大伴家文化圏と歌の場の問題、自然観の個性化といった諸問題を考えてみたい。

【授業計画】

〈前期〉 a

- 第1回～2回 巻8の概観
- 第3回～8回 春の歌 演習発表
- 第9回～11回 夏の歌 演習発表

〈後期〉 b

- 第1回～2回 夏の歌 演習発表
- 第3回～9回 秋の歌 演習発表
- 第10回～11回 冬の歌 演習発表
- 第12回 総括

※原則として一人数首の作品を担当し、指示に従った調査結果のレジユメの用意をしなければならない。発表に基づいて、受講者や島田の質疑が行われる。

【評価方法】

出席状況、授業期間中の発表、学期末レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

〈前期・後期〉

萬葉集（訳文篇）（佐竹昭広ほか著 塙書房）

国文学演習Ⅱ（２） a・b

久保朝孝

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

中古文学作品の読解と研究との応用的方法を、実践的に身につける。

『紫式部日記』は寛弘五年（1008）秋から同七年正月までを範囲として、紫式部が仕える彰子中宮の二度にわたる出産前後の行事や宮廷での見聞等を、女房の立場から克明に記述する。そこに見られる現実凝視の行きつく先はどこか。

作品を読み解きながら、作者自身の内省的記述と客観的描写とが交錯する形で展開する作品構造の意味、あるいは消息（手紙）混入の問題など、この日記が抱えるさまざまな問題について考察したい。

なお、夏季休業中に2泊3日の京都・奈良ゼミ旅行（35,000円）を、また、必要に応じてゼミ合宿を行う。

【授業計画】

- 一、複数のグループを編成する。
- 二、以下の諸点についての分担調査報告（準備学習）。
 - ア、成立・形態・諸本
 - イ、研究文献（注釈書）
 - ウ、研究文献（上記以外）
 - エ、研究状況
 - オ、登場人物と時代状況
- 三、担当範囲を決定する。
毎回2頁前後
- 四、研究報告→質疑→回答→討論→助言（毎回）
- 五、学修の成果をレポートにまとめる。

【評価方法】

次の諸点を総合して評価する。配分については授業時に説明する。

- ア、出席状況
- イ、担当範囲についての研究発表（年間数回）
- ウ、授業中の発言（質問・批判等）
- エ、レポート

【テキスト】

紫式部日記 紫式部集（新潮日本古典集成 山本利達校注 新潮社2,200円税込）

国文学演習Ⅱ（３） a・b

岩下紀之

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

『とはすがたり』を読み、中世後宮の女流文学を考える。本年は巻四から読む。

<前期>

宮内庁書陵部本の影印本を使用する。この作品の唯一の伝本で江戸期の書写であり、発見されたのが昭和になってからということで、解釈上問題が多い。諸注にも大きなひらきがあり、学生諸君にも新見を提出する可能性がひらけている。

<後期>

前期から継続する。

【授業計画】

はじめに概説と具体的な指示を行なう。

【評価方法】

レポートを課する。

【テキスト】

とはすがたり 四（笠間書院）

国文学演習Ⅱ（４） a・b

山下宏明

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

幸若舞の世界を読み、中世の芸能および、その文化史的状況を考える。

これまで、中世芸能としては、能・狂言が主流としてとりあげられ、今日まで伝統文化として重要視されている。しかし現実には、能は、ある時期、敬遠され、別に幸若舞が、主として足利政権のもと武士社会で歓迎されていたむきがある。能は、むしろ徳川政権のもと、その庇護を受けることによって、今日までの座を獲得したとも言える。一方の幸若舞が、室町の中期以後、芸能の主軸をなした。最近、文学作品を文化史のなかでとらえようとする動きが顕著になりつつあり、こうした状況の中で幸若舞が脚光を浴びつつある。この世界は、実は先行の平家琵琶としての平家物語や保元物語・平治物語、さらには義経記・曾我物語など語り物に取材するものが多く、この点、能に比べても全く遜色がない。いわば中世文化の未知の分野として検討してみたいというのが目的である。これとの対照のもと、改めて能・狂言の位置が相対化されて浮かび上がってくることだろう。

【授業計画】

すでに数種類の活字のテキストが刊行され、一応の注釈もある。それらの不足する面を、学際的に補足し、他のジャンルの世界の受容と変容を考えつつ、テキストの読みを試みる。参加者を数班に分けて報告の準備を行わせ、時に、その班をいったん解体して再編成を行いながら、作業を進める。その発表の場で、自己表現の方法をも指導する。今期はいわゆる曾我物を取りあげる。

【評価方法】

演習は、参加し、報告と討論を行うことに意味がある。したがって出席状況が、何よりの評価の基準になる。それと報告の成果、それを踏まえた毎期のレポートを審査評価の対象とする。

【テキスト】

新日本古典文学大系『舞の本』麻原・北原編 岩波書店
このほかに活字体のテキスト、注釈・写本の影印本もあり、すでに刊行されている資料で十分間に合う。

国文学演習Ⅱ（５） a・b

阿部一彦

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

井原西鶴の町人物の傑作、『日本永代蔵』を影印本で解読し、考察する。「立身出世談や破滅談を通して金銀万能の町人社会の諸相を鋭く抉りだした」（『近世文学研究事典』）といわれる『日本永代蔵』のなかから十編ほどの短編小説を選び、さまざまな方面から考察を加えていく。

<前期>

各短編を受講者が分担して、本文の解読、語釈、口語訳、問題点の指摘と研究、構成と概要、小説としての達成等々の作品研究をおこない、発表する。

<後期>

前期に引き続いて作品の研究をする。

それとともに、この作品は<成立論>がとくに問題にされてきているので、その代表的な論文を取り上げて検討していきたい。そのことによって、近世文学「研究」の初歩的な方法の修得の一助としたい。また卒論執筆に必要な文献・論文の扱い方についても学んでいくことになるであろう。

【授業計画】

上記のごとき演習形式で進めていく。

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

未定。

国文学演習Ⅱ（6） a・b

小倉 斉

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

〈澁澤龍彦を楽しく読む方法—綺想のアラベスク〉

澁澤龍彦が晩年に書き残した引用の織物とでも言うべき不思議な味わいの小説の中から、『唐草物語』『ねむり姫』を取り上げ、可能な限りプレテキスト=引用文献をたどり、参照する形で、個々の物語がどのようにしてできあがっているのかを明らかにしていきたい。まずは、引用がいかなる形でなされるか、そして、個々の引用が一枚の織物として完成したとき総体としてオリジナリティはどういう形で浮かび上がってくるのか、などについて考察する。

一つの物語について2～3名のグループで順次担当し、それぞれ読み、調べ、話し合い、分析してきたことを、レジュメによって報告する。一つの物語について、2時間（授業2回分）かけて読むのを原則とする。1時間目は典拠の探索ならびに確認等。2時間目は物語全体の読み。

【授業計画】

〈前期〉：『唐草物語』を読む

- 1 「空飛ぶ大納言」による〈読み〉の実例
- 2 「女体消滅」
- 3 「三つの髑髏」
- 4 「金色堂異聞」
- 5 「六道の辻」
- 6 「蟹気楼」

〈後期〉：『ねむり姫』を読む

- 1 「ねむり姫」
- 2 「狐媚記」
- 3 「ほろんじ」
- 4 「夢ちがえ」
- 5 「画美人」
- 6 「きらら姫」

【評価方法】

学期末のレポートを中心に、レジュメの内容、発表・質疑応答の様子などから総合的に評価する。

【テキスト】

- 唐草物語（澁澤龍彦 河出文庫）
ねむり姫（澁澤龍彦 河出文庫）

国文学演習Ⅱ（7） a・b

都築久義

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

卒業論文テーマの作家を中心に演習する。
卒業論文の進行状況を考慮して進行する。

【授業計画】

個人発表。発表内容を中心討論する。

【評価方法】

平素の学習態度。

【テキスト】

国文学演習Ⅱ（8） a・b

細谷 博

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

近代・現代文学の読解、研究を行なう。何より作品を丁寧に読みたいと思う者、読むこと、そして書くことを通して、何事かをたしかに考えてみようと思う者を対象とする。自己の〈小説読み〉の力——言葉による人間形象の把握力——と、他者へむけての表現と討論の力をつちかうことを目的とする。

谷崎潤一郎等の作品を対象として〈読みとり〉の現場を問題とし、自分が実際にどのような読み方をしているのかをまずしっかりと把握しつつ、さらなる〈読み〉の可能性をつかむ訓練を行う。

前期は谷崎潤一郎を中心とした読解研究。後期は各自のテーマにそって進める。

【授業計画】

＜前期＞

- 第1回 研究方法指導、発表日程・担当の決定
- 第2～12回 谷崎潤一郎作品等研究発表・質疑応答
- 第13回 まとめ、レポート提出

＜後期＞

- 第1回 研究方法指導、発表日程・担当の決定
- 第2～12回 各自のテーマ別研究発表・質疑応答
- 第13回 まとめ、レポート提出

【評価方法】

出席状況と担当発表、レジュメ、質疑応答、レポート等から総合的に評価する。

【テキスト】

- 刺青・秘密（谷崎潤一郎 新潮文庫）
- 痴人の愛（谷崎潤一郎 新潮文庫）
- 春琴抄（谷崎潤一郎 新潮文庫）
- 細雪上・中・下（谷崎潤一郎著 新潮文庫）
- その他、授業時に指示する。

【参考文献・資料】

凡常の発見 漱石・谷崎・太宰（細谷博著 明治書院）

国語学演習Ⅱ a・b

増井典夫

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

方言と共通語。日本語の変遷。
現代日本語の問題点や方言の問題点等を考えながら新しい日本語研究の可能性を考えていき、卒業論文につながるものを求めていく。

【授業計画】

テキストの担当範囲を割り当て、前期に1回、後期に1回の発表をしてもらう。

その他、ビデオを見ての感想提出や、プリント配布による講読も行う。

【評価方法】

レポート等によって評価する。
なお、毎時点呼によって出欠席を調査する。

【テキスト】

- 敬語はこわくない（井上史雄 講談社現代新書）
- どうなる日本のことば（佐藤・米田編 大修館書店）

中国文学演習Ⅱ a・b

寺尾 剛

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

＜中国古典文学研究法＞

中国の古典文学に関する研究法・調査法の養成に重点を置く。テキストは受講生との相談によって決定するつもりであるが、希望がなければ、唐代伝奇小説・『白氏文集』・『宋代詞集』を扱うことにしたい。

＜前期＞

・共通のテキストを用い、輪読し討論する。

＜後期＞

・卒論の途中経過や自分の関心を持っていることなどをテーマに発表。

【授業計画】

前期は輪読形式、後期は発表形式で進める予定。

【評価方法】

レポート及び発表の内容で決める。

【テキスト】

- ・プリント
- ・漢文研究の手びき四訂増補版（中国詩文研究会 750円）
- ・中国文学語学文献案内第四次修訂本（中国文学語学文献案内編集委員会 750円）

国文学特殊講義 古典基礎 a

久保朝孝

1年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

古典文学の読解と研究に必要な基礎的事項について、上代・中古を範囲とし、具体例に即しながら分かりやすく、いねいに解説する。

古典学修に不安を感じる者は、できるだけ履修することが望ましい。

【授業計画】

1. 古典と文法
2. 古典と国語学
3. 古典の書誌学
4. 古典の文献学
5. 古典と文献資料(1)歴史関係
6. 古典と文献資料(2)辞書事典
7. 古典と文献資料(3)研究書等
8. 図書館の利用法
9. 平安貴族の生活環境
10. 平安貴族の暮らし
11. 古典と宗教・民俗
12. 古典文学の研究テーマ

【評価方法】

出席状況と期末筆記試験及び学外の自主的学習を総合して評価する。配分については授業時に説明する。

【テキスト】

別冊國文學No.42『古典文学基礎知識必携』（學燈社）。その他必要に応じて、印刷物を配布する。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

国文学特殊講義 古典基礎b

阿部一彦

1年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

古典文学の読解と研究に必要な基礎的事項について、中世・近世を範囲とし、具体例に即しながら分かりやすく、いねいに説明する。

古典学修に不安を覚える者は、できるだけ履修することが望ましい。

【授業計画】

1. 日本の伝統文化と現代
2. 〈花・花見〉の文学史
3. 〈文字〉の文学史
4. 古典文学とテキスト—芭蕉自筆本『奥の細道』
5. 古典文学を読む『徒然草』137段
6. 古典文学と時間
7. 古典文学と空間
8. 古典文学と自然
9. 古典文学と芸能
10. 古典文学と絵画
11. 古典文学と出版
12. 文献調査・検索入門

【評価方法】

出席及び筆記試験による。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

追って発表する。

国文学特殊講義 漢文基礎

寺尾剛

1年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

漢文が嫌い、漢文が読めない、漢文の魅力を知りたいといった学生のために特に設けた、漢文の基礎中の基礎を教授する講座。おそらく多くの学生諸君は、高校時代から、漢文句法はただただ暗記するものとして教え込まれてきていてウンザリしていることと思う。この授業はそういった諸君に対して、「なぜ」「どうして」という疑問を徹底的に解きほぐしていくことに主眼を置く。「なぜ漢和辞典は必要なの?」「どうして再読文字なんていう面倒なものがあるの?」などといった根本的な疑問にも答えていくつもりである。そして、この講座が終る段階までには、諸君にも簡単な漢作文が作れるところまでレベルアップさせるというのが本講座の最終目標である。国文学には漢文がつきものである。漢文拒避症からいち早く脱却して、楽しく漢文が読めるようになることを切に願うものである。

【授業計画】

漢文法を中心に行なう。折に触れて文化的背景の説明も行なう。

【評価方法】

平常点及び試験。

【テキスト】

「社会人のための漢詩漢文小百科」(大修館書店 1,000円)

国文学特殊講義 王朝物語 a・b

高橋 亨

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

平安朝物語を読む上で必要な諸問題について、『宇津保物語』俊蔭の巻の講読をとおして論じていく。本文批判や注釈、解釈と文法、社会文化史的な文脈などについての諸問題を、『宇津保物語』俊蔭の巻の本文を読みながら講義する。

本年度は『宇津保物語・俊蔭 全訳注』をテキストとして、物語研究の方法と具体的な個別問題について考えていく。

前期のはじめには、『宇津保物語』の全体について、必要な基礎知識を概説する。その後で、テキストを詳しく読み、解釈に基づいた読みの諸問題を論じていく。物語と神話や漢文伝承との関係、和歌的な表現法と和文との関係などが中心となる。

後期は、物語の表現と構造に加えて、音楽論や漢詩文をふまえた文学史など、より広いテーマへと展開していく。

【授業計画】

テキストにそって読み進めるが、それぞれの部分で個別の問題を分散的に論じていく。受講者はそれを各自で整理してまとめながら理解する必要がある。

【評価方法】

各期末の試験またはレポートにより、出席回数を考慮して採点する。

【テキスト】

宇津保物語・俊蔭（上坂信男・神作光一 講談社学術文庫 1,050円）

国文学特殊講義 源氏物語 a・b

高橋 亨

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

文学作品を読む上で必要な諸問題について、『源氏物語』帯木の巻の講読をとおして論じていく。本文批判や注釈、解釈と文法、社会文化史的な文脈などについての諸問題を、『源氏物語』帯木の巻の本文を読みながら講義する。本年度は『帯木』（大島本）をテキストとして、文学研究の方法と具体的な諸問題について考えていく。

前期のはじめには、『源氏物語』の全体について、必要な基礎知識を概説する。その後で、テキストを詳しく読み、解釈に基づいた研究上の問題点を論じていく。和歌と物語との関係、語りの表現法などが中心となる。

後期は、語りの表現構造に加えて、芸能論や女性論などより広いテーマに展開していく。

【授業計画】

テキストにそって読み進めるが、それぞれの部分で個別の問題を分散的に論じていく。受講者はそれを各自で整理してまとめて理解する必要がある。

【評価方法】

各期末の試験またはレポートにより、出席回数を考慮して採点する。

【テキスト】

帯木（大島本）（高橋亨編 おうふう 971円）

国文学特殊講義 仏教文化論 a・b

渡辺信和

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

日本における文化の発展に多大な影響を与えた仏教は、その渡来から日本独自の仏教思想の形成まで、さまざまな様式と美術を残してきた。本講は日本文学の下地を担うものとしての様々な仏教文化を多方面から確認し、日本文学の基礎的な知識を身につけることを目途とする。

講義には具体的に建築、彫刻、絵画、装飾・模様などを取り上げその背景となる仏教思想を踏まえつつ見ていく。

【授業計画】

最初に仏教文化について定義を行い、前期は仏教の伝播をその造形を中心に、日本に伝来した仏教が、日本化していく過程を見る。

後期は、具体的に建築、荘厳、彫刻、絵画などをあげてその流れを見る。さらに、花祭り（灌仏会）や盆（盂蘭盆会）、などの仏教行事、絵解き、説経などの布教、葬送儀礼などにもふれてみる。

後期にはそれぞれに興味を持ったテーマについて個人ないし小グループで発表してもらう。

【評価方法】

前期はレポート。

後期は発表をまとめたレポート。

【テキスト】

講義時に配布。

【参考文献・資料】

岩波文庫『仏教』上・下、岩本裕『仏教説話の源流と展開』（1978）、その他至文堂の日本の美術シリーズの各冊など。

国文学特殊講義 仏教文学 a・b

渡辺信和

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

日本仏教文学とは、日本における仏教思想の影響下に成立した文学作品の謂である。すでに『万葉集』に沙弥満誓の詠歌を見ることができるとして、仏教の伝来からそう遅くない時期に文学への取り入れが始まり、爾来長く仏教文学としての文学作品が作られてきた。特に盛んであったのは、院政期から中世前半期で、多く仏教説話集として編纂された。物語や和歌、歌謡、謡曲などに見られる仏教思想も、それらを仏教文学としてとらえることを可能としている。

今年度は、室町期に成立した御伽草子『花世の姫』を影印で読む。『花世の姫』は、『姥皮』、『鉢かづき』と共通する観音霊験譚で、昔話的な要素を持つ。

本講を通じて、室町時代の作品の読みを考え、その仏教意識を探る。

【授業計画】

講義は影印本で行う。講義時に指名して本文の音読、解釈をしてもらい、その文意、背景に存する説話などについて考察する。講義時に「古語辞典」で語義、文法事項を確認し、有職故実について「国語便覧」を参照することがあるので両書を必携とする。またくずし字が不得手な人はくずし字辞典などを用意すること。

第1講は仏教文学概論と「御伽草子」について

第2講以下前期は上巻を、後期は下巻を読む。

読み終えたら、異本について考察を行う。

【評価方法】

前期は筆記試験を行う。講義時の音読・解釈などの発表を斟酌する。

後期はレポート提出による。

【テキスト】

広島大学図書館『花世の姫』影印を講義時に頒布。

【参考文献・資料】

『室町時代物語大成』10、市古貞次『中世小説の研究』（1955）

国文学特殊講義 和歌・連歌 a・b

岩下紀之

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

日本古典文学の核心ともいえるべき、和歌と連歌を、最も代表的な歌論・連歌論の講読を通じて、概観する。

<前期>

藤原定家自筆本近代秀歌の影印本を教材とする。写本の解説の手ほどきをし、あわせて、定家の記述を追って背景の説明を適宜、プリントを配布しつつ説明する。定家歌論を読みとくことはもちろん最終的な目標である。

<後期>

心敬の御所本ささめごと（上）の影印本を教材とする。連歌は現代では縁のうすい文芸となっているので、その概説をおこない、連歌史についても説明する。

【評価方法】

学期末の試験をもって評価する。

【テキスト】

近代秀歌（武蔵野書院）

御所本ささめごと 上（笠間書院）

写本解説がはじめての受講者は仮名変体集（新典社）を購入しておくこと。

国文学特殊講義 近代詩 a・b

佐藤洋一

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

近現代詩・谷川俊太郎詩のレトリック・表現論

- 1、谷川俊太郎を中心に、詩と詩人の固有な特質と方法を言語・構造・レトリック（言語技術）の観点や、戦後詩以降の現代詩の変遷、1950年代～80年代の歴史的社会的状況との関連等からも考察を行なう。
- 2、文化研究・批評（カルチュラル・スタディーズ）の枠組みの中で、「近代」という制度・戦争と国家・メディアと詩人の表現等の視点から近現代詩の意義と位置づけについて考察する。

【授業計画】

- 1、谷川俊太郎を中心に、戦後詩から現代詩の変遷・詩的言語の構造やレトリックを考察するとともに、近現代詩研究の基本的な方法の体得と主体的な課題意識を育成することが主要なねらいの一つである。
- 2、前後期とも、前半は配付プリントやテキストによる講義を行い、後半は簡単な演習形式で進める。演習はグループによる資料作成と発表・討議を中心に行なう。
- 3、前期は「基礎編」として、詩を読む魅力と方法や多様な個性をもつ近現代詩の諸相について述べ、谷川俊太郎の詩的言語について、子ども・生の意識・世界（コスモロジー）・言葉遊びと日本語の探究等の視点から考察する。後期は「展開編」として、谷川俊太郎詩を鮎川信夫等の戦後詩人や大岡信・茨木のり子等の同世代詩人、それ以降の現代詩人達との対比の中で考察したり、1950年～80年代の文化的歴史的な状況の中でより深く考察することが中心になる。

【評価方法】

- 1、出欠席。毎回出欠を確認し講義や発表に対する意欲・講義内容への課題意識や意見等を平常点に加える。
- 2、演習形式の資料作成・報告・発表の内容。詩の分析と考察・先行文献の理解と資料操作・発表と討議の内容、小レポート等を評価に加える。

【テキスト】

『空の青さをみつめていると・谷川俊太郎詩集Ⅰ』、
『朝のかたち・谷川俊太郎詩集Ⅱ』（ともに角川文庫）
その他、配付プリントによる。

国文学特殊講義 現代短歌 a・b

篠弘

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

短歌は伝統的な定型詩だが、いかに人間を表現しうる詩であるかを明らかにしたい。明治40年代の自然主義文学から影響を受けた短歌が、人生の時間を抉り出す詩として、その展開してきた魅力ある個性を紹介するとともに、とくにこの半世紀の多彩な作品を解説したい。そのモチーフ、感性や美意識、歴史認識から、技法や用語にまで言及したい。短歌を学ぶことによって、詩的表現の真髄を知ることができよう。

前期 a：Ⅰ 近代短歌から現代短歌へ

1. 1 近代短歌の起点
1. 2 近代短歌の代表的歌人
1. 3 近代短歌の作風と特徴

後期 b：Ⅱ 現代短歌の展開

2. 1 戦後短歌の成果
2. 2 1960年代からの短歌の魅力
2. 3 時代に生きる人間を詠む短歌

【授業計画】

配布するプリントならびにテキストを用いて講義する。予習は不要。感想を問うなどして、作者や作品にたいする理解を深める。

【評価方法】

各学期末に試験によって、作品の鑑賞力を評価する。あるいはレポート提出をもとめる。また、作歌を試みる。

【テキスト】

NHK短歌入門 生き方の表現（篠弘著 日本放送出版協会刊 1,300円＋税）

国文学特殊講義 批評理論 a・b

佐藤洋一

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

現代・文学批評理論

一 〈批評〉〈方法〉をめぐる近現代文学入門一

文学批評理論の紹介と考察・作品による具体的検討等を通して、私たちを取り巻く複雑で多面的な「現代」「世界」を文学はどのように描いてきたのか、それを今、どのように読み解いていくかについて検討する。また、現代人の生き方や精神の直面する諸問題や文学作品をめぐるさまざまな課題等も扱っていく。

【授業計画】

- 1、講義では、特に「現代文学作品」を例としながら取り上げるが、現代文学を取り巻く世界（読者・マスメディア・現代社会・人間関係等）も、研究方法（読者論・フェミニズム批評等）も多様化してきている。
- 2、毎回トピック形式でテーマを設定し具体的な作品に即して考察検討していく予定。例、「近代文学と現代文学」「私小説の方法」「描写・語りの技術」「ファンタジーと幻想」「フィクションと事実」「フェミニズムと現代文学」「無意識の発見と主体の分裂」等。
- 3、前後期とも、前半はテキスト・プリントによる講義を行い、後半は学生によるグループ毎の簡単な演習形式の報告・資料作成等を通して発表と討論を行なう予定。特に、前期は「基礎編」としてテキスト講読や資料によって批評理論の歴史と変遷・代表的な理論の背景と特徴・作品と批評理論の関係等について、後期は「展開編」として前期の内容を更に深め、具体的な作品批評を中心に検討する。

【評価方法】

- 1、出欠席。毎回出欠を確認し講義や発表への意欲・講義内容への課題意識や考察等を平常点に加える。
- 2、演習形式の資料作成・報告や発表内容や、数回の小レポートの内容等。

【テキスト】

文学部唯野教授（筒井康隆著 岩波現代文庫）、ナイフ（重松清 新潮文庫）、その他、配布プリントによる。

国文学特殊講義 現代小説 a・b

小倉 斉

1年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

〈現代小説の方法—作品をどう読むか—〉

「小説を読む」とはどのような行為なのか。この点について、現代日本を代表する小説の精読および方法意識の検討を通して考察し、言語表現としての文学を研究する方法を身につける。「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法を習得することが目標である。

【授業計画】

〈前期〉

- 1 観念の崩壊と〈新感覚〉
- 2 大岡昇平『野火』
- 3 三島由紀夫『金閣寺』
- 4 安部公房『砂の女』
- 5 遠藤周作『海と毒薬』

〈後期〉

- 1 現代小説の方法と課題
- 2 村上春樹『風の歌を聴け』
- 3 本間洋平『家族ゲーム』
- 4 山田太一『異人たちとの夏』
- 5 村上 龍『五分後の世界』

【評価方法】

学期末の試験(自筆ノート持ち込み可・論述問題中心)によって評価する。

【テキスト】

〈前期〉

- 野火 (大岡昇平 新潮文庫)
- 金閣寺 (三島由紀夫 新潮文庫)
- 砂の女 (安部公房 新潮文庫)
- 海と毒薬 (遠藤周作 新潮文庫)

〈後期〉

- 風の歌を聴け (村上春樹 講談社文庫)
- 家族ゲーム (本間洋平 集英社文庫)
- 異人たちとの夏 (山田太一 新潮文庫)
- 五分後の世界 (村上 龍 幻冬舎文庫)

国文学特殊講義 郷土文学 a・b

都築久義

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

郷土の作家と郷土を描いた作品を研究する。

〈前期〉

郷土出身の作家を10人ほどとりあげる。

〈後期〉

郷土を描いた作品(近代、古典)を10作品くらいとりあげる。

【授業計画】

作品、作家を1回ごとに変える。

【評価方法】

テストを実施。

【テキスト】

プリントを配付。

国文学特殊講義 児童文学 a・b

堀尾幸平

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

1. 児童文学とは何か。その呼称、特質、形態、研究方法等、児童文学理論を研究する。
2. 児童文学が、どのように発祥、展開してきたか、わが国の文学史を把握し、その今後を展望する。
3. 児童文学をテーマにした小論文を書き、実際に童話を創作する。

【授業計画】

〈前期a〉

1. 児童文学とは何か
2. 明治期の児童文学
3. 三輪弘忠
4. 巖谷小波
5. 大正期の児童文学
6. 小川未明、鈴木三重吉
7. 千葉省三、浜田廣介
8. 童謡、少年詩、少女小説
9. 児童文学研究史
10. 試験

〈後期b〉

1. 昭和期の児童文学
2. 佐藤紅緑、佐々木邦
3. 宮澤賢治
4. 新美南吉
5. いぬいとみこ、松谷みよ子
6. 中川李枝子、灰谷健次郎
7. 平成期の児童文学
8. 児童文学論文講読
9. 創作童話
10. 試験

【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

日本児童文学論（堀尾幸平著 中日文化 2,200円）

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

国文学特殊講義 日本演劇史

林和利

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

日本の演劇史を、古代の神楽から現代の前衛劇にいたるまで、その流れを追って講じる。とくに、伝統演劇である能・狂言・歌舞伎・文楽については詳しく説く。

【授業計画】

- 第1回 授業の目的と方針を提示。
- 第2回 日本演劇史系統図を示して通史を概説する。
- 第3回 演劇の発生について
- 第4回 神楽について
- 第5回 伎楽について
- 第6回 舞楽について
- 第7回 散楽について
- 第8～10回 能について
- 第11～12回 狂言について
- 第13～14回 歌舞伎について
- 第15回 文楽について

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により、総合的に評価する。

【テキスト】

日本文化論序説（林和利 青山社）

国文学特殊講義 伝統芸能の世界

林和利

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本の伝統芸能「舞楽」「能」「狂言」「歌舞伎」「文楽」について、その歴史と現状・作品・上演形態などについて詳しく講じる。

【授業計画】

- 第1回 授業の目的と方針を提示。
- 第2回 日本芸能演劇史概説
- 第3回 能・狂言入門
- 第4回 ♪
- 第5回 名人の芸
- 第6回 ♪
- 第7回 ♪
- 第8回 狂言の世界
- 第9回 ♪
- 第10回 足拍子の効果
- 第11回 ♪
- 第12回 名古屋の能楽
- 第13回 ♪

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

日本文化論序説（林和利著 青山社）

国文学特殊講義 日本映画史

梶川忠

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

学生であるきみたちは、年に何本の日本映画をみるだろうか。日本映画はみなくていいものになっていないだろうか。

実際には、日本映画は、映画が誕生してすぐに世界の第一線にたっている。世界映画史の中で日本映画は重要な一角を占めているのだ。そういう日本映画を、ビデオを活用しながら、少しずつたどってみることにする。

【授業計画】

- 第1回 日本映画の誕生（明治から大正時代）
- 第2～4回 戦前の日本映画（昭和15年頃まで）
様々な現代劇と時代劇
- 第5回 戦争と映画（昭和20年まで）
- 第6～11回 戦後の日本映画（昭和40年まで）
日本映画の全盛期から衰退期
喜劇・メロドラマなどジャンル別
- 第12回 現在の日本映画

【評価方法】

2回のレポートで採点する。

【テキスト】

日本映画（ドナルド・リチイ著 行路社）

国文学特殊講義 文学と映像表現

梶川 忠

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本映画は、日本文学（特に小説）から題材をたくさん得ている。日本文学が盛んでなければ、あるいは日本映画は、存在できなかったかもしれない。いわば日本文学が母であり、日本映画は子供だといえる。

ただしものごとはいい面ばかりではない。日本文学からいつも養分を吸収していることで、日本映画がひ弱になり、現在の衰退を招いたという人もいる。

そういう判断は、しばらく保留しておこう。ここでは個々の小説とその映画化作品とを比較しながら、小説表現の特色や映像表現の特色を探してみたい。

【授業計画】

最初の4回くらいは、向田邦子の「あ・うん」の小説・テレビドラマ・映画を細かく検討する。映像そのものに慣れるためである。

その後は、毎回ひとつの作品を取り上げて検討してゆくのだが、現時点ではどれにするのか決まっていない。数が多すぎてなかなか選択できないからである。予定では、明治時代から年代をたどりつつ、現在にまで到達するはずだ。

90分ほどの長さの映画をまるごと見ていたら、授業がおわってしまう。きみたちはその方がうれしいかもしれないが、残念ながらビデオは担当者が編集した30分くらいのものである。

【評価方法】

2回のレポートで採点する。

国語学特殊講義 ことばの認知科学 a・b

増田尚史

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

認知科学とは、人間の知的活動を、哲学、心理学、計算機科学、神経科学、言語学等の立場から、学際的に探求する学問である。

本講義では、人間の知的活動のうち、特に「ことば」の運用に伴う情報処理活動に着目し、「知覚、記憶、思考、発達（学習）」などの観点から検討を加える。さらに、ヒトの脳についての神経科学的知見を概観し、それを基礎とする言語理解モデルについて講究する。なお、受講者には、授業に出席するだけでなく、その中で実施される各種の実験に積極的に参加することが求められる。

【授業計画】

前期（a）

1. 「ことば」に関わる研究分野
2. 「ことば」をめぐる哲学的議論
3. 「ことば」と知覚システム
4. 「ことば」と記憶システム
5. 「ことば」の獲得と喪失

後期（b）

6. 「ことば」の運用に関わる脳部位
7. 「ことば」の理解に関するモデル
8. 「ことば」の運用規則
9. 「ことば」とコミュニケーション
10. 「ことば」をめぐる今日の問題

ただし、受講者数等に鑑みて、順序および内容に変更を加えることもある。

【評価方法】

出席状況と期末試験の成績とによって、総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜紹介する。

文章表現 a・b

梅田卓夫

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

文章表現の目標を「自分にしか書けないことを、誰にも分かるように書く」ことに置き、ジャンル（詩・小説・評論…）のワクを超えたすべての言語表現に共通する基本事項を学習する。

作品実作の過程で、受講者が自らの言語観・文章観を検討しつつ、より自由で科学的な方法と理論を習得することをめざす。

1. ことばとの自由で柔軟な関係を回復するためのトレーニングを経て、ことばを操ることのたのしさを体験する。
2. 創造的な文章を目標として、いくつかの作品（作文）を試みる。
3. 文章制作過程の、各段階ごとに制作技法をとりあげ、実作体験しながら学習する。
4. 自己の制作経験をふり返りながら、意識の働きと技法の両面において、普遍的法則をさぐりあてる。
5. その結果を、各自に文章表現法として体系化することを試みる。
6. さまざまなジャンルの多彩な文章に触れて、文章表現の可能性をひろげるようにする。

【授業計画】

実作（実習）と理論化のための講義と作品鑑賞、この三つをくり返しながらすすめる。

【評価方法】

授業の中で制作する作品群、および期末試験によって行う。

【テキスト】

文章表現・400字からのレッスン（梅田卓夫著 ちくま学芸文庫）

高校生のための文章読本（梅田卓夫ほか編 筑摩書房 922円）

書道（書写を中心とする） a・b

堀内千恵子

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

王羲之を中心の中国書道史、空海を中心とした日本書道史をベースに、臨書、鑑賞などの実技を通して、書法の習得をはかる。ある程度、心眼が高まったところで、創作活動への意欲を高め、個々の感性によった作品を創作し、今日的な書の表現はどうあるべきか、芸術としての書の在り方を考えさせる。

<前期>（中国書道史と日本書道史をいれかえる場合もある）

中国書道史（古典と臨書 書法と創作）

◇太古～秦代・篆書・書の意義と特質

◇漢代～六朝時代・漢隸の魅力・六朝文化の特徴

◇隋～唐時代・二大書師について

◇宋～現代まで

・多様化した書道・かな・ペン習字

・書道展の鑑賞

<後期>

日本書道史（臨書と創作 書法と書法）

◇奈良朝以前・かな・用筆法

◇奈良時代～平安時代

・遣唐使と三筆

・和様体と三蹟・創作（気脈貫通 遅速緩急）

◇鎌倉時代～現代 少字数の作品 多字数の作品・結構法・用墨法・創作方法

・禅林風と和様体 近代詩文の作品

・空海の書法と人

・寛永・幕末の三筆

【授業計画】

理論（書道史、書論）40分程度 実技 50分程度

必要に応じて、プリント（顔真卿・良寛・空海等）や手本を配布する。

【評価方法】

・出席日数 ・毎回提出の課題の評価（10段階） ・ペン習字 ・創作活動の評価 ・理論の少テスト ・レポートなどの評価 以上の内容の総合評価

【テキスト】

書道の旅（堀内千恵 中部日本教育文化会）

言語学 a・b

増田尚史

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

「言語」という広範な現象のうち、特に形態素としての「単語」と、それに内在する統語的、意味的制約（あるいは規則）とについて、言語学的方法論を踏まえつつ検討を加える。さらに、技術としての形態素解析や、語用論に基づくレトリックの解析についても講究する。なお、個人が晒されている言語環境の再吟味を課題とするショート・レポートを、前後期ともに、適宜課すことを予定している。

【授業計画】

前期（a）

1. 科学としての言語学
2. 言語学の方法
3. 形態論と形態素としての単語
4. 語形成と統語的制約
5. 語形成と意味的制約

後期（b）

6. 形態素解析
7. 語彙データ・ベース
8. 心的辞書
9. 語用論
10. 語用論とレトリック

ただし、受講者数等に鑑みて、順序および内容に変更を加えることもある。

【評価方法】

出席状況とショート・レポートの成績とによって、総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜紹介する。

比較文学 a・b

池谷敏忠

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

比較文学は国際間の（国と国との間の）文学的関係の歴史を調べ研究する学問です。この授業はT.S.エリオットの詩と菊村到の小説など日英米仏文学の影響関係を具体的に考察します。さらにエリオットの詩論と芭蕉俳論などの対比研究も試みます。

【授業計画】

前期は次の事項を予定しています。

- 比較文学の定義と本質
- 日本における *The Waste Land* の受容
- T.S.エリオットと立原正秋
- 共同体と個性の文学
- T.S.エリオットと小林秀雄

後期は次の事項を予定しています。

- T.S.エリオットとベルグソン
- 形面上詩人のアルス・ポエティカ
- 芸術作品の創造と伝統の継承
- Spectrum* に見る西脇詩の原型
- T.S.エリオットと西田幾多郎

テキストを用いて講義・解説します。受講生は必ずテキストを持参して下さい。

【評価方法】

レポートまたはテストと各自の出席状況を加味して評価します。

【テキスト】

比較文学論集（池谷敏忠 見学出版 2,200円）

外国語としての日本語 a・b

石橋千鶴子

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

外国語としての日本語の特徴を文法の面から考察し、日本語教授法を指導する。

【授業計画】

日本語テキストおよびビデオ日本語教材を用いて、初級日本語教育で扱う文型、文法事項の英語による具体的指導法を考察する。外国語としての日本語の文法基礎知識を得ることが期待される。

【評価方法】

期末試験および日常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

- ①新日本語の基礎Ⅰ 本冊漢字かなまじり版（海外技術社研修協会編 スリーエーネットワーク発行）
- ②新日本語の基礎Ⅰ 文法解説書 英語版（海外技術者研修協会編 スリーエーネットワーク発行）

論文

島田修三 久保朝孝 岩下紀之 山下宏明 阿部一彦
小倉 育 都築久義 細谷 博 増井典夫 寺尾剛

4年 通年 必修 8単位

【授業の概要】

論文の書き方全般にわたって指導する。

【授業計画】

各担当教員が指示する。

【評価方法】

論文の学術的価値によって評価する。

【テキスト】

各担当教員が指示する。

国文学史（1） a・b

山下宏明

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

文学研究が批評史の世界で、その相対化が求められている。いわゆる国文学史のこれまでの実態を展望してみればよい。単なる書誌学上の成果の羅列が文学史たりえないことは、早く、1940年代後半から言い尽くされて来たところで、以後、文学批評のあり方と連動して、各種の文学史が試みられた。最近の成果を見れば、このことは明らかである。文学史が、文化史のなかで相対化され、作者論から、読者論の受容史に変化をとげていると言ってよいだろう。こうした状況を踏まえて、広く各ジャンルに目を配りつつ、特に、時代を画する戦乱に注目する。これを戦乱に巻き込まれた人々の側に配慮しつつ、それらの戦乱を、「いくさ」ととらえる見方を設定して、上代の『古事記』・『日本書紀』に始まり、古代社会の『将門記』・『陸奥話記』、『今昔物語集』、『保元物語』、『平治物語』・『平家物語』、南北朝の『太平記』、室町時代の、赤松氏をめぐる後期軍記、これらを取りまく芸能としての能や幸若舞、物語としての『義経記』や、『曾我物語』から近世の近松の時代物まで及ぶ。その間、当然、それらのいくさ物語に付随する和歌の世界や王朝の物語文学にも言及する。

批評史の展望から、作品の読解としての受容の方法を強く意識した講義になる。

【授業計画】

前期は、文学史の現状を文学批評の中にとらえ、『古事記』から『平治物語』までをとりあげる。後期は、中世を中心に、近世の劇文学にも言及する。この間、地方に伝わる諸伝説にも、いくさ物語のかけを探る。これらを踏まえ、大岡昇平の戦記の意味をあわせて問うことになろう。

【評価方法】

講義には、参加することに意義がある。平常の出席状態をも加味し、記述試験により判定する。時にノートの提出を求め、小テストも行う。

【テキスト】

全体の概要は、山下宏明の『いくさ物語の語りと批評』（世界思想社）によるが、本文の引用など、適宜プリントを用意する。

なお上記の〔授業概要〕に述べたような方針から、〔国文学概論〕に参考として掲げた著書を併せて読むことが望ましい。

中国文学講義（2）

寺尾剛

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

＜唐代の文学＞

唐詩と唐代伝奇小説を読むことを通じ、中国文学研究の方法を理解してゆく。

- ・唐代文学史
- ・『長恨歌』
- ・『杜子春伝』
- ・その他

【授業計画】

輪読を中心に進めていく（従って必ず予習してくること）。

【評価方法】

平常点及び試験。

【テキスト】

中国詩文（中国詩文研究会編）

国文学特殊講義 王朝物語 a・b

高橋 亨

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

平安朝物語を読む上で必要な諸問題について、『宇津保物語』俊蔭の巻の講読をとおして論じていく。本文批判や注釈、解釈と文法、社会文化史的な文脈などについての諸問題を、『宇津保物語』俊蔭の巻の本文を読みながら講義する。

本年度は『宇津保物語・俊蔭 全訳注』をテキストとして、物語研究の方法と具体的な個別問題について考えていく。

前期のはじめには、『宇津保物語』の全体について、必要な基礎知識を概説する。その後で、テキストを詳しく読み、解釈に基づいた読みの諸問題を論じていく。物語と神話や漢文伝承との関係、和歌的な表現法と和文との関係などが中心となる。

後期は、物語の表現と構造に加えて、音楽論や漢詩文をふまえた文学史など、より広いテーマへと展開していく。

【授業計画】

テキストにそって読み進めるが、それぞれの部分で個別の問題を分散的に論じていく。受講者はそれを各自で整理してまとめながら理解する必要がある。

【評価方法】

各期末の試験またはレポートにより、出席回数を考慮して採点する。

【テキスト】

宇津保物語・俊蔭（上坂信男・神作光一 講談社学術文庫 1,050円）

国文学特殊講義 源氏物語 a・b

高橋 亨

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

文学作品を読む上で必要な諸問題について、『源氏物語』帯木の巻の講読をとおして論じていく。本文批判や注釈、解釈と文法、社会文化史的な文脈などについての諸問題を、『源氏物語』帯木の巻の本文を読みながら講義する。本年度は『帯木』（大島本）をテキストとして、文学研究の方法と具体的な諸問題について考えていく。

前期のはじめには、『源氏物語』の全体について、必要な基礎知識を概説する。その後で、テキストを詳しく読み、解釈に基づいた研究上の問題点を論じていく。和歌と物語との関係、語りの表現法などが中心となる。

後期は、語りの表現構造に加えて、芸能論や女性論などより広いテーマに展開していく。

【授業計画】

テキストにそって読み進めるが、それぞれの部分で個別の問題を分散的に論じていく。受講者はそれを各自で整理してまとめて理解する必要がある。

【評価方法】

各期末の試験またはレポートにより、出席回数を考慮して採点する。

【テキスト】

帯木（大島本）（高橋亨編 おうふう 971円）

国文学特殊講義 仏教文学 a・b

渡辺信和

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

日本仏教文学とは、日本における仏教思想の影響下に成立した文学作品の謂である。すでに『万葉集』に沙弥満誓の詠歌を見ることができるとして、仏教の伝来からそう遅くない時期に文学への取り入れが始まり、爾来長く仏教文学としての文学作品が作られてきた。特に盛んであったのは、院政期から中世前半期で、多く仏教説話集として編纂された。物語や和歌、歌謡、謡曲などに見られる仏教思想も、それらを仏教文学としてとらえることを可能としている。

今年度は、室町期に成立した御伽草子『花世の姫』を影印で読む。『花世の姫』は、『姥皮』、『鉢かづき』と共通する観音靈験譚で、昔話的な要素を持つ。

本講を通じて、室町時代の作品の読みを考え、その仏教意識を探る。

【授業計画】

講義は影印本で行う。講義時に指名して本文の音読、解釈をしてもらい、その文意、背景に存する説話などについて考察する。講義時に「古語辞典」で語義、文法事項を確認し、有職故実について「国語便覧」を参照することがあるので両書を必携とする。またくずし字が不得手な人はくずし字辞典などを用意すること。

第1講は仏教文学概論と「御伽草子」について

第2講以下前期は上巻を、後期は下巻を読む。

読み終えたら、異本について考察を行う。

【評価方法】

前期は筆記試験を行う。講義時の音読・解釈などの発表を斟酌する。

後期はレポート提出による。

【テキスト】

広島大学図書館『花世の姫』影印を講義時に頒布。

【参考文献・資料】

『室町時代物語大成』10、市古貞次『中世小説の研究』（1955）

国文学特殊講義 近代詩 a・b

佐藤洋一

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

近現代詩・谷川俊太郎詩のレトリック・表現論

- 1、谷川俊太郎を中心に、詩と詩人の固有な特質と方法を言語・構造・レトリック（言語技術）の観点や、戦後詩以降の現代詩の変遷、1950年代～80年代の歴史的社会的状況との関連等からも考察を行なう。
- 2、文化研究・批評（カルチュラル・スタディーズ）の枠組みの中で、「近代」という制度・戦争と国家・メディアと詩人の表現等の視点から近現代詩の意義と位置づけについて考察する。

【授業計画】

- 1、谷川俊太郎を中心に、戦後詩から現代詩の変遷・詩的言語の構造やレトリックを考察するとともに、近現代詩研究の基本的な方法の体得と主体的な課題意識を育成することが主要なねらいの一つである。
- 2、前後期とも、前半は配付プリントやテキストによる講義を行い、後半は簡単な演習形式で進める。演習はグループによる資料作成と発表・討議を中心に行なう。
- 3、前期は「基礎編」として、詩を読む魅力と方法や多様な個性をもつ近現代詩の諸相について述べ、谷川俊太郎の詩的言語について、子ども・生の意識・世界（コスモロジー）・言葉遊びと日本語の探究等の視点から考察する。後期は「展開編」として、谷川俊太郎詩を鮎川信夫等の戦後詩人や大岡信・茨木のり子等の同世代詩人、それ以降の現代詩人達との対比の中で考察したり、1950年～80年代の文化的歴史的な状況の中でより深く考察することが中心になる。

【評価方法】

- 1、出欠席。毎回出欠を確認し講義や発表に対する意欲・講義内容への課題意識や意見等を平常点に加える。
- 2、演習形式の資料作成・報告・発表の内容。詩の分析と考察・先行文献の理解と資料操作・発表と討議の内容、小レポート等を評価に加える。

【テキスト】

『空の青さをみつめていると・谷川俊太郎詩集Ⅰ』、『朝のかたち・谷川俊太郎詩集Ⅱ』（ともに角川文庫）その他、配付プリントによる。

国文学特殊講義 現代短歌 a・b

篠弘

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

短歌は伝統的な定型詩だが、いかに人間を表現しうる詩であるかを明らかにしたい。明治40年代の自然主義文学から影響をうけた短歌が、人生の時間を抉り出す詩として、その展開してきた魅力ある個性を紹介するとともに、とくにこの半世紀の多彩な作品を解説したい。そのモチーフ、感性や美意識、歴史認識から、技法や用語にまで言及したい。短歌を学ぶことによって、詩的表現の真髄を知ることができよう。

前期 a：Ⅰ 近代短歌から現代短歌へ

1. 1 近代短歌の起点
1. 2 近代短歌の代表的歌人
1. 3 近代短歌の作風と特徴

後期 b：Ⅱ 現代短歌の展開

2. 1 戦後短歌の成果
2. 2 1960年代からの短歌の魅力
2. 3 時代に生きる人間を詠む短歌

【授業計画】

配布するプリントならびにテキストを用いて講義する。予習は不要。感想を問うなどして、作者や作品にたいする理解を深める。

【評価方法】

各学期末に試験によって、作品の鑑賞力を評価する。あるいはレポート提出をもとめる。また、作歌を試みる。

【テキスト】

NHK短歌入門 生き方の表現 (篠弘著 日本放送出版協会刊 1,300円+税)

国文学特殊講義 批評理論 a・b

佐藤洋一

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

現代・文学批評理論

一 〈批評〉〈方法〉をめぐる近現代文学入門一

文学批評理論の紹介と考察・作品による具体的検討等を通して、私たちを取り巻く複雑で多面的な「現代」「世界」を文学はどのように描いてきたのか、それを今、どのように読み解いていくかについて検討する。また、現代人の生き方や精神の直面する諸問題や文学作品をめぐるさまざまな課題等も扱っていく。

【授業計画】

- 1、講義では、特に「現代文学作品」を例としながら取り上げるが、現代文学を取り巻く世界（読者・マスメディア・現代社会・人間関係等）も、研究方法（読者論・フェミニズム批評等）も多様化してきている。
- 2、毎回トピック形式でテーマを設定し具体的な作品に即して考察検討していく予定。例、「近代文学と現代文学」「私小説の方法」「描写・語りの技術」「ファンタジーと幻想」「フィクションと事実」「フェミニズムと現代文学」「無意識の発見と主体の分裂」等。
- 3、前後期とも、前半はテキスト・プリントによる講義を行い、後半は学生によるグループ毎の簡単な演習形式の報告・資料作成等を通して発表と討論を行なう予定。特に、前期は「基礎編」としてテキスト講読や資料によって批評理論の歴史と変遷・代表的な理論の背景と特徴・作品と批評理論の関係等について、後期は「展開編」として前期の内容を更に深め、具体的な作品批評を中心に検討する。

【評価方法】

- 1、出欠席。毎回出欠を確認し講義や発表への意欲・講義内容への課題意識や考察等を平常点に加える。
- 2、演習形式の資料作成・報告や発表内容や、数回の小レポートの内容等。

【テキスト】

文学部唯野教授 (筒井康隆著 岩波現代文庫)、
ナイフ (重松清 新潮文庫)、
その他、配布プリントによる。

国文学特殊講義 児童文学 a・b

堀尾幸平

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

1. 児童文学とは何か。その呼称、特質、形態、研究方法等、児童文学理論を研究する。
2. 児童文学が、どのように発祥、展開してきたか、わが国の文学史を把握し、その今後を展望する。
3. 児童文学をテーマにした小論文を書き、実際に童話を創作する。

【授業計画】

〈前期a〉

1. 児童文学とは何か
2. 明治期の児童文学
3. 三輪弘忠
4. 巖谷小波
5. 大正期の児童文学
6. 小川未明、鈴木三重吉
7. 千葉省三、浜田廣介
8. 童謡、少年詩、少女小説
9. 児童文学研究史
10. 試験

〈後期b〉

1. 昭和期の児童文学
2. 佐藤紅緑、佐々木邦
3. 宮澤賢治
4. 新美南吉
5. いぬいとみこ、松谷みよ子
6. 中川李枝子、灰谷健次郎
7. 平成期の児童文学
8. 児童文学論文講読
9. 創作童話
10. 試験

【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

日本児童文学論（堀尾幸平著 中日文化 2,200円）

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

国文学特殊講義 日本演劇史

林和利

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

日本の演劇史を、古代の神楽から現代の前衛劇にいたるまで、その流れを追って講じる。とくに、伝統演劇である能・狂言・歌舞伎・文楽については詳しく説く。

【授業計画】

- 第1回 授業の目的と方針を提示。
- 第2回 日本演劇史系統図を示して通史を概説する。
- 第3回 演劇の発生について
- 第4回 神楽について
- 第5回 伎楽について
- 第6回 舞楽について
- 第7回 散楽について
- 第8～10回 能について
- 第11～12回 狂言について
- 第13～14回 歌舞伎について
- 第15回 文楽について

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により、総合的に評価する。

【テキスト】

日本文化論序説（林和利 青山社）

国文学特殊講義 伝統芸能の世界

林 和利

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本の伝統芸能「舞楽」「能」「狂言」「歌舞伎」「文楽」について、その歴史と現状・作品・上演形態などについて詳しく講じる。

【授業計画】

- 第1回 授業の目的と方針を提示。
- 第2回 日本芸能演劇史概説
- 第3回 能・狂言入門
- 第4回 〃
- 第5回 名人の芸
- 第6回 〃
- 第7回 〃
- 第8回 狂言の世界
- 第9回 〃
- 第10回 足拍子の効果
- 第11回 〃
- 第12回 名古屋の能楽
- 第13回 〃

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

日本文化論序説（林和利著 青山社）

国文学特殊講義 日本映画史

梶川 忠

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

学生であるきみたちは、年に何本の日本映画をみるだろうか。日本映画はみなくていいものになっていないだろうか。

実際には、日本映画は、映画が誕生してすぐに世界の第一線にたっている。世界映画史の中で日本映画は重要な一角を占めているのだ。そういう日本映画を、ビデオを活用しながら、少しずつたどってみたいことにする。

【授業計画】

- 第1回 日本映画の誕生（明治から大正時代）
- 第2～4回 戦前の日本映画（昭和15年頃まで）
様々な現代劇と時代劇
- 第5回 戦争と映画（昭和20年まで）
- 第6～11回 戦後の日本映画（昭和40年まで）
日本映画の全盛期から衰退期
喜劇・メロドラマなどジャンル別
- 第12回 現在の日本映画

【評価方法】

2回のレポートで採点する。

【テキスト】

日本映画（ドナルド・リチイ著 行路社）

国文学特殊講義 文学と映像表現

梶川 忠

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本映画は、日本文学（特に小説）から題材をたくさん得ている。日本文学が盛んでなければ、あるいは日本映画は、存在できなかったかもしれない。いわば日本文学が母であり、日本映画は子供だといえる。

ただしものごとはいい面ばかりではない。日本文学からいつも養分を吸収していることで、日本映画がひ弱になり、現在の衰退を招いたという人もいる。

そういう判断は、しばらく保留しておこう。ここでは個々の小説とその映画化作品とを比較しながら、小説表現の特色や映像表現の特色を探ってみよう。

【授業計画】

最初の4回くらいは、向田邦子の「あ・うん」の小説・テレビドラマ・映画を細かく検討する。映像そのものに慣れるためである。

その後は、毎回ひとつの作品を取り上げて検討してゆくのだが、現時点ではどれにするのか決まっていない。数が多すぎてなかなか選択できないからである。予定では、明治時代から年代をたどりつつ、現在にまで到達するはずだ。

90分ほどの長さの映画をまるごと見ていたら、授業がおわってしまう。きみたちはその方がうれしいかもしれないが、残念ながらビデオは担当者が編集した30分くらいのものである。

【評価方法】

2回のレポートで採点する。

国語学特殊講義 ことばの認知科学 a・b

増田尚史

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

認知科学とは、人間の知的活動を、哲学、心理学、計算機科学、神経科学、言語学等の立場から、学際的に探求する学問である。

本講義では、人間の知的活動のうち、特に「ことば」の運用に伴う情報処理活動に着目し、「知覚、記憶、思考、発達（学習）」などの観点から検討を加える。さらに、ヒトの脳についての神経科学的知見を概観し、それを基礎とする言語理解モデルについて講究する。なお、受講者には、授業に出席するだけでなく、その中で実施される各種の実験に積極的に参加することが求められる。

【授業計画】

前期（a）

1. 「ことば」に関わる研究分野
2. 「ことば」をめぐる哲学的議論
3. 「ことば」と知覚システム
4. 「ことば」と記憶システム
5. 「ことば」の獲得と喪失

後期（b）

6. 「ことば」の運用に関わる脳部位
7. 「ことば」の理解に関するモデル
8. 「ことば」の運用規則
9. 「ことば」とコミュニケーション
10. 「ことば」をめぐる今日の問題

ただし、受講者数等に鑑みて、順序および内容に変更を加えることもある。

【評価方法】

出席状況と期末試験の成績とによって、総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜紹介する。

文章表現 a・b

梅田卓夫

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

文章表現の目標を「自分にしか書けないことを、誰にも分かるように書く」ことに置き、ジャンル（詩・小説・評論…）のワクを超えたすべての言語表現に共通する基本事項を学習する。

作品実作の過程で、受講者が自らの言語観・文章観を検討しつつ、より自由で科学的な方法と理論を習得することをめざす。

1. ことばとの自由で柔軟な関係を回復するためのトレーニングを経て、ことばを操ることのたのしさを体験する。
2. 創造的な文章をみざして、いくつかの作品（作文）を試みる。
3. 文章制作過程の、各段階ごとに制作技法をとりあげ、実作体験しながら学習する。
4. 自己の制作経験をふり返りながら、意識の働きと技法の両面において、普遍的法則をさぐりあてる。
5. その結果を、各自に文章表現法として体系化することを試みる。
6. さまざまなジャンルの多彩な文章に触れて、文章表現の可能性をひろげるようにする。

【授業計画】

実作（実習）と理論化のための講義と作品鑑賞、この三つをくり返しながらすめる。

【評価方法】

授業の中で制作する作品群、および期末試験によって行う。

【テキスト】

文章表現・400字からのレッスン（梅田卓夫著 ちくま学芸文庫）

高校生のための文章読本（梅田卓夫ほか編 筑摩書房 922円）

書道（書写を中心とする） a・b

堀内千恵子

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

王羲之を中心の中国書道史、空海を中心とした日本書道史をベースに、臨書、鑑賞などの実技を通して、書法の習得をはかる。ある程度、心眼が高まったところで、創作活動への意欲を高め、個々の感性によった作品を創作し、今日的な書の表現はどうあるべきか、芸術としての書の在り方を考えさせる。

<前期>（中国書道史と日本書道史をいれかえる場合もある）

中国書道史（古典と臨書 書法と創作）

- ◇太古～秦代・篆書・書の意義と特質
- ◇漢代～六朝時代・漢隸の魅力・六朝文化の特徴
- ◇隋～唐時代・二大書宗について
- ◇宋～現代まで
 - ・多様化した書道・かな・ペン習字
 - ・書道展の鑑賞

<後期>

日本書道史（臨書と創作 書法と書法）

- ◇奈良朝以前・かな・用筆法
- ◇奈良時代～平安時代
 - ・遣唐使と三筆
 - ・和様体と三蹟・創作（気脈貫通 遅速緩急）
- ◇鎌倉時代～現代 少字数の作品 多字数の作品・結構法・用墨法・創作方法
 - ・禅林風と和様体 近代詩文の作品
 - ・空海の書法と人
 - ・寛永、幕末の三筆

【授業計画】

理論（書道史、書論）40分程度 実技 50分程度

必要に応じて、プリント（顔真卿・良寛・空海等）や手本を配布する。

【評価方法】

・出席日数 ・毎回提出の課題の評価（10段階） ・ペン習字 ・創作活動の評価 ・理論の少テスト ・レポートなどの評価 以上の内容の総合評価

【テキスト】

書道の旅（堀内千恵 中部日本教育文化会）

言語文化論 I 1 (中国)

鄭澤善

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

半年間の勉強を通じて、現代中国の政治体制、司法制度、経済体制、環境、人口、少数民族、教育制度、宗教、信仰、大衆文化等を概略的に紹介しながら、現代日本の文化と比較してもらい、相互理解を目指す。

【授業計画】

- 第1回：ガイダンス、中国の政治文化
- 第2－3回：立法と司法制度と行政制度
- 第4－5回：経済事情と農村問題
- 第6－8回：環境問題、人口問題、一人っ子政策
- 第9回：少数民族
- 第10回：教育制度
- 第11回：宗教、信仰
- 第12回：大衆文化－その1
- 第13回：大衆文化－その2

【評価方法】

レポートに出席率を加味して総合評価する。

【テキスト】

プリントを使う。

言語文化論 I 2 (ロシア・東欧)

杉本一直

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

20世紀初頭から現在にいたるロシア文化の特質を特に芸術分野に焦点を当てて考察する。映画、絵画、詩、小説、バレエ、音楽など、具体的に作品を紹介しながら、ヨーロッパにおける芸術運動と比較していく。

【授業計画】

- a. ロシア・アヴァンギャルドの詩人たち
- b. 20世紀初頭の映画と映画理論：エイゼンシュテインを中心に
- c. ディアギレフとロシア・バレエ団
- d. ロシア・アヴァンギャルドの画家たち
- e. 抽象絵画の巨匠：カンディンスキイとマレーヴィチ
- f. 現代の作家たち：ペレーヴィンを中心に
- g. 亡命芸術家たち：ナボコフとシャガール

【評価方法】

出席状況とレポートによる

【テキスト】

プリント配布。

言語文化論 I 3 (フランス)

清水ベアトリックス

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

ヨーロッパ文明の発祥の国フランスについての理解を深めることはヨーロッパ文化を理解するうえで重要である。フランス語とフランス文化の概要を学ぶことにより、フランスへの関心と理解への動機づけとしたい。

前期

このコースは、受講者の興味を考慮に入れ授業内容を考えたい。現代フランス社会と日常使用されているフランス語を学ぶとともに、担当講師（フランス人）の在日体験談を交え、フランス・日本両国を言語・文化の面から比較検討する。

とにかく、下記のテーマで行う。

- ーフランスの地理
- ーフランスの建国
- ーフランス国民の起源
- ーフランスの社会問題
- ーフランスの家族
- ー教育制度
- ーフランスとヨーロッパ
- ーフランス人と余暇など。

後期

前期と同じ。

【授業計画】

毎回、担当教員が指定したテキストの章について議論し、テレビや新聞で報道されたフランスに関する時事問題の中で特に学生の関心を引くようなものを選んで、解説したい。

【評価方法】

定期試験を重視するが、宿題（テキストや映画についての感想文）、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

変貌するフランス（西永良成 日本放送出版協会）

言語文化論 I 4 (ドイツ)

藤井たざる

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

ドイツ・オーストリアの生活文化とその言語。現代のドイツ・オーストリア事情の一端を紹介しながら、ドイツ・オーストリアのいろいろな「顔」を発見してもらう。

【授業計画】

下記のようなさまざまな日常的なテーマを取り上げて、ドイツ・オーストリアの事情を日本のそれと比較しながら両者の類似性と差異をみてゆく。また初歩的なドイツ語会話の練習もあわせておこなう。

- 1) ドイツ・オーストリアの風土
- 2) ドイツ・オーストリアの近現代史
- 3) ドイツ・オーストリアのマス・メディア
- 4) ドイツ・オーストリアの衣食住
- 5) ドイツ・オーストリアの消費生活
- 6) ドイツ・オーストリアの芸術文化

講義形式ではあるが、授業中にいろいろな意見を求め、各自の考えるところを積極的に発言してもらう。必要に応じてプリントを配布する。

【評価方法】

筆記試験。

【テキスト】

適宜、プリントを配付する。

言語文化論 I 5 (スペイン)

木下 登

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

変化に富んだ風土と長い歴史に生まれ、多様性に満ちたスペイン文化の特質と魅力を浮き彫りにする。そして最終的には、わが国の文化との比較を試みる。

【授業計画】

1. スペインの大地
2. スペインの歴史概観
3. ローマ時代 (セネカ)
4. 西ゴート時代 (イシドローロ)
5. イスラーム・スペイン時代 (イブン・トゥファイユ)
6. カトリック・スペイン時代
7. 大航海時代 (ラス・カサス)
8. 19世紀のスペイン
9. 現代のスペイン
10. まとめ

【評価方法】

筆記試験に出席状況を加味して評価。

【テキスト】

授業中に指示します。

言語文化論 I 6 (中東)

奴田原 睦明

集中 2・3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

異文化としてのアラブ世界を概観し、そこにおける社会、人間、文化を大きく定着民と非定着民のそれに分けて比較しながら論じる。その際主として近現代に書かれたアラブの文学作品及びアラブ世界における体験を通して講義を進めたい。各講義毎に順番に受講者の意見を聞き、それについて議論をする。

【授業計画】

- 第1講 概論；アラブ世界及びアラブ文学について
- 第2講 各論；エジプト。エジプト的性格。
- 第3講 各論；エジプトの作家と作品。
- 第3講 各論；パレスチナの作家－カナファーン－
- 第4講 各論；スーダンの作家－タイブ・サーレフ
- 第5講 各論；モロッコの作家－ラアビー
- 第6講 各論；定着民と非定着民の比較及びベドウィンの特性
- 第7講 各論；トウアレグ族に帰属する作家・イブラヒム・コーニーの世界 その1
- 第8講 各論；コーニーの世界 その2
- 第9講 各論；異文化体験 W・Thesigerの沙漠探検
- 第10講 各論；異文化体験 シリア沙漠においてベドウィンと暮らす。
- 第11講 各論；異文化を見る視座
- 第12講 レポート作成

【評価方法】

出席状況と単位認定試験（レポート）の成績によって評価。

【参考文献・資料】

遊牧の文学（奴田原睦明著 岩波書店）

異文化コミュニケーション a・b

高井次郎

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

異文化コミュニケーションは、文化的背景の異なる二者間の社会的相互作用のことを意味します。人々のものの見方の大部分は文化によって決定されます。その文化が違っていたら、コミュニケーションにおける意志疎通の問題が生じ、誤解の原因になります。異文化コミュニケーションはいかにすれば、こうしたコミュニケーションの障害を最低限に抑えられるのかを追究する学問です。前期はコミュニケーションの基礎を中心に上げ、後期は心理学の観点から異文化コミュニケーションをアプローチします。

原則として授業方式は、講義としますが、内容を理解しやすくするため、集団討議法や経験学習法をなるべく多くもうけたいと考えています。

【授業計画】

前期は、コミュニケーションの機能と過程、文化とコミュニケーション、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション、対人認知、ステレオタイプ、人種偏見、人種差別、異文化間コンピテンス、異文化間トレーニング等について検討します。

後期は、文化の類型、文化と認知、文化と子育て・家族、文化と性差、文化と攻撃性、文化と対人関係、在日留学生問題、帰国子女問題、在日外国人問題等を取り上げます。

【評価方法】

期末試験をもって成績の評価を実施します。

【テキスト】

前期 異文化コミュニケーション論 (古田暁監修
有斐閣選書)

後期 比較文化心理学 (田中国夫訳 北大路書房)

言語文化特殊講義 1 a・b

松本雄子

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

文化とコミュニケーションの関係は、私たちが思っている以上に複雑であり、互いに強く影響しあっている。ここでは「異文化間コミュニケーション」の特徴や重要性について検討する。

【授業計画】

前期は、異文化間コミュニケーションの基礎概念や理論を中心に講義する。特に、日本人のコミュニケーションの特徴を理解することに焦点を置く。そして、文化によるコミュニケーションの違いだけではなく、地域、社会的階層、性別、年齢によるコミュニケーションの違い等にも焦点をあてる。

後期は、前期に学んだ概念や理論をもとに、実際にグループで簡単な調査をし、発表してもらう。

【評価方法】

前期はテスト。後期は、グループ研究の成績とテストによって評価する。

【テキスト】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

言語文化特殊講義 2 a・b

渡辺かよ子

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

「教養」に関する比較思想史：日本語の「教養」という言葉はギリシャ語のパイディアの翻訳であるドイツ語のBildungのさらなる翻訳として定着した。「教養」をめぐる各国の思想史を概説し、国際化・高齢化・情報化の進展の中で、今後の自己教育としての教養はいかにあるべきなのかを討議する。

【授業計画】

前期 a：高等教育と「教養」の比較思想史

- 1：古代ギリシャ時代の教養
- 2：中国の伝統的教養と科挙
- 3：中世の大学と教養
- 4：19世紀以後の英独仏米の高等教育と教養思想
- 5：旧植民地・「発展途上国」の高等教育と教養論

後期 b：近現代日本の高等教育と教養論

- 1：日本の高等教育と教養思想の概説
- 2：大正教養主義
- 3：1930年代の教養論
- 4：戦後の一般教養思想
- 5：現代の教養論：多文化主義と教養

【評価方法】

平常レポートと討議。

【テキスト】

新しい教養を求めて（筒井清忠 中央公論社）

【参考文献・資料】

- 教養とヒューマニズム（村瀬裕也 白石書店）
知の文化と型の文化（鹿毛誠一 創文社）
比較高等教育論（アルトバック 玉川大学出版部）
高等教育システム（クラーク 東信堂）
大学の誕生と変貌（横尾荘英 東信堂）
現代の大学・高等教育（喜多村和之 玉川大学出版部）
学歴貴族の栄光と挫折（竹内洋 中央公論新社）
教養の復権（沼田裕之他 東信堂）
近現代日本の教養論（渡辺かよ子 行路社）
ディスタンクシオン（ブルデュー 藤原書店）

言語文化特殊講義 3 a・b

木下登

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

スペインの国民性とスペイン文化の華である芸術（絵画、建築、音楽）の関係を考察する。ビデオ教材を活用する。

【授業計画】

1. スペイン論の系譜
2. スペインの絵画（エル・グレコ、ベラスケス、ゴヤ、ピカソ、ダリ）
3. スペインの建築（ロマネスク、ゴシック、バロック、モデルニスモ）
4. まとめ

【評価方法】

筆記試験に出席状況を加味して評価。

【テキスト】

授業中に指示します。

言語文化特殊講義 4 a・b

馮 富 榮

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

中国語の文章を読むことによって、中国の言語・文化を知り、考える。

主として、以下のことを紹介する中国語の文章を作成して、授業を進めていく予定である。

「三皇五帝」、「甲骨卜辞」、「姓氏」、「老庄之学」、「臥薪嘗胆」、「稷下学宮」、「孫子兵法」、「晏子」、「絲綢之路」、「4大発明」、「三顧茅廬」、「漢字文化」、「万里長城」、「中国女皇」、「中秋節」

以上の文章を学習することによって、中国の言語・文化を含め、中国の歴史、文学、風俗習慣についての知識を身につけること、中国語の実力をアップさせることをこの授業の目標とする。ゆえに、中国語の力のある程度身につけたい学生は、ぜひこの授業を履修してほしい。

【授業計画】

あらかじめ、今回の授業で使う文章を全員に配り、予習として各自が分からない箇所を調べてくる。授業は、朗読の練習から入り、そして文章の翻訳を行う。翻訳は学生を主体にして行うが、分からないところは、教員側から説明を加える。翻訳のあと、文章の中に出ている中国語の常用文型などについて、教員側から説明を行う。さらに、中国語を用いて、内容の概要を述べたり、感想を書いたりすることもときどき行う。

【評価方法】

課題の提出状況、受講態度、出席率及び期末レポートにより、評価する。期末のペーパーテストは実施しない。

【テキスト】

自作教材。

言語文化特殊講義 5 a・b

松本雄子

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

今日でも、多くの日本人が「日本は単一民族社会である」と公言してはばからない。これは、多様性との共存を否定し続けてきた日本社会の偏見に満ちた考え方の表れである。偏見や差別という問題を、様々な角度から検討し、多様性の共存という考え方を学ぶ。

【授業計画】

様々なテーマにそった映画やドキュメンタリーを使い、ディスカッション中心の授業。映画は、全員に前もってAVセンターで見てもらい、授業はディスカッション担当者が中心になり進めていく。担当者には、映画を見るだけでなく、その時のテーマについてあらかじめ調べたことを発表してもらう。ドキュメンタリーはなるべく授業時間を使って見る。前期は国内外における人種問題、移民問題等に焦点をあて、後期は在日外国人、性差別、人権問題等を中心に検討する。

【評価方法】

ディスカッション及び発表、授業への参加

【テキスト】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

言語文化演習 I a・b (コミュニケーション論)

ジョリー幸子

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

当演習は、我々の日常のコミュニケーションの93%を占めると言われる「非言語コミュニケーション」について学ぶもので、異文化コミュニケーションの1下位分野である。

【授業計画】

第1週	コースオリエンテーション
2	音声(発音)学
3	動作学(Kinesics)
4	〃
5	〃
6	〃
7	近接学(Proxemics)
8	〃
9	〃
10	〃
11	領土性(Territoriality)
12	〃
13	〃
14	〃
1	接触学(Tactility・Haptics)
2	〃
3	〃
4	〃
5	嗅覚(Olfaction)
6	〃
7	空間学(Space)
8	〃
9	時間学(Chronemics)
10	〃
11	対物学(Objectics)
12	〃
13	準言語学(Paralinguistics)
14	〃

【評価方法】

演習への出席、ディスカッションへの参加、発表、レポート等を総合的に判断する。

【テキスト】

1. 世界60カ国比較文化事典、T. モリスマン、マクミラン
2. 日本の常識はどこまで通じるか：異文化交流で失敗しないために。ジョリー幸子。風媒社

【参考文献・資料】

比較生活文化事典(金山盲夫 大修館)
Gestures: DOs and TABOOs of Body Language Around the World. (Roger E. Axtell, Wiley)

言語文化演習 I a・b (中国学)

馮富榮

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

中国語のミニ小説を通して現代中国を見る。

ミニ小説を通して、現代中国の各側面、すなわち、文化大革命、中国人の日常生活、家族構成及び家族内の人間関係を紹介し、そして激変している中国の社会・中国人の人生観・価値観・金銭観などを捉えようとする。そのほか、中国語の語学力アップもこの授業の目標である。

【授業計画】

あらかじめ授業で使うミニ小説が配られ、分からない単語などを学生たちが各自に調べてくる。授業は、朗読の練習から入り、徹底的に発音の指導を行う。その次、文章の翻訳を行うが、学生を主体にして翻訳作業を進める。分からないところは、教員側から補足的な説明を加える。1つのミニ小説が学習し終わった後、中国語で感想文を書く練習もする。またミニ小説の内容についてディスカッションを行い、日本と中国の違いを討論する。

【評価方法】

レポートの提出状況、受講態度、出席率及び期末レポートにより評価する。期末のペーパーテストは実施しない。

【テキスト】

プリントと自作教材。

言語文化演習 I a・b (批評理論)

杉本一直

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

さまざまな国の20世紀文学を読み、現代文学が扱ってきたいくつかの共通する問題について考察する。物語上の主題だけではなく、技法や構成面も視野に含め、理論的な作品評論を目指す。

【授業計画】

- a. 幻想小説というジャンル：ラテン・アメリカ文学を中心に
- b. メタフィクションとは何か：イタロ・カルヴィーノとジョン・バース
- c. 文学的主題としての「記憶」：ウラジーミル・ナボコフ
- d. 意味の不在、肉体の不在：サミュエル・ベケットとポール・オースター
- e. パロディとパステイッシュ：清水義範とウンベルト・エーコ
- f. 詩のアヴァンギャルド：フレープニコフとマヤコフスキ

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

プリント配布、授業中に指定した書籍。

言語文化演習 I a・b (日本語学)

山内啓介

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

日本語学、日本語の諸問題を演習する。

日本語の音声学、日本語の文法、言葉の意味、語彙論、国語の歴史、そして日本語教育の分野にわたってともに学ぶ。日本語表現と日本文化の探求にもおよびたい。演習は各参加者が問いを立ててトピックとし、調査をして発表する。

【授業計画】

日本語の語彙と文法の問題をテーマとする。

前期は、各自が問題を設定して文献探索、フィールド調査を行い、アンケートや聞き取りを実行し、発表する。問題意識を確かにしてアンサーを見つける過程の解決方法と、その重要なことを知る。また、発表内容につき議論を交わすことで、プレゼンテーションを深化させる。後期は専門の文献を選び、輪講の形式で同様に発表と議論を行う。発表者は担当部分から問題を出して解説をすることで、調査と整理の中から新しい気づきを得るようにする。

発表の順はエントリーを行い、担当予定日に担当者が欠席しないことがルールである。ルールをまもらないことは参加者全員の授業が成立しなくなるので許されない。事情があればゼミの全員に変更を申し出ること、順番が調整される。

【評価方法】

プレゼンテーションまたはレポートによる。出席重視。

【テキスト】

発表レジュメ。文献をコピーして配布。

【参考文献・資料】

言語学大辞典日本語の項目（三省堂）

言語文化演習 I a・b (対照言語学)

窪田守弘

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

対照言語学は、まだ新しい分野であるためにその定義づけが明確化されていない。しかし異なった言語体系を比較研究することは変わらないわけで、問題はその方法論にある。本演習では言語と文化の関係を、日常最も目に触れる映像を通して考えてみる。特にテレビのコマーシャルは一つの映像文化であり、異文化の映像を対照しながら、分析を試みようとするものである。従ってここではコマーシャルを多角的に研究することが、言語と文化の新しい体系化を図る一方法だと考えている。

<前～後期>

1. 映像の世界に触れる
 - ①映画の歴史と鑑賞法
 - ②シナリオの基礎知識の習得
 - ③映画製作の実際
2. テレビコマーシャル論
 - ①学生による発表
 - ②字幕と文化の関係の分析と比較
 - ③独自のシナリオ作成へのチャレンジ

【授業計画】

映像文化の理論と実践を同時併行で進める。ゼミは発表を中心にするが、その際コンピュータ、デジタル放送などの映像を使い、多角的に分析を行なう。

【評価方法】

毎回の発表と学期末のレポートで評価する。

【テキスト】

ハリウッド・ロード (窪田守弘著 晃学出版 700円)

言語文化演習 I a・b (言語行動)

外池俊幸

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

言語を中心に認知科学の成果を学ぶことにより、ヒトとはどういう特性を持った生物なのかを考える。学際的な領域である認知科学では、言語学的な問題、心理学的な問題などに関して、様々な興味深い成果があがっている。そのうちいくつかのトピックを取り上げる。

【授業計画】

- 1 最初に、認知心理学 (全5冊) 東京大学出版会刊 (図書館にあります) の中から各自興味を持つ章を一つ選んで、その内容を報告してもらい、疑問点などを参加者で議論します。
- 2 一通りまわったら、もう少し絞り込んだトピックを各自が選び、その問題について調べて、報告をもらい、やはり演習参加者全員で議論をします。1で選んだトピックにしばられなくともよい。他の人の発表で面白いと思ったものを取り上げてもよいし、自分でやってみようと思った問題を考えていた人は、それでいいかどうか相談してください。
- 3 最後に、自分が担当した問題についてレポートをまとめて、提出して下さい。

【評価方法】

演習への参加・貢献の度合い、出席状況、レポートの内容で評価します。

【テキスト】

認知心理学 (全5冊) 東京大学出版会刊を最初に使います。購入するかどうかは授業時に指示します。事前に長尾 真著『人口知能と人間』(岩波新書、赤版)を読むと、この演習でどんなことをやろうとしているのかが分かります。

言語文化演習Ⅱ a・b (コミュニケーション論)

ジョリー幸子

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

当演習は3年生の言語文化演習Ⅰa, bに継続するもので、言語よりも更に重要であると言われる「非言語コミュニケーション」について研究・追求するものである。

【授業計画】

第1週	コースオリエンテーション	
2	研究企画と方法論 (Research Methodology)	
3	文献録作制 (Bibliography・Reference)	
4	Speech: Research (Reading・Discussion)	
5	〃 〃 (〃 〃)	
6	〃 〃 (〃 〃)	
7	〃 〃 (〃 〃)	
8	〃 〃 (〃 〃)	
9	〃 〃 (〃 〃)	
10	〃 〃 (〃 〃)	
11	〃 〃 (〃 〃)	
12	〃 〃 (〃 〃)	
1	Project Presentation: Group	1 & 2
2	〃	3 & 4
3	〃	5 & 6
4	〃	7 & 8
5	〃	9 & 10
6	〃	11 & 12
7	〃	13 & 14
8	〃	15 & 16
9	〃	17 & 18
10	〃	19 & 20
11	〃	21 & 22
12	Summary and Conclusion	

【評価方法】

演習への出席、ディスカッションへの参加、発表、レポート等を総合的に判断する。

【テキスト】

1. Eye to Eye: How People Interact, Peter Marsh. Macmillan LanguageHouse, 1988.
2. 日本の常識はどこまで通じるか: 異文化交流で失敗しないために。ジョリー幸子。風媒社

【参考文献・資料】

比較生活文化事典 (金山盲夫 大修館)
Gestures: DOs and TABOOs of Body Language Around the World. (Roger E. Axtell, Wiley)

言語文化演習Ⅱ a・b (中国学)

馮富榮

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

中国語の学習過程における母国語及び母国の文化の影響について

—主として、日本人を対象として—

日本語と中国語との比較研究及び両国の文化比較に関する研究文献(中国語の文献と日本語の文献の両方あり)を多く活用することによって関連研究の流れと現状を把握する。そして、日本人の中国語の学習過程における問題点を探り、母国語及び母国の文化・習慣による干渉という視点から問題点の出る原因を検討する。この授業の最終的な目標は、1年間を通じて一人に1つの論文を完成する。

【授業計画】

ゼミの最初に授業の主旨、全体的な進め方について説明し、第二言語の学習過程における母国語及び母国の文化・習慣の影響に関する文献、また日・中両言語の比較研究を参加者が各自に調べてくる。それを次の授業までに読んでおき、その論文の要旨及び問題点を次の授業でゼミのみんなに発表して、それについて討議する。そうしたことを2、3回繰り返すことによって、自分の関心のあるテーマを見つけ、今後取り組むテーマを選定する。その後、交替で自分の研究の進捗を発表し、他のゼミ生から自分の研究の次のステップへのアドバイスを、そして教員側からその指導を受ける。

【評価方法】

レポートの提出状況、受講態度、出席率及び最終的な論文により評価する。期末のペーパーテストは実施しない。

【テキスト】

なし。

言語文化演習Ⅱ a・b (批評理論)

杉本一直

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

演習Ⅰに引き続き、現代文学の講読と作品評論を行なう。演習Ⅱでは評論により重点を置き、ロシア・フォルマリズムに始まる現代の文学理論を学ぶ。

【授業計画】

◆文学理論については以下の項目を学ぶ。

- ロシア・アヴァンギャルド文学とロシア・フォルマリズム
- ロマン・ヤコブソンと構造主義
- メタフィクションとディコンストラクション批評
- 受容理論と「読者」

◆文学作品は以下の作家の作品を講読する。

ポール・オースター、ホルヘ・ルイス・ボルヘス、アルベール・カミュ、ヴィクトル・ペレーヴィン、イタロ・カルヴィーノ、安部公房、ウラジーミル・ナボコフ

◆また、卒業論文（またはゼミ終了論文）の計画、資料収集、執筆の過程において、各学生が経過発表を行う。

【評価方法】

研究発表とレポートによる。

【テキスト】

プリント配布、授業中に指示した書籍。

言語文化演習Ⅱ a・b (日本語学)

山内啓介

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

日本語学、日本語の諸問題を演習する。

日本語の音声学、日本語の文法、言葉の意味、語彙論、国語の歴史、そして日本語教育の分野にわたってともに学ぶ。日本語表現と日本文化の探求にもおよびたい。演習は各参加者が問いを立ててトピックとし、調査をして発表する。

【授業計画】

日本語の音韻と文法の問題をテーマとする。

前期は、各自が問題を設定して文献探索、フィールド調査を行い、アンケートや聞き取りを実行して発表する。問題意識を確かにしてアンサーを見つける過程の解決方法と、その重要なことを知る。また、発表内容につき議論を交わすことで、プレゼンテーションを深化させる。後期も前期と同様に、各自のテーマを追求する。

発表の順はエントリーを行い、担当予定日に担当者が欠席しないことがルールである。ルールをまもらないことは参加者全員の授業が成立しなくなるので許されない。事情があればゼミの全員に変更を申し出ること、順番が調整される。

【評価方法】

プレゼンテーションまたはゼミ論による。出席重視。

【テキスト】

発表レジュメ。文献をコピーして配布。

【参考文献・資料】

言語学大辞典日本語の項目（三省堂）

言語文化演習Ⅱ a・b (対照言語学)

窪田守弘

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

3年次の演習として、映画製作やシナリオの書き方を一通り学んだので、学生が本格的に自己の研究課題を仕上げるための準備をする。このゼミでは既に対照言語学的な視点から映画字幕を分析して来たので、今後は各自が自分なりの視野から研究テーマを絞って考えていくようにする。卒業作品はあくまで自己の思想をいかに体系化するかが問題となるので、丹念に分析する必要がある。

<前～後期>

ゼミは各自の研究テーマを毎回発表し、それにコメントを加えていく形式にする。学生は、発表を通じて課題を完成し、最終的にそれが卒業作品となるよう配慮する。

【授業計画】

発表者が毎回レジメを配布し、それに沿って研究発表を行なう。

【評価方法】

毎回の発表内容や態度、作品などで最終的に評価する。

【テキスト】

- ①文章の書き方 (辰濃和男著 岩波新書 700円+税)
- ②ムービーDEイングリッシュ (窪田守弘編著 スクリンプレイ出版 1,200円)

言語文化演習Ⅱ a・b (言語行動)

外池俊幸

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

言語を中心に、認知科学の成果を学ぶことにより、ヒトはどういう特性を持った生物なのかを考える。学際的な領域である認知科学では、言語学的な問題、心理学的な問題などに関して、様々な興味深い成果があがっている。そのうちのいくつかをトピックとして取上げる。

【授業計画】

取り上げるトピックとそれを扱っている文献を示すので、自分が選んだ文献を読み、授業で発表する。受講生全員で、その問題について討論する。担当者は、そこであきらかになった問題を解決するために関連する文献をさがし、その結果を授業で発表する。最終的には、受講生全員が、自分が選んだトピックで論文をまとめるところまで行く。

【評価方法】

演習への参加・貢献の度合・出席状況・論文の内容で評価する。

【テキスト】

特定のテキストは使わない。受講する前に、長尾真著『人工知能と人間』(岩波新書、赤版)を読んでおくこと。

日本語学Ⅲ（語彙・意味）

山内啓介

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本語語彙・言語的意味について基礎的な知識を得る。語誌と語の意味変化、および語彙論の研究方法を学ぶ。語彙は語の集まりと語のまとまりと把握できる。語を集合として分析するか、意味の体系として捉えるか、その論を理解する。

【授業計画】

- 1 はじめに 語と語彙
- 2 語彙論とは何か。 語の単位・語彙調査・語彙表
- 3 語の延べと異なり。 資料体の総量・古典対照語彙
- 4 基本語彙について。 基礎語彙・基幹語彙・語彙量
- 5 語彙の構造。 分類基準・意義・形態・語性・地域
- 6 語誌の研究。 語源・語義・本義・派生義・語構成
- 7 語種。 和語・漢語・外来語・混種語・カタカナ語
- 8 語と意味。 意味とは、意味の捉え方・類義反義語
- 9 語の意味の研究。 指示の意味・意味の基本三角形
- 10 関係の意味。 象徴記号・概念と用法・語義の差異
- 11 意味分析の方法。 文脈の意味・臨時的意味・比喻
- 12 語の意味変化について。 意味の変遷・辞書の記述
- 13 日本語語彙の特徴。 死語・流行語・若者語・造語
- 14 語彙史と辞書史。 字引き・索引・コンコーダンス
- 15 語彙研究の課題・意味研究の将来

【評価方法】

定期試験による。出席回数を重視する（80%以上）。

【テキスト】

プリント資料を配布。

【参考文献・資料】

授業中に紹介するので、図書館で利用されたい。

日本語基礎演習

阿部美枝子

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代日本語の文法現象の中から特に議論の多いトピックを選び、その問題点を掘り下げていくことを狙いとする。ヴォイス、テンス、アスペクト、名詞修飾等がトピックとして取り上げられる。

【授業計画】

各トピックにつき演習問題を出し、それを解いていく方法を取る。

【評価方法】

学期末筆記試験（レポート併用の可能性あり）、及び各演習問題の結果で評価する。

【テキスト】

使用せず。

日本文化論Ⅰ

山内啓介

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

日本文化論は前近代化論とポスト近代化論とにわけて把握できる。「前近代化」とは中国文明の影響下にある文化論であり、「ポスト近代化」とは1952年以降の民主化を進める文化論である。しかし、日本人論議に代表されるポスト文化論は前近代化を十分に超克したとは言えない。現代文化ははたがって、近代を継承をしながら何を自覚するか、という日本特殊の議論を探求している。文化と日本人のアイデンティティーについて日本文化論Ⅰでは問題点を考察してみたい。

【授業計画】

次の項目で講義を行う。

- 1 前近代化の論
- 2 明治期の教育勅語
- 3 ヘルン「神国日本」
- 4 『国体の本義』
- 5 憲法と教育基本法
- 6 ポスト近代化の論
- 7 『善の研究』と哲学
- 8 第二芸術論
- 9 日本人論の論議
- 10 日本社会の構造
- 11 経済状況と文化
- 12 日本語と文化分析
- 13 グローバル文化
- 14 日本文化の特殊説
- 15 個人主義と間人主義
(附) 文化の再生

【評価方法】

定期試験による。

【テキスト】

日本文化論の変容（青木保 中央公論社）

【参考文献・資料】

随時、指示する。

日本文化論Ⅱ

山内啓介

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

日本文化の個別議論はステレオタイプに理解されることが多い。そしてさまざまな議論が展開されている。それだけ日本文化の本質が単純なのか、あるいは捉えがたいのか、日本文化の様相は近代化と民主化のはざまにあるようである。わたしたちはどこから来て、どこへ行くとするのか、そして日本文化とはなにもなのか。日本文化論Ⅱでは文化議論に立ち入って検討をして考究を試みたい。なお、この講義は毎回、文献を摂取する。そのつもりでテキストの日本文化論の中から著作を選び、ひとつでも読破することを望む。

【授業計画】

次の項目で講義を行う。

- 1 「個人主義」と漱石
- 2 「菊と刀」の義理
- 3 墜落論と私的文化論
- 4 雑種文化論
- 5 文明の生態史観
- 6 タテ社会の人間関係
- 7 日本の経営と集団
- 8 恥の文化
- 9 「甘え」の構造
- 10 文化防衛論
- 11 「日本らしさ」
- 12 「縮み」志向
- 13 権力構造のなぞ
- 14 オリエンタリズム
- 15 国民の歴史（附）文化の概念

【評価方法】

定期試験による。

【テキスト】

日本文化論の変容（青木保 中央公論社）

【参考文献・資料】

多くは文庫本、新書版で入手できる。講談社の学術文庫をはじめ、講談社現代新書など、各社の目録を参照するとよい。

日本語教授法Ⅰ a・b

窪田守弘

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

日本語教授法は、日本語教育関連の科目の中で極めて実践的な分野である。しかし、現実には理論と実践がうまくかみ合わないことがよくあるので、本講義ではその点を十分考えて話を進めていきたい。日本語教育の歴史はまだ浅いので、外国語教授法の歴史の変遷をふまえた上で、基本的な理論を理解し、それを実際に応用できるようにしたい。そのために学生はグループで模擬授業をやって、現場を体験できるように配慮したい。

<前期～後期>

1. 理論篇

- ①日本語教育の特色
- ②母国語と外国語
- ③外国教授法の変遷
- ④日本語教育の歴史
- ⑤日本語教育のテキスト

2. 実践篇

- ①日本語教育の実践
発音・語彙・文字・文法指導
- ②教案の作成
- ③カリキュラムの立て方
- ④ディスコース・デザイン
- ⑤試験と評価法

【授業計画】

日本語教育の実際の現場の様子を知るため、極力多くのVTRを見たり、実習の模擬授業を行うようにする。

【評価方法】

学期末の試験や発表内容、出席状況で評価する。

【テキスト】

日本語教授法（窪田守弘著 晃学出版 2,000円）

日本語教授法Ⅱ a・b

山内啓介

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

日本語教育の教科書をとりあげて分析する。

日本語教授の実践的知識を得る。

日本語授業のシミュレーションを行う。

日本語教師の能力とは何か、を考える。

語学教育における学習者論、教師論、教材論のうち、教師の立場について講義と模擬授業を行う。教科書の分析には文型積み上げ方式（AOTS）を用いる。

【授業計画】

前期

- 1 日本語教育入門・初級の文法授業概要
- 2 表現文型とオーラル・アプローチ
- 3 教室作業の実際をシミュレーション
- 4 話し言葉教材と書き言葉の習得

後期

- 5 日本語教育のニーズアナリシス
- 6 日本語能力試験の標準表
- 7 日本語教育能力資格について
- 8 日本語教育の教授法とは何か

なお、コースデザインによる教育方法をあわせて考察するのでテキストを用いる。

【評価方法】

簡単な試験を学期中に、5回の予定。(60%)

出席を重視。(20%) 授業の参加。(20%)

【テキスト】

日本語教育の方法（田中望 大修館）

【参考文献・資料】

日本語の教え方の秘訣（上・下）（有馬綾子 スリーエーネットワーク）[授業には購入しなくてよい]

日本語教育教材論

山内啓介

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

日本語教育の教材は教科書、教具、資料にわけて捉えられ、また、教室環境と教師自身が教材となっていた。教授法の展開から、AL (Audio Lingual) メソッドにおける画期的な教具の開発が行われた後、今日ではPAL時代になって、おおきな変化が現れた。日本語教材でも求められているのは、たとえば言うなら、“とっさの一言”ふうの会話である。日本語の対人コミュニケーションを、そのストラテジーの視点で分析したわかりよい日本語会話である。マルチメディア対応の教材の開発が進められなければならない。日本語資料で扱いやすい、役立つ教材を考察してみたい。

【授業計画】

日本語教育で使われる教材の分析を行い、利点と欠点をメソッドとアプローチの違いに位置付け、提示文と語句を場面と文化的背景に捉えなおして、日本語会話の構成を追求して製作を行う。この講義を通して、会話集の実践的演習を試みるので、コミュニケーションの重要性を認識できるように進めたい。

【評価方法】

講義の理解。(60%) 出席を重視。(20%)
教材の製作。(20%)

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

各種市販の教科書。
会話用に『生活場面事典』(三修社、西村政人・山内啓介他)、集中教育用に『初級日本語』(久野かおる・山内啓介他、私家版)などがある。

日本語教授法Ⅲ (教育実習)

窪田守弘

集中 4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本語教育の実際の状況を知るため、映像や資料を使って実践的な実習を行なう。この教育実習は専門的な内容となるため、これまでに日本語教育に関連する科目を履習しておくことが望ましい。

本学は中国の南京市にある南京師範大学と姉妹校提携を結んでいるが、そこの日本語学科で実施した日本語教育実習の内容を中心に教育実習を行なう。特に、本学学生の研究授業などを撮影したビデオを主な教材として、実践的な内容にする考えである。

【授業計画】

南京師範大学での研究授業のビデオを参考にしながら、学生が実際に模擬授業を行う予定である。

【評価方法】

実習に関して独自の考えをまとめたレポートや、出席状況や態度などで、総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布するが、「実習ノート」を作成する予定である。

論文

ジョリー幸子 馮富榮 杉本一直
山内啓介 窪田守弘 外池俊幸

4年 通年 選択 8単位

【授業計画】

<論文提出までの主な日程> (詳細は掲示)

- ・4月上旬履修登録
- ・4月17日(月)「依頼書」提出締切り(4月3日以降、学部準備室)
- ・5月22日(月)「論文概略」提出締切り(5月1日以降、学部準備室)
以後、指導の日時、梗概提出、初稿提出など、完成論文提出までの詳細は指導教員の指示による。
- ・12月22日(金)午後4時:「論文」提出締切(12月11日以降、学部準備室で受付)

上記いずれの締切に遅れても論文提出の資格を失う。

言語文化海外セミナーⅠ

馮富榮

集中 1~4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

この授業では、言語実践を通して、言葉を知り、理解し、発信し、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

1. 南京師範大学において3週間の中国語研修を行う。
 - ◎月曜～金曜の午前中は8:00～11:30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
 - ◎午後は課外活動として南京市内見学(中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など)を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
 - ◎夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
 - ◎土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう!
 - ◎風光明媚な「瘦西湖」で名高い揚州へ、庭園で知られている蘇州への一日旅行。
2. 言語文化論Ⅰの講義内容と呼応した1週間旅行。
3. 定員は20名程度。
4. 今年度の2月中旬から3月中旬にかけて実施する。
5. 修了者には2単位を認定する。

【授業計画】

4月のガイダンスで研修の内容などを説明する。後期開講科目であるが、参加希望者は履修登録を必ずする。9月下旬頃、参加者最終決定。10月中旬頃、第1回説明会。11月下旬頃、第2回説明会。1月下旬頃、オリエンテーションを実施する。2月中旬頃に出発し、3月中旬頃に帰国する。費用は30万円程度。

【評価方法】

引率者が平常点で評価する。

【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

言語文化海外セミナーⅡ

窪田守弘

集中 1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

韓国の大邱市にある大邱カトリック大学で、3週間の語学研修を行なう。参加学生は、必ずしも韓国語の知識は必要でなく、意欲的に異文化体験しようとする者であれば、だれでも自由に参加出来る。ただ、キャンパス内の寄宿舎では規則正しい時間を送りながら語学中心の勉強生活となるので、事前の心構えがしっかり定まっている人が望ましい。

この研修は単に語学や文化の研修をするだけでなく、韓国の学生との交流を通じて相互理解を図り、多くの新しい友人を得ることも大きな目的の一つである。

期間：8月6日～8月25日（予定）

内容：

- A. 韓国語研修（月～金）
 - 毎朝3コマ（1コマ50分）
- B. 文化研修（午後週1～2回）
 - 陶磁器実習
 - 韓国料理実習
 - 韓国伝統舞踊鑑賞
- C. 文化講座（午後週1回）
 - 韓日文化比較論
 - 韓日文化交流論

【授業計画】

参加学生は、必ず事前研修（週1回）を受けて、韓国語、文化、歴史などの基礎知識を得ることとする。

なお、参加希望者は、4月より始まるNHKのハンゲル講座を受講することが望ましい。

【評価方法】

研修後にレポートを提出し、全員で報告書を作成する。

【テキスト】

プリント、資料を配布する。

国文学概論 a・b

国文学史 a・b

国文学史（2） a・b

国語概説 a・b（音声言語及び文章表現を含む）

国文学講義（1）上代 a・b

国文学講義（2）中古 a・b

国文学講義（3）中世 a・b

国文学講義（4）近世 a・b

国文学講義（5）近代 a・b

国語学講義 a・b

言語文化基礎演習 a・b

中国文学講義 (1) a・b

言語文化論 I 7 (アジア)

国文学特殊講義 仏教文化論 a・b

ことばと文化 a・b

国文学特殊講義 和歌・連歌 a・b

比較文化論

国文学特殊講義 郷土文学 a・b

コミュニケーション論 a・b

言語文化概論 I

日本語論 a・b

言語文化概論 II

日本語学 I (音声)

言語文化概論 III

日本語学 II (文法・文体)

言語学概論 a・b

英文法 a・b

金子輝美

1年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

高校時代までに培った英文法の知識をさらに深め、文法規則の暗記ではなく、実際の言語使用まで踏み込んで学習する。そのため言語の根幹をなす文法事項に的をしぼる。後期はさらに実践力を養うためTOEFL、TOEICの文法問題演習とその解説を加える。

<前期 a >

1. 現在時と過去時の表現
 2. 未来時の表現
 3. 進行形
 4. 完了形
 5. 仮定法
 6. 助動詞
- <後期 b >
7. 態
 8. 関係詞
 9. 不定詞と動名詞の比較
 10. 話法

TOEIC問題演習

TOEFL問題演習

その他の演習

【授業計画】

テキストは丁寧に解説されている。それを熟読し、例文を理解し、練習問題をやってくる。例文・練習問題は生きた英語の用例が、現代の英米小説、エッセイ、シナリオなどから豊富に集めてある。授業ではテキストの内容および例文の意味について頻繁に質問し難解な部分の解説を行い、重要事項のまとめを行う。例文・練習問題は音声面にも留意しながら進める。後期は、テキストの後半を扱うが、テスト形式で、TOEFL、TOEICの問題もやり、解説する。その他、小説、新聞などから題材を選んで演習を行う。座席指定。

【評価方法】

出席状況、授業態度を厳しく評価する。定期試験を実施する。

【テキスト】

コーパス英文法 (柏野健次・内木場努著 開拓社)

英語音声学 a・b

中郷 慶

1年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

受講生はこれまでに、英語を何年間も学習してきてはいても、おそらく、何が英語の発音の特徴であるのか理解していないように思われるし、十分な発音指導を受けてきたこともないと思われる。

この授業では、音声学・音韻論だけではなく、統語論・意味論・語用論などさまざまな角度から、英語の音声特徴を理論的かつ体系的にとらえることにする。理論に従って、より英語らしく読み、話す実践的練習のほかに、聞き取り訓練のための時間もできるだけ取る予定である。授業では、歌や映画など幅広く取り上げて、実践的な解説を加える。

英語を勉強していくうえで、一度、徹底的に英語の音声基礎から勉強しておくことは不可欠なことである。この授業はヒアリング力の向上にも役立つだろう。

【授業計画】

英語 (および日本語) の音声特徴の全体像を明らかにするように、次のような内容で授業を進めるが、各項目は独立しているわけではないので、前・後期の受講が望ましい。

前期：発音の基礎知識 (声、調音器官等)

日本語と英語の音声特徴
リズムとイントネーション
音韻論と音声学
語強勢と文強勢

後期：音節

音変化 (同化・脱落・連結・縮約)
母音と子音の発音と聞き取り

【評価方法】

出席状況、レポート、定期試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

こうすれば英語が聞ける: *Ways to be better listeners*
(中郷安浩、中郷 慶共著 英宝社)

【参考文献・資料】

授業中に指示。

English 101 a・b

ダグラス・L. ドイル

1年 前・後期 必修 各2単位

【Course Content】

The class will cover the four language skills, with particular emphasis of listening and speaking. This course will give students an opportunity to use English in every class. Students are expected to enthusiastically participate in class.

【Assessment】

Assessment will be based on the following:

attendance
class participation
diary
homework/assignments
tests

【Textbooks】

Text: to be advised.

English 102 a・b

ハリー・T. ノリス

1年 前・後期 必修 各2単位

【Course Content】

The objective of this course is to develop the students' ability to interact using English. They will be able to speak with an increased degree of fluency and confidence, with other Japanese people and native speakers of English. Areas of concentration will include, listening, pronunciation and other speaking skills. Inter-cultural differences will be explored as will humour and lifestyle, in order for students to gain an overall understanding of English. Teaching methods will include group work and individual work with the main aim being for the student to be able to express opinion and fact in English.

Teaching materials will include video's, short stories, poems and other media to stimulate the students into discussion.

【Schedule】

This will be a two semester course.

The students will work through the assigned text with extra work being given in the form of handouts. These will include but will not be restricted to:- Introductions, Pronunciation ex. (L/R and B/V), Natural word groups, Homonyms, Large numbers, Word Groups and Word Relationships, Giving and Receiving Directions

【Assessment】

Assessment will be based on class work, homework, speaking and listening ability and tests.

【Textbooks】

New Interchange 2 (Cambridge University Press)

【Reference】

None

ドイツ語 a・b

浜田義孝

1年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

ドイツ語の基礎を習得する。

ドイツ語は英語と同じく西ゲルマン語から出た言語で類似点も多いが、英語に比べてかなり保守的で、面倒な語形変化などがある。しかし一見やっかいそうな文法もいったん慣れてしまえば、かえって語句の関係が明確であり構文の把握も容易になる。

言葉は何よりもまず音声であるから、初めにドイツ語の発音に慣れること。そのためには教師（あるいはテープ）のドイツ語をよく聞いて、積極的に口を動かして真似ること。こうして繰り返し反復練習することによって、基本的なドイツ語の語句や言い回しになじみ、やさしい文を覚えていけば、週一回という短時間の学習でも、ドイツ語の基礎をマスターできるでしょう。

またドイツ語の学習を通してドイツやオーストリアの生活と文化に触れることもできる。

【授業計画】

テキストは、全14課で各課とも基本的な文法事項、練習問題、そしてドイツの生活をテーマにした読本（ディアローク）で構成されている。

1課を2回の授業で修了するようゆっくりしたペースで進む。

【評価方法】

授業での平常点と期末試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新・じゃあ、またあした！（山本著 同学社）

フランス語 a・b

清水ベアトリックス

1年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

この授業は初級者を対象とし、フランス語の習得だけでなく、フランスの風俗、文化、習慣も「味わいながら」学ぶことを意図する。担当講師はフランス語の授業を通じて受講者の対仏国理解を深める手助けをすることを切に望む。

前期

日本で出版された平易なフランス語テキスト（CD付き）、漫画、ポップス、ビデオなどを使用する。

前期には、テキストの目次に沿って進み、フランス人講師が直接教えるので、受講者は「フランスに浸り」、「純粋な」フランス語の発音と文法の基礎を身に付ける。

できる限り前期では、下記の文法を学ぶ：

発音、名詞の『性』と『数』、冠詞、不定詞と動詞の活用：直接法現在形、疑問文：疑問代名詞と疑問形容詞、否定文、品質形容詞。

後期

前期に引き続き同じテキストを使用し、より高レベルの文法・語彙を学ぶ。しかし、特にコミュニケーションに重点を置くので、「純粋なフランスの環境」の中で簡単な作文を書いたり、寸劇をすることにより、受講者自身の考えをフランス語で表現する能力を養成することを主目的とする。

後期では、下記の文法事項を学ぶ：

目的語となる人称代名と強勢形、指示形容詞、所有形容詞、冠詞の縮約、半過去、複合過去。

【授業計画】

毎回学んだフランス語を会話練習に積極的に使用するとともに、文法を体系的に学んだり、平易なフランス語の文章を和訳する。

【評価方法】

定期試験を重視するが、宿題、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

Le français Passionnément (Fumiyo ANAN, Ce'cile MORIN
第三書房)

ロシア語 a・b

杉本一直

1年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができるところは本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？

この授業では、初歩のロシア語を学びながらロシアの芸術や文化や街について楽しく紹介していきます。映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしててくださいね。

【授業計画】

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を覚え、発音を覚え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- a. キリル文字と発音
- b. 大きな声であいさつしよう
- c. 買い物に行ってみよう
- d. 乗り物に乗ろう
- f. おながすいたら...
- g. 自分について話してみよう
- h. 好きな音楽について
- i. 手紙を書こう (本当にロシアへ送るぞ！)

【評価方法】

定期試験の成績による。

【テキスト】

ロシア語ミニ辞典 (白水社)

英文学基礎演習 a・b

柳原佳枝

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

英文読解力を深めると共に、英文学の作品理解に必要な基礎的知識を高めることを目指す。

文学作品の豊かさや作家それぞれに異なる作風の鑑賞にも留意。

教室では、作品を精読し、構成や人物描写、テーマや作品の背景、その他様々な視点から総合的に作品を理解する演習を行う。

併せて、小説の<読み方>及びレポートや論文の<書き方>についての検討も目指す。

【授業計画】

作品の精読をもとに、受講学生によるレポートや意見の発表に重点をおく。

前期に予定する作家：

E. M. Forster, J. Joyce, K. Mansfield

後期に予定する作家：

D. H. Lawrence, W. S. Maugham, 他

【評価方法】

定期試験、平常点 (積極的な発言、レポート、出席、等) などで総合的に評価する。

【テキスト】

Modern British Short Stories (田中英史・横山幸三 註解 成美堂)

及びプリント配布。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

英文学基礎演習 a・b

大野光子

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

英米文学研究の基礎となる英語読解・聴解能力を育成すること、歴史や文化についての基本的知識からさらに高度な理解へと進めること等を目指して、様々な教材を用いての演習を行う。文学テキストに限らず、音声・視覚教材や、歴史資料、報道記事などにも接しつつ、受講者が主体的に学んでいくことを期待したい。

【授業計画】

- 第1回 年間計画の指示（前期・後期とも）
第2～12回 前期は特に毎回聴解力養成ドリルを実施するとともに、散文を中心とした読解演習を行う。
第13回 試験実施

【評価方法】

授業の予習と、授業への積極的な参加、小テストおよび期末の筆記試験とレポートによって、総合的に評価する。

【テキスト】

Listening Corner（成美堂 900円）
他にプリント教材等配布

英文学基礎演習 a・b

久野幸子

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

英文読解力の育成と英文学作品の理解に必要な基礎知識を深めることを目指す。

18世紀英文学を代表する作家の一人であるジョナサン・スウィフト（1667—1745）の『ガリヴァー旅行記』をテキストに選び、作品を丹念に精読することで英文読解力を養うとともに、作者の伝記的事実、発表当時の社会的背景、英国ユートピア文学の伝統、英国小説史に占める位置など、さまざまな角度から検討することで文学作品を理解するのに必要な基礎知識の修得を心がける。授業は講義及び輪読形式・レポーター形式で行なう。

【授業計画】

前期は、まず始めに、(1)「スウィフトおよび彼の作品世界」について、(2)文学的ジャンルとしてのユートピアについて、2、3回講義を行う。その後、『ガリヴァー旅行記』の「第1篇」と「第2篇」を中心にレポーター形式で精読する。後期は、「第3篇」と「第4篇」を中心に精読するとともに、作品全体の総合的分析を行い、この作品の現代的意義を考察する。最後に1990年代に映画化された『ガリヴァー旅行記』をクラスで鑑賞し、文学の映画化という問題についても検討する予定である。

【評価方法】

前後期とも平常点（出席・予習・発表）と定期試験またはレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

- (1) *The Gulliver's Travels*
(Jonathan Swift, Oxford World's Classics)
- (2) ガリヴァー旅行記（平井正穂訳 岩波文庫）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

米文学基礎演習 a・b

太田直子

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

20世紀を代表する6人の作家、W. Saroyan, J. Steinbeck, B. Malamud, E. Caldwell, S. Anderson, W. Faulknerの短編を読んでいく。一つ一つの単語を大切にしながらも、作品を楽しめるようになってほしい。作品が書かれた時代背景、そして作家の特徴についての知識を習得する。

【授業計画】

前期：

- W. Saroyan “The Great Leapfrog Contest”
- J. Steinbeck “How Mr. Hogan Robbed a Bank”
- B. Malamud “The Loan”

後期：

- E. Caldwell “The Strawberry Season”
- S. Anderson “The Egg”
- W. Faulkner “A Rose for Emily”

【評価方法】

各学期末の試験

【テキスト】

The Best Stories from Great American Authors, 英潮社
¥1,200

米文学基礎演習 a・b

小野迪雄

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

テキストを精読することによって、作者がどのような意図で作品を書いたのかを探るのが、中心のテーマである。このことは、読者の方でどんな読み方が出来るかの側面もある。英語を通して、作品の意図を読みとり、それがわれわれにとってどんな意味があるかを考える。

〔前期〕テーマを発展させるために、テキストを読むと同時に、作者や作品の特徴についての知識を習得する。また作品は作者の思想や書かれた時代の社会などを反映していると考えられるから、そこに読みとれる問題を考えてみる。できるだけ比較文学の視点からも説明を加える。テキストは精読していくが、文法事項の説明は必要最小限にとどめる。

本年度は現代アメリカの最も代表的な劇作家 Tennessee Williams の初期の作品であると共に代表作でもある A Streetcar Named Desire を扱う。この詩情豊かな作品を通して、作者は急速に変転していくアメリカ社会の影の部分に光をあて、激しい社会の動きについてゆけない家族を浮きぼりにして、やさしいまなごしを登場人物にむける。

〔後期〕前期の方針の継続。

【授業計画】

学生の積極的な意欲に期待し、指名などによって、成果を発表してもらう。テキストを中心に進行するが、必要に応じてプリントを配布し、内容理解の補助とする。

【評価方法】

筆記試験、レポート、授業に対する平常の準備（予習）などを総合して行なうが、筆記試験に最も重点をおく。

【テキスト】

Tennessee Williams :

A Streetcar Named Desire (『欲望という名の電車』) 金星堂

英語学基礎演習 a

樗木勇作

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

英語学入門

英語の言語的研究について、基礎知識を身につけることを目標とする。英語学研究の基礎力となる、英語の読解・リスニング能力の向上も目指す。

英語学の扱う領域のうち、次の分野について演習を行う。形態論 (Morphology)、音声学 (Phonetics)、音韻論 (Phonology)、統語論 (Syntax)、意味論 (Semantics)、言語の多様性 (Language Variation)、言語変化 (Language Change)、語用論 (Pragmatics)。

それぞれの分野の知識を実際の英語運用で活かせるよう、最新映画のスク립トや洋楽の歌詞を使って応用を試みる。

本演習は包括的な概論ではなく、上記分野の特定の側面を垣間見るにすぎない。理論よりも、言語事象に焦点をおく。

【授業計画】

説明→演習問題→解答の確認

<後期a>

1. Morphology
2. Phonetics
3. Phonology
4. Syntax

【評価方法】

レポート+平常点 (出席・授業態度)。

【テキスト】

A Linguistics Workbook Third Edition (Ann K Farmer and Richard A. Demers (1995), MIT Press)

英語学基礎演習 b

樗木勇作

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

英語学入門

英語の言語的研究について、基礎知識を身につけることを目標とする。英語学研究の基礎力となる、英語の読解・リスニング能力の向上も目指す。

英語学の扱う領域のうち、次の分野について演習を行う。形態論 (Morphology)、音声学 (Phonetics)、音韻論 (Phonology)、統語論 (Syntax)、意味論 (Semantics)、言語の多様性 (Language Variation)、言語変化 (Language Change)、語用論 (Pragmatics)。

それぞれの分野の知識を実際の英語運用で活かせるよう、最新映画のスク립トや洋楽の歌詞を使って応用を試みる。

本演習は包括的な概論ではなく、上記分野の特定の側面を垣間見るにすぎない。理論よりも、言語事象に焦点をおく。

【授業計画】

説明→演習問題→解答の確認

<後期b>

1. Syntax
2. Semantics
3. Language Variation
4. Language Change
5. Pragmatics
6. Psychology of Language

【評価方法】

レポート+平常点 (出席・授業態度)。

【テキスト】

A Linguistics Workbook Third Edition (Ann K Farmer and Richard A. Demers (1995), MIT Press)

英語学基礎演習 a・b

加藤主税

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

ゼミ形式で授業を進めます。自主的、積極的に参加して下さい。全員が毎時間1回以上発言すること。ワイワイ、ガヤガヤとニギヤカにしかも、わきあいあいとエイゴ学に取り組んでいきましょう。決していねむりする余裕はありません。

【授業計画】

[前期]「人がことばを使うには、どんな能力が必要か?」という問題にアプローチするため、母国言語能力を意識化し、規則化する過程を経て、英語分析に進みます。各言語理論、分析方法の概要、基礎を習得し、それを参考にして、各自の収集したデータの規則化を試みます。資料収集方法、問題設定方法、疑問題検索方法については、前期のうちに、充分体得してほしいと思います。

[後期] 前期で体得した分析能力を語用論的分野まで拡大します。さまざまな言語現象を語用論的に分析し、その規則化を試みます。特にこの分野に関心を持つことは、日常の言語感覚を敏感にすることでしょう。この経験は、必ず将来の言語生活に役立つと思います。

【評価方法】

出席を重視します。授業中の発言回数とその内容、さらに積極性あるいは授業態度などを評価します。もちろん定期試験も重要です。

【テキスト】

英語観察学 (奥田隆一著 鷹書房弓プレス)

【参考文献・資料】

日本語七変化 (加藤主税著 中央公論新社) など、その他は授業中に指示。

英語学基礎演習 a・b

小泉直

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

英語学入門

英語学における基礎的概念を言語習得、音声学、形態論、統語論、意味論、談話分析の各分野に渡って学習する。また、今後の英語学研究にとって重要な英語の読解力の向上も目指す。

【授業計画】

<前期 a>

- 第1回 言語記号の性質
- 第2～3回 言語習得
- 第4～6回 音声学
- 第7～8回 形態論
- 第9～12回 統語論

<後期 b>

- 第1～6回 統語論
- 第7～10回 意味論
- 第11～12回 談話分析

【評価方法】

期末試験により評価する。

【テキスト】

Introductory Topics of Linguistics (英宝社)

English 201 a・b

ポール・C. リンガー

2年 前・後期 必修 各2単位

[Course Content]

This course covers all four language skills, with particular emphasis on listening and speaking. Throughout the course there will be emphasis on meaningful communicative practice. Students will have the opportunity to personalize the language they learn, to make use of their own world knowledge, and to express their ideas and opinions.

The course makes frequent use of pairwork, groupwork, and whole class activities, maximizing their opportunity to speak English in class.

The student's role is to participate actively and creatively in learning, using both the materials they study in the course and their own knowledge and language resources.

[Schedule]

First semester (units 1 and 2)

Topics include: Personality types and qualities; Relationships; "Turn ons and turn offs" Unusual and exceptional jobs; job skills; Summer jobs

Second semester (units 3 and 4)

Topics include: Favors; Informal and formal requests; Messages; The media; News stories; Exceptional events

[Assessment]

Assessment is continual and will be based on the following criteria:

Attendance

Class participation

Homework and assignments

End of semester progress test

[Textbooks]

New Interchange 3 (Jack C. Richards CUP)

English 202 a・b

ジョアン・M. ウッドマン

2年 前・後期 必修 各2単位

[Course Content]

This course is designed to enhance the students' basic English communication skills, whilst also providing them with information about cultural differences. A variety of teaching techniques will be used :-pair work, role plays, games, videos, etc.

The listening comprehension activities, videos, and oral presentations will introduce the students to a variety of western cultures (with an emphasis on Australian culture).

Periodic reports will require the students to compare and contrast Japanese culture with others.

Students will be required to keep a journal of their opinions, regarding contemporary issues, based on newspaper articles provided by the teacher and some articles collected by the student.

This task will be worth 50% of the grade.

[Schedule]

Section 1. Topics. Self/Family/Free time. Discussion of cultural differences.

Section 2. Topics. School/Sports/Music. Discussion of cultural differences

Section 3. Topics. Holidays/Dating/Marriage/Funerals. Discussion of cultural differences.

Section 4. Topics. Xmas/New Year. Discussion of cultural differences.

[Assessment]

Journal - 50%

Oral reports or conversation test- 20 %

Class activities / reports - 30%

[Textbooks]

None

比較文化

松本青也

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日米文化の比較

何気なく喋ったり、行動したりしているつもりでも、私たちは常に自国文化の影響を受けています。「文化」を、集団が共有する価値観や規範の体系としてとらえ、日本人とアメリカ人の考え方や生き方を豊富な事例をもとに比較対照しながら、それぞれの文化の特質を浮き彫りにします。

アメリカのテレビ番組や新聞雑誌の分析を加えながら講義と意見交換で進行するこの授業は、いわば自国文化に縛られた自分の姿を映し出す鏡。覗いてみると、もっと自由で伸びやかな生き方が目の前に広がります。

【授業計画】

1. 文化論
- 2～9. 文化変形規則 (CTR)
10. システムとしての CTR
11. 研究対象としての CTR
12. 日本語の衝突と CTR
13. CTR と学校英語教育
14. これからの日米文化

【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価。

【テキスト】

松本青也『日米文化の特質』研究社。

英語学概論 a・b

堀内俊和

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

「英語学」とはどのような学問かを理解するために、従来から行なわれてきている多様な研究方法や研究分野を概観する。カバーする主な分野はつぎのとおりである。

- | | |
|----------------|---------|
| I 音声学・音韻論 | V 意味論 |
| II 形態論 | VI 語用論 |
| III 統語論 (生成文法) | VII 英語史 |
| IV 統語論 (機能主義) | |

【授業計画】

テキストにもとづいて講義する。前期は I～IV、後期は V～VII をカバーする予定である。

【評価方法】

出席、レポート、期末テストで総合的に評価する。

【テキスト】

日英対照による英語学概論 (増補版) (西光義弘編 くらしお出版 2,625円)

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

英文学史 a・b

キース・イーズリー

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

We will study British literature historically from its beginnings through the mid-Victorian Period. We will focus on the literature itself, from Beowulf through Dickens, reading poetry, fiction, and plays.

【Schedule】

(FIRST SEMESTER) a

From the Anglo-Saxon Period through the 16th century, focusing on Beowulf, Chaucer, and Shakespeare.

(SECOND SEMESTER) b

From the Metaphysicals through the mid-Victorian Period, focusing on Swift, Blake, Wordsworth, Keats, and Dickens.

【Assessment】

Each semester will include several quizzes, course-work and a final examination. If it is necessary to limit class size, there may be a test in the first Lesson.

【Textbooks】

The Penguin Guide to Eng. Lit. (Carter and McRae, Penguin)

Past Into Present (Gower, Longman)

米文学史 a・b

池谷敏忠

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

文学は言語による芸術で、国の文学は歴史的に、地域的に展開いたします。この講義はアメリカ英語で表現された米文学を通史的に講義・説明し、作家・作品の特質についても指摘いたします。

【授業計画】

前期は下記の内容について講義します。

ピューリタニズムと啓蒙思潮
国民文学の創成と成熟
リアリズムと自然主義の文学

後期は下記の内容について講義します。

モダニズムと社会参加の文学
不条理の文学

テキストを用い、講義・解説します。受講生は必ずテキストを持参してください。

【評価方法】

レポートまたはテストの結果に各自の出席状況を加味して評価します。

【テキスト】

総説アメリカ文学史 (研究社出版 3,150円)

英文学講義 I a・b

大野光子

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

「イギリス・アイルランド文学における家族の肖像」をテーマとして、20世紀の文学・映像テキストを解説する。サブ・テキストとして『メタファーはなぜ殺される—現在批評講義—』（巽孝之著、松柏社）を使用しつつ、同書における手法をイギリス・アイルランド文学に適用することを試みる予定である。

【授業計画】

解説する対象としてのテキストは、J・ジョイス『ダブリン市民』、W・B・イエイツ『キャサリーン・ニー・フーリハン』、L・オフラハティエー「エグザイルへの旅立ち」、J・ジョンストン『鉄道駅の男』、A・カーター「血染めの部屋」、『魔法の玩具店』他とし、各原作の他、映画化されたものも扱う。予習やAVセンターでの視聴の課題を、授業内で指示しつつ進めていくので、意欲的な学習を期待したい。

【評価方法】

授業への参加を平常点とし、学期中複数回提出を課すレポートとによって、成績評価をおこなう。

【テキスト】

メタファーはなぜ殺されるか—現在批評講義—（巽孝之 松柏社 2,835円）
他はプリント等を使用。

米文学講義 I a・b

太田直子

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

アメリカ文学を形成してきた数多くの作家たちに親しむために、作家たちの生涯や作品形成の裏にあったエピソードなどについて書かれた英文を読みながら、解説していく。

【授業計画】

前期：

- 1 R.W. Emerson
- 2 H.D. Thoreau
- 3 N. Hawthorne
- 4 Herman Melville
- 5 H.W. Longfellow
- 6 Edgar Allan Poe
- 7 Walt Whitman
- 8 Emily Dickinson
- 9 Mark Twain
- 10 Henry James
- 11 Robert Frost
- 12 Jack London

後期：

- 1 Ezra Pound
- 2 Sinclair Lewis
- 3 Eugene O'Neill
- 4 F.Scott Fitzgerald
- 5 William Faulkner
- 6 Ernest Hemingway
- 7 John Steinbeck
- 8 Tennessee Williams
- 9 Arthur Miller
- 10 Henry Miller
- 11 Saul Bellow
- 12 James Baldwin

【評価方法】

各学期末のテスト。

【テキスト】

The Writers of American Literature (John Dougill, Macmillan Language House)

英語学講義 a・b

中野弘三

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

伝統的な動詞の意味分析から、新しい言語理論に基づく最近の動詞意味論に至るまで、文の中心要素である動詞の意味の分析方法を紹介し、動詞の意味分析の有用性や問題点を知ってもらおう。

【授業計画】

前期は伝統的な英語動詞の意味分類を紹介し、その分類と完了相、進行相、態との関係を考察する。また、動詞の意味と動詞が取る統語形式との関係も考察する。

後期は新しい言語理論に基づく動詞の意味分析を紹介し、伝統的な動詞の意味分析と比較して、その有用性を考察する。

前期、後期ともに講義内容をよりよく理解してもらうために、練習問題を用意し、宿題とすることもある。

【評価方法】

各学年末の試験により評価する。

【テキスト】

使用しない。配布するプリントに添って講義する。

【参考文献・資料】

Meaning and the English Verb 2nd Edition

(G. N. Leech 著 ひつじ書房 [澤田治美注])

The English Verb 2nd Edition (F.R. Palmer 著 Longman)

英米文学特殊講義 I a・b

トマス・グランディ

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

We will read the Bible as a literary text. The first semester we will read major selections from the Old Testament. The second semester we will focus on the New Testament. We will pay close attention to such literary aspects as characterization, imagery, and motifs. We will approach the text from multiple critical perspectives, primarily formalist, mythic-archetypal, feminist, and ideological.

【Assessment】

Grades will be based on attendance, participation, and a final exam.

【Textbooks】

The Bible: Authorized King James Version with Apocrypha.
(Oxford World's Classics)

英語学特殊講義 I a

樗木勇作

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

英語統語論入門 (Introduction to English Syntax)

英語の文構造 (sentence structure) について、基礎的な知識を得ることを目的とする。さまざまな英語の構文の構造を明らかにしていくことで、統語論が扱う内容や手法を理解し、英語の文構造の特徴がつかめるようになることを期待する。この授業では、特定の理論にあまり入り込むことなく、広く一般的な分析法で英語の統語構造について考察する。

【授業計画】

1. Basic Sentence Structure
The Subject, The Predicate, Transitive Verbs and Direct Objects, Ditransitive Verbs, Copulas, Complex Transitive Verbs and Object Complements
2. Noun Phrase
3. Verb Phrase
4. Locative Phrases, Motion Phrases and Particles
5. Free Relative Clauses
6. Subjects of Phrases
7. Passives and the *Easy Construction*
8. Modification
9. Special Constructions
The Existential Construction, Identification Sentences and the Cleft Construction
10. Negation
11. Conjunction and Ellipsis
12. Time Relations and Aspect

【評価方法】

レポート+平常点 (出席・授業態度)

【テキスト】

English Syntax second edition (C.L.Baker (1995), MIT Press)

English Syntax (Lynn M. Berk (1999), OUP)

English Grammar : a generative perspective

(Liliane Haegeman and Jacqueline Gueron (1999) ,

Blackwell Publishers)

英語学特殊講義 I b

樗木勇作

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

英語統語論入門 (Introduction to English Syntax)

「英語学特殊講義 I a」での知識をもとにして、英語の統語論を生成文法の観点から考察する。この授業では、Noam Chomsky (1995) のミニマリストプログラムに焦点を置く。

【授業計画】

1. Categories
2. Structure
3. Empty Categories
4. Head Movement
5. Operator Movement
6. Subjects
7. A-movement
8. VP Shells
9. Agreement Projections
10. Special Topics

【評価方法】

レポート+平常点 (出席・授業態度)。

【テキスト】

Syntax A minimalist introduction

(Andrew Radford (1997), Cambridge University Press

£10.95)

English 301 a ・ b

ポール・C. リンガー

3年 前・後期 選択 各2単位

[Course Content]

A series of fluency practice activities will be used to improve the listening and speaking abilities of intermediate students of English. This course will focus on the development of listening and speaking skills, but will also include activities that develop the student's reading and writing skills.

Communicative activities are provided to stimulate real conversation as much as possible. The students will find that they are strongly motivated by the desire to receive, offer, and exchange information by the realism and the value of the task themselves.

[Schedule]

Each topic will be covered over a 2 or 3 week period and will include the following themes:

- ・ Strange phenomena
- ・ Communication
- ・ Entertainment
- ・ Health
- ・ Current events
- ・ Controversy

[Assessment]

Assessment will be continuous and will be based on the following criteria:

- ・ ATTENDANCE
- ・ CLASS PARTICIPATION/EFFORT
- ・ HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
- ・ END OF SEMESTER REPORT

[Textbooks]

To be announced.

English 301 a ・ b

ハリー・T. ノリス

3年 前・後期 選択 各2単位

[Course Content]

This course is designed to be taken in two semesters. (a+b)

The course aims to improve the students' ability to communicate using English.

To help them transmit their ideas to other Japanese people and native speakers of English. The course will show students key points about public speaking that will allow them to speak English confidently in front of small groups. Teaching strategies and techniques, voice control, and use of teaching aids will be studied. Reading, writing, listening and speaking will be addressed throughout the course.

Speaking and listening being the main areas of assessment.

[Schedule]

- The first semester course, will be aimed mainly at teaching techniques used to increase confidence when speaking English.
- The second semester course, will be aimed at students giving seminars on a variety of topics in English.

[Assessment]

- First semester assessment will be based on attendance, speaking ability and improvement, attitude and a report.
- Second semester assessment will be based on attendance, research, seminar and a report.

[Textbooks]

No text, as necessary worksheets will be given.

English 301 a・b

ジョアン・M. ウッドマン

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This course is designed to explore aspects of Australian language and culture through analysis of poems, short stories, songs, movies, TV programs, news, etc.

Contemporary and historical examples will be used. A variety of topic areas will be covered, for example :- personal problems ; environmental problems; current issues in society etc.

Students will be required to spend considerable time on vocabulary development (including idiomatic expressions) , hence the majority of assessment will be based on vocabulary tests, as well as participation in class discussions/activities.

【Schedule】

- Section 1 .Topics. Aust. Pop songs/traditional songs/Advice columns
- 2 .Topics. Babe/Crocodile Dundee/Famous Australians
- 3 .Topics. Poet-A.B. Paterson/ Man from Snowy River
- 4 .Topics. More pop songs/traditional songs/annual events
- 5 .Topics. Dramas/Movies/Newspaper articles

【Assessment】

- Class activities /reports -30%
- Vocabulary tests - 70%

【Textbooks】

None

NOTE: Students who take my English 301 course can also take my English 302 course,and vice versa.

English 301 a・b

ジョナサン・E. ロング

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

In this course the students will watch videos, without subtitles, based on famous short stories in English. They will also extensively discuss and write in English about these videos in regards to their literary, cinematic and cultural significance. In this way the students will employ all four language skills and critical thought.

【Schedule】

Usually, each video will require three weeks:

- 1st Week script
- 2nd Week video
- 3rd Week discussion

【Assessment】

Assessment is based on attendance, class participation in English and reaction papers to be written for each video .

【Textbooks】

none

English 301 a・b

ポール・ルイス

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

During this course, students will practice listening and speaking activities intended to increase their ability to communicate in a wide variety of situations. In particular we shall focus on Learning Strategies and the role of intonation in communicating. At the same time, efficient and effective strategies for learning vocabulary will be considered. The aim of this course is to improve students' fluency, flexibility, and confidence in English.

The course will be presented entirely in English, and students are urged to minimise the amount of Japanese they use in the class.

【Schedule】

Students will work mostly in groups or pairs, practising the strategies outlined above. Among other activities, we shall look at information exchange and negotiation, problem solving, and occasionally role-plays.

【Assessment】

Assessment will be according to class participation, attendance, and occasional homework reports. No test will be given.

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class meeting.

English 302 a・b

ジョアン・M. ウッドマン

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This course is designed to explore vocabulary and other aspects of language and culture through analysis of poems, short stories, songs, and movies. Contemporary materials will be used, covering such topic areas as :- young people and their changing behaviour; relationships; personal problems; environmental problems; current issues in society etc.

Students will be required to spend considerable time on vocabulary development, hence the majority of assessment will be based on vocabulary tests, as well as participation in class discussions.

【Schedule】

To be decided.

【Assessment】

Class activities /reports -30%
Vocabulary tests -70%

【Textbooks】

None

NOTE : Course content varies, so students who take my English 301 course can also take my English 302 course, and vice versa.

English 302 a・b

ポール・C．リンガー

3年 前・後期 選択 各2単位

[Course Content]

This course is aimed at intermediate students of English. An integrated approach will be presented where there will be mainly a focus on developing reading and listening skills, but also an inclusion of activities designed to develop the student's speaking and writing abilities. The thematically-organized selections of reading material provides a balanced point of view while helping to nurture a range of analytical and critical thinking skills.

Also included are effective vocabulary skills exercises that are designed to increase students' vocabulary while helping them to cope with new words.

[Schedule]

Each topic will be covered over a two to three week period and will include some of the following themes:

CROSS-CULTURAL CONNECTIONS
PLAYING TO WIN
UNIVERSAL MYSTERIES
OUR FRAGILE PLANET
BUSINESS
THE POWER OF MUSIC
SUPERSTITIONS
MULTILINGUALISM

[Assessment]

Assessment will be continuous and is based on the following criteria:

Attendance
Class participation
Homework and assignments
End of semester report

[Textbooks]

FOR YOUR INFORMATION 2 (K Blanchard and C Root-Longman)

English 302 a・b

ディビッド・C．ダイカス

3年 前・後期 選択 各2単位

[Course Content]

The general goal of this course is continue students' development in the four skills. There will be a strong focus on discussion and problem solving activities as a means of exchanging ideas and opinions. The approach will be topic based but will involve mastery of relevant grammatical structures needed to clearly express oneself in such discussions, especially those involving modals and conditional forms to perform communicative functions like criticizing and expressing regret. Another focus will be on learning and using phrasal verbs commonly used in conversational English.

Discussion topics/activities will provide the basis for writing assignments.

[Schedule]

The topics around which lessons will be based will be determined in part after consultations with students. As for specific grammatical structures involving modals and conditional forms, they will be studied starting first with simpler forms and advancing to the more complex ones. They will be studied in connection with discussion topics. Phrasal verbs will be studied independently of discussion topics.

[Assessment]

Assessment will be based on attendance and completion of exercises/activities during class, homework, occasional quizzes, and an end of term test.

[Textbooks]

To be announced

English 302 a・b

ダグラス・L・ドイル

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This class is designed to encourage students to utilize and improve their English skills. The focus will be on listening and speaking, however, there will be some reading and writing. Students will be working in pairs or in small groups discussing a variety of topics. All students are expected to give their own opinions and to eagerly participate in the discussions.

【Assessment】

Assessment is on-going and is based on the following:

attendance

class participation and enthusiasm

homework

presentations

oral tests

英文学講義演習 I a・b

柳 五郎

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

I. Pride And Prejudice : 全知的視点から見たhumour と subtlety of human psychologyの描写。

II. Wuthering Heights : 崇高な精神のundying lifeの世界と広大な構造。

<前期>

I. Pride And Prejudice :

1. 物質主義と精神主義の小説に於ける通時的傾向と変転

2. 外面描写の文学傾向の中で、内面描写の小説が台頭し新しい文学が生まれた意義

3. 作家の全知的視点によるhumour と subtlety of humour psychology描写の特徴

<後期>

II. Wuthering Heights :

1. 現実と非現実の被膜の世界に独想したundying lifeの存在

2. Emilyのjuveniliaに作詩した詩の世界と作品 Wuthering Heightsの比較研究

3. ダンテの『神曲』、MiltonのParadise Lostとの構造的比較

【授業計画】

I. 全知的視点からの描写によって、表現言語外に生れる、humourとsubtlety of human psychology

II. mysticismによる解説で、超越的世界に於ける精神の不滅性。

III. 東洋的神秘主義と西洋的神秘主義の比較

【評価方法】

それぞれの作品の通時的共時的理解と作品及び人間性の本質、及び言外の意味を解説する能力をテストで評価。

【テキスト】

I. Pride and Prejudice (Jane Austen OUP)

II. Wuthering Heights (Emily Bronte A Norton Critical Edition)

英文学講義演習 I a・b

柳原佳枝

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

＜英文学とキリスト教文化I＞

欧米の文化の根底をなすものの一つはキリスト教の信仰や精神である。英語という言語そのものにも、又その文学にも、聖書やキリスト教世界の諸相が深く関わっている。この講義演習では、その点を重視しながら、英文学の作品理解を深めることを目指す。

【授業計画】

受講学生によるテキストの読解やレポートを中心に、授業担当者が随時補足する。

＜前期＞

G. Herbert, G. M. Hopkins, C. G. Rossetti, などによる詩を取り上げる。多くの作品にみられる、信仰・希望・愛、そして生と死のテーマ、更に色彩豊かな描写など、様々な視点から作品の理解を深める。

＜後期＞

異なる作家の短編小説を数編取り上げ、そのキリスト教的テーマや背景などを考察する。

信仰を離れた作家の作品にもなお現存するキリスト教の伝統も例証を見る。

【評価方法】

期末のレポートと平常点（事前の準備、活発な意見の発表、授業に参加する積極的な姿勢など）で総合的に評価する。

【テキスト】

前期：*More poetry Please!*（村田辰夫・Norman Angus 編注 南雲堂）

及びプリント配布。

後期：授業中に随時指示。プリント教材も含む。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

英文学講義演習 I a・b

大野光子

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

アイルランド文学演習では、19世紀末のアイルランド文芸復興運動の中でW. B. Yeats等が復活させた古代ケルト神話や妖精物語・詩から出発し、時代を遡る形でアイルランド文学史を概観することによって、独自の伝統を理解する。主に詩の読解力をつけるとともに、文学や映像メディアを通してアイルランド社会や文化全般についての知識を深める。

I. ケルトの薄明の中へー妖精と英雄の物語

1. 文芸復興と妖精詩：W. B. Yeatsを中心に
2. ケルト神話とキリスト教：口承物語の伝統
3. 妖精とヴィクトリア朝文学：絵画的表現との関係

II. 植民地アイルランドの独立ー貧困と移民の物語

1. アイルランド詩の伝統：古代から19世紀まで
2. 独立運動と文学：D. Hyde, Lady Gregory, J. M. Syngeを中心に
3. 詩／小説／劇に見るアイルランド社会（研究発表）

【授業計画】

前期で、詩や物語など英語文献の多読・速読を通して英語力を養成し、併せて英文学の基礎知識を習得したことを前提に、後期はディスカッションを通して作品の解釈・観賞力を高めるとともに、文献リサーチ法を学び、ジャンル別に選択した作品についてグループごとの研究発表を行なう。

【評価方法】

ゼミでの積極的な発言や研究発表を含む平常点と、学期毎のレポートによって成績評価をおこなう。

【テキスト】

Irish Literature'A Reader (Syracuse University Press)

他プリント教材

英語学講義演習 I a・b

堀内俊和

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

現代英語の構造を語・句・節等様々なレベルから考察する。

従来のS+V+O等の平板的な分析法を基礎とし、二分法を基本とした直接構成素分析や再分析等の考え方も導入する。テキストの精読と構造分析を通して、英語学の知識を深めるとともに英文の読解力を高める。音読も重視する。

【授業計画】

テキストを個々の学生が輪番で音読・解釈し、適宜Q&Aを行う。

充分な下調べを前提に、出席を重視する。

【評価方法】

授業ごとの音読・解釈・発言等の平常点を重視し、レポートと合わせて総合的に評価する。

【テキスト】

抜粋プリントを使用する。内容は助助動詞(modal auxiliaries)と法副詞(modal adverbs)に関する論考である。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

英語学講義演習 I a

中郷 慶

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現代英語学 I

最近の英語学の研究動向を知ることと、各自が研究テーマを見いだすことを目標とする。英語学に関する論考・論文を雑誌や論集から選び、ディスカッションの材料とする。

[今週の一面記事および社説から(英字新聞)]

Discussion & Structural Analysis

[論文レポート]

[テキストの精読]

【授業計画】

参加者全員で共通の論文を読む輪読形式と、レポーターが興味のあるテーマを発表するレポート形式を交互に行う。二回目以降は英語で書かれた論文を英語でレポートする。

【評価方法】

レポート+小テスト+平常点(出席・授業態度)。

【テキスト】

Linguistics: An Introduction to Language and Communication
FOURTH EDITION

(Adrian Akmajian, Richard A. Demers, Ann K. Farmer,
and Robert M. Harish (1995), MIT Press

\$ 29.00 (paper))

英語学講義演習 I b

樗木勇作

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代英語学 I

最近の英語学の研究動向を知ること、研究テーマを見出すこと、英語力を向上させることを目標とする。英語を言語学的な点から研究している論考・論文を雑誌や論集から選び、ディスカッションの材料とする。同時に、英字新聞やテレビの英語ニュースを教材にして、英語運用能力の向上も目指す。

【授業計画】

1. 英字新聞講読
2. リスニング練習
3. テキスト精読
4. 論文レポート

【評価方法】

レポート+小テスト+平常点（出席・授業態度）。

【テキスト】

Linguistics An Introduction to Language and Communication
FOURTH EDITION

(Adrian Akmajian, Richard A. Demers, Ann K. Farmer, and Robert M. Harnish (1995), MIT Press

\$ 29.00 (paper))

米文学講義演習 I a・b

唐澤 恪

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

この講義演習では、19世紀から現代にかけてのアメリカの主要な文学作品のうち、主に小説をとりあげて概観する。英文概説書を読み、これを補足する形で授業を行う。学生諸君は、いずれかの作品を選んで読み、卒業論文への手掛かりをつかんでもらいたい。

前期に扱う作家：E. A. Poe, F. Douglass, N. Hawthorne, H. Melville, H. James, M. Twain, W. Cather

後期に扱う作家：F. S. Fitzgerald, E. Hemingway, W. Faulkner, J. Steinbeck, R. Wright, J. D. Salinger, J. Kerouac, T. Pynchon, T. Morrison

以上の作家の作品以外にも、重要と思われる詩人、劇作家、思想家の著作について学んでいく。

【授業計画】

英文概説書の輪読、質疑応答、教師による補足・敷衍という順序で授業を行う。適時に課題を与え、発表を求めると予定。

【評価方法】

テスト（前期）、レポート（後期）の成績に平常点を加味して評価する。

【テキスト】

Popular Classics of American Literature (M. Kowalewski
英宝社)

米文学講義演習 I a・b

池谷敏忠

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

アメリカ近代詩研究と題し、19世紀アメリカの代表的詩人の作品を取り上げ、絵画性、音楽性を考えながら、意味を考察します。

【授業計画】

前期は下記の詩人の作品を取り上げます。

Walt Whitman

E. A. Poe

and others

後期は下記の詩人の作品を取り上げます。

Emily Dickinson

Anne Bradstreet

and others

信頼できる詩集の有名な詩を選んでプリントにし、輪読します。

【評価方法】

レポートまたはテストに演習内容、各自の出席状況を加味して評価します。

【テキスト】

原書のプリント。

米文学講義演習 I a・b

太田直子

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

20世紀アメリカ小説の研究 I

20世紀アメリカ文学を中心に、代表的な作品を読み、アメリカ文学を概観する。

【授業計画】

Frank Norris, Stephen Crane, Theodore Dreiser,

Sherwood Anderson, Sinclair Lewis, F.S. Fitzgerald

John D. Possos, William Faulkner, Ernest Hemingway,

John Steinbeck, William Saroyan, Bernard Malamud,

John Updike.

【評価方法】

ゼミでの発表等の平常点とレポート。

【テキスト】

A College Anthology of American Literature (N.Koriyama

The Hokuseido Press)

英文講読Ⅰ a・b

中島賢二

1年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

エドガー・アラン・ポーと並んで推理小説の元祖とされているウィルキー・コリンズの長編推理小説『白衣の女』のさわりの部分をテキストにして、英文を正確に読む訓練をします。なにぶんにも大長編ですので、残りの部分は必ず日本語で読んでおいてもらいます。ヴィクトリア朝イギリスの風俗、歴史、社会、フェミニズム、推理小説の歴史、ゴシック小説との関連等もあわせて考えると面白い問題がたくさんありますので、そんな点と一緒に考え学んでいこうと思っています。本を読むことの好きな人の受講を望みます。

【授業計画】

前期 第一部、第二部を読みます。特に、ヴィクトリア朝の社会、フェミニズムなどに焦点を当てて。
後期 第三部を読みます。推理小説、ゴシック小説としての『白衣の女』の特質を考えて。

【評価方法】

レポート、定期試験、授業に積極的に参加したかなど、総合的に判断します。

【テキスト】

ウィルキー・コリンズ作『白衣の女（上）（中）（下）』（岩波文庫）
プリント配布

【参考文献・資料】

ゴシック小説を読む（小池滋 著 岩波書店）

英文講読Ⅱ a・b

ディビッド・C. ダイカス

1年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This course will involve students reading different types of reading materials for different purposes using different reading skills. The focus will be on developing reading speed and accuracy, and on building vocabulary. In the first part of each class students will study the same materials and practice the same skills using the class textbook. The other part of each class will be devoted to using the SRA reading laboratory materials for both intensive reading and speed reading practice at a level that suits each student's level of ability. Other materials and activities will be used to supplement the textbook and the SRA materials.

【Schedule】

Specific decisions regarding the order in which material will be read, skills practiced, and vocabulary/structures studied will be made after a reading placement test is administered to the class.

【Assessment】

Assessment will be based on 1) attendance and participation (since most work will be done in class), 2) occasional quizzes, 3) the amount and quality of work done on the SRA materials as shown in the SRA record book students will keep, and 4) a test at the end of the semester.

【Textbooks】

To be announced

英米事情 a・b

ポール・ルイス

1年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This course will examine how Britain and the West are changing, in particular with regard to their unique mixture of tradition and innovation. In many cases, the old stereotypes are no longer relevant, and we shall study the most recent developments in various areas, including culture, society, politics, education, industry, and the arts.

The course will be presented entirely in English, and students are urged to minimise the amount of Japanese they use in the class.

【Schedule】

Each class will feature one topic (e.g., food, theatre, youth culture); after some initial input from the teacher and various materials, students will be given the chance to discuss and do other activities.

【Assessment】

Assessment will be according to class participation, attendance, and project work.

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class meeting.

欧米文学思潮 a・b

柳 五郎

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

人は「時代の子」として人生模様を織る。その人生を「再現」し「幻影」を求めた文学も、また「時代の子」である。人は「絶対者、自然、社会」との関係の中で「真・善・美と完成された人間性」を希求する。通時的芸術的西欧思潮の中に人間性と文学の関係を考察する。

<前期>

古代オリエント文明、ギリシア・ローマ文明、古代ギリシア哲学から、ユダヤ教とキリスト教、HellenismとHebraism、the Renaissance、自己疎外、コペルニクスの転回、人間と実存、ホワイトヘッドの有機説、現実存在主義、意識の流れと文学の流れについて。

<後期>

ホメロス、ヘシオドス、ソポクレス、プラトーンとアリストテレス、ウエルギリウス、ペーオウルフ、チョサー、アーサー王、マーロウとシェイクスピア、ミルトン、ポーブとデフォー、スターン、オースティン、ディケンズやコンラッドの文学の特徴と人間性の本質について。

【授業計画】

西欧の古代文明・文化から西欧を風靡するHellenismとHebraismの二大源流の流れと変転を人間生活と文学の関係で講義する。

【評価方法】

西洋の人間生活と文学の関係についての全体的把握能力をテストで評価。

【テキスト】

The Directions of European and American Literature (柳五郎他 中部日本教育文化会)

英文講読Ⅲ a・b

水岡 久

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

テキストは、原作の香りを失わないで雰囲気そのまま伝え、平易な英語に書き改められた *The Merchant of Venice*, *Romeo and Juliet*, *Hamlet* の三編が収められているが、*Hamlet* のみ扱う。この作品は、シェイクスピアの四大悲劇の一つであり、復讐劇として有名である。この主題である「生と死」「瞑想」について考え、有名な台詞や独白に触れシェイクスピア英語の素晴らしさを味わう。巻末には馴染みのある独白“Frailty, thy name is woman!” (I. ii. 146) (弱き者よ、汝の名は女なり) や“To be, or not to be, that is the question.” (III. i. 55) (生きるべきか死ぬべきか、それが問題だ) などが原文のまま掲載されている。

【プロット】

1. 亡霊の出現
2. 劇中劇
3. オフィーリアの狂乱
4. ハムレットの復讐
5. クローディアスの兄殺害

【授業計画】

本講では、読解力を身につけることが主眼であるが、毎時間この作品のテープを聴き、併せて聴解力も養う。読了してから、「ハムレット」のビデオを鑑賞する。最初に「シェイクスピアの生涯と作品」と題するレポートと最後にこの作品に関する小論文を課す。

【評価方法】

定期試験の成績、レポート・小論文の評価、出席・予習状況、受講態度などの総合評価を行う。

【テキスト】

New Tales from Shakespeare (R. L. Green・川地美子注解成美堂 1,200円)

英文学講義Ⅱ a・b

久野幸子

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

「文学と映画」

前期はエミリー・ブロンテの『嵐が丘』、後期はシャーロット・ブロンテの『ジェイン・エア』を素材に文学作品の映画化の諸問題を検討・考察する。前・後期とも講義中心に行うが、随時、レポーター形式、グループディスカッション形式も取り入れる。

【授業計画】

- | | | |
|----|-----------|---------------------------|
| 前期 | 第1回 | イントロダクション |
| | 第2回 | 作者及び原作『嵐が丘』について |
| | 第3・4回 | (抜粋) 講読 |
| | 第5回 | エミリー・ブロンテと現代批評及び映画化の諸問題 |
| | 第6回 | 1939年版『嵐が丘』 |
| | 第7回 | 1953年版『嵐が丘』 |
| | 第8回 | 1970年版『嵐が丘』 |
| | 第9回 | 1978年版『嵐が丘』 |
| | 第10回 | 1986年版『嵐が丘』 |
| | 第11回 | 1988年版『嵐が丘』 |
| | 第12回 | 1992年版『嵐が丘』 |
| | 第13回 | まとめ |
| 後期 | 第1回 | 作者について |
| | 第2回 | 原作『ジェイン・エア』について |
| | 第3・4・5・6回 | (抜粋) 講読 |
| | 第7回 | シャーロット・ブロンテと現代批評及び映画化の諸問題 |
| | 第8回 | 1944年版『ジェイン・エア』 |
| | 第9・10回 | 1983年版『ジェイン・エア』 |
| | 第11回 | 1996年版『ジェイン・エア』 |
| | 第12・13回 | まとめ |

【評価方法】

前・後期とも平常点(出席、授業中の発言や発表等)と定期試験あるいはレポートで総合的に評価する。

【テキスト】

Emily Bronte, Wuthering Heights, Charlotte Bronte, Jane Eyre.

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

米文学講義Ⅱ a・b

唐澤 恪

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

19世紀のアメリカ小説には、18世紀ヨーロッパに顕著になった人間観の変化を反映するかのように、二重的な、あるいは多層的な人物像が数多く提示されている。この講義では、その典型的な実例を観察し、19世紀アメリカ小説についての理解を深めていきたい。

前期には、アメリカ初期小説の作家C. B. Brownの作品から始めて、R. M. Bird, G. Lippard等の作品を取り上げ、後期には、E. A. PoeやN. Hawthorneから、自然主義作家に至る諸作家の作品を取り上げる。作品の抜粋も示し、そのスリリングな面白味を味わってもらいたいと思う。

【授業計画】

作家・作品紹介、作品抜粋の鑑賞、評釈、という順序で講義し、適時に時代背景や用語について解説する。

【評価方法】

前期には、適切な範囲についてのテストを行い、後期には、レポートを課したい。これらについての評点に平常の学習態度の評価を加味する。

【テキスト】

プリント配布。

英米文学特殊講義Ⅱ a・b

山田幹郎

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

シェイクスピア作『オセロー』の講読と解釈。

白人が支配するヴェニス共和国の將軍でムーア人オセローの悲劇を精読（時に速読）した上で、その批評・解釈史上の問題点について基本的な知識を修得し、さらにその知識を踏まえつつシェイクスピアの悲劇について考える。

【授業計画】

前期

- 1 序論
- 2 第1幕
- 3 第2幕
- 4 第3幕

後期

- 1 第4幕
- 2 第5幕
- 3 『オセロー』批評史とその問題点
- 4 シェイクスピアの悲劇

【評価方法】

レポート及び各学年末試験により評価する。

【テキスト】

Othello (市河三喜・嶺卓二注 研究社)

英語学特殊講義Ⅱ a・b

小泉 直

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

<前期 a>

意味論・語用論

単語・文・談話のレベルにおける意味の問題を考察する。

<後期 b>

ジェンダーと言語

男と女は同性の仲間同志のやりとりを通してそれぞれ異なる会話のスタイルを習得する。したがって、異なる会話のスタイルを身につけた男女がことばを交せば、そこに誤解が生じるのは当然である。こうした男女間における会話の問題を豊富な事例に即して考察する。

【授業計画】

<前期 a>

第1～6回 有標性、否定、ダイクシス

第7～12回 指向、法助動詞、時制・相

<後期 b>

第1～6回 男と女の異文化コミュニケーション

第7～12回 おしゃべりの性差

【評価方法】

<前期 a>

章末にある練習問題を中心とした試験を期末に行い、その結果に基づいて判定する。

<後期 b>

出席、予習、発表等の平常点と期末のレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

<前期 a>

10日間意味旅行（くろしお出版）

<後期 b>

You Just Don't Understand（英宝社）

インターリンガルコミュニケーション a・b

ジョアン・M. ウッドマン

4年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This course aims to engage the students in discussions about contemporary Japanese culture, whilst also providing some introductory training for basic interpreting.

Students will have to talk about, and explain, aspects of Japanese culture and lifestyle in English. Participants in the course will be required to display self-confidence in discussions, and demonstrate a learned interest in Japanese culture as well as cultural differences.

Students who have already travelled overseas, or who have a keen interest in communicating with foreigners, will benefit the most from this course.

【Schedule】

Section 1. Topics. "How to Survive in Japan" .

Section 2. Topics. "Show and Tell"

Section 3. Topics. Beat Takeshi's TV program will be used to stimulate discussion about Japan, from the point of view of 100 foreigners .

Section 4. Topics. Student videos/ "Show and Tell"

【Assessment】

First semester:- 3×10minute tape recordings - 90%

- class activities - 10 %

Second semester :- 1 x 10 minute Video + script - 60%

- class participation - 40 %

【Textbooks】

None

クリエイティブライティング a・b

キース・イーズリー

4年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

The aim of this course is to develop students' abilities to produce original imaginative writing in English. Models of prose, poetic & dramatic forms will be studied, with a view to students producing their own work in these forms. The course will, therefore, involve some reading & critical discussion, but the emphasis throughout will be on the students' own writing.

The course will be limited to a maximum of fifteen students. Prospective students must bring an example of their own writing to the first class: this may be any form of original, imaginative writing. Eligibility for the course will depend on the quality of this writing.

【Schedule】

In the first semester we will focus on descriptive writing, poetry, and narrative. In the second semester we will also concentrate on dialogue, situation and viewpoint expressed in a number of forms.

【Assessment】

The course involves regular written homework. Assessment will be continuous.

There will be no final test.

【Textbooks】

NONE.

英文学講義演習Ⅱ a・b

柳 五郎

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

I. V. Woolfの*To the Lighthouse*に於ける「意識の流れ」と現実存在主義について。

II. J. Conradの*Heart of Darkness*に於ける物質的現代社会人の末路と人間の物欲 (darkness) の本質を佛教的遠観的に見る視点について。

<前期>

I. *To The Lighthouse*.

The stream of consciousnessをL. Sterneの*Thistram Shandy*、G. Eliotの*The Mill on the Floss*、Proustの*Remembrance of Thing Past*、H. Bergsonの「純粹持續」を経て、通時的、共時的に人間存在を意識の流れや現実存在主義に求める。

<後期>

II. *Heart of Darkness*.

機械文明物質主義の時代に生きる人間の物欲 (darkness) の末路をKurtz船長に演出させ、その人生模様を救出に向ったMarlow船長によって、佛教的境地から語らせる過程を考察する。

【授業計画】

I. 現実存在主義と意識の流れの前提知識として、作品構成、表現技法の特異性と解説を主眼とする。

II. 人間の本質を物質主義と精神主義の間でdarknessを中心に佛教的に把握する。

【評価方法】

それぞれの作品のprofundity把握、表現言語のconnotationを重点にテストで評価する。

【テキスト】

To the Lighthouse (V. Woolf Hogarth Press London)

Heart of Darkness (J. Conrad A Norton Critical Edition)

英文学講義演習Ⅱ a・b

柳原佳枝

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

＜英文学とキリスト教文化Ⅱ＞

3年次の＜英文学とキリスト教文化Ⅰ＞に引き続き、英文学とキリスト教文化の関わりに視点をおいて英文学の作品研究を進める。

【授業計画】

受講学生による読解や意見の発表、及びレポートを中心に、授業担当者が適宜補足する。

＜前期＞

J. Donne、W. Blake、J. H. Newman、などによる宗教詩を取り上げ、そこにみられる心象や象徴などについて検討し、詩想を考察する。

＜後期＞

G. Greene、M. Spark などによる長編小説を取り上げ、その特性を考察する。

題材は受講学生が選択し、レポートを担当する。

【評価方法】

期末のレポートと平常点（事前の準備、活発な意見の発表、担当した課題についてのレポートの成績、など）で総合的に評価する。

【テキスト】

前期：プリント配布。

後期：授業中に指示。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示。

英文学講義演習Ⅱ a・b

大野光子

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

アイルランド文学演習Ⅱでは、ノーベル賞受賞者 Seamus Heaney の作品を含む、20世紀のアイルランド文学を読む。アイルランド国内作家の他、イギリスやアメリカに移住した作家の作品や、現代女性作家や詩人の作品も視野に入れて、文学批評をおこなう。

Ⅲ. 20世紀のアイルランド文学

—カトリック・アイルランドとナショナリズム

1. W. B. Yeats と S. O'Casey の女性像をめぐって
2. J. Joyce の The Dubliners
3. 検閲制度と表現
4. アメリカ移民とアイルランド映画

Ⅳ. 現代アイルランド文学

—紛争を越えて

1. 南北アイルランド社会と文学表現
S. Heaney、M. Longley、B. Friel を中心に
2. 文学とジェンダー
E. Boland、N. Ní Dhomhnaill を中心に
3. 詩／小説／劇／映画に見るアイルランド社会

【授業計画】

「演習Ⅰ」に続いて、詩・演劇・小説の各ジャンルから学生が選択した作品について、グループ毎にリサーチや討論を行い、パソコンによる資料作成や英語によるプレゼンテーションも含めて、2回程度の発表を課す。個々のゼミ論文作成指導も行ない、学生はゼミ論文集を編集・制作する。

【評価方法】

ゼミでの積極的な発言や研究発表を含む平常点と、学期毎のレポートによって成績評価をおこなう。

【テキスト】

Irish Literature—A Reader (Syracuse University Press)

英語学講義演習Ⅱ a・b

堀内俊和

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

3年次に修得した英語の構造分析を土台にして、現代英語の語法・文法 (usage and grammar) 上の問題点を考察する。

テキストの精読を続行し、英語学の知識を深めるとともに英文の読解力を高める。音読も重視する。さらに、英語の語法・文法上の問題点の考察を深め、自分の興味あるテーマで最終的には小論文 (ゼミレポート) をまとめる。

【授業計画】

テキストを個々の学生が輪番で音読・解釈をし、適宜 Q & A を行う。さらに、可能ならば、語法・文法上の問題点をとりあげた調査・報告をする。充分な下調べを前提に、出席を重視する。

【評価方法】

授業ごとの音読・解釈や問題点の指摘・調査報告などの平常点を重視し、レポート/小論文と合わせ総合的に評価する。

【テキスト】

抜粋プリントを使用する。内容は認知文法の視点からの「くり上げ構文」に関する論考で、前年度からの継続である。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

英語学講義演習Ⅱ a

中郷 慶

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現代英語学Ⅱ

最近の英語学の研究動向を知ることと、各自の研究テーマについて考察を深めることを目標とする。英語学に関する論考・論文を雑誌や論集から選び、ディスカッションの材料とする。

[今週の一面記事および社説から (英字新聞)]

Discussion & Structural Analysis

[論文レポート]

[テキストの精読]

【授業計画】

参加者全員で共通の論文を読む輪読形式と、レポーターが興味のあるテーマを発表するレポート形式を交互に行う。二回目以降は英語で書かれた論文を英語でレポートする。

【評価方法】

レポート+小テスト+平常点 (出席・授業態度)。

【テキスト】

Linguistics: An Introduction to Language and Communication
FOURTH EDITION

(Adrian Akmajian, Richard A. Demers, Ann K. Farmer, and Robert M. Harish (1995), MIT Press

\$ 29.00 (paper))

英語学講義演習Ⅱ b

樗木勇作

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代英語学Ⅱ

最近の英語学の研究動向を知ること、研究テーマについての考察を深めること、英語力を向上させることを目標とする。英語の言語学的な研究など、英語についての各自の研究テーマを、英語でプレゼンテーションする。同時に、英字新聞やテレビの英語ニュースを教材にして、英語運用能力の向上も目指す。

【授業計画】

1. 英字新聞講読
2. リスニング練習
3. テキスト精読
4. 英語プレゼンテーション

【評価方法】

レポート+小テスト+平常点（出席・授業態度）。

【テキスト】

Linguistics An Introduction to Language and Communication
FOURTH EDITION

(Adrian Akmajian, Richard A. Demers, Ann K. Farmer, and Robert M. Harnish (1995), MIT Press

\$ 29.00 (paper))

米文学講義演習Ⅱ a・b

唐澤 恪

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

この講義演習では、プリント資料により、アメリカ史の重要事項を次のような区分で概観し、これと各時代の文化との関連を考察する。

<前期>

1. ヴァイキングたちの北米への進出から南北戦争時代まで。
2. 南北戦争後から大恐慌前まで。

<後期>

3. 大恐慌時代から現代まで。

後期にはさらに、上記の1～3の時代について、主に宗教、文学などの観点から考察する。

【授業計画】

要所所で宿題を課し、報告を求める。毎回、(学生の報告)→学生の訳読ないし大意発表→質疑応答→教師による注釈、という順序で授業を進める。

【評価方法】

成績評価は、平常点（特に重視する）とレポートによる。

【テキスト】

プリント配布。

米文学講義演習Ⅱ a・b

池谷敏忠

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

現代アメリカの代表的詩人の重要な詩を取り上げ、絵画的性、音楽性などを多角的に探究して、思想、情緒を研究します。

【授業計画】

前期は下記の詩人の代表的な作品を取り上げます。

Wallace Stevens

Robert Frost

W. C. Williams

and others

後期は下記の詩人の代表的な作品を取り上げます。

T. S. Eliot

Robert Bly

James Wright

and others

プリントを用いて講義・解説し、討論もします。

【評価方法】

レポートまたはテストと出席状況を加味して評価します。

【テキスト】

信頼できる原書のプリント。

米文学講義演習Ⅱ a・b

太田直子

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

20世紀アメリカ小説研究Ⅱ

William Faulknerの*The Sound and the Fury* (1929)を読む。第1章“April Seventh, 1928”から輪読する。南部の歴史、作品の構成、時代背景を考察する。

【授業計画】

前期：

The Sound and the Fury 第1章

後期：

発表形式で、第2章

第3章

第4章

【評価方法】

レポート及び、平常点（発表）。

【テキスト】

The Sound and the Fury ,(William Faulkner Vintage Books)

論文

柳 五郎 柳原佳枝 大野光子 池谷敏忠 唐澤 恪
太田直子 堀内俊和 櫻木勇作 中郷 慶

4年 通年 選択 8単位

【授業の概要】

各自が選定したテーマに関して、「論文」担当者（ゼミ担当教員）の指導のもとに卒業論文を完成させる。なお、論文は英語で書き、ワープロを使用するのが望ましい。

【授業計画】

「論文」担当者の指示に従い、「論文」を受講する。さらに、次の各締切日は厳守しなければならない。

5月10日（木）	午後4時	提出締切 論文骨子（2～3ページ）
7月10日（火）	午後4時	提出締切 論文梗概（5～6ページ）
10月10日（水）	午後4時	提出締切 論文初稿（約30ページ）
12月10日（月）	午後4時	提出締切 論文

【評価方法】

「論文」担当者を中心に、題目の選定、論旨の展開、文章表現法、注のつけ方等に着目し、総合的に評価する。

【テキスト】

各担当教員の指示に従うこと。

論文の書き方の一般的な説明については、以下の図書を参考にするとよい。

英文科学生必携ハンドブック（研究社）

MLA新英語論文の手引（北星堂）

卒論を書こう（棚木伸明 三修社）

言語学 a・b

増田尚史

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

「言語」という広範な現象のうち、特に形態素としての「単語」と、それに内在する統語的、意味的制約（あるいは規則）とについて、言語学的方法論を踏まえつつ検討を加える。さらに、技術としての形態素解析や、語用論に基づくレトリックの解析についても講究する。なお、個人が晒されている言語環境の再吟味を課題とするショート・レポートを、前後期ともに、適宜課すことを予定している。

【授業計画】

前期（a）

1. 科学としての言語学
2. 言語学の方法
3. 形態論と形態素としての単語
4. 語形成と統語的制約
5. 語形成と意味的制約

後期（b）

6. 形態素解析
7. 語彙データ・ベース
8. 心的辞書
9. 語用論
10. 語用論とレトリック

ただし、受講者数等に鑑みて、順序および内容に変更を加えることもある。

【評価方法】

出席状況とショート・レポートの成績とによって、総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜紹介する。

比較文学 a・b

池谷敏忠

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

比較文学は国際間の（国と国との間の）文学的関係の歴史を調べ研究する学問です。この授業はT.S.エリオットの詩と菊村到の小説など日英米仏文学の影響関係を具体的に考察します。さらにエリオットの詩論と芭蕉俳論などの対比研究も試みます。

【授業計画】

前期は次の事項を予定しています。

- 比較文学の定義と本質
- 日本における *The Waste Land* の受容
- T.S.エリオットと立原正秋
- 共同体と個性の文学
- T.S.エリオットと小林秀雄

後期は次の事項を予定しています。

- T.S.エリオットとベルグソン
- 形面上詩人のアルス・ポエティカ
- 芸術作品の創造と伝統の継承
- Spectrum* に見る西脇詩の原型
- T.S.エリオットと西田幾多郎

テキストを用いて講義・解説します。受講生は必ずテキストを持参して下さい。

【評価方法】

レポートまたはテストと各自の出席状況を加味して評価します。

【テキスト】

比較文学論集（池谷敏忠 見学出版 2,200円）

外国語としての日本語 a・b

石橋千鶴子

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

外国語としての日本語の特徴を文法の面から考察し、日本語教授法を指導する。

【授業計画】

日本語テキストおよびビデオ日本語教材を用いて、初級日本語教育で扱う文型、文法事項の英語による具体的指導法を考察する。外国語としての日本語の文法基礎知識を得ることが期待される。

【評価方法】

期末試験および日常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

- ①新日本語の基礎Ⅰ 本冊漢字かなまじり版（海外技術社研修協会編 スリーエーネットワーク発行）
- ②新日本語の基礎Ⅰ 文法解説書 英語版（海外技術者研修協会編 スリーエーネットワーク発行）

英文学海外セミナーⅡ

大野光子 キース・イーズリー

集中 1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

<イギリス文化・英語春期研修>

春期休暇期間中に、本学交流提携大学であるイギリスのイースト・アングリア大学において、英国の歴史・文化・文学及び英語の総合指導を受けた後、英国内等の研修旅行を行う。修了者には、2単位が認定される。

2001年度の予定は下記の通り。

2月中旬～3月初旬

3週間の UEA 英語・英国文化研修

その後1週間の英国・アイルランド国内バス旅行

午前及び午後：主に教室内学習

午後または夜：見学または観劇等

合計約40時間の学習

週末はロンドン、ケンブリッジ大学等視察

現地では、ひとりずつホームステイ

【授業計画】

イースト・アングリア大学 CEB による本学学生用特別プログラムで、本学教員は同行しない。従って、全期間にわたり、全ての指導は現地教員により英語で行われる。

【評価方法】

CEB 教員の評価により本学が単位を認定する。

【テキスト】

現地にて指示。

本プログラムに参加するには、事前に「イギリス文化」または「アイルランド文化」を受講し、単位を取得することが条件となる。

アイルランド文化

ブライアン・カレン

1～4年 前期 選択 2単位

【Course Content】

The course will be centered around Irish history, moving from early history up to the formation of the Irish Republic. The culture, traditions and literature of Ireland will also be presented through short readings, videos, puzzles and activities. Most of the factual information will be presented in a source book. Depending on time, some of this material will not be covered in class. Students are encouraged to read further into their areas of interest in the source book or in the other reference materials which are suggested.

The literature of Ireland shall also be introduced through short pieces from famous Irish writers. There will be a mixture of new and old, including Yeats, Patrick Kavanagh, Oscar Wilde, Roddy Doyle and George Bernard Shaw. The songs of Ireland will also be well-represented in the course, linking into the various topics as much as possible.

【Schedule】

Method : Students will be required to participate actively in class discussions and activities.

【Assessment】

Assessment : Grades will be based on participation, homework and a test.

【Textbooks】

Text book : An original text compiled by the teacher will be made available before the start of the course.

イギリス文化

キース・イーズリー

1～4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

英語によるイギリス文化理解のための特別講座

イギリスの文化全般について、特にイースト・アングリア大学で行われる春期研修へとつながる内容を含みながら、英語聴解・発表力を養成すべく、指導するものである。併せて日本文化を相対化する視点・獲得も意図する。

The course will last for approximately twelve weeks, one period a week. Many of the following subject areas will be considered:

Britain's Contribution to World Culture

Money and Work

Language & History

Education

Food & Drink

Traditions, Manners, and Attitudes

Art, Film and Music

Britain's Class System.

Britain & Japan

Everyday Living

These subjects are not exclusive of one another, & their interconnectedness will be emphasised. Throughout the course, the aim will be to show Britain's place in the World, historically & now. As opportunities arise, the connections between ASU & UEA will be emphasised. Class size will be limited and there may be a test in the first lesson.

【Schedule】

The course will be taught entirely in English, through interactive lectures. Each week there will be a lecture on one of the topics, followed by discussion.

【Assessment】

Assessment will be continual, supplemented by a test at the end of the semester, & an individual written project to be completed by each student during the semester.

【Textbooks】

None

Intensive English 2001A 1・2

ポール・ルイス プレット・スティーンソン

ジョナサン・E. ロング ベヴァリー・F・M. カレン

1～4年 前期 選択 各2単位

【Course Content】

This unique course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal language learning goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills—including vocabulary, comprehension, and grammar—will also be cultivated.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching on this course, providing a well-rounded perspective of the contemporary themes found in the text and encouraging critical thinking.

Students will have a choice of four two-day courses of study (see student handbook for more detailed information).

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

Examples of such themes include the following:

- 1) GENDER STEREOTYPES AND WORK
- 2) THE AFFECT OF FOOD ON MOOD
- 3) VACATION SPOTS AROUND THE WORLD
- 4) STAYING HEALTHY
- 5) UNEXPLAINED PHENOMENA
- 6) OUTDOOR LEISURE ACTIVITIES

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

- * ATTENDANCE
- * CLASS PARTICIPATION/EFFORT
- * HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
- * END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

TO BE ANNOUNCED.

Intensive English 2001B 1・2

ポール・ルイス ブレット・スティーンソン
ジョナサン・E. ロング ベヴァリー・F・M. カレン

1～4年 後期 選択 各2単位

【Course Content】

This unique course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal language learning goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural. Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills—including vocabulary, comprehension, and grammar—will also be cultivated.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching on this course, providing a well-rounded perspective of the contemporary themes found in the text and encouraging critical thinking.

Students will have a choice of four two-day courses of study (see student handbook for more detailed information).

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers. Examples of such themes include the following:

- 1) GENDER STEREOTYPES AND WORK
- 2) THE AFFECT OF FOOD ON MOOD
- 3) VACATION SPOTS AROUND THE WORLD
- 4) STAYING HEALTHY
- 5) UNEXPLAINED PHENOMENA
- 6) OUTDOOR LEISURE ACTIVITIES

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

- * ATTENDANCE
- * CLASS PARTICIPATION/EFFORT
- * HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
- * END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

TO BE ANNOUNCED.

下記の科目は、本年度開講しません。

英文学海外セミナー I

英米文学特殊講義Ⅲ

英語学特殊講義Ⅲ

英語学概論 a・b

アンドリュース・J・ムーディー

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This course will serve as a basic introduction to the study the English language and to the more general field of language and linguistics. The primary aim of the course is to develop structural descriptions of English using principles of linguistics. Particular attention will be paid to the study of English phonology and grammar. Although references will be made to structures in other languages, especially in Japanese, the primary purpose of the course is to develop structural analyses of English.

In addition to structural description, this course will also introduce students to some applied fields of English linguistics. Applied Linguistics (応用言語学) topics will include :

- ・ pragmatics
- ・ language policy
- ・ sociolinguistics
- ・ language teaching and acquisition
- ・ history of English

【Schedule】

前期 : language universals, phonetics, phonology, morphology, syntax, and semantics

後期 : history of English, Speech Act Theory, sociolinguistics, language acquisition, writing, and World Englishes

【Assessment】

quizzes 20%
homework 20%
notebook 20%
final exam 40%

【Textbooks】

英語学概論 (西光義弘 (ed.) 1997)

【Reference】

Ohio State University (1998) Language Files. 7th Edition.
Finegan, Edward (1999) Language : Its Structure and Use.

英文学史 a・b

キース・イーズリー

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

We will study British literature historically from its beginnings through the mid-Victorian Period. We will focus on the literature itself, from Beowulf through Dickens, reading poetry, fiction, and plays.

【Schedule】

(FIRST SEMESTER) a

From the Anglo-Saxon Period through the 16th century, focusing on Beowulf, Chaucer, and Shakespeare.

(SECOND SEMESTER) b

From the Metaphysicals through the mid-Victorian Period, focusing on Swift, Blake, Wordsworth, Keats, and Dickens.

【Assessment】

Each semester will include several quizzes, course-work and a final examination. If it is necessary to limit class size, there may be a test in the first Lesson.

【Textbooks】

The Penguin Guide to Eng. Lit. (Carter and McRae, Penguin)

Past Into Present (Gower, Longman)

米文学史 a・b

池谷敏忠

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

文学は言語による芸術で、国の文学は歴史的に、地域的に展開いたします。この講義はアメリカ英語で表現された米文学を通史的に講義・説明し、作家・作品の特質についても指摘いたします。

【授業計画】

前期は下記の内容について講義します。

- ビューリタニズムと啓蒙思潮
- 国民文学の創成と成熟
- リアリズムと自然主義の文学

後期は下記の内容について講義します。

- モダニズムと社会参加の文学
- 不条理の文学

テキストを用い、講義・解説します。受講生は必ずテキストを持参してください。

【評価方法】

レポートまたはテストの結果に各自の出席状況を加味して評価します。

【テキスト】

総説アメリカ文学史（研究社出版 3,150円）

English 301 a・b

ポール・C．リンガー

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

A series of fluency practice activities will be used to improve the listening and speaking abilities of intermediate students of English. This course will focus on the development of listening and speaking skills, but will also include activities that develop the student's reading and writing skills.

Communicative activities are provided to stimulate real conversation as much as possible. The students will find that they are strongly motivated by the desire to receive, offer, and exchange information by the realism and the value of the task themselves.

【Schedule】

Each topic will be covered over a 2 or 3 week period and will include the following themes:

- ・ Strange phenomena
- ・ Communication
- ・ Entertainment
- ・ Health
- ・ Current events
- ・ Controversy

【Assessment】

Assessment will be continuous and will be based on the following criteria:

- ・ ATTENDANCE
- ・ CLASS PARTICIPATION/EFFORT
- ・ HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
- ・ END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

To be announced.

English 301 a・b

ハリー・T. ノリス

3年 前・後期 選択 各2単位

[Course Content]

This course is designed to be taken in two semesters. (a+b)

The course aims to improve the students' ability to communicate using English.

To help them transmit their ideas to other Japanese people and native speakers of English. The course will show students key points about public speaking that will allow them to speak English confidently in front of small groups. Teaching strategies and techniques, voice control, and use of teaching aids will be studied. Reading, writing, listening and speaking will be addressed throughout the course.

Speaking and listening being the main areas of assessment.

[Schedule]

(a) The first semester course, will be aimed mainly at teaching techniques used to increase confidence when speaking English.

(b) The second semester course, will be aimed at students giving seminars on a variety of topics in English.

[Assessment]

(a) First semester assessment will be based on attendance, speaking ability and improvement, attitude and a report.

(b) Second semester assessment will be based on attendance, research, seminar and a report.

[Textbooks]

No text, as necessary worksheets will be given.

English 301 a・b

ジョアン・M. ウッドマン

3年 前・後期 選択 各2単位

[Course Content]

This course is designed to explore aspects of Australian language and culture through analysis of poems, short stories, songs, movies, TV programs, news, etc.

Contemporary and historical examples will be used. A variety of topic areas will be covered, for example :- personal problems ; environmental problems; current issues in society etc.

Students will be required to spend considerable time on vocabulary development (including idiomatic expressions) , hence the majority of assessment will be based on vocabulary tests, as well as participation in class discussions/activities.

[Schedule]

- Section 1 .Topics. Aust. Pop songs/traditional songs/Advice columns
- 2 .Topics. Babe/Crocodile Dundee/Famous Australians
- 3 .Topics. Poet-A.B. Paterson/ Man from Snowy River
- 4 .Topics. More pop songs/traditional songs/annual events
- 5 .Topics. Dramas/Movies/Newspaper articles

[Assessment]

-Class activities /reports -30%

-Vocabulary tests - 70%

[Textbooks]

None

NOTE: Students who take my English 301 course can also take my English 302 course,and vice versa.

English 301 a・b

ジョナサン・E. ロング

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

In this course the students will watch videos, without subtitles, based on famous short stories in English. They will also extensively discuss and write in English about these videos in regards to their literary, cinematic and cultural significance. In this way the students will employ all four language skills and critical thought.

【Schedule】

Usually, each video will require three weeks:

- 1st Week script
- 2nd Week video
- 3rd Week discussion

【Assessment】

Assessment is based on attendance, class participation in English and reaction papers to be written for each video .

【Textbooks】

none

English 301 a・b

ポール・ルイス

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

During this course, students will practice listening and speaking activities intended to increase their ability to communicate in a wide variety of situations. In particular we shall focus on Learning Strategies and the role of intonation in communicating. At the same time, efficient and effective strategies for learning vocabulary will be considered. The aim of this course is to improve students' fluency, flexibility, and confidence in English.

The course will be presented entirely in English, and students are urged to minimise the amount of Japanese they use in the class.

【Schedule】

Students will work mostly in groups or pairs, practising the strategies outlined above. Among other activities, we shall look at information exchange and negotiation, problem solving, and occasionally role-plays.

【Assessment】

Assessment will be according to class participation, attendance, and occasional homework reports. No test will be given.

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class meeting.

English 302 a・b

ジョアン・M. ウッドマン

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This course is designed to explore vocabulary and other aspects of language and culture through analysis of poems, short stories, songs, and movies. Contemporary materials will be used, covering such topic areas as :- young people and their changing behaviour; relationships; personal problems; environmental problems; current issues in society etc.

Students will be required to spend considerable time on vocabulary development, hence the majority of assessment will be based on vocabulary tests, as well as participation in class discussions.

【Schedule】

To be decided.

【Assessment】

Class activities /reports -30%

Vocabulary tests -70%

【Textbooks】

None

NOTE : Course content varies, so students who take my English 301 course can also take my English 302 course, and vice versa.

English 302 a・b

ポール・C. リンガー

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This course is aimed at intermediate students of English. An integrated approach will be presented where there will be mainly a focus on developing reading and listening skills, but also an inclusion of activities designed to develop the student's speaking and writing abilities. The thematically-organized selections of reading material provides a balanced point of view while helping to nurture a range of analytical and critical thinking skills.

Also included are effective vocabulary skills exercises that are designed to increase students' vocabulary while helping them to cope with new words.

【Schedule】

Each topic will be covered over a two to three week period and will include some of the following themes:

CROSS-CULTURAL CONNECTIONS
PLAYING TO WIN
UNIVERSAL MYSTERIES
OUR FRAGILE PLANET
BUSINESS
THE POWER OF MUSIC
SUPERSTITIONS
MULTILINGUALISM

【Assessment】

Assessment will be continuous and is based on the following criteria:

Attendance
Class participation
Homework and assignments
End of semester report

【Textbooks】

FOR YOUR INFORMATION 2 (K Blanchard and C Root-Longman)

English 302 a・b

ディビッド・C. ダイカス

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

The general goal of this course is continue students' development in the four skills. There will be a strong focus on discussion and problem solving activities as a means of exchanging ideas and opinions. The approach will be topic based but will involve mastery of relevant grammatical structures needed to clearly express oneself in such discussions, especially those involving modals and conditional forms to perform communicative functions like criticizing and expressing regret. Another focus will be on learning and using phrasal verbs commonly used in conversational English.

Discussion topics/activities will provide the basis for writing assignments.

【Schedule】

The topics around which lessons will be based will be determined in part after consultations with students. As for specific grammatical structures involving modals and conditional forms, they will be studied starting first with simpler forms and advancing to the more complex ones. They will be studied in connection with discussion topics. Phrasal verbs will be studied independently of discussion topics.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance and completion of exercises/activities during class, homework, occasional quizzes, and an end of term test.

【Textbooks】

To be announced

English 302 a・b

ダグラス・L. ドイル

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This class is designed to encourage students to utilize and improve their English skills. The focus will be on listening and speaking, however, there will be some reading and writing. Students will be working in pairs or in small groups discussing a variety of topics. All students are expected to give their own opinions and to eagerly participate in the discussions.

【Assessment】

Assessment is on-going and is based on the following:

- attendance
- class participation and enthusiasm
- homework
- presentations
- oral tests

インターリンガルコミュニケーション a・b

ジョアン・M. ウッドマン

4年 前・後期 選択 各2単位

[Course Content]

This course aims to engage the students in discussions about contemporary Japanese culture, whilst also providing some introductory training for basic interpreting.

Students will have to talk about, and explain, aspects of Japanese culture and lifestyle in English. Participants in the course will be required to display self-confidence in discussions, and demonstrate a learned interest in Japanese culture as well as cultural differences.

Students who have already travelled overseas, or who have a keen interest in communicating with foreigners, will benefit the most from this course.

[Schedule]

- Section 1. Topics. "How to Survive in Japan" .
Section 2. Topics. "Show and Tell"
Section 3. Topics. Beat Takeshi's TV program will be used to stimulate discussion about Japan , from the point of view of 100 foreigners .
Section 4. Topics. Student videos/ "Show and Tell"

[Assessment]

- First semester:- 3×10minute tape recordings - 90%
- class activities - 10 %
Second semester :- 1 x 10 minute Video + script - 60%
- class participation - 40 %

[Textbooks]

None

クリエイティブライティング a・b

キース・イーズリー

4年 前・後期 選択 各2単位

[Course Content]

The aim of this course is to develop students' abilities to produce original imaginative writing in English. Models of prose, poetic & dramatic forms will be studied, with a view to students producing their own work in these forms. The course will, therefore, involve some reading & critical discussion, but the emphasis throughout will be on the students' own writing.

The course will be limited to a maximum of fifteen students. Prospective students must bring an example of their own writing to the first class: this may be any form of original, imaginative writing. Eligibility for the course will depend on the quality of this writing.

[Schedule]

In the first semester we will focus on descriptive writing, poetry, and narrative. In the second semester we will also concentrate on dialogue, situation and viewpoint expressed in a number of forms.

[Assessment]

The course involves regular written homework. Assessment will be continuous.
There will be no final test.

[Textbooks]

NONE.

英文学海外セミナーⅡ

大野光子 キース・イーズリー

集中 2~4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

＜イギリス文化・英語春期研修＞

春期休暇期間中に、本学交流提携大学であるイギリスのイースト・アングリア大学において、英国の歴史・文化・文学及び英語の総合指導を受けた後、英国内等の研修旅行を行う。修了者には、2単位が認定される。

2001年度の予定は下記の通り。

2月中旬～3月初旬

3週間の UEA 英語・英国文化研修

その後1週間の英国・アイルランド国内バス旅行

午前及び午後：主に教室内学習

午後または夜：見学または観劇等

合計約40時間の学習

週末はロンドン、ケンブリッジ大学等視察

現地では、ひとりずつホームステイ

【授業計画】

イースト・アングリア大学 CEB による本学学生用特別プログラムで、本学教員は同行しない。従って、全期間にわたり、全ての指導は現地教員により英語で行われる。

【評価方法】

CEB 教員の評価により本学が単位を認定する。

【テキスト】

現地にて指示。

本プログラムに参加するには、事前に「イギリス文化」または「アイルランド文化」を受講し、単位を取得することが条件となる。

アイルランド文化

ブライアン・カレン

2~4年 前期 選択 2単位

【Course Content】

The course will be centered around Irish history, moving from early history up to the formation of the Irish Republic. The culture, traditions and literature of Ireland will also be presented through short readings, videos, puzzles and activities. Most of the factual information will be presented in a source book. Depending on time, some of this material will not be covered in class. Students are encouraged to read further into their areas of interest in the source book or in the other reference materials which are suggested.

The literature of Ireland shall also be introduced through short pieces from famous Irish writers. There will be a mixture of new and old, including Yeats, Patrick Kavanagh, Oscar Wilde, Roddy Doyle and George Bernard Shaw. The songs of Ireland will also be well-represented in the course, linking into the various topics as much as possible.

【Schedule】

Method : Students will be required to participate actively in class discussions and activities.

【Assessment】

Assessment : Grades will be based on participation, homework and a test.

【Textbooks】

Text book : An original text compiled by the teacher will be made available before the start of the course.

イギリス文化

キース・イーズリー

2～4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

英語によるイギリス文化理解のための特別講座

イギリスの文化全般について、特にイースト・アングリア大学で行われる春期研修へとつながる内容を含みながら、英語聴解・発表力を養成すべく、指導するものである。併せて日本文化を相対化する視点・獲得も意図する。The course will last for approximately twelve weeks, one period a week. Many of the following subject areas will be considered:

Britain's Contribution to World Culture

Money and Work

Language & History

Education

Food & Drink

Traditions, Manners, and Attitudes

Art, Film and Music

Britain's Class System.

Britain & Japan

Everyday Living

These subjects are not exclusive of one another, & their interconnectedness will be emphasised. Throughout the course, the aim will be to show Britain's place in the World, historically & now. As opportunities arise, the connections between ASU & UEA will be emphasised. Class size will be limited and there may be a test in the first lesson.

【Schedule】

The course will be taught entirely in English, through interactive lectures. Each week there will be a lecture on one of the topics, followed by discussion.

【Assessment】

Assessment will be continual, supplemented by a test at the end of the semester, & an individual written project to be completed by each student during the semester.

【Textbooks】

None

Intensive English 2001A 1・2

ポール・ルイス プレット・スティーンソン
ジョナサン・E. ロング ベヴァリー・F・M. カレン

1～4年 前期 選択 各2単位

【Course Content】

This unique course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal language learning goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural. Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills—including vocabulary, comprehension, and grammar—will also be cultivated.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching on this course, providing a well-rounded perspective of the contemporary themes found in the text and encouraging critical thinking.

Students will have a choice of four two-day courses of study (see student handbook for more detailed information).

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers. Examples of such themes include the following:

- 1) GENDER STEREOTYPES AND WORK
- 2) THE AFFECT OF FOOD ON MOOD
- 3) VACATION SPOTS AROUND THE WORLD
- 4) STAYING HEALTHY
- 5) UNEXPLAINED PHENOMENA
- 6) OUTDOOR LEISURE ACTIVITIES

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

- * ATTENDANCE
- * CLASS PARTICIPATION/EFFORT
- * HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
- * END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

TO BE ANNOUNCED.

Intensive English 2001B 1・2

ポール・ルイス プレット・スティーブンソン
ジョナサン・E. ロング ベヴァリー・F・M. カレン

1～4年 後期 選択 各2単位

【Course Content】

This unique course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal language learning goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills—including vocabulary, comprehension, and grammar—will also be cultivated.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching on this course, providing a well-rounded perspective of the contemporary themes found in the text and encouraging critical thinking.

Students will have a choice of four two-day courses of study (see student handbook for more detailed information).

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers. Examples of such themes include the following:

- 1) GENDER STEREOTYPES AND WORK
- 2) THE AFFECT OF FOOD ON MOOD
- 3) VACATION SPOTS AROUND THE WORLD
- 4) STAYING HEALTHY
- 5) UNEXPLAINED PHENOMENA
- 6) OUTDOOR LEISURE ACTIVITIES

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

- * ATTENDANCE
- * CLASS PARTICIPATION/EFFORT
- * HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
- * END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

TO BE ANNOUNCED.

言語文化論 I 1 (中国)

鄭澤善

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

半年間の勉強を通じて、現代中国の政治体制、司法制度、経済体制、環境、人口、少数民族、教育制度、宗教、信仰、大衆文化等を概略的に紹介しながら、現代日本の文化と比較してもらい、相互理解を目指す。

【授業計画】

- 第1回：ガイダンス、中国の政治文化
- 第2-3回：立法と司法制度と行政制度
- 第4-5回：経済事情と農村問題
- 第6-8回：環境問題、人口問題、一人っ子政策
- 第9回：少数民族
- 第10回：教育制度
- 第11回：宗教、信仰
- 第12回：大衆文化-その1
- 第13回：大衆文化-その2

【評価方法】

レポートに出席率を加味して総合評価する。

【テキスト】

プリントを使う。

言語文化論 I 2 (ロシア・東欧)

杉本一直

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

20世紀初頭から現在にいたるロシア文化の特質を特に芸術分野に焦点を当てて考察する。映画、絵画、詩、小説、バレエ、音楽など、具体的に作品を紹介しながら、ヨーロッパにおける芸術運動と比較していく。

【授業計画】

- ロシア・アヴァンギャルドの詩人たち
- 20世紀初頭の映画と映画理論：エイゼンシュテインを中心に
- ディアギレフとロシア・バレエ団
- ロシア・アヴァンギャルドの画家たち
- 抽象絵画の巨匠：カンディンスキイとマレーヴィチ
- 現代の作家たち：ペレーヴィンを中心に
- 亡命芸術家たち：ナボコフとシャガール

【評価方法】

出席状況とレポートによる

【テキスト】

プリント配布。

言語文化論 I 3 (フランス)

清水ベアトリックス

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

ヨーロッパ文明の発祥の国フランスについての理解を深めることはヨーロッパ文化を理解するうえで重要である。フランス語とフランス文化の概要を学ぶことにより、フランスへの関心と理解への動機づけとしたい。

前期

このコースは、受講者の興味を考慮に入れ授業内容を考えたい。現代フランス社会と日常使用されているフランス語を学ぶとともに、担当講師（フランス人）の在日体験談を交え、フランス・日本両国を言語・文化の面から比較検討する。

とにかく、下記のテーマで行う。

- フランスの地理
- フランスの建国
- フランス国民の起源
- フランスの社会問題
- フランスの家族
- 教育制度
- フランスとヨーロッパ
- フランス人と余暇など。

後期

前期と同じ。

【授業計画】

毎回、担当教員が指定したテキストの章について議論し、テレビや新聞で報道されたフランスに関する時事問題の中で特に学生の関心を引くようなものを選んで、解説したい。

【評価方法】

定期試験を重視するが、宿題（テキストや映画についての感想文）、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

変貌するフランス（西永良成 日本放送出版協会）

言語文化論 I 4 (ドイツ)

藤井たぎる

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

ドイツ・オーストリアの生活文化とその言語。現代のドイツ・オーストリア事情の一端を紹介しながら、ドイツ・オーストリアのいろいろな「顔」を発見してもらう。

【授業計画】

下記のようなさまざまな日常的なテーマを取り上げて、ドイツ・オーストリアの事情を日本のそれと比較しながら両者の類似性と差異をみてゆく。また初歩的なドイツ語会話の練習もあわせておこなう。

- 1) ドイツ・オーストリアの風土
- 2) ドイツ・オーストリアの近現代史
- 3) ドイツ・オーストリアのマス・メディア
- 4) ドイツ・オーストリアの衣食住
- 5) ドイツ・オーストリアの消費生活
- 6) ドイツ・オーストリアの芸術文化

講義形式ではあるが、授業中にいろいろな意見を求め、各自の考えるところを積極的に発言してもらう。必要に応じてプリントを配布する。

【評価方法】

筆記試験。

【テキスト】

適宜、プリントを配付する。

言語文化論 I 5 (スペイン)

木下登

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

変化に富んだ風土と長い歴史に生まれ、多様性に満ちたスペイン文化の特質と魅力を浮き彫りにする。そして最終的には、わが国の文化との比較を試みる。

【授業計画】

1. スペインの大地
2. スペインの歴史概観
3. ローマ時代 (セネカ)
4. 西ゴート時代 (イシドロー)
5. イスラーム・スペイン時代 (イブン・トゥファイユ)
6. カトリック・スペイン時代
7. 大航海時代 (ラス・カサス)
8. 19世紀のスペイン
9. 現代のスペイン
10. まとめ

【評価方法】

筆記試験に出席状況を加味して評価。

【テキスト】

授業中に指示します。

言語文化論 I 6 (中東)

奴田原睦明

集中 2・3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

異文化としてのアラブ世界を概観し、そこにおける社会、人間、文化を大きく定着民と非定着民のそれに分けて比較しながら論じる。その際主として近現代に書かれたアラブの文学作品及びアラブ世界における体験を通して講義を進めたい。各講義毎に順番に受講者の意見を聞き、それについて議論をする。

【授業計画】

- 第1講 概論；アラブ世界及びアラブ文学について
- 第2講 各論；エジプト。エジプト的性格。
- 第3講 各論；エジプトの作家と作品。
- 第3講 各論；パレスチナの作家－カナファーン－
- 第4講 各論；スーダンの作家－タイブ・サーレフ
- 第5講 各論；モロッコの作家－ラアビー
- 第6講 各論；定着民と非定着民の比較及びベドウィンの特性
- 第7講 各論；トウアレグ族に帰属する作家・イブラヒム・コーニーの世界 その1
- 第8講 各論；コーニーの世界 その2
- 第9講 各論；異文化体験 W・Thesigerの沙漠探検
- 第10講 各論；異文化体験 シリア沙漠においてベドウィンと暮らす。
- 第11講 各論；異文化を見る視座
- 第12講 レポート作成

【評価方法】

出席状況と単位認定試験（レポート）の成績によって評価。

【参考文献・資料】

遊牧の文学（奴田原睦明著 岩波書店）

異文化コミュニケーション a・b

高井次郎

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

異文化コミュニケーションは、文化的背景の異なる二者間の社会的相互作用のことを意味します。人々のものの見方の大部分は文化によって決定されます。その文化が違っていたら、コミュニケーションにおける意志疎通の問題が生じ、誤解の原因になります。異文化コミュニケーションはいかにすれば、こうしたコミュニケーションの障害を最低限に抑えられるのかを追究する学問です。前期はコミュニケーションの基礎を中心に上げ、後期は心理学の観点から異文化コミュニケーションをアプローチします。

原則として授業方式は、講義としますが、内容を理解しやすくするため、集団討議法や経験学習法をなるべく多くもうけたいと考えています。

【授業計画】

前期は、コミュニケーションの機能と過程、文化とコミュニケーション、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション、対人認知、ステレオタイプ、人種偏見、人種差別、異文化間コンピテンス、異文化間トレーニング等について検討します。

後期は、文化の種類、文化と認知、文化と子育て・家族、文化と性差、文化と攻撃性、文化と対人関係、在日留学生問題、帰国子女問題、在日外国人問題等を取り上げます。

【評価方法】

期末試験をもって成績の評価を実施します。

【テキスト】

前期 異文化コミュニケーション論（古田暁監修 有斐閣選書）

後期 比較文化心理学（田中国夫訳 北大路書房）

言語文化特殊講義 1 a・b

松本雄子

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

文化とコミュニケーションの関係は、私たちが思っている以上に複雑であり、互いに強く影響しあっている。ここでは「異文化間コミュニケーション」の特徴や重要性について検討する。

【授業計画】

前期は、異文化間コミュニケーションの基礎概念や理論を中心に講義する。特に、日本人のコミュニケーションの特徴を理解することに焦点を置く。そして、文化によるコミュニケーションの違いだけではなく、地域、社会的階層、性別、年齢によるコミュニケーションの違い等にも焦点をあてる。

後期は、前期に学んだ概念や理論をもとに、実際にグループで簡単な調査をし、発表してもらう。

【評価方法】

前期はテスト。後期は、グループ研究の成績とテストによって評価する。

【テキスト】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

言語文化特殊講義 2 a・b

渡辺かよ子

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

「教養」に関する比較思想史：日本語の「教養」という言葉はギリシャ語のパイディアの翻訳であるドイツ語のBildungのさらなる翻訳として定着した。「教養」をめぐる各国の思想史を概説し、国際化・高齢化・情報化の進展の中で、今後の自己教育としての教養はいかにあるべきなのかを討議する。

【授業計画】

前期 a：高等教育と「教養」の比較思想史

- 1：古代ギリシャ時代の教養
- 2：中国の伝統的教養と科挙
- 3：中世の大学と教養
- 4：19世紀以後の英独仏米の高等教育と教養思想
- 5：旧植民地・「発展途上国」の高等教育と教養

後期 b：近現代日本の高等教育と教養論

- 1：日本の高等教育と教養思想の概説
- 2：大正教養主義
- 3：1930年代の教養論
- 4：戦後の一般教養思想
- 5：現代の教養論：多文化主義と教養

【評価方法】

平常レポートと討議。

【テキスト】

新しい教養を求めて（筒井清忠 中央公論社）

【参考文献・資料】

- 教養とヒューマニズム（村瀬裕也 白石書店）
知の文化と型の文化（鹿毛誠一 創文社）
比較高等教育論（アルトバック 玉川大学出版部）
高等教育システム（クラーク 東信堂）
大学の誕生と変貌（横尾荘英 東信堂）
現代の大学・高等教育（喜多村和之 玉川大学出版部）
学歴貴族の栄光と挫折（竹内洋 中央公論新社）
教養の復権（沼田裕之他 東信堂）
近現代日本の教養論（渡辺かよ子 行路社）
ディスタンクシオン（ブルデュー 藤原書店）

言語文化特殊講義 3 a・b

木下 登

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

スペインの国民性とスペイン文化の華である芸術（絵画、建築、音楽）の関係を考察する。ビデオ教材を活用する。

【授業計画】

1. スペイン論の系譜
2. スペインの絵画（エル・グレコ、ベラスケス、ゴヤ、ピカソ、ダリ）
3. スペインの建築（ロマネスク、ゴシック、バロック、モデルニスモ）
4. まとめ

【評価方法】

筆記試験に出席状況を加味して評価。

【テキスト】

授業中に指示します。

言語文化特殊講義 4 a・b

馮 富榮

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

中国語の文章を読むことによって、中国の言語・文化を知り、考える。

主として、以下のことを紹介する中国語の文章を作成して、授業を進めていく予定である。

「三皇五帝」、「甲骨卜辞」、「姓氏」、「老庄之学」、「臥薪嘗胆」、「稷下学宮」、「孫子兵法」、「晏子」、「絲綢之路」、「4大発明」、「三顧茅廬」、「漢字文化」、「万里長城」、「中国女皇」、「中秋節」

以上の文章を学習することによって、中国の言語・文化を含め、中国の歴史、文学、風俗習慣についての知識を身につけること、中国語の実力をアップさせることをこの授業の目標とする。ゆえに、中国語の力のある程度身につけたい学生は、ぜひこの授業を履修してほしい。

【授業計画】

あらかじめ、次回の授業で使う文章を全員に配り、予習として各自が分からない箇所を調べてくる。授業は、朗読の練習から入り、そして文章の翻訳を行う。翻訳は学生を主体にして行うが、分からないところは、教員側から説明を加える。翻訳のあと、文章の中に出ている中国語の常用文型などについて、教員側から説明を行う。さらに、中国語を用いて、内容の概要を述べたり、感想を書いたりすることもときどき行う。

【評価方法】

課題の提出状況、受講態度、出席率及び期末レポートにより、評価する。期末のペーパーテストは実施しない。

【テキスト】

自作教材。

言語文化特殊講義 5 a・b

松本雄子

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

今日でも、多くの日本人が「日本は単一民族社会である」と公言してはばからない。これは、多様性との共存を否定し続けてきた日本社会の偏見に満ちた考え方の表れである。偏見や差別という問題を、様々な角度から検討し、多様性の共存という考え方を学ぶ。

【授業計画】

様々なテーマにそった映画やドキュメンタリーを使い、ディスカッション中心の授業。映画は、全員に前もってAVセンターで見てもらい、授業はディスカッション担当者が中心になり進めていく。担当者には、映画を見るだけではなく、その時のテーマについてあらかじめ調べたことを発表してもらおう。ドキュメンタリーはなるべく授業時間を使って見る。前期は国内外における人種問題、移民問題等に焦点をあて、後期は在日外国人、性差別、人権問題等を中心に検討する。

【評価方法】

ディスカッション及び発表、授業への参加

【テキスト】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

言語文化演習 I a・b (コミュニケーション論)

ジョリー幸子

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

当演習は、我々の日常のコミュニケーションの93%を占めると言われる「非言語コミュニケーション」について学ぶもので、異文化コミュニケーションの1下位分野である。

【授業計画】

第1週	コースオリエンテーション
2	音声(発音)学
3	動作学(Kinesics)
4	〃
5	〃
6	〃
7	近接学(Proxemics)
8	〃
9	〃
10	〃
11	領土性(Territoriality)
12	〃
13	〃
14	〃
1	接触学(Tactility・Haptics)
2	〃
3	〃
4	〃
5	嗅覚(Olfaction)
6	〃
7	空間学(Space)
8	〃
9	時間学(Chronemics)
10	〃
11	対物学(Objectics)
12	〃
13	準言語学(Paralinguistics)
14	〃

【評価方法】

演習への出席、ディスカッションへの参加、発表、レポート等を総合的に判断する。

【テキスト】

1. 世界60カ国比較文化事典、T. モリスマン、マクミラン
2. 日本の常識はどこまで通じるか：異文化交流で失敗しないために。ジョリー幸子。風媒社

【参考文献・資料】

比較生活文化事典(金山盲夫 大修館)

Gestures : DOs and TABOOs of Body Language Around the World. (Roger E. Axtell, Wiley)

言語文化演習 I a・b (批評理論)

杉本一直

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

さまざまな国の20世紀文学を読み、現代文学が扱ってきたいくつかの共通する問題について考察する。物語上の主題だけではなく、技法や構成面も視野に含め、理論的な作品評論を目指す。

【授業計画】

- 幻想小説というジャンル：ラテン・アメリカ文学を中心に
- メタフィクションとは何か：イタロ・カルヴィーノとジョン・バース
- 文学的主题としての「記憶」：ウラジーミル・ナボコフ
- 意味の不在、肉体の不在：サミュエル・ベケットとポール・オースター
- パロディとパステイッシュ：清水義範とウンベルト・エーコ
- 詩のアヴァンギャルド：フレーブニコフとマヤコフスキ

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

プリント配布、授業中に指定した書籍。

言語文化演習 I a・b (翻訳論)

B. サン・ジャック

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

文化とは、具体的になんであるのか、又、文化は人間とどういう関係があるのかを研究することがこのゼミの目的である。

英語と日本語の色々な翻訳を比べてみて、どれ程言語と文化の相互依存が実際になされているかを一層理解し、様々な文化的な概念は別の言語に翻訳されることが容易ではないということも実感する。外国の文化を勉強することによって、自分の文化をもっと深く理解する。

【授業計画】

ゼミでは、英語と日本語の教科書を使い、使用言語は主に日本語です。

色々な言語「主に日本語と英語」の翻訳を比べて、言語と文化の相互依存の事実を確認する。実際には、言語と概念の関係、文化の構造、そして、言語と文化の普遍的、独自の要素について新しい知識を得ることが翻訳論の研究の一つの目的である。イタリア語の諺、Traduttore, traditore [翻訳者というのは、裏切り者である] は、言い過ぎではあるが、翻訳の深い要素を指している。

【評価方法】

Presentations.

【テキスト】

Translation and Translating (1991 Roger T. Bell)

翻訳という仕事 (1991 小鷹信光)

言語文化演習 I a・b (現代英米思想)

松本青也

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

現代英米思想を探る。

日本人の考え方にも大きな影響を与えている英米文化の背景にある思想を探ろうとするものです。トピックは、生命、愛、幸福などについての基本的な考え方を中心に、自由、平等、人権といった理念、更にそれらが現実の様々な問題解決にどう機能しているかまでを幅広く扱います。

【授業計画】

授業は、英米の作家、哲学者、科学者、ジャーナリストなどによる珠玉の英文の味読や、各自が選んだテーマでの研究発表、ゼミ合宿などで進行し、最後に4年次の研究や論文作成に向けて基本的な研究をまとめます。

【評価方法】

テスト、レポート、学習態度、出席状況による総合評価。

【テキスト】

自作教材。

言語文化演習 I a・b (対照言語学)

窪田守弘

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

対照言語学は、まだ新しい分野であるためにその定義づけが明確化されていない。しかし異なった言語体系を比較研究することは変わらないわけで、問題はその方法論にある。本演習では言語と文化の関係を、日常最も目に触れる映像を通して考えてみる。特にテレビのコマーシャルは一つの映像文化であり、異文化の映像を対照しながら、分析を試みようとするものである。従ってここではコマーシャルを多角的に研究することが、言語と文化の新しい体系化を図る一方法だと考えている。

<前～後期>

1. 映像の世界に触れる

①映画の歴史と鑑賞法

②シナリオの基礎知識の習得

③映画製作の実際

2. テレビコマーシャル論

①学生による発表

②字幕と文化の関係の分析と比較

③独自のシナリオ作成へのチャレンジ

【授業計画】

映像文化の理論と実践を同時併行で進める。ゼミは発表を中心にするが、その際コンピュータ、デジタル放送などの映像を使い、多角的に分析を行なう。

【評価方法】

毎回の発表と学期末のレポートで評価する。

【テキスト】

ハリウッド・ロード (窪田守弘著 晃学出版 700円)

言語文化演習 I a・b (英語コミュニケーション)

アンドリュー・J. ムーディー

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This course will be a study of the variation and uses of English internationally. In addition to in-depth study of English varieties, the class will examine the social and cultural contexts of areas where English is used as a first language, second language, and second language. The methods used to conduct these studies will be sociolinguistic, with primary attention to issues of language contact and language change. Students will be asked to complete weekly reading assignments, discuss the contents in class, and give an oral presentation on a special topic.

【Schedule】

前期: Englishes of the “Inner Circle” of English users (i.e. native Englishes), linguistic field methods, language education, and norm analysis.

後期: Englishes of the “Outer Circle” of English users (i.e. non-native Englishes), bilingualism and multilingualism, language planning, code-switching, and discourse analysis.

【Assessment】

homework 30%

oral report 30%

final report 40%

【Textbooks】

A textbook will be announced at the first class meeting.

言語文化演習 I a・b (英語コミュニケーション)

ジェニファ・J. マギー

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

Diaries (日記) are common both in Japan and in English-speaking countries, as a way of recording the thoughts of a person and a record of the time he or she lived. Diaries offer a unique way to learn about a culture, as a person writes about the small things that happen in a day. Instead of learning about large historical events, the diary reader usually learns about the daily life of a person and that person's world. This class will use diaries as a way of learning more about the English language and as a way of learning more about a specific time and place in English-speaking culture. Each student in this class will choose one or two diaries on the first day of class and will become experts on that person and the time and culture that person lived in.

【Schedule】

Classes will be part lecture (on the functions of diary writing, famous diaries, etc.), and part student reports about their writers.

【Assessment】

Students will be graded on attendance, reports that show a high level of background reading about your writer, and a test at the end of each semester that covers basic information about the different writers.

【Textbooks】

Each student will buy a copy of the diary he or she chooses. Background readings can be in Japanese.

言語文化演習Ⅰ a・b (英語コミュニケーション)

ダニー・T. モルデン

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This class will introduce many aspects of American culture through the use of science fiction--and its most popular expression in the United States : Star Trek. Star Trek is a program that was first shown in 1966. In various forms this program has been watched for the past 34 years. It is an important part of American culture. Other cultures may also be examined through their works of science fiction.

【Schedule】

The topics to be covered include :

1. A study of science fiction as a genre
2. The 34 year history of Star Trek in the United States.
3. The influence of science fiction on culture
4. The influence of culture on science fiction

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and an oral presentation.

【Textbooks】

There is no required textbook, but students will select other works of science fiction--in any form, book, television show, movie, etc. to examine.

言語文化演習Ⅱ a・b (コミュニケーション論)

ジョリー幸子

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

当演習は3年生の言語文化演習Ⅰa, bに継続するもので、言語よりも更に重要であると言われる「非言語コミュニケーション」について研究・追求するものである。

【授業計画】

第1週	コースオリエンテーション	
2	研究企画と方法論 (Research Methodology)	
3	文献録作制 (Bibliography · Reference)	
4	Speech : Research (Reading · Discussion)	
5	〃 〃 (〃 〃)	
6	〃 〃 (〃 〃)	
7	〃 〃 (〃 〃)	
8	〃 〃 (〃 〃)	
9	〃 〃 (〃 〃)	
10	〃 〃 (〃 〃)	
11	〃 〃 (〃 〃)	
12	〃 〃 (〃 〃)	
1	Project Presentation : Group	1 & 2
2	〃	3 & 4
3	〃	5 & 6
4	〃	7 & 8
5	〃	9 & 10
6	〃	11 & 12
7	〃	13 & 14
8	〃	15 & 16
9	〃	17 & 18
10	〃	19 & 20
11	〃	21 & 22
12	Summary and Conclusion	

【評価方法】

演習への出席、ディスカッションへの参加、発表、レポート等を総合的に判断する。

【テキスト】

1. Eye to Eye : How People Interact, Peter Marsh. Macmillan LanguageHouse, 1988.
2. 日本の常識はどこまで通じるか：異文化交流で失敗しないために。ジョリー幸子。風媒社

【参考文献・資料】

比較生活文化事典 (金山盲夫 大修館)
Gestures : DOs and TABOOs of Body Language Around the World. (Roger E. Axtell, Wiley)

言語文化演習Ⅱ a・b (批評理論)

杉本一直

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

演習Ⅰに引き続き、現代文学の講読と作品評論を行なう。演習Ⅱでは評論により重点を置き、ロシア・フォルマリズムに始まる現代の文学理論を学ぶ。

【授業計画】

◆文学理論については以下の項目を学ぶ。

- ロシア・アヴァンギャルド文学とロシア・フォルマリズム
- ロマン・ヤコブソンと構造主義
- メタフィクションとディコンストラクション批評
- 受容理論と「読者」

◆文学作品は以下の作家の作品を講読する。

ポール・オースター、ホルヘ・ルイス・ボルヘス、アルベール・カミュ、ヴィクトル・ペレーヴィン、イタロ・カルヴィーノ、安部公房、ウラジーミル・ナボコフ

◆また、卒業論文（またはゼミ終了論文）の計画、資料収集、執筆の過程において、各学生が経過発表を行う。

【評価方法】

研究発表とレポートによる。

【テキスト】

プリント配布、授業中に指示した書籍。

言語文化演習Ⅱ a・b (翻訳論)

B. サン・ジャック

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

Cultures in Contrast

文化とは、具体的に何であるのか、又、文化は人間とどういう関係があるのかを研究することがこのゼミの目的である。

日本と色々な国の文化を比較対照しながら、その国の色々な様相—教育制度、結婚、レジャー、住宅、食物、テレビ、政治等—を日本文化と比較する。後期日本の国際化も研究する。

外国の文化を勉強することによって、自分の文化をもっと深く理解する。ゼミでは、英語と日本語の研究資料を使い、使用言語は、主に日本語です。

CULTURES IN CONTRAST

- During the first semester, a selection of articles from British and American newspapers and journals will be read and discussed during the seminars. These articles will deal with various aspects of British and American cultures, comparing them with similar aspects of Japanese culture.
- The second semester will also consider the Japanese Kokusaika. Readings for Kokusaika will be taken from various papers published by Prof. Saint-Jacques

【評価方法】

Presentations.

【テキスト】

Reading, 1990. (K. Hasegawa and C. Tate)

Studies in Language and Culture, 1995. (B. Saint-Jacques)

言語文化演習Ⅱ a・b (現代英米思想)

松本青也

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

現代英米思想を探る。
アメリカの現実を伝える資料を中心に、英米が直面する課題と背景文化との関連を様々な角度から考えます。

【授業計画】

前期は英米で製作された TV 番組や英米の新聞雑誌記事などを資料として分析しながら、その背景にある英米思想を歴史的形成過程と他文化との比較対照という二つの観点から掘り下げます。

後期は各自の研究テーマについての発表を中心に、討論、ゼミ合宿などを経て、最後に全員執筆の研究論文集『現代英米思想 2002』を作成します。

なお、受講者はインターネット利用のための講習会を受け、手続を完了して下さい。

【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価。

【テキスト】

(自作教材)。

言語文化演習Ⅱ a・b (対照言語学)

窪田守弘

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

3年次の演習として、映画製作やシナリオの書き方を一通り学んだので、学生が本格的に自己の研究課題を仕上げるための準備をする。このゼミでは既に対照言語学的な視点から映画字幕を分析して来たので、今後は各自が自分なりの視野から研究テーマを絞って考えていくようにする。卒業作品はあくまで自己の思想をいかに体系化するかが問題となるので、丹念に分析する必要がある。

<前～後期>

ゼミは各自の研究テーマを毎回発表し、それにコメントを加えていく形式にする。学生は、発表を通じて課題を完成し、最終的にそれが卒業作品となるよう配慮する。

【授業計画】

発表者が毎回レジメを配布し、それに沿って研究発表を行なう。

【評価方法】

毎回の発表内容や態度、作品などで最終的に評価する。

【テキスト】

- ①文章の書き方 (辰濃和男著 岩波新書 700円+税)
- ②ムービーDEイングリッシュ (窪田守弘編著 スクリンプレイ出版 1,200円)

言語文化演習Ⅱ a・b (英語コミュニケーション)

アンドリュー・J. ムーディー

4年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This course will continue an in-depth study of the language and culture of North America after World War II through the study of Rock and Popular music from the time period. The method of the class will use Cultural Studies and Pop Culture Studies to understand the interactions between music, society, and history. The class will be centered around extensive listening to music (about 3 music CDs will be distributed each semester as course material). Close analysis of the lyrics of the songs will be used to understand not only the language of the songs, but also how the culture was inscribed in and responded to the lyrics. This class will also use movies and video to study the language and culture of the time.

【Schedule】

前期：1975-1985；Sly & The Family Stone, George Clinton, Billy Joel, The Bee Gees, Elvis Costello, Devo, The B52s；Disco, Glam Rock, Punk Rock；Cold War, economic recession, AIDS epidemic.

後期：1985-present；U2, Duran Duran, Sting and The Police, Madonna, Nirvana, Pearl Jam, Sheryl Crow, Smashing Pumpkins；Grunge Rock, Country Rock Revival, Latin Music；fall of Communism, Green movement, terrorism.

【Assessment】

homework 30%
oral report 30%
final report 40%

【Textbooks】

The History of Rock and Roll. (Shirley, D. 1997)

言語文化演習Ⅱ a・b (英語コミュニケーション)

ジェニファ・J. マギー

4年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

Fairy tales and folk tales are important part of every culture. In Western cultures, traditional fairy tales are often referenced in popular culture. Fairy tales also change through time to reflect changes in the society they are a part of. In this class, students will learn about Western fairy tales and the ways they have changed through time, and will also study Japanese folk and fairy tales.

【Schedule】

After an introduction to folk and fairy tales, the class will examine four or five different Western fairy tales in depth. Students will read or watch different versions of the same fairy tale over three or four weeks and examine differences in the versions. The first semester will include a paper analysing at least two additional versions of one of the focus tales. In the second semester, both Western and Japanese fairy tales will be examined. The second year of class will be spent with each student exploring a particular Western or Japanese fairy tales in depth.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, and the final papers.

【Textbooks】

There will be no fixed textbook, but there will be a packet of readings assembled by the instructor. There will be additional outside readings selected by the student. Some readings may be accessible on the World Wide Web.

言語文化演習Ⅱa (英語コミュニケーション)

ダニー・T. モルデン

4年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This course will examine the role of metaphor and myth in rhetorical invention. Students will continue their examination of theories about myth and metaphor and their relation to invention. Students will be expected to pick examples and demonstrate their understanding of the theories.

【Schedule】

The topics to be covered include :

1. The use of myth in advertising and politics
2. The forms of metaphor-visual, aural, as well as linguistic
3. The roll of myth and metaphor in invention

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and an oral presentation.

【Textbooks】

There is no assigned text for this course.

日本語学Ⅲ (語彙・意味)

山内啓介

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本語語彙・言語的意味について基礎的な知識を得る。語誌と語の意味変化、および語彙論の研究方法を学ぶ。語彙は語の集まりと語のまとまりと把握できる。語を集約して分析するか、意味の体系として捉えるか、その論を理解する。

【授業計画】

- 1 はじめに 語と語彙
- 2 語彙論とは何か。 語の単位・語彙調査・語彙表
- 3 語の延べと異なり。 資料体の総量・古典対照語彙
- 4 基本語彙について。 基礎語彙・基幹語彙・語彙量
- 5 語彙の構造。 分類基準・意義・形態・語性・地域
- 6 語誌の研究。 語源・語義・本義・派生義・語構成
- 7 語種。 和語・漢語・外来語・混種語・カタカナ語
- 8 語と意味。 意味とは、意味の捉え方・類義反義語
- 9 語の意味の研究。 指示の意味・意味の基本三角形
- 10 関係の意味。 象徴記号・概念と用法・語義の差異
- 11 意味分析の方法。 文脈の意味・臨時的意味・比喩
- 12 語の意味変化について。 意味の変遷・辞書の記述
- 13 日本語語彙の特徴。 死語・流行語・若者語・造語
- 14 語彙史と辞書史。 字引き・索引・コンコーダンス
- 15 語彙研究の課題・意味研究の将来

【評価方法】

定期試験による。出席回数を重視する(80%以上)。

【テキスト】

プリント資料を配布。

【参考文献・資料】

授業中に紹介するので、図書館で利用されたい。

日本語基礎演習

阿部美枝子

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代日本語の文法現象の中から特に議論の多いトピックを選び、その問題点を掘り下げていくことを狙いとする。ヴォイス、テンス、アスペクト、名詞修飾等がトピックとして取り上げられる。

【授業計画】

各トピックにつき演習問題を出し、それを解いていく方法を取る。

【評価方法】

学期末筆記試験（レポート併用の可能性あり）、及び各演習問題の結果で評価する。

【テキスト】

使用せず。

日本文化論Ⅰ

山内啓介

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

日本文化論は前近代化論とポスト近代化論とにわけて把握できる。「前近代化」とは中国文明の影響下にある文化論であり、「ポスト近代化」とは1952年以降の民主化を進める文化論である。しかし、日本人論議に代表されるポスト文化論は前近代化を十分に超克したとは言えない。現代文化ははたがって、近代を継承をしながら何を自覚するか、という日本特殊の議論を探求している。文化と日本人のアイデンティティーについて日本文化論Ⅰでは問題点を考察してみたい。

【授業計画】

次の項目で講義を行う。

- 1 前近代化の論
- 2 明治期の教育勅語
- 3 ヘルン「神国日本」
- 4 『国体の本義』
- 5 憲法と教育基本法
- 6 ポスト近代化の論
- 7 『善の研究』と哲学
- 8 第二芸術論
- 9 日本人論の論議
- 10 日本社会の構造
- 11 経済状況と文化
- 12 日本語と文化分析
- 13 グローバル文化
- 14 日本文化の特殊説
- 15 個人主義と間人主義（附）文化の再生

【評価方法】

定期試験による。

【テキスト】

日本文化論の変容（青木保 中央公論社）

【参考文献・資料】

随時、指示する。

日本文化論Ⅱ

山内啓介

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

日本文化の個別議論はステレオタイプに理解されることが多い。そしてさまざまな議論が展開されている。それだけ日本文化の本質が単純なのか、あるいは捉えがたいのか、日本文化の様相は近代化と民主化のはざまにあるようである。わたしたちはどこから来て、どこへ行くかとするのか、そして日本文化とはなにもものなのか。日本文化論Ⅱでは文化議論に立ち入って検討をして考究を試みたい。なお、この講義は毎回、文献を摂取する。そのつもりでテキストの日本文化論の中から著作を選び、ひとつづつ読破することを望む。

【授業計画】

次の項目で講義を行う。

- 1 「個人主義」と漱石
- 2 「菊と刀」の義理
- 3 墜落論と私的文化論
- 4 雑種文化論
- 5 文明の生態史観
- 6 タテ社会の人間関係
- 7 日本の経営と集団
- 8 恥の文化
- 9 「甘え」の構造
- 10 文化防衛論
- 11 「日本らしさ」
- 12 「縮み」志向
- 13 権力構造のなぞ
- 14 オリエンタリズム
- 15 国民の歴史（附）文化の概念

【評価方法】

定期試験による。

【テキスト】

日本文化論の変容（青木保 中央公論社）

【参考文献・資料】

多くは文庫本、新書版で入手できる。講談社の学術文庫をはじめ、講談社現代新書など、各社の目録を参照するとよい。

日本語教授法Ⅰ a・b

窪田守弘

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

日本語教授法は、日本語教育関連の科目の中で極めて実践的な分野である。しかし、現実には理論と実践がうまくかみ合わないことがよくあるので、本講義ではその点を十分考えて話を進めていきたい。日本語教育の歴史はまだ浅いので、外国語教授法の歴史の変遷をふまえた上で、基本的な理論を理解し、それを実際に応用できるようにしたい。そのために学生はグループで模擬授業をやって、現場を体験できるように配慮したい。

<前期～後期>

1. 理論篇

- ①日本語教育の特色
- ②母国語と外国語
- ③外国語教授法の変遷
- ④日本語教育の歴史
- ⑤日本語教育のテキスト

2. 実践篇

- ①日本語教育の実践
発音・語彙・文字・文法指導
- ②教案の作成
- ③カリキュラムの立て方
- ④ディスコース・デザイン
- ⑤試験と評価法

【授業計画】

日本語教育の実際の現場の様子を知るため、極力多くのVTRを見たり、実習の模擬授業を行うようにする。

【評価方法】

学期末の試験や発表内容、出席状況で評価する。

【テキスト】

日本語教授法（窪田守弘著 見学出版 2,000円）

日本語教授法Ⅱ a・b

山内啓介

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

日本語教育の教科書をとりあげて分析する。
日本語教授の実践的知識を得る。
日本語授業のシミュレーションを行う。
日本語教師の能力とは何か、を考える。
語学教育における学習者論、教師論、教材論のうち、教師の立場について講義と模擬授業を行う。教科書の分析には文型積み上げ方式（AOTS）を用いる。

【授業計画】

前期

- 1 日本語教育入門・初級の文法授業概要
- 2 表現文型とオーラル・アプローチ
- 3 教室作業の実際をシミュレーション
- 4 話し言葉教材と書き言葉の習得

後期

- 5 日本語教育のニーズアナリシス
- 6 日本語能力試験の標準表
- 7 日本語教育能力資格について
- 8 日本語教育の教授法とは何か

なお、コースデザインによる教育方法をあわせて考察するのでテキストを用いる。

【評価方法】

簡単な試験を学期中に、5回の予定。(60%)
出席を重視。(20%) 授業の参加。(20%)

【テキスト】

日本語教育の方法（田中望 大修館）

【参考文献・資料】

日本語の教え方の秘訣（上・下）（有馬綾子 スリーエーネットワーク）[授業には購入しなくてよい]

日本語教育教材論

山内啓介

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

日本語教育の教材は教科書、教具、資料にわけて捉えられ、また、教室環境と教師自身が教材となっていた。教授法の展開から、AL（Audio Lingual）メソッドにおける画期的な教具の開発が行われた後、今日ではPAL時代になって、おおきな変化が現れた。日本語教材でも求められているのは、たとえば言うなら、“とっさの一言”ふうの会話である。日本語の対人コミュニケーションを、そのストラテジーの視点で分析したわかりよい日本語会話である。マルチメディア対応の教材の開発が進められなければならない。日本語資料で扱いやすい、役立つ教材を考察してみたい。

【授業計画】

日本語教育で使われる教材の分析を行い、利点と欠点をメソッドとアプローチの違いに位置付け、提示文と語句を場面と文化的背景に捉えなおして、日本語会話の構成を追求して製作を行う。この講義を通して、会話集の実践的演習を試みるので、コミュニケーションの重要性を認識できるように進めたい。

【評価方法】

講義の理解。(60%) 出席を重視。(20%)
教材の製作。(20%)

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

各種市販の教科書。
会話用に『生活場面事典』（三修社、西村政人・山内啓介他）、集中教育用に『初級日本語』（久野かおる・山内啓介他、私家版）などがある。

日本語教授法Ⅲ（教育実習）

窪田守弘

集中 4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本語教育の実際の状況を知るため、映像や資料を使って実践的な実習を行なう。この教育実習は専門的な内容となるため、これまでに日本語教育に関連する科目を履習しておくことが望ましい。

本学は中国の南京市にある南京師範大学と姉妹校提携を結んでいるが、そこの日本語学科で実施した日本語教育実習の内容を中心に教育実習を行なう。特に、本学学生の研究授業などを撮影したビデオを主な教材として、実践的な内容にする考えである。

【授業計画】

南京師範大学での研究授業のビデオを参考にしながら、学生が実際に模擬授業を行う予定である。

【評価方法】

実習に関して独自の考えをまとめたレポートや、出席状況や態度などで、総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布するが、「実習ノート」を作成する予定である。

論文

ジョリー幸子 杉本直 B. サン・ジャック 松本青也 窪田守弘
アンドリュース・J. ムーディー ジェニファ・J. マギー ダニー・T. モルデン

4年 通年 選択 8単位

【授業計画】

＜論文提出までの主な日程＞（詳細は掲示）

- ・ 4月上旬履修登録
- ・ 4月16日（月）「依頼書」提出締切り（4月2日以降、学部準備室）
- ・ 5月21日（月）「論文概略」提出締切り（5月1日以降、学部準備室）
以後、指導の日時、梗概提出、初稿提出など、完成論文提出までの詳細は指導教員の指示による。
- ・ 12月21日（金）午後4時：「論文」提出締切（12月10日以降、学部準備室で受付）

上記いずれの締切に遅れても論文提出の資格を失う。

下記の科目は、本年度開講しません。

英語音声学 a・b

英文学海外セミナー I

English 101 a・b

言語文化概論 I

English 102 a・b

言語文化概論 II

English 201 a・b

言語文化概論 III

English 202 a・b

言語学概論 a・b

英文法 a・b

言語文化基礎演習 a・b

英文講読 I a・b

言語文化論 I 7 (アジア)

英文講読 II a・b

ことばと文化 a・b

英文講読 III a・b

比較文化論

コミュニケーション論 a・b

日本語論 a・b

日本語学 I (音声)

日本語学 II (文法・文体)

図書館情報学概論 a・b

村主朋英

1年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学分野の世界への入り口となる科目である。前半は、図書館情報学における基本的な考え方について論ずる。後半は、情報に関する研究の世界や図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

【授業計画】

0. オリエンテーション：分野と専門、学術と実務
1. 情報や知識をどのように捉えるべきか
2. 情報の流過程
3. 情報と知識の研究と実務に関わる分野
4. 図書館・情報サービスにおける機能と構造
5. 情報サービスと人間
6. まとめ：人とメディアのつくる宇宙の中で

【評価方法】

前期：定期試験

後期：定期試験と夏休みレポート

※なお「図書館情報学概論 a」の単位を取得済でない学生については、「同 b」の単位は認定しない。また、前期末に夏休みレポート課題を提示するので、今年度「同 b」のみ履修予定の学生は問い合わせること。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典（日本図書館学会用語辞典編集委員会編 丸善 税別定価3,800円）

卒業論文ゼミ a

野添篤毅

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

自然科学分野、とくに生物医学、健康分野における各種情報の流過程で起こっている種々の問題について卒業研究を行っていくための足がかりを得るためのセミナーを行う。

【授業計画】

受講生の関心のあるテーマについて、最新の海外の学術研究論文を、デジタル資源によって調査、収集し、その中から適切なものを個人個人が読みレポートをまとめ、発表し、討論していく。

【評価方法】

ゼミへの参加度および毎回のレジュメ。

【テキスト】

その都度、指示する。

卒業論文ゼミ a

岡澤和世

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

情報学の誕生とその時代背景を振り返り、その軌跡を共通認識として、情報行動を中心に情報システムとの関係を論じる。

特に、社会と人間と情報を中心テーマに、人間と機械のインターフェースや人への影響などの問題点を利用者の観点から評価し、社会と人間と機械の賢明な関係を模索する。講義中心の授業よりも、自主的な参加型授業を行う。

オリエンテーション

1. 情報学の起源

1) 図書館学の歴史と教育 2) Meadowsの考え 3) Sheraの考え

2. 情報学の研究範囲

1) 情報学の基準 2) B. C. Vickeryの範囲 3) 情報学の主要論文

3. 情報学の基礎

1) B. C. Brookes 2) 社会と情報 3) 情報の研究-F. Machlupら

4. 課題と展望

【授業計画】

講義は教科書を使って共通確認を共有する。その後、各自の意見や考えを出し合い討論する。

新聞記事などを使って人間・メディア・社会についての問題を考える。

【評価方法】

レポート 卒業論文

【テキスト】

情報学講義ノート<3> (岡澤和世 敬文堂, 1989)

インフォ・リッチ: インフォ・ブア

(Travor Haywood 岡澤和世訳 敬文堂, 1997)

卒業論文ゼミ a

長澤雅男

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

最初に、論文とは何か、どのような手順で論文を作成すればよいかについて概説する。次いで、履修者の関心領域から選んだ研究テーマ(複数も可)に関する先行研究その他の参考文献収集の課題を与え、各自が選んだ主要な文献のレジュメを作成報告し、クラス討論を通して研究テーマならびに研究方法を決めるのに役立てる。各自は遅くとも3年次終了時までに卒業論文のテーマおよび研究調査の方法を決定することが要求される。

【授業計画】

- 1 論文—その意義、目的
- 2 卒業論文の作成手順
- 3 図書館情報学の研究領域
- 4 図書館情報学の研究方法
- 5 論文の構成項目
- 6 関係文献・情報の収集
- 7 文献リストの種類と作成
- 8 書誌データの記述と編成

前半は講義中心、後半は履修者の報告、クラス討論を中心に進める。また、研究室における個別指導、Eメールによる質疑にも応じる。なお、研究テーマの検討に役立てるために、3月に東京地区の図書館、情報サービス機関、出版流通関係機関等の見学旅行(1泊2日)を計画している。

【評価方法】

平常点、クラスレポート、参考文献リスト作成を含む総合評価。

【テキスト】

使用せず。必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

図書館学研究入門 意義と方法 (長澤雅男、戸田慎一編 日本図書館協会)

図書館学研究入門 領域と展開 (長澤雅男、戸田慎一編 日本図書館協会)

卒業論文ゼミ a

西荒井学

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

情報システムの構築に必要な情報処理技術、ならびにプログラミング技術に関わる問題を扱う。この範囲内で受講者各自が設定すべき卒業論文のテーマについての指導を行っていく。

- 1) 卒業論文の書き方
- 2) テーマの選び方
- 3) 基本図書の調査と内容紹介
- 4) 先行研究についての調査と紹介
- 5) 卒論テーマの決定と研究方法

【授業計画】

受講者各自が、支持された内容について、指定日時までに必要な作業を実施してくる。これら作業内容に関して、作業方法、作業結果、問題点などについて、各自が報告する。

報告された内容については、受講者全員で検討していく。受講者全員が、4年次での卒論作成作業に問題なく移行できるように準備をする。なお、情報処理技術ならびにプログラミング技術における新しい専門用語などについても、折りに触れて学習していく。

【評価方法】

提示課題についての進捗状況、提示課題の報告内容、平常の作業活動内容、課題レポートなどによって総合評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

卒業論文ゼミ a

山崎茂明

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会の発展を基礎づけている科学研究活動を対象にして、コミュニケーションと情報メディアに着目して、さまざまな視点から考察してみたいと思います。卒業論文テーマの明確化のために、関連文献の収集とレビューを行ない、調査対象の特定と方法について検討する。そして、論文発表と口頭発表のためのプレゼンテーション技法について学ぶ。

【授業計画】

みなさんが取りあげるテーマは多岐にわたると思いますが、ゼミ学生相互の意見交換はお互いに有益なものになると考えますので、ゼミを発表と討論の場として活用してください。今ひとつテーマをしばらく切れなれないといった悩みも問題解決のための一歩と考えていますので、そのことに正面から向き合うよう希望します。英文論文は良いものを選んでじっくり取り組んでみてください。多様な考えや新しいアプローチなど、みなさんの世界を広げてくれるはずです。

【評価方法】

卒業論文、レポート。

【テキスト】

講義内容に関係する基本文献を随時配付する。

卒業論文ゼミ a

山本 進

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

卒論のテーマとして取り上げる分野一館種を問わず図書館現場における『資料組織』・『サービス』・『施設と設備』・『図書館サービスの地域計画と図書館のシステムサービス』・『図書館協力』・『図書館のコンピュータ導入』・『図書館員の専門性』等一配付資料（レジュメ）によって解説を行う。

【授業計画】

レジュメによる解説と、私からの問題提起、それに対する全員でのディスカッション、その中から問題意識を喚起し、ある程度の方向性を見出して、それらについてのノウハウを与え卒論の仮テーマを考える。

1～3月中に、公共図書館・大学図書館の現場で学外研修を実施し、卒論テーマを決定し、文献収集のうえ卒論の骨組みを決める。

【評価方法】

【テキスト】

使用しない。

卒業論文ゼミ a

逸村 裕

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

4年次の卒業論文執筆を前提として、各自が関心を持つテーマを研究する。

1. これまでに学んできた図書館情報学に関する知識技能の確認を行なう。
2. 文献検索、和欧文献の読み込み、統計処理
3. 卒論テーマの検討

【授業計画】

各自の関心を基礎に演習方式で行なう。毎回の課題提出と発表が義務である。

【評価方法】

ゼミへの出席とレポート、発表をもとに評価を行なう。

【テキスト】

使用せず。

卒業論文ゼミ a

三和義秀

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現在のハイパーテキスト・システムの仕組みやその応用分野を理解し、既存のハイパーテキスト・システムの機能を評価しながら本質的な問題点を探る。

ハイパーテキストが応用されているシステム（CD-ROM 百科事典、WWWなど）を実際を使ってそれらシステムの機能を評価し、さらにその仕組みについて理解する。特に、インターネットとハイパーテキストの相互関係及び Java、VRML (Virtual Reality Modeling Language)、CGI (Common Gateway Interface) またはC言語によるプログラミングに焦点を当てる。この範囲内で各自の卒論テーマの決定及び卒論執筆に向けての準備作業の指導を行う。

【授業計画】

講義及びコンピュータを使った実習にて進める。

【評価方法】

レポートにて評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

卒業論文ゼミ a

村主朋英

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

卒業論文のための研究の準備を行う。

各自の問題意識を醸成し、それと研究動向についてのレビューをもとにテーマを決め、研究に入る。

【授業計画】

1. 仮テーマ決定
2. 用語調査と概念マップ作成
3. 関連分野の同定
4. 基本文献の収集・分析
5. 研究テーマの決定
6. 図書館情報学と自分のテーマの関係付け

【評価方法】

平常点（出欠、課題の提出状況）、最終レポート

【テキスト】

情報と文献の探索 第3版（丸善）（諸君がすでに履修した別講義で使用）

卒業論文ゼミ b・c

野添篤毅

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

3年後期に行った卒業論文ゼミaによって、絞り込まれた卒業研究のテーマに沿って調査・研究、論文作成の指導を行う。

【授業計画】

毎回、自己のテーマについてのレポートをまとめ、発表し、討論していく。

【評価方法】

ゼミへの参加度および毎回のレジュメ。

【テキスト】

その都度、指示する。

卒業論文ゼミ b・c

岡澤和世

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

現在既存の情報システムが利用者の多様な要求に応えられない理由を明らかにし、情報技術へのヒューマン・ファクターと人間工学の導入の必要性を指摘する。利用者を中心に据えた情報技術の方法と道具を考察する。ゼミの目的は変動の激しい情報環境に生きている私たち利用者が、氾濫する情報に溺れることなく、正しい情報理解能力（リテラシー）を習得し、活用する方法を考察することである。

<前期>

オリエンテーション：情報環境

1. 情報と知識を結ぶ鎖
2. 情報アクセス
3. 情報瞬間
4. 情報と文化の関係
5. 情報メディア
6. 書物の歴史
7. 図書館の役割
8. 情報と女性
9. レポートの書き方

<後期>

オリエンテーション：卒論について

1. 情報環境
2. 情報学の歴史
3. 情報過多現象
4. 人間工学
5. インターネット
6. 情報政策
7. 情報の要求と利用
8. 情報社会の展開過程
9. 将来の情報環境

【授業計画】

前期は講義を中心に行なう。後期は各自の卒論テーマに従って解説する。

【評価方法】

レポート。卒業論文。出席回数。

【テキスト】

情報学講義ノート<3>（岡澤和世 敬文堂 1989）

インフォ・リッチ：インフォ・ブア

（Trevor Haywood 岡澤和世訳 敬文堂 1997）

卒業論文ゼミ b・c

長澤雅男

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

前期には、標準的な論文作成スケジュールに準拠し、各自が選んだ論文のテーマ、調査・研究の方法に基づいてスケジュール表の提出を求めた上で、関係資料・データの収集、文献資料の利用評価のあり方、論文構成上の問題等にわたって順次解説するとともに、論文作成過程にしたがい、参加者相互の批判検討を通して論文の構成・内容の充実を図る。

後期には、共通の指導事項についてクラスにおいて授業を行うとともに、各自の論文作成の進捗状況に応じて、よりよい卒業論文を仕上げることを目標にして個別の相談に応じる。

【授業計画】

前期

1. 研究テーマの報告・クラス討議
2. 文献調査その他の調査方法
3. 関係論文の抄録作成・クラスレポート

後期

4. 論文の文章表現法
5. 論文の構成要素－執筆規程の理解
6. 注記、引用、参考文献

前期はグループ指導と討議を中心に行い、後期は個別指導を中心に進める。

【評価方法】

クラス討議と平常点

【テキスト】

使用せず。必要に応じてプリントを配付する。

卒業論文ゼミ b・c

西荒井学

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

3年次履修科目である卒業論文ゼミaにおいて、各自が設定した卒業論文のテーマに従い、卒論指導を行う。

作業スケジュール

- 1) 卒業論文タイトルの決定 (4月)
- 2) 卒論 (章) の構成 (5月上旬)
- 3) 文献リスト作成 (5月下旬)
- 4) 卒論 (節) の構成 (6月)
- 5) 1節分の論文執筆仮提出 (7月下旬)
- 6) 中間発表 (8月下旬～9月上旬)
- 7) 卒論仮提出 (11月中旬)
- 8) 卒論本提出 (12月中旬)

【授業計画】

受講者各自が、卒論作成年間スケジュールに従い、それぞれ指示された内容について、指定日時までに必要な作業を実施してくる。受講者各自の卒論テーマに関する問題点について、受講者同志互いに発表、討論していくことにより、卒論完成に向けての相乗効果を図っていく。なお、中間発表は、夏期休暇中に合宿にて行う場合もあるので、注意すること。

【評価方法】

卒論作成作業の進捗状況、報告内容などについても一部考慮しない訳ではないが、その大半は提出卒業論文の内容により評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

卒業論文ゼミ b・c

山崎茂明

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

現代社会の発展を基礎づけている科学研究活動を対象にして、コミュニケーションと情報メディアに着目して、さまざまな視点から考察してみたいと思います。4年次後期には、論文テーマについての文献レビューや調査データについて、さらに発表と討論を積み重ね卒業論文をまとめていきます。

【授業計画】

みなさんが取りあげるテーマは多岐にわたると思いますが、ゼミ学生相互の意見交換はお互いに有益なものになると考えますので、ゼミを発表と討論の場として活用してください。今ひとつテーマをしばらく切れないといった悩みも問題解決のための一歩と考えていますので、そのことに正面から向き合うよう希望します。英文論文は良いものを選んでじっくり取り組んでみてください。多様な考えや新しいアプローチなど、みなさんの世界を広げてくれるはずです。

【評価方法】

卒業論文、レポート。

【テキスト】

講義内容に関する基本文献を随時配付する。

卒業論文ゼミ b・c

山本 進

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

3年後期の「卒業論文ゼミ」において決定した卒業論文のテーマに従って、論文の構成・使用文献等についての集団指導及び個別指導を行い、夏休み前までには卒業論文の全体構成が眼に見える形になるよう、組み立てを終える。

【授業計画】

卒業論文に調査や調査統計が必要な場合は、調査の内容や項目、方法・結果の集約と纏めについて、具体的な調査の実施方法について指導を行う。

卒業論文の進捗状況中間発表のため、9月上・中旬に2泊3日のゼミ合宿を実施し発表や討論を行う。

12月上旬卒業論文の提出、1月中旬に行われる卒業論文の発表に向けて指導を行う。

【評価方法】

【テキスト】

使用しない。

卒業論文ゼミ b・c

逸村 裕

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

各自の研究テーマを発展させ、「卒業論文」作成を目指す。
研究進捗状況の確認を行なう。

【授業計画】

3年次の図書館情報学演習aを基礎とし、文献の読み込み、調査、執筆の段階を追って卒論を作成する。

【評価方法】

ゼミへの参加をもとに評価を行なう。

【テキスト】

使用せず。

卒業論文ゼミ b・c

三和義秀

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

各自の研究テーマに関する指導を行う。
卒業論文を完成するために、各自のテーマに従った先行研究の理解やシステム構築のためのプログラミングを行う。

【授業計画】

個別指導及び各自研究の進捗をゼミ生全員で発表・討論する。

【評価方法】

卒業論文にて評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

卒業論文ゼミ b・c

村主朋英

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

卒業論文のための研究過程に沿って指導する。卒業論文ゼミは、学術論文を作成するための機関である。ゼミでは、ほかのゼミ生や担当教員との意見交換を行いながら、基本的には自分で判断し、自分のモチベーションを機動力に研究を進める必要がある。

【授業計画】

1. 先行研究の分析、研究動向の把握
2. 問題設定
3. 研究方法の決定
4. 研究計画の策定
5. 研究の実施
6. 論文の企画・執筆

【評価方法】

平常点（出欠、課題の提出状況）。

【テキスト】

なし。

図書館情報学特殊演習 a

野添篤毅

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

自然科学分野、とくに生物医学分野における学術情報資源を探すための種々の手段（マニュアル、オンライン、CD-ROM、インターネット）、デジタル化されたツールについて演習形式で学んでいく。

取りあげるテーマとしては、

- a. MEDLINEデータベースの索引手法と検索、原文献の収集、および検索文献の質的評価の実習（3年後期）
- b. インターネットでアクセスできる生物医学関係の情報資源の調査・分析・評価（4年前期）
- c. インターネットによる情報発信の実習（4年後期）など、を予定している。インターネットを使用するので情報科学教育センターでIDを取得すること。

【授業計画】

上記のテーマについて演習を行い、レポートをまとめる。また、演習成果の発表会を各学期末に行う予定。

【評価方法】

演習への参加度およびレポート。

【テキスト】

その都度、指示する。

図書館情報学特殊演習 a

岡澤和世

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

「情報環境」というコンセプトに焦点を当て、現代社会の情報問題を考える。演習を中心に各自の中心のテーマを決め、相互理解を深めていく。

今、情報環境が大きな変貌を遂げようとしている。高度情報化社会に生きている私たちは変わりゆく情報環境について認識を深め、氾濫する情報に溺れることなく、正しい情報理解力（リテラシー）を発揮するよう求められている。本講義では、そのために必要な情報は何かを中心に論じる。

【授業計画】

オリエンテーション：情報環境

1. 情報環境とニューメディア
2. 情報メディア
3. 情報アクセス
4. 情報不均衡
5. 情報と知識を結ぶ鎖
6. 記憶と情報
7. ニューラル・ネットワーク
8. 言語と会話
9. 書物の歴史
10. 女性と情報
11. インフォ・リッチ：インフォ・プア
12. 情報の質
13. 情報過多
14. 情報と文化の関係
15. 情報と漫画
16. 情報と広告
17. 情報とテレビ
18. 情報の一極集中化
19. 社会変化
20. 情報社会の展開過程と現状

【評価方法】

小論文と出席日数。

【テキスト】

インフォ・リッチ：インフォ・プア (Trevor Haywood
岡澤和世訳 敬文堂 1997)

図書館情報学特殊演習 a

長澤雅男

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

情報および文献探索のための具体的質問事例（配付資料『レファレンス演習問題集』）を準備し、それらの回答演習を通して情報の探索手法を習得し、あわせて探索ツールとしての二次資料の特性について理解できるように指導する。

【授業計画】

1. 参考図書・DB情報の探索
2. 言語・文字情報の探索
3. 事物・事象情報の探索
4. 歴史・地理情報の探索
5. 人物・団体情報の探索
6. 図書・叢書情報の探索
7. 新聞・雑誌情報の探索

毎時間、主として二次資料を利用した事実探索の質問例題を各自に指定して回答演習を行い、その探索結果についてクラスでの報告を求め、講評する。その際、印刷メディアの利用を中心に、それと電子メディアを利用した探索法と比較しながら、効率的な探索のあり方について検討する。

【評価方法】

平常点と質問回答のレポートの評価。

【テキスト】

使用せず。問題集を配付する。

【参考文献・資料】

情報と文献の探索 第3版 (長澤雅男著 丸善)

図書館情報学特殊演習 a

西荒井学

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

各自が設定したテーマに応じ、プログラム言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアを使用して、実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）を行い、それらの内容を演習形式で学習していく。

- 1) テーマの決定
- 2) プログラム設計
- 3) プログラミング
- 4) テスト
- 5) 仕様書の作成
- 6) 評価

【授業計画】

受講者各自が設定したテーマに従って、毎時間実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）に必要な各種作業を実施していく。取り扱うプログラミング言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアについては、情報科学センターが所有するソフトウェアの範囲内であれば、それ以上の条件は別に設定しない。ただし、表計算ソフトウェアなどのアプリケーション・ソフトウェアを使用する場合には、マクロを使用するなど、唯一、プログラミングの要素を含むことを条件とする。

なお受講者各自に対して、最終的には、開発の目的、プログラム設計書（入力、出力、ファイル、プロセス）、ソース・リスト、操作マニュアル、総合評価からなるレポートの提出を義務付ける。

【評価方法】

プログラム開発の理解度ならびに進捗状況、課題レポートなどによって評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

図書館情報学特殊演習 a

山崎茂明

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

フォーマルコミュニケーションの最も主要なメディアとして発展してきた学術雑誌を主たるテーマにして、学術雑誌の創刊時を中心とした歴史的アプローチ、現在の出版状況を数量的に把握する生態論的アプローチ、電子ジャーナルを中心にした未来論的アプローチ、レフェリーシステムに代表される本質論的アプローチ、投稿や雑誌の利用に焦点をあてた行動的アプローチなど、さまざまな視点から学術雑誌の機能を検討します。ゼミ参加者は情報学Ⅲ（科学コミュニケーション）と情報メディア論Ⅴ（科学技術情報）を履修し、そこで話されている内容に興味ある方が適切です。

3年時には、執筆、投稿、審査、編集、流通といったプロセスを、著名な総合科学雑誌NATURE誌を例にして、その歴史的な発展や電子化への取り組み、ニュースメディアとの関係、記事の種類と役割など、具体的に取りあげます。また、レフェリーシステムの役割をロールプレイにより体験し、信頼性の高い学術情報がいかに形成されているかを理解してみましょう。実際に多くの学術雑誌を手に触れながら、どのような人が、どんな目的で発表し、読んでいるのか、科学研究世界への想像力を持って取り組みたい。

【授業計画】

各自やグループにおける問題解決のプロセスを実践的に学ぶ機会としたい。そのために、基本文献の概要と動向のまとめ（文献レビュー）、論文のまとめかたと会議でのプレゼンテーション（PowerPoint実習を含む）など、調査と発表のための基礎知識もとりあげます。

【評価方法】

総合研究報告、レポート。

【テキスト】

講義内容に関係する基本文献を随時配付する。

図書館情報学特殊演習 a

山本 進

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

取り上げるテーマは、館種を問わず、図書館の現場における資料組織、サービス、図書館の施設設備、図書館建築の諸問題、図書館サービスの地域計画、図書館サービスの測定と評価、図書館員の専門性等の諸問題について論ずる。

【授業計画】

講義内容に沿った資料を配付し、順次論述を進め、その中から、毎月1回程度レポートの提出を義務づけ、問題意識の集約を図る。

1～3月中に、公共図書館・大学図書館の現場で学外研修を実施し、研究テーマを確定したうえ文献収集を行い論文の骨組みを決める。

【評価方法】

【テキスト】

使用しない。

図書館情報学特殊演習 a

逸村 裕

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

4年次の「最終レポート」作成を前提として、各自が関心を持つテーマを研究する。

1. これまでに学んできた図書館情報学に関する知識技能の確認を行う。
2. 文献検索、和欧文献の読み込み、統計処理
3. 「最終レポート」テーマの検討

【授業計画】

各自の関心を基礎に演習方式で行なう。毎回の課題提出と発表が義務である。

【評価方法】

演習への出席とレポート、発表をもとに評価を行なう。

【テキスト】

使用せず。

図書館情報学特殊演習 a

三和義秀

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

ハイパーテキストの仕組みを理解して本質的な問題点を探り、その改善手法について討論する。その範囲内で最終レポートのテーマ等を決定する。

CD-ROM百科事典やWWWなどを実際に使ったり、HTML、Java、VRML (Virtual Reality Modeling Language)、CGI (Common Gateway Interface) などを使ってホームページを作りながらハイパーテキスト・システムの機能を評価して本質的な問題点を探る。また、それら問題の解決手法の関する先行研究を調査する。

【授業計画】

講義及び実習で進める。

【評価方法】

レポートにて評価。

【テキスト】

授業中に指示する。

図書館情報学特殊演習 a

村主朋英

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

私の特演ゼミでは、情報史研究に関わる演習を行なう。情報史とは、まず第一に情報に関わる事物（情報活動・情報技術・情報サービス・情報学の理論・情報専門家など）についての歴史である。それに加えて、科学技術・哲学・文学・芸術・芸能・音楽、また教育や法律など、人間の生活や社会活動に関わるあらゆる事象も情報史の対象と考えることができる。

そうした対象の中から、各自でテーマを決め、探求を進める。

3年次においては、予備知識・基礎知識をかため、問題意識を育むための作業を行う。

【授業計画】

1. テーマの設定
2. 用語調査と概念マップ作成
3. 年表の枠組みの検討
4. 基本文献の同定・講読
5. 年表（概略版）の作成および基礎知識のまとめ

【評価方法】

平常点（出欠、課題の提出状況）、最終報告書。

【テキスト】

情報と文献の探索 第3版（丸善）
（諸君がすでに履修した別の講義で使用）

図書館情報学特殊演習 b・c

野添篤毅

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

自然科学分野、とくに生物医学分野における学術情報資源を探すための種々の手段（マニュアル、オンライン、CD-ROM、インターネット）、デジタル化されたツールについて演習形式で学んでいく。

取りあげるテーマとしては、

- a. インターネットでアクセスできる生物医学関係の情報資源の調査・分析・評価（4年前期）
- b. インターネットによる情報発信の実習（4年後期）など、を予定している。インターネットを使用するので情報科学教育センターでIDを取得すること。

【授業計画】

上記のテーマについて演習を行い、レポートをまとめる。また、演習成果の発表会を各学期末に行う予定。

【評価方法】

演習への参加度およびレポート。

【テキスト】

その都度、指示する。

図書館情報学特殊演習 b・c

岡澤和世

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

「情報環境」というコンセプトに焦点を当て、現代社会の情報問題を考える。演習を中心に各自の中心のテーマを決め、相互理解を深めていく。

今、情報環境が大きな変貌を遂げようとしている。高度情報化社会に生きている私たちは変わりゆく情報環境について認識を深め、氾濫する情報に溺れることなく、正しい情報理解力（リテラシー）を発揮するよう求められている。本講義では、そのために必要な情報は何かを中心に論じる。

【授業計画】

オリエンテーション：情報環境

1. 情報環境とニューメディア
2. 情報メディア
3. 情報アクセス
4. 情報不均衡
5. 情報と知識を結ぶ鎖
6. 記憶と情報
7. ニューラル・ネットワーク
8. 言語と会話
9. 書物の歴史
10. 女性と情報
11. インフォ・リッチ：インフォ・プア
12. 情報の質
13. 情報過多
14. 情報と文化の関係
15. 情報と漫画
16. 情報と広告
17. 情報とテレビ
18. 情報の一極集中化
19. 情報倫理
20. 情報社会の展開過程と現状

【評価方法】

出席とレポート。

【テキスト】

インフォ・リッチ：インフォ・プア（Trevor Haywood
岡澤和世訳 敬文堂 1997）

図書館情報学特殊演習 b・c

長澤雅男

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

前期には、印刷メディアおよび電子メディアを併用した文献探索演習を行うことによって効率的な探索手法を習得することを目指す。後期には、これまでに習得した情報と文献の探索手法を応用して、各自が選択したテーマと作製企画に基づいて、二次資料（データベース）を作製する。その過程で、索引法、書誌作成法に重点をおいて指導する。

【授業計画】

1. 情報の加工と再編成
2. 二次資料作製企画
3. 二次資料のデータ採集
4. 書誌データの記述
5. 解題・抄録等の作成
6. 二次資料のフォーマット

前期には、文献および情報の探索演習と併行して、二次資料作製手順について説明し、各自（2人以上の共同作業も認める。）が選んだテーマに関する二次資料（データベース）の作製企画を立てる。

後期には、前期に各自が提出した二次資料作製企画に基づいて、スケジュールに沿って作製作業を進めることができるよう個別指導を行う。

【評価方法】

前期は平常点、演習レポート、二次資料作製企画書の総合評価。後期は平常点、演習レポート、提出した二次資料のファイル（フロッピーディスク）と冊子の総合評価。

【テキスト】

使用せず。必要に応じてプリントを配付する。

【参考文献・資料】

情報と文献の探索 第3版（長澤雅男著 丸善）
書誌作成マニュアル（日本索引家協会編 日外アソシエーツ）

図書館情報学特殊演習 b・c

西荒井学

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

各自が設定したテーマに応じ、プログラム言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアを使用して、実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）を行い、それらの内容を演習形式で学習していく。

- 1) テーマの決定
- 2) プログラム設計
- 3) プログラミング
- 4) テスト
- 5) 仕様書の作成
- 6) 評価

【授業計画】

受講者各自が設定したテーマに従って、毎時間実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）に必要な各種作業を実施していく。取り扱うプログラミング言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアについては、情報科学センターが所有するソフトウェアの範囲内であれば、それ以上の条件は別に設定しない。ただし、表計算ソフトウェアなどのアプリケーション・ソフトウェアを使用する場合には、マクロを使用するなど、唯一、プログラミングの要素を含むことを条件とする。

なお受講者各自に対して、最終的には、開発の目的、プログラム設計書（入力、出力、ファイル、プロセス）、ソース・リスト、操作マニュアル、総合評価からなるレポートの提出を義務付ける。

【評価方法】

プログラム開発の理解度ならびに進捗状況、課題レポートなどによって評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

図書館情報学特殊演習 b・c

山崎茂明

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

フォーマルコミュニケーションの最も主要なメディアとして発展してきた学術雑誌を主たるテーマにして、学術雑誌の創刊時を中心とした歴史的アプローチ、現在の出版状況を数量的に把握する生態論的アプローチ、電子ジャーナルを中心にした未来論的アプローチ、レフェリースystemに代表される本質論的アプローチ、投稿や雑誌の利用に焦点をあてた行動的アプローチなど、さまざまな視点から学術雑誌の機能を検討します。4年次には、個人やグループで特定テーマを設定し、最終的には「特殊演習報告書、総合研究：学術雑誌」としてまとめることを目標にして、調査と発表をおこなっていきます。

【授業計画】

各自やグループにおける問題解決のプロセスを実践的に学ぶ機会としたい。文献検討だけでなく、訪問調査、見学なども取り入れ、実践的に考えていきたい。

【評価方法】

総合研究報告、レポート。

【テキスト】

講義内容に関する基本文献を随時配付する。

図書館情報学特殊演習 b・c

山本進

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

3年後期で問題意識の集約をした事項について、研究のテーマを決定し、論文の構成・使用文献等についての集団指導及び個別指導を行い、夏休み前までには研究論文の全体構成が眼に見える形になるよう、組み立てを終える。

【授業計画】

研究論文に調査や調査統計が必要な場合は、調査の内容や項目、方法・結果の集約と纏めについて、具体的な調査の実施方法について指導を行う。

12月上旬研究論文を提出。

【評価方法】

指導教員が日常の受講態度、出席状況、提出研究論文の内容等を審査し評価する。

【テキスト】

使用しない。

図書館情報学特殊演習 b・c

逸村 裕

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

各自の研究テーマを発展させ、「最終レポート」作成を目指す。

研究進捗状況の確認を行なう。

【授業計画】

3年次の図書館情報学演習aを基礎として演習を行う。

【評価方法】

演習への参加をもとに評価を行なう。

【テキスト】

使用せず。

図書館情報学特殊演習 b・c

三和義秀

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

各自のレポート・テーマに関する研究を行い、レポートを完成する。

各自の研究内容に関するシステム構築のためのプログラミングを行う。

【授業計画】

講義及び実習で進める。

【評価方法】

レポートにて評価。

【テキスト】

授業中に指示する。

図書館情報学特殊演習 b・c

村主朋英

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

3年次に引続き、情報史研究に関わる演習を進める。ゼミの最終報告書となるプロダクトは、下記のいずれかのパターンとする（どれか一つ、または複数のパターンの組み合わせ）。

- (1) 叙述（物語・描写）
- (2) 詳細な年表（年表データベース、ハイパー年表）
- (3) 論考（仮説-検証）
- (4) 史料データベース作成
- (5) その他（WWWページ作成など）

【授業計画】

1. 問題の分析と仮説の設定
2. 史料の網羅的収集
3. 史料から得られる情報の分析・総合
4. プロダクト（報告書）の作成
5. プレゼンテーション（口頭発表等）

【評価方法】

平常点（出欠、課題の提出状況）、最終報告書

【テキスト】

使用せず。

調査研究法 I（調査の基礎）

村主朋秀 逸村 裕 三和義秀

集中・オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

図書館情報学における研究・調査のために必要な基礎的知識と技術を習得することを目的とする。

- 1 図書館情報学の研究方法（担当：菅野）
 - 1.1 図書館情報学研究の特徴
 - 1.2 図書館情報学の調査方法
社会調査法／記録資料の分析
- 2 研究計画と調査方法（担当：菅野）
 - 2.1 研究目的
 - 2.2 調査目的と対象
- 3 研究関連文献の探索と入手（担当：村主）
 - 3.1 文献探索の方法
 - 3.2 二次資料の利用法
 - 3.3 原報入手の方法と書誌記述
- 4 学術文献の読み方・書き方（担当：村主）
 - 4.1 学術文献をなぜ書くか・なぜ読むか
 - 4.2 学術文献をどう書くか・どう読むか
- 5 統計的方法（担当：逸村、三和）
 - 5.1 Lotus 1-2-3を用いたデータの入力と分析
 - 5.2 統計的方法と表・グラフおよび算術的記述

【評価方法】

出席回数、授業中の課題、期末試験の結果を総合的に評価する。

【テキスト】

図書館情報学のための調査研究法（緑川信之也 勁草書房）

調査研究法Ⅱ（研究方法論）

村主朋秀 逸村 裕 三和義秀

集中・オムニバス 2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

図書館情報学における研究・調査の事例を参考にしながら、実際に文献講読とレビュー作成、統計的手法を用いたデータ整理を行う。この過程において、研究・調査のための知識と技術を習得する。

- 1 図書館情報学の研究目的と調査方法の事例（担当：菅野）
 - 1.1 科学コミュニケーションの解明
ビブリオメトリックス／インフォーマル・コミュニケーション
 - 1.2 情報検索システムの構築と評価
データベースの構築例／データベース・二次資料の評価
 - 1.3 図書館サービスの評価
図書館建築／蔵書回転率／OPACの利用
- 2 レビュー作成の方法（担当：村主）
 - 2.1 引用の形式と文体
 - 2.2 文献の引用に基づく論述の方法
 - 2.3 レビューの文体
- 3 Lotus 1-2-3を用いた統計的方法（担当：逸村、三和）
 - 3.1 データの収集
無作為抽出法／標本の大きさ
 - 3.2 データの整理と表示
度数分布表、ヒストグラム、算術平均、標準偏差
 - 3.3 データの検定と分析
相関係数／SQRT関数

【評価方法】

出席回数、授業中の課題、期末試験の結果を総合的に評価する。

【テキスト】

図書館情報学のための調査研究法（緑川信之也 勁草書房）

プラクティカルイングリッシュ

山崎茂明

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

図書館員や情報専門家として働くときに必要と思われる英文資料や情報源を教材として取りあげ、読解力と背景となる事象へのアプローチを学ぶ。職業人として求められる身近な英語の文章を読んでいく。

【授業計画】

例えば、求人広告欄、書評、ニュース記事、学会参加申し込み、雑誌講読申し込み、図書購入、施設訪問手紙、図書館案内パンフレット、ホームページ、レファレンス資料の前書き、百科事典の記述項目などをとりあげる。参加者は、必ず英和辞典を持参すること。時間内での英訳や自宅での課題など予定している。

【評価方法】

訳読レポート、試験。

【テキスト】

課題文や資料を随時配付する。

プロフェッショナルリーディング

村主朋英

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

情報学・図書館学の学術論文等、専門的な文献を読解し利用する技能を養うための科目である。演習を中心に進めるが、英文であることを意識せずに効果的・効率的に読むことをめざすため、高度な英語力は要求しない。4年生の履修も大いに歓迎する。

【授業計画】

1. 論文の流れの掴み方
文章の構造的/効率的な読解のテクニック/
専門用語を憶えることの意義
2. 演習(1)：短文全訳で腕試し
3. 演習(2)：文脈のわかっている英文の読解
4. 演習(3)：長文の斜め読み
5. 演習(4)：コンピュータ関連の英文
6. レジュメの作り方
レジュメの要件/読みながらのレジュメ作成

【評価方法】

- (1) 平常点(出欠および宿題の提出状況)
- (2) 試験(情報関連の専門用語、短文読解)
- (3) レポート(外国語論文を読んでレジュメを作成)

【テキスト】

図書館情報学用語辞典(日本図書館学会用語辞典編集委員会編 丸善 税別定価3,800円)
そのほか、各自英和辞典を持参すること。

情報学 I a・b (生命情報増幅)

堀田康雄

集中 2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

生命は多くの情報システムから成立し、情報なしに生命は存在しない。原始生命誕生以来存在する先天的な遺伝情報系と後天的に獲得した脳神経の情報系を論ずる。

前期 a：I. 遺伝の情報システム

- 1.1 生命の基本的性格：地球の誕生と生命の起源
- 1.2 遺伝子の実体：遺伝の法則/遺伝学的、物質的探究
- 1.3 核酸の構造と遺伝記号：基本構造/遺伝暗号の進化
- 1.4 遺伝情報の伝達と発現：複製、転写、翻訳
- 1.5 情報発現の産物：タンパク質の構造と機能
- 1.6 情報発現の制御：酵素の誘導合成/アミノ酸生成
- 1.7 遺伝子像の変遷：遺伝子の動的な姿
- 1.8 生命現象の遺伝子支配：細菌の行動/細胞分裂周期、細胞死と老化/産卵行動/疾病/情緒など
- 1.9 遺伝情報系と言語情報系：遺伝情報概念の発生

後期 b：II. 脳の情報システム

- 2.1 脳知識の歴史的回顧
- 2.2 脳の構造と機能：概要/細胞構成
- 2.3 神経系の構造と回路：構造/神経インパルス/神経伝達物質/回路の形成/感覚系の回路/視覚情報処理/感覚の統合
- 2.4 脳の可塑性について：神経回路の変換/感覚野の可塑性
- 2.5 記憶について：記憶の場所/学習、刷り込み/記憶の種類/記憶のメカニズム/脳の研究機器の発達
- 2.6 情動、意識について
- 2.7 脳の情報システムの発達：生物進化と情報量の増加/神経系の進化/新しい記憶系の獲得へ
- 2.8 情報の普遍概念を探る：生物の自己組織化と情報/情報の定量化/情報の最小単位と情報素量

【授業計画】

テキストに沿って、VIDEO又はOHPを用いて講義する。

【テキスト】

新版 生物の情報システム(竹村彰祐・大井龍夫著 講談社サイエンティフィック 2,800円)

情報学Ⅱ a・b (図書館と情報検索の歴史)

村主朋英

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

図書館サービスと情報検索サービスの発達過程を中心に、人類の情報環境の発達過程を概観する。まず、図書館等の情報サービス機関や図書館員等の情報専門職に焦点を当てながら、情報流通の制度・機構や情報の蓄積・検索の技術・技法がどのように整備されていったかを概観する。その上で、そうした情報環境に囲まれて、人類が情報や知識をどのように蓄積・継承してきたか、展望する。

【授業計画】

1. 図書館・情報サービスの起源と学術情報
 - 1.1 古代・中世の知識と図書館
 - 1.2 印刷革命
 - 1.3 近代における学術情報流通システム
 - 1.4 近代公共図書館と図書館界の成立
 - 1.5 図書館学とドキュメンテーション
2. 現代の図書館・情報サービス
 - 2.1 ドキュメンテーション運動その後
 - 2.2 情報技術の起源
 - 2.3 情報検索サービスの成立
 - 2.4 情報学の成立
 - 2.5 情報環境の変化
3. 理想の情報検索システムを求めて
Vannevar BushとそのMemex構想/MemexとWorld Brain、インターネット
4. 総括
情報学と情報サービスの今後

【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

【テキスト】

図書及び図書館史 新・図書館学シリーズ12(樹村房 税別定価1,900円)
図書館情報学用語辞典(日本図書館学会用語辞典編集委員会編 丸善 税別定価3,800円)

情報学Ⅲ (科学コミュニケーション)

山崎茂明

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現在社会の発展を基礎づけている科学研究活動を対象にして、コミュニケーションとメディア、研究組織と評価に着目して、具体的な事例をもとに検討したい。科学研究の諸層を概観することからはじめ、論文の執筆と投稿、論文審査、出版倫理と不正行為、科学ジャーナリズムなど科学コミュニケーションの実態を理解し、さらに研究活動の分析・評価まで取りあげたい

1. 科学の科学、科学研究の目的
2. 研究資金、研究者、成果としての学術論文
3. 17-19世紀の科学研究
4. 学会、会議、学術雑誌、インフォーマルコミュニケーションとフォーマルコミュニケーション
5. 学術論文とは
6. 学術雑誌と科学コミュニケーション
7. 論文発表の実態
8. 論文審査(レフェリーシステム)
9. 科学研究の不正行為
10. 科学ジャーナリズムの役割
11. 研究動向調査
12. 研究者と研究機関の評価

【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

【評価方法】

期末レポート、小レポート(授業時間内)。

【テキスト】

山崎茂明「生命科学論文投稿ガイド」中外医学社

【参考文献・資料】

背信の科学者たち(Broad, W. 化学同人)
リトルサイエンス・ビッグサイエンス(Price, D.J.D. 創元社)
アメリカの研究費とNIH(白楽ロックビル 共立出版)
日本の学会(新堀通也 日本経済新聞社(新書))

情報処理概説 a・b

西荒井学

1年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

情報処理に必要なコンピュータに関する基礎知識の習得、ならびに情報処理機器の基本操作、技法を習得する。

<前期>

- 1) ガイダンス、コンピュータの歴史
- 2) 情報の表現と情報単位、コンピュータの仕組み
- 3) キー・タイピング練習
- 4) 基本ソフトと応用ソフト
- 5) ワープロ・ソフト（基礎～応用）
- 6) ネットワークの利用（メール、WWW）
- 7) 情報処理方式、ファイルとデータベース
- 8) 今後の情報処理
- 9) 表計算ソフト（基礎～応用）
- 10) 前期のまとめ

<後期>

- 1) 情報処理ステップ、言語系ソフトウェア
- 2) プログラミング（問題解析、開発）
- 3) VB (Visual Basic) の特徴
- 4) プログラミングの前に、VBの起動、操作
- 5) 演算処理、プロジェクトの保存/呼び出し
- 6) 判断分岐、繰り返し処理
- 7) 関数の利用、配列
- 8) モジュールの追加、変数の共有
- 9) 練習問題（VBアプリケーション）
- 10) プレゼンテーション・ソフト
- 11) 後期のまとめ

【授業計画】

講義と情報科学センターにおけるコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。

【評価方法】

学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

情報処理のテクニック（西荒井学・三和義秀 共立出版）

プログラム設計基礎 a・b

三和義秀

2年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

アルゴリズムを中心とするプログラム開発に必要な基礎知識を習得して、UNIX/Cを用いたプログラミングを行う。

【授業計画】

(a:前期)

- 第1回から第2回 アルゴリズム
- 第3回 プログラム言語とコーディング
- 第4回 フローチャート
- 第5回 UNIXセッションとコマンド
- 第6回から第7回 UNIXのエディタ
- 第8回 C言語プログラムの開発手順
- 第9回 情報の表現方法
- 第10回から第11回 変数とデータ型
- 第12回 書式指定子
- 第13回 算術演算子

(b:後期)

- 第1回から第2回 プログラム制御
- 第3回から4回 配列
- 第5回から7回 アルゴリズムとプログラミング
- 第8回から10回 関数設計
- 第11回から第13回 アドレスとポインタ

【評価方法】

定期試験、レポート及び出欠席にて総合評価する。特に出席回数を重視する。

【テキスト】

情報処理のテクニック（西荒井学・三和義秀 共立出版株式会社）

プログラム設計応用Ⅰ（C言語）

三和義秀

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

構造化プログラミングの技法とUNIX/Cによるプログラミングを行う。さらにオブジェクト指向の考え方を学び、Visual C++によるプログラミングを行う。

【授業計画】

- 第1回から第2回 記憶クラス
- 第3回から第4回 アドレスとポインタ
- 第5回から第6回 構造体
- 第7回から第8回 ファイル操作
- 第9回 オブジェクト指向プログラミング
- 第10回から第13回 Visual C++によるオブジェクト指向プログラミング

【評価方法】

定期試験、レポート及び出欠席にて総合評価する。特に出席回数を重視する。

【テキスト】

授業中に指示する。

プログラム設計応用Ⅱ（COBOL）

西荒井学

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

事務処理用言語であるCOBOLを使用して、実際のプログラム作成に関する基礎技術を学習していく。また同時に、COBOLというプログラム言語が持っている本質的な特徴を理解していく。

- 1) ガイダンス
- 2) COBOLの基本構造
- 3) 予約語、利用者定義語、コーディング書式
- 4) 識別、環境部
- 5) ファイルの構造
- 6) データ部（FILE記述、レコード記述）
- 7) データ部（出力編集）
- 8) 手続き部（手続き名、入出力文、制御文）
- 9) プログラミング実習（実習問題A～H）
- 10) プログラミング実習（実習問題I～）
- 11) まとめ

【授業計画】

全授業回数の内、前半はCOBOL言語に関する文法について解説していく。後半は、提示された課題プログラムの作成を各自実習形式で行なう。

【評価方法】

提出課題プログラム数、提出課題プログラムの内容、ならびに学期末試験にて総合評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず（プリント配布）。

プログラム設計応用Ⅲ (Java)

三和義秀

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

オブジェクト指向の考え方を学び、Javaを用いてオブジェクト指向プログラミングの基礎を習得する。

【授業計画】

- 第1回 オブジェクト指向、オブジェクト指向プログラミングとは
- 第2回 Javaの特徴とJavaプログラムの開発環境
- 第3回から5回 クラス設計とJavaのプログラム構造
- 第6回から9回 オブジェクトとコンストラクタ
- 第10回から第11回 クラスの継承と抽象クラス
- 第12回から第13回 アクセス制御

【評価方法】

定期試験、レポート及び出席回数にて総合評価する。特に出席回数を重視する。

【テキスト】

授業中に指示する。

データ管理論Ⅰ (表計算ソフトと統計処理)

三和義秀

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

調査研究において収集したデータを整理・分類し、それらの性質や状態を数量的に表現して全体としての法則性を見つけ出すための手法と、どのようにコンピュータを統計処理に活用するかについて表計算ソフトExcelを使って学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 統計とは何か、度数分布表とヒストグラム
- 第2回 データ入力、表・グラフの作成
- 第3回 関数の使い方
- 第4回 統計量の求め方
- 第5回 度数分布表、ヒストグラムの作成
- 第6回 ドットプロット、クロス集計表の作成
- 第7回 平均値、範囲、最頻値、分散と標準偏差等の意味
- 第8回 代表値と散布度を求める
- 第9回 確率分布と正規分布
- 第10回 2項分布と標準正規分布
- 第11回 相関係数の求め方とその意味、回帰分析
- 第12回 散布図の作成、相関係数、回帰係数
- 第13回 検定の仕組みと方法

【評価方法】

定期試験、レポート及び出席回数にて総合評価する。特に出席回数を重視する。

【テキスト】

Excelで学ぶ“やさしい統計処理のテクニック” (三和義秀 共立出版株式会社)

データ管理論Ⅱ (DBソフトとDB構築)

原 伸之

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

パソコン活用の3本の柱の1つである「データベース」を取り上げる。世の中のコンピュータ利用の大部分が、このデータベース利用であると言っても過言ではない。金融機関での預金の出し入れ、座席の予約さらにコンビニでの商品管理など。これらは、データベースの応用システムである。

授業では、これらのシステムの核となっている「データベース」の理解・構築技法・利用方法を講義と実技で体験・習得する。

1. データベース概論

…データベースとは

データベースの構築技法

関係データベースの設計

2. データベース・ソフトウェア「ACCESS」

データベースの定義

データベースの構築

データベースの利用

3. 関係データベースの構築

…事例を作成・体験

Wordで作成した文書のデータベース化

インターネットから取り込んだ画像のデータベース化

諸関数を使用したデータ解析

4. 構築したデータベースの事例発表

…習得したデータベース構築技法を使って、身近なところで考えられるデータベースを構築し、その活用をレポートする。

【授業計画】

配布されたプリントに基づいて、講義・実習を行う。カード型データベースでは、「住所録」を事例として取り上げる。また、関係データベースでは、小売業などでの商品管理を事例として構築する。

【評価方法】

習得した技術および知識を基にして、各自が構築した「身近なところで考えられるデータベース」の内容を評価し、成績とする。

【テキスト】

プリント配布。

情報システム設計基礎論 a・b

西荒井学

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

情報システムの開発に必要なシステム分析からシステムの詳細設計に至るまでのシステム設計全般について学習していく。なお、その主たる内容は、コンピュータの応用を念頭に置いた機械化設計を中心とする。

<前期>

- 1) ガイダンス
- 2) システムの定義
- 3) システムの基本機能、システムの階層性
- 4) システム設計手順の全体像
- 5) システム設計のアプローチ
- 6) コンピュータ業務区分、SEの役割
- 7) SEの基本的要件
- 8) ソフトウェア開発の現状と問題
- 9) ソフトウェア工学（開発技法、開発工程）
- 10) コンピュータ・システムの処理形態
- 11) コード設計
- 12) 前期のまとめ

<後期>

- 1) 出力設計
- 2) 入力設計
- 3) ファイル設計
- 4) データベース設計
- 5) プロセス設計
- 6) システム障害、障害対策・保守
- 7) 信頼性設計手順
- 8) ソフトウェア・ドキュメントの種類と特質
- 9) システムの評価、システム監査
- 10) まとめ

【授業計画】

毎週講義終了10～15分間を使用して、小テストを実施する。

【評価方法】

小テスト、課題レポート、ならびに学期末試験にて総合評価する。

【テキスト】

図解システム設計の基礎（加藤英雄 共立出版）

情報システム論Ⅰ（情報システム開発）

西荒井学

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

情報ファイルの設計ならびに管理の問題、特に電子化されていく情報ファイルの問題に焦点を当てて学習していく。

- 1) ガイダンス
- 2) システム開発工程
- 3) 電子ファイリング・システムの必要性
- 4) 電子ファイリング・システムの機能と特徴
- 5) 画像イメージと記録媒体
- 6) 電子ファイリング・システムの適用分野
- 7) 開発実習
- 8) 開発実習（個人別課題）
- 9) 開発実習（グループ別課題）
- 10) まとめ

【授業計画】

前半では、システム開発全般に関する問題について講義を実施する。後半では、受講者をグループに分け、簡単なファイリング・システムを実際に開発する。

【評価方法】

出席状況、課題レポート、実習課題の成果、ならびに学期末試験にて評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず（プリント配布）。

情報システム論Ⅱ（情報ネットワーク）

野添篤毅

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

研究・教育活動を支援する大学・学術図書館における学術情報サービスの基盤となる情報ネットワークについて論じる。とくに、米国で構築されている、情報資源マネージメントを基礎とした医科大学における情報システム、そして米国国立医学図書館を中心とした医学・医療情報ネットワーク、インターネット上の仮想図書館であるデジタル図書館について考察する。

1. 学術情報資源マネージメントの考え方
 2. 情報マネージメントを基礎とした未来の図書館へのシナリオ
 3. 組織内における情報ネットワークの構築
 4. 統合型学術情報マネージメント・システムIAIMSの考え方
 5. IAIMSの実現例
 6. わが国の学術情報ネットワーク
 7. 米国の全国情報基盤構想（NII）とHPCC計画
 8. インターネットと図書館サービス
 9. 米国国立医学図書館を中心としたデジタル情報資源サービス
 10. デジタル図書館の研究開発動向
- インターネットを用いたレポートを課するので、情報科学教育センターでIDを取得すること。

【評価方法】

レポート（2回程度）および小テスト。

【テキスト】

プリントを配布予定。

情報サービス基礎論 a・b

逸村 裕

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

図書館で行われる情報サービスには幅広いものがある。また、これらのサービスはその対象、館種、主題、規模ごとに多くの特徴を持つ。さらに今日、伝統的な図書館サービスに加え、情報技術の普及発展に伴う新たな対応を迫られている。

これら図書館情報サービスの紹介と評価の視点から講義を行なう。

前後期は連続する内容である。

1. この講義の対象と範囲
2. パブリック・サービス（奉仕—直接サービス）
 - A. 貸出閲覧
 - B. レファレンス
 - C. 相互協力
 - D. 視聴覚資料
 - E. パブリックサービスの今後
3. テクニカル・サービス（資料組織—間接サービス）
 - A. 選書
 - B. 収書
 - C. 整理
 - D. 雑誌
 - E. テクニカルサービスの今後
4. 評価の視点から見た情報サービス
 - A. 蔵書
 - B. 人的サービス
 - C. その他のサービス

【授業計画】

講義中心に行なう。適宜、小テスト、レポートを課す。「インターネット講習会」を受講しておくこと

【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による評価。詳細は初回講義の際に説明する。

【テキスト】

使用せず。

情報メディア論I a・b(通信・マルチメディア)

東浦信博

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

司書・学芸員の資格取得に必要な視聴覚教育メディア論を主としてI a(前期)で、図書館情報学科の学生にとって必要と思われる情報通信のメディアと仕組みの概観をI b(後期)で扱う。

【授業計画】

1. 視聴覚教育メディアの意義・目的
 - ① 図書館・博物館とメディア② コミュニケーションとメディア
 - ③ 具象的記号としての視聴覚教育メディア④ 視聴覚教育メディアのもつ特性
2. 視聴覚教育メディア各論
 - ① 領域と種類② 音声メディア
 - ③ 映像メディア④ 音声映像メディア
3. マルチメディア
 - ① マルチメディアとは② 要素技術
 - ③ アナログとデジタル
 - ④ レーザー光線と光ファイバー
 - ⑤ デジタル通信のメリット
4. 情報通信のメディアとシステム
 - ① 電気通信事業(情報産業)② VAN(付加価値の意味等)
 - ③ CATV(初期の意義、現在の意義)④ 衛星通信・衛星放送
 - ⑤ HDTV⑥ 移動体通信
 - ⑦ 情報ハイウェイ⑧ マルチメディア

図・表を多用する。主として OHP を用いて授業を進める。

【評価方法】

論述式定期試験(テキスト・ノート持ち込み可)。

【テキスト】

新訂視聴覚教育(学芸図書 ¥1,800)

情報通信とマルチメディア(共立出版 ¥2,835)

情報メディア論Ⅲ (医学情報メディア)

野添篤毅

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

科学分野での効果的な情報サービスを行うための基礎として自然科学分野の学術情報の発生から加工・利用までの一連の過程について学ぶ。とくに生物医学分野の学術情報の流れを中心に論じる。

1. 自然科学分野の研究の広がり
2. 科学研究活動の指標
3. 研究活動と情報活動
4. 情報の発生・加工・利用のサイクル
5. 一次情報-学術雑誌
6. 二次情報-抄録誌・索引誌・データベース
7. 主要な情報機関の活動-米国国立医学図書館
8. 文献データベースMEDLINE-入力から出力まで
9. わが国の学術情報サービスの動向
10. 学術情報サービスの最近のトピックス

【評価方法】

レポート(2回程度)および小テスト。

【テキスト】

医学文献サーチガイド 第2版(山崎茂明 日本医書出版協会 2,575円)

情報メディア論Ⅴ (科学技術情報メディア)

山崎茂明

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

自然科学領域における二次情報源としての文献データベースと一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。文献データベースの理解は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。また、学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。

1. 文献情報の世界
2. 文献調査
3. 医学情報へのアプローチ
4. 文献データベースの世界
5. 癌領域のデータベース
6. 引用索引データベース
7. 学術雑誌の歴史と生態
8. 総合科学雑誌とはなにか
9. レビュー誌とレター誌の重要性
10. 電子ジャーナルと電子出版
11. 電子情報環境と電子メディア(データベース、一次雑誌)

参考資料:

Lambert, J.『電子時代の学術雑誌』日本図書館協会
Thompson, J.W.『出版産業の起源と発達』出版同人
中山茂『歴史としての学問』中央公論社
山崎茂明『生命科学論文投稿ガイド』中外医学社

【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

【評価方法】

期末レポート、小レポート(授業時間内)。

【テキスト】

医学文献サーチガイド 第2版(山崎茂明 日本医書出版協会)

情報検索演習A

逸村 裕

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

各種資料と情報ネットワークの現状を講義と演習で学び、情報リテラシーを修得する。ネットワークの意義と問題点を理解する。

【授業計画】

- (1) WWW、図書館、レファレンスブックを体験する。
- (2) 図書、および図書に関する書誌ないし目録データベースを演習形式で学ぶ。
- (3) コンピュータ検索とマニュアル検索の初歩を学ぶ。
- (4) 検索した情報のうち、文献情報を書誌データベース化する。

受講の前提として「インターネット講習会」と「図書館オリエンテーション」の受講が必須である。

【評価方法】

出席、レポート、試験の総合評価。

【テキスト】

なし（プリント配布）。

情報検索演習B

逸村 裕 廣田 慈子

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。また、索引語の付与と抄録の作成による書誌レコード作成過程も習得する。さらに、検索効率やユーザー・インタフェースの検討とともに、各自の情報ニーズに基づくテーマ検索の結果も検討し、システムの評価方法を学ぶ。

1. 情報検索とは

蓄積と検索/索引作業/検索効率/探索コマンドの標準化

2. オンライン情報検索システムとCD-ROM

各種データベースの特徴/検索方法（メニューとコマンド）

3. DIALOGの検索（その1）

通信方法/デモンストレーション（DIALOG）/論理演算子/基本的な検索コマンド

4. DIALOGの検索（その2）

トランケーション/近接演算子/ストップワード/二次検索/フィールド指定子

5. DIALOGの検索（その3）検索語の列挙/著者名検索

6. JOISの検索

7. 索引・抄録作成作業

索引語の付与とシソーラス/抄録作成の基準（SIST-01）

8. システム評価（DIALOGとJOISの比較）

9. テーマ検索（DIALOGとJOISの活用）

10. 各種システムとDBのデモンストレーション

STN-International/PATOLIS/日経ニューステレコン/MEDLINE/各種CD-ROM

【授業計画】

8号棟情報検査室で実習を中心に進める。実習助手も指導に加わり、受講生の理解度を確認しながら進める。「インターネット講習会」を受講しておくこと

【評価方法】

サブテーマごとに小テストを行う。また各自のテーマ検索での結果をまとめたレポートも評価の対象とする。

【テキスト】

なし（プリント配布）。

情報検索演習C

廣田 慈子

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

情報検索システムの効果的な活用に必要な知識と技術を習得する。各種システムやDBのweb上での検索方法を学び、システムごとの特徴や問題点を検討する。その際、書誌情報の蓄積過程（書誌記述、索引語）での問題点と、検索過程（検索方式、コマンド、検索効率）での問題点を総合的に検討した上で、システムの評価方法を習得する。

1. 情報検索システムの構築と利用
情報の蓄積と検索/情報システムの種類/DBの種類
2. DBの機能と特徴
 - 2-1 DIALOG/DIALINDEX
クロスファイルの機能/OneSearch
 - 2-2 DIALOG/MEDLINE (医学)
MeSH/オンライン・シソーラス/PubMed
 - 2-3 STN-International/CA (化学)
抄録誌との比較/化学物質からの検索
 - 2-4 G-Search/特許DB (特許)
LEGAL STATUS/特許引用
 - 2-5 日経テレコン21 (経済/新聞記事)
全文DB/自然語検索
 - 2-6 DIALOG/SOCIAL SCISEARCH (社会科学/引用索引)
引用関係による検索/ビブリオメトリックスでの利用
 - 2-7 NACSIS-IR/LC MARC
図書検索/OPACとの比較
3. 情報検索システムの比較
4. 情報検索システムの問題点
レコードの質/コマンド体系/検索効率

【授業計画】

8号棟情報検索室で実習を中心に進める。受講生の理解度を確認しながら進める。最後に「情報検索システムの評価」に関するレポートをまとめる。

【評価方法】

出席回数と、小テスト、最終レポートを評価の対象とする。

【テキスト】

使用せず。

情報利用論 I a・b (情報探索行動論)

岡澤和世

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

教育を受けたいという強い希望、誰もが自由に情報を利用できるアクセス機会の平等を求める運動、民主主義の伝統、そして誰にも頼らない自主探索意欲が巧妙に入り混じってできたのが図書館である。そしてその理想は常に利用者の要求を満足させるところに置かれてきた。しかし、20世紀になると様々なテクノロジーが開発され、従来の図書館が大きく様変わりし始め、それに伴って情報を探す利用者の行動も変わり始めた。この講義では、情報行動について論じる。ニューメディア、インターネット、情報環境などについても概説する。

【授業計画】

- <前期>
オリエンテーション
1. 情報の伝達と利用
 - 1) 情報の定義
 - 2) 情報の特質
 2. 科学のコミュニケーション
 3. 研究活動とインフォーマル・コミュニケーション
 - 1) インフォーマルコミュニケーションの研究
 - 2) 見えざる大学
 4. 見えざる大学の調査研究について
- <後期>
オリエンテーション
1. 情報利用者調査
 - 1) 用語の説明
 - 2) User Studyの概説
 2. User Studyの方法論
 - 1) 方法の種類
 - 2) 比較・検討
 3. User Studyの調査例
 - 1) 行政

【評価方法】

小テストで評価。

【テキスト】

情報学講義ノート<1><2> (岡澤和世 敬文堂 1990)

インフォ・リッチ：インフォ・プア (Trevor Haywood 岡澤和世訳 敬文堂 1997)

情報利用論Ⅱ（問題解決と情報活用）

田村俊作

集中 3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

日常生活において情報を要求し利用する行動は、仕事上での情報収集のように、社会的に規定された側面を持つと同時に、私達を新たな知識の水準、生活の新たな場面へと導く創造的な面も持っている。また、探索には、ブラウジングや検索システムの利用など、独特の行動様式やツールが存在している。この講義では、こうした探索の社会的側面および発見に導く心理的側面、ツールの利用、行動様式などを取り上げて、情報探索行動の特質を描き出してみたい。

1. 情報検索行動の基礎概念
2. 〃 過程
3. 検索様式
4. 情報探索の社会的側面
5. 〃 行動の特色

日常誰でも経験するあたりまえのことを、私なりの視点で掘り下げてみようとする授業。自分の経験にひきつけて理解してほしい。

【授業計画】

集中講義、事前に配布するプリントを読んでおいてもらい、プリントの内容に関する質疑を交えながら講義を進めて行く。出席者はプリントをあらかじめ読んでおくこと。

【評価方法】

最後の時間に試験を行う。

【テキスト】

事前にプリント配布。

情報利用論Ⅲ（ビジネス情報の分析）

高山正也

集中 3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

図書館・情報学で学ぶ知識や理論は単に図書館や学術教育の分野のみで有効なものではありません。より広く、ビジネスをはじめ、様々な実務分野においても大いに応用できます。この授業では、ビジネスの場において、経営のために情報が如何に必要なのかを考え、その情報の収集から利用、保管、保存・廃棄に至る情報管理の全過程を概観します。対象とする資料は、単に学術出版物に限らず、非営利出版物に加え、社内の業務文書も対象にします。対象とする情報はビジネス上、役に立つ情報は全てが対象になりますから、いわゆる学術情報だけでなく、必要に応じては広告やチラシ、統計や会計上の数値データ、さらには人間の行動や会話の類、すなわち知識管理論で言うところの形式知のみならず暗黙知の世界もこの授業の対象領域に含まれています。

【授業計画】

時間の許す範囲で、概ね以下のような項目の授業を行います。

- 1：専門図書館とビジネス情報
(1) 定義、(2) 意思決定と情報、(3) ビジネス・ライブラリーの歴史
- 2：記録管理と知識管理
(1) 出版物と業務文書、(2) 形式知と暗黙知、(3) 記録管理の概要
- 3：ビジネス情報の管理と利用
(1) 情報公開とアカウントビリティ、(2) 情報の分析と加工、(3) その他

【評価方法】

毎日、最後の時間に簡単な小テストを行い、そのテスト結果と【受講の条件】として、提出されたレポートとを総合して評価します。

【テキスト・参考文献・資料】

〈改訂版〉ファイリング・デザイナー（日本経営協会）
この他にも授業の中で紹介します。

【受講の条件】以下のレポートを提出した人だけが受講が認められます。

- 次の(1)と(2)の両方をレポートしなさい。
- (1)「高山正也」著の専門図書館やビジネス情報についての論著を10件以上検索し、その文献のリスト(A4版1枚)を作りなさい。
 - (2)上記(1)でリストにあげた文献を読み、高山正也の考えるビジネス情報管理のあり方をA4版2枚以内にまとめなさい。

上記(1)(2)のレポート提出メ切5月11日(金)
16:00 レポートボックスへ

情報学特殊Ⅱ（情報史の探究）

村主朋英

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

人類の歴史全体の中で情報が果たしてきた役割を考えるために、図書館史や情報検索の歴史を拡張・発展させ、コンピュータ史とコミュニケーション史を統合した情報史の概念を追究する。

【授業計画】

0. オリエンテーション：情報の概念／コミュニケーションの概念／歴史の概念
1. 情報史の構造
 1. 1 Stevensの情報史の概念
 1. 2 情報史のモデル：情報空間の概念
2. コミュニケーション史：洞窟絵画から／イニス／マクルーハン／コミュニケーション史の動向
3. 情報史探求へのステップ
 3. 1 歴史家による情報研究の成果
 3. 2 情報史の構成要素：情報史における既存の著作／情報史の多面性
 3. 3 図書館情報学の歴史と図書館情報学から見た歴史：上田修一の方法／桂英史の考え方
4. 総合的な情報史の素描

【評価方法】

試験（論述問題のみ）。

【テキスト】

歴史のなかのコミュニケーション（新曜社 税別定価3,800円）

情報学特殊Ⅳ（情報伝達論）

五島幸一

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

コミュニケーションと称される学問領域を概観し、その基本的な概念を学ぶ。本講義で考察するコミュニケーションとは、人間が行なうコミュニケーション活動に限定し、様々な形態のコミュニケーションを見ていくことによって、その特質について検討する。

個人内コミュニケーション、対人コミュニケーション、グループ・コミュニケーション、異文化コミュニケーション、マスコミュニケーション、レトリックなど、いわゆるコミュニケーション研究として包括される領域について考察する。具体的な研究例とともに、その理論を検討し、コミュニケーションの特質を学ぶ。

【授業計画】

テキストを中心に、随時プリント教材も配付する。

【評価方法】

授業への参加度、および学期末テストにて評価する。

【テキスト】

異文化コミュニケーション（古田暁監修 石井敏・岡部朗一・久米昭元著 有斐閣）

レファレンスサービス論

長澤雅男

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

図書館における情報サービスという広い観点から情報提供の問題を解説するが、とりわけレファレンスサービスを重点的に取り上げ、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセスのあり方について理解を深めることを主な目的とする。この科目は、「レファレンスメディア論」と相互に補完するものとして扱う。講義を中心に進める。

【授業計画】

1. 情報ニーズに応える情報サービス
2. レファレンスサービスから情報サービスへ
3. レファレンス機能に基づくレファレンス業務
4. レファレンスサービスのための情報源
5. レファレンスプロセス
6. 質問の受付から内容の確認へ
7. 質問内容の分析から探索の実行へ
8. 質問回答とレファレンスプロセスの終結
9. レファレンスサービスの組織と運営

【評価方法】

期末試験（多肢択一式問題）を予定しているが、出題形式については、試験日の1、2週間前に改めて説明する。

【テキスト】

レファレンスサービス－図書館における情報サービス
（長澤雅男 丸善 2,369円）

レファレンスメディア論

長澤雅男

2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

レファレンス質問の処理に役立つ情報源の種類とその特性を理解し、情報と文献の探索技術を習得できるようにするため、各種の参考図書、データベース等、探索ツールとしての印刷メディアと電子メディアの特性を解説したうえで、質問事例を用いて情報および文献の探索方法について演習を行う。

【授業計画】

1. レファレンスサービスにおける情報源／問題解決と情報源／記録メディア／参考図書とデータベース
2. 参考図書・データベース関係の情報源／参考図書の解題書誌／書誌の書誌／データベースディレクトリ
3. 図書・叢書関係の情報源／書誌／目録（所蔵目録、総合目録）／叢書合集索引
4. 逐次刊行物関係の情報源／逐次刊行物リスト／新聞雑誌記事索引／抄録誌
5. 人物・団体関係の情報源／人名事典／名鑑／人物文献索引
6. 歴史関係の情報源／歴史事典／年表／年鑑類
7. 地理関係の情報源／地名事典／地図帳／地名索引
8. 事物・事象関係の情報源／事典／便覧類／図鑑類
9. 言語・文字関係の情報源／国語辞書／特殊辞書・諺語辞書／用語索引・詩歌索引

講義と演習（主として時間外に問題回答演習を行い、レポートを提出）。

【評価方法】

レポート、期末試験（出題形式は試験日の1、2週間前に説明する）の総合評価。

【テキスト】

情報と文献の探索 第3版（長澤雅男 丸善 3,296円）

資料組織論

伊藤真理

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と主題分析について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。

目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

【授業計画】

回	講義内容
1	ガイダンス 資料の組織化；資料組織業務の位置づけ
2	目録について
3	書誌コントロール 書誌ユティリティ；全国書誌
4	目録規則の標準化，統一 主なMARCの種類
5	記述目録と主題目録 記述目録（1）AACR 2r, NCR
6	記述目録（2）アクセス・ポイントの選定； 標目形
7	記述目録（3）；典拠管理
8	主題目録（1）分類法
9	主題目録（2）NDC, LCC, DDC, UDC 図書記号法
10	主題目録（3）件名標目表：NDLSH, BSH, LCSH
11	MARC
12	インターネット情報資源：CORC インターネット情報資源の記述：Dublin Core

【評価方法】

平常点，小テスト，期末試験

【テキスト】

テキストは特に指定しない（プリント配布）

資料組織演習

岡澤和世

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間が他の動物と決定的に異なる点は、人間が時間と空間を越えて、情報を蓄積して、必要な時に再現する能力を持っていることである。それを体内（脳）だけでなく、体外の貯蔵庫（図書館）に蓄えることを学んだことである。もう一つ特筆すべき人間の知恵は、その体外貯蔵庫の中身を簡単に再現できるように整理したことである。人間のインテリジェンスの始まりであり、専門職としてのライブラリアンの誕生である。本講義では演習問題を中心に、分類と目録の目的・機能を明らかにし、現在使われている分類・目録の問題点を通して図書の実態に即した分類法を与える。

【授業計画】

オリエンテーション 図書館における図書の分類
前期の講義についての復習テスト

1. 分類とは何か（2回）
 1. 1 基本用語の整理
 1. 2 分類と図書の歴史
2. 図書分類とその基本的条件（2回）
 2. 1 分類表の種類とその特性
 2. 2 基本的条件
3. 特殊分類法（3回）
 3. 1 十進分類法
 3. 2 ファセット分類法
 3. 3 その他
4. 目録とは何か（2回）
 4. 1 目録の機能
 4. 2 目録作業
5. 現代図書館と情報サービス（2回）
 5. 1 自動目録
 5. 2 図書の検索法

オリエンテーション後に基本的な知識を確認するテストを各授業毎に実施し、NDC、UDCその他の分類法を使っての出題を出し翌週回収し、問題点を解明する。目録作業を最初の授業時から指示し毎週各自の興味のある図書の目録（10枚）を作成し、最終的に100枚の目録カードを提出する。

【評価方法】

試験は行わない。各週毎の宿題及び作成した目録カード、小テスト、レポートで評価する。

【テキスト】

プリント。

【参考文献・資料】

- 情報学講義ノート〈1〉（岡澤和世著 敬文堂 1987）
情報学講義ノート〈2〉（岡澤和世著 敬文堂 1989）
情報検索理論の基礎（中村幸雄著 共立出版株式会社 1998）
目録と分類（L.M.チャン上田修一他訳 勁草書房 1987）
図書館のサービスの再構築（M.K.バックランド 高山正也他訳 勁草書房 1994）

資料組織演習

村主千賀

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

NDC、NCR、BSHを中心に概説し、演習としては様々なタイプの資料についての主題分析、様々な情報源からの書誌情報の読み取り、および目録作成ができることを目標とします。演習自体は和書が中心になります。

【授業計画】

1. ガイダンス
- 2～3 目録規則NCRの理解・書誌情報のリーディング
4. MARCデータについて
- 5～6 目録記入の作成
(カードおよびデータベース入力を想定したデータの作成)
7. NDC、BSH概説
- 8～9 主題分析と主題表現(1)件名
- 10～12 主題分析と主題表現(2)分類
- 13～ 総合的な目録作業

【評価方法】

出席状況、授業内の課題、期末テスト

【テキスト】

プリント配布。

【参考文献・資料】

随時指示する。

資料組織演習

伊藤真理 鹿島みづき

オムニバス 3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、実習を通してより深い理解と習得を目的とする。

目録規則は、国際的な標準規則として認められている英米目録規則を用いる。主題分類法では日本十進分類法と、基本件名標目表および米国議会図書館件名標目表を取り上げる。洋書と電子情報資源を対象として、書誌レコードを作成する。

【授業計画】

回	講義テーマ
1	目録作業の概要
2	記述目録法
3	英米目録規則第2版(1)
4	英米目録規則第2版(2) アクセス・ポイント
5	英米目録規則第2版(3) 標目形
6	主題目録法(1) 分類:日本十進分類法
7	主題目録法(2) 件名:基本件名標目表
8	主題目録法(3) 件名:米国議会図書館件名標目表
9	MARCについて
10	CORC(1) システムの概要
11	CORC(2)
12	CORC(3)

【評価方法】

実習およびレポート提出

【テキスト】

テキストは特に指定しない(プリント配布)

図書館経営論

山本 進

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

図書館の技術的な面—分類・目録等—資料組織とは別に図書館運営上の諸問題—司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

【授業計画】

- 0.オリエンテーション・図書館の経営論の意義 … 1回
- 1.図書館種別の経営上の問題点と管理原則 …… 1回
- 2.図書館学の五法則と図書館員の関わり …… 1回
- 3.図書館の自由に関する宣言 …… 2回
- 4.図書館員の倫理綱領 …… 2回
- 5.図書館員と労働基準法解説 …… 1回
- 6.図書館関係法規と図書館の基準解説 …… 1回
- 7.図書館サービスの測定と評価(実例課題によるレポート提出) … 1回
- 8.図書館計画の立案と実例解説 …… 2回
- 9.生涯学習と図書館及び利用者教育 …… 2回
- ※講義の中から関心のある事項についてレポート提出 … 2回

【評価方法】

期末テスト実施—記述式、前期全体の講義の中から問題を2～3問と、提出されたレポートと記述試験の採点とを併せて評価する。

【テキスト】

講義レジュメを配付する。

図書館学特殊 I

山本 進 山崎茂明 逸村 裕

オムニバス 3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

「図書館実習」を受講するための前提科目。
各教員が実務的な内容を主としてオムニバス形式で担当する。

【授業計画】

- 1. 図書館の勤務時間と勤務内容
- 2. 図書館の職階制と司書職制度
- 3. 学校図書館法上の司書教諭問題
- 4. 統計から見た図書館の現状
- 5. 図書館と様々な情報サービス
- 6. 図書館とIT技術、メタデータ

【評価方法】

レポートとテストによる総合評価

【テキスト】

プリント配布

図書館実習

山本 進 山崎茂明 逸村 裕

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

各図書館現場での実習を行う。

前提科目として必ず「図書館学特殊Ⅰ」を受講すること。
平成13年度は(1)から(4)それぞれ6日間程度の実習を行う。

- (1)愛知県図書館等、受入実績のある図書館での実習
- (2)北京図書館実習（北京大学および北京国家図書館、愛知淑徳大学図書館での補習実習）
- (3)愛知淑徳大学図書館での実習
- (4)自己開拓（地方の場合のみ）

それぞれには定員枠がある。詳細は図書館学特殊Ⅰ第一回講義にて述べる。

【授業計画】

実習受入先の図書館の作成した実習カリキュラムに従い、実習受入館の指導者によって行う。

【評価方法】

実習受入先の図書館の評定に基づく。

【テキスト】

実習受入先の作成した資料による。

図書館学特殊Ⅲ（児童サービス論）

堀川照代

集中 4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

わが国の公共図書館児童サービスがモデルとしてきた米国のその歴史を振り返りながら、児童サービスの意義と定義、児童資料、サービスの内容・方法などを概説し、公共図書館における児童サービスの位置づけや児童図書館員の専門性について考える。

なお、ストーリーテリングの実習を行う予定である。

【授業計画】

1. 児童サービスの意義
2. 児童資料の特色と選択
絵本、児童文学、ノンフィクション
参考資料、出版と流通
3. 児童コレクションの形成と管理
4. 児童サービスの業務
資料提供サービス、フロアワーク
レファレンスサービス
集会・行事、展示・PR
5. 児童サービスの方法・技術
ストーリーテリング、読み聞かせ、
ブックトーク、書評
6. 児童サービスの運営
管理運営、評価、施設・設備、
児童図書館員の役割・能力
7. ヤングアダルト・サービス
8. 各種機関との連携・協力
学校との連携・協力
幼稚園・保育所との連携・協力

【評価方法】

出席状況やレポートなどによって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

絵本と想像性：三歳まえの子どもにとって絵本とは何か
増補版（佐々木宏子著 高文堂）
児童サービス論（堀川照代編著 日本図書館協会）

生涯学習概論

古野有隣

集中 3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

生涯学習という言葉は最近かなり知名度が高くなってきているが、その意味や意義については必ずしも正確に理解されているとはかぎらない。

この講義では生涯学習の意味するところを、その理念の提唱時からの推移の説明をまじえて、理解を深めることをねらいとしたい。また、先の長い人生を持っている自分にとって生涯学習とは何なのかを考える契機となればとも思っている。

1. 生涯教育の理念～推移を含めて～
ユネスコ以降わが国における推移
生涯教育のめざすもの
生涯教育と生涯学習の関係
2. 生涯教育と社会教育・学校教育との関係
生涯教育と社会教育
生涯教育と学校教育
3. 社会教育の内容・方法・形態
行政社会教育の主要領域
社会教育の内容・方法・形態
4. 生涯学習関連施設の現状と展望
生涯学習関連施設の範囲
社会教育施設の種類と現状
5. 生涯学習指導者
生涯学習指導者の範囲
生涯学習指導者の役割

【授業計画】

講義。

【評価方法】

テスト。

【テキスト】

資料集（予価500円）を開始時に頒布。

個人コミュニケーション論1a・b(認知心理学)

岩原昭彦

3年 前期 2・3年 後期 選択 各2単位

【授業の概要】

本講義では、認知心理学の概説を行う。人間がどのように外界の情報を取り入れ、処理するのに関する心理学的アプローチについて学習する。具体的には、人間の知覚、記憶、学習、思考、言語活動と理解について講義する。

【授業計画】

1. 認知心理学とは／講義計画指示
2. 知覚
- 3～4. 記憶
5. 学習
6. 概念の構造
- 7～9. 思考
- 10～12. 記号としての言葉（単語認知）

【評価方法】

期末テスト、または講義内で課すレポートによって行う。実験（あるいは調査）への参加回数も加味する。

【テキスト】

使用せず。講義内で理解の助けになるよう、プリントを配布する予定。

博物館概論

長谷川鏗治

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

博物館とは何かからはじめて、その発達の歴史をたどり、日本と世界の博物館を概観する。

- ア はじめに…学芸員の資格、博物館学とは何かなど学習の基礎となる事項を説明する。
- イ 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に「博物館」とは何かを考えていく。
- ウ 博物館の始原…博物館の歴史を概観するにあたって、その始原をたずねてみる。
- エ 博物館の萌芽…ルネサンス期からの人々の文芸に対する態度の探求と博物館的な施設の形式を探る。
- オ 近代博物館の発端Ⅰ…王権の誇示の手段としての財宝の展示などから博物館を考える。
- カ 近代博物館の発端Ⅱ…市民革命などの動きにあわせて市民への公開がなされていく過程を考える。
- キ ヨーロッパの博物館…近世から現代までを主要な博物館を例にとり、その特徴をまとめる。
- ク アメリカの博物館…独立から現代までをヨーロッパの博物館と対比しつつ、その特徴を探る。
- ケ 博物館の新しい波…企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど、今後の博物館の形態をみすえて、新しい動きをひろってみる。
- コ 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
 - ・大陸文化の請来から床の間の普及まで
 - ・幕末から明治期にかけての博物館の発端
 - ・国威の宣揚と博物館
 - ・通俗教育による教化と博物館
 - ・十五年戦争と博物館
 - ・戦後の再発端

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義する。

【評価方法】

- ・小テストと数回にわたるレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川鏗治 戸谷印刷）

博物館概論

早川正一

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組まないで脱落しかねない。充分な心構えが肝要である。

次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

【授業計画】

- 博物館や美術館の基本概念と必要性
- 専門職員としての「学芸員」とは何か
- 博物館と美術館の発達とその時代背景
- 博物館と呼ぶ施設の機能と多様性
- 博物館の分類と現代性
- 博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮
- 博物館の相互協力と情報の活用

毎時間、入念にノートをさせる。コピーは許さない。無用な欠席は不合格につながるので、注意されたい。

長谷川鏗治『博物館学論考』（1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川鏗治 戸谷印刷）

博物館学各論 I

長谷川鏑治

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

博物館について、その機能、役割、組織、運営、学芸員、施設・設備、情報化、協力などにふれ、学芸員資格にかかわる基本的事項を学習する。

- ア 博物館の機能…生涯学習のための施設の一つと定義づけられていることを念頭におき、その機能について考える。
- イ 博物館の分類…種類別、設置者別、制度別などの分類わけをとおして、博物館の役割やあり方を考えていく。
- ウ 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織の状態をみていく。
- エ 博物館の運営…名古屋市博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- オ 学芸員考…現在、学芸員のおかれている地位、実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。外国のCURATORとも比較してみる。
- カ 予算など…博物館のマネジメントについて、予算を中心に考える。
- キ 博物館の施設・設備…人文系博物館・動物園・植物園・水族館などについて、その設置基準をもとに施設・設備についてみる。
- ク 博物館と情報…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探ってみる。
- ケ 博物館の協力…博物館はもちろんのこと、大学・研究機関などとの連携について考える。

【授業計画】

授業概要の展開順によって講義する。

【評価方法】

- ・小テストと数回にわたるレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川鏑治 戸谷印刷）

博物館学各論 I

早川正一

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

【授業計画】

- 次の単元を土台として講義を展開する予定である。
- 博物館や美術館の展示と陳列構造
- 博物館がとり扱う資料の収集と保存
- 博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究
- 博物館や美術館のおこなう普及活動と教育
- 文化財の種類と保護にかかわる諸問題
- 生涯学習の必要性和博物館の関連事業

毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。無用な欠席は不合格につながるので、注意してほしい。

博物館学論考（長谷川鏑治 1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川鏑治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅱ

長谷川鏑治

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

博物館は「もの」による生涯学習の機関である。そこで、博物館資料とは何かの定義づけからはじめ、資料の取扱い方を含めて学習する。また、博物館の調査・研究についても考えるとともに、文化財の保護についても考察してみる。

- ア 博物館の資料…「物」が博物館資料と位置づけられるのはどのようなことかを考え、一次資料、二次資料の具体的な内容を知る。
- イ 博物館資料の実際…資料について実技を含めて具体的に学ぶ。
 - 1 資料の収集
 - 2 資料の取扱い
 - ・掛軸
 - ・古文書
 - ・和装本
 - ・茶碗
 - ・瓦など
 - 3 資料の整理・保存
 - 4 資料の保全
- ウ 資料情報の管理…資料情報の管理についてその実際と今後の方向を探る。
- エ 調査・研究…博物館における調査と研究、成果の公表などについて考えていく。
- オ 文化財の保護…わが国の文化財保護の現状、実態、問題点などについて考察する。
あわせて世界遺産についても考えてみる。

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義し、実技も行う。

【評価方法】

- ・小テストと数回にわたるレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

改訂博物館学論考（長谷川鏑治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅱ

秋元悦子

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

博物館の活動の基礎は「資料」にあり、それを有効活用することではじめて博物館と言えよう。本講座では、その収集・取り扱い・整理・保存・活用について具体的な事例や実習を取り入れながら学んでいく。

【授業計画】

- ①博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的種類を知る。
- ②資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
- ③資料の取り扱い……基本資料の取り扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。
やきもの、和装・卷子本、掛け軸その他で実習する。
- ④資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
- ⑤資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
- ⑥資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
- ⑦資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。
また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、準備について説明する。

【評価方法】

実習態度、小テストおよび数回のレポートで評価する。

【テキスト】

改訂博物館学論考（長谷川鏑治 戸谷印刷 2,000円）
必要に応じてプリントを配布し、スライド等も利用する。

博物館学各論Ⅱ

松村冬樹

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

「資料」のない博物館はありえない。では、「もの」があれば博物館といえるだろうか? 「もの」と「資料」はどう違うのだろうか。この講座では博物館資料の考え方にはじまり、実際の資料取扱いまでの基本を学習する。

【授業計画】

かび臭い貴重品という「博物館資料」のイメージを、体験や基礎知識の修得によって、身近なものとする。

- ア 資料とはなにか
- イ 収集方法
- ウ 資料の取扱いかた(理論と実際)
- エ 整理・分類(観察とドキュメンテーション)
- オ 調査・研究(ドキュメンテーションを支える知識)
- カ 保管・保全
- キ 管理と活用
- ク 資料情報の公開

【評価方法】

出席は重視する。実技の巧拙ではなく、文化財取扱いの心がまえの修得を評価する。

【テキスト】

改訂博物館学論考(長谷川鏑治 戸谷印刷)
随時プリントを配布する。

博物館実習

長谷川鏑治

4年 通年 選択 3単位

【授業の概要】

学芸員の基本的な役割について、人文系博物館に例をとり、講義、展示演習、博物館見学などを通して、実践的に学習する。

ア 展示論……展示とは何かからはじめて、展示についての学問的側面、実際の運びなどをみていく。

- 1 展示とは
- 2 展示のポイント
 - ・動線 ・視線
 - ・照明
 - ・温度 ・湿度
- 3 展示の施設
- 4 展示のプロセス
- 5 展示と保全

イ 普及・教育論……生涯学習が重要課題となっている現代社会にあって、博物館が果たす役割はどんなものかを探っていく。

ウ 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。

エ 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。

オ 海外特別実習……夏休み中に希望者と海外の博物館の見学に出かけ現地で学習する。

カ 県外実習……エ、オに参加できない者は、9月に県外へ博物館の見学に出かける。

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義・実習・見学をすすめる。

【評価方法】

- ・実習はもちろん、学外での研修にかならず参加し、それぞれレポートを提出する。
- ・実習にあたってはすすんで学習する姿勢で臨む。
- ・その都度、提出させるレポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

【テキスト】

改訂博物館学論考(長谷川鏑治 戸谷印刷)

博物館実習

秋元悦子

4年 通年 選択 3単位

【授業の概要】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習、博物館見学、博物館実習を中核に、具体的な学芸員活動を様々な観点から学習する。

【授業計画】

- ①展示とは……展示という手法について、その実際と未来像を考える。
- ②展示の実際……計画から、手法、条件などの展示の実際の概要を具体的事例をふまえながら、学んでゆく。
- ③展示にかかわる事業……展示をとりまく、様々な事業（解説、広報、印刷物、講座など）の存在を知る。
- ④展示の実習……模擬展示の計画書を作成し、展示方法やその活用法を実習する。
- ⑤展示と教育普及事業……展示を通じての生涯学習機関として、博物館の今後になう役割と未来を探る。

授業以外に、

- 土曜日に、博物館の展示・施設見学を行う。
- 夏休み中に、各博物館に依頼し館務実習を行う。

【評価方法】

授業および学外での研修の出席、レポートで評価する。

【テキスト】

改訂博物館学論考（長谷川鏑治 戸谷印刷 2,000円）
必要に応じてプリントを配布し、スライド等も利用する。

博物館実習

川合剛

4年 通年 選択 3単位

【授業の概要】

「展示」をキーワードにして、博物館の諸活動に必要な知識と技術を実践的に学ぶ。

【授業計画】

履修学生が手を動かし、自分で考える「実技」の時間をできるだけ多くとる。

- (a) 展示とは；博物館活動の中での展示の位置づけ。
 - (b) 展示のプロセス；展示の企画から実施までの実際。
 - (c) 展示と資料の保全；展示室での資料を傷めない工夫。
 - (d) 展示室にあるもの；展示資料以外のさまざまな小道具。
 - (e) 展示の実際；展示を企画し、シナリオ、設計書の作成。
 - (f) 展示の解説；展示解説の種々の方法とそれぞれの長所・短所。
 - (g) 展示と印刷物；展示に関わる印刷物の制作。
 - (h) 生涯学習と博物館；生涯学習社会での博物館の役割。
 - (i) まとめ
- ①土曜日に近隣の博物館の展示見学、施設見学を行う（年間5～6回程度）。
 - ②夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
 - ③夏休み中に海外博物館見学の研修を行う。
- ※②、③に参加しなかった者は、県外博物館の見学を行う。

【評価方法】

実技を行うので出席状況を重視する。あわせて、レポートと課題の提出、(時間内の)小テストの結果などにより評価をする。

【テキスト】

改訂博物館学論考（長谷川鏑治 戸谷印刷）
適宜、プリントを配付し、参考文献・論文を紹介する。

下記の科目は、本年度開講しません。

卒業論文ゼミ a

菅野育子

情報学特殊 I a・b

卒業論文ゼミ b・c

菅野育子

図書館学特殊 II (図書館建築)

図書館情報学特殊演習 a

菅野育子

図書館学特殊 IV (書誌学)

図書館情報学特殊演習 b・c

菅野育子

図書館学特殊 V (メディア・センター)

情報システム論 III (大学図書館)

情報メディア基礎論 a・b

菅野育子

情報メディア論 II (書誌情報DB構築)

情報メディア論 IV (人文社会情報メディア)

菅野育子

情報メディア分析論

菅野育子

人間行動学概論 a・b

植村勝彦 宇野善康 遠藤雄久 斎藤和志 松尾貴司 森久美子
江口昇勇 清水道 杉本助男 西出隆紀 古井景 吉崎一人

集中・オムニバス 1年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

平成13年度のみ、3年生以上向けに集中授業として開講する。前期aでは、社会コミュニケーション、記号コミュニケーションの領域を、後期bでは、臨床コミュニケーション、個人コミュニケーションの領域を扱う。

【授業計画】

- a : 1. イントロダクション
2. 植村：家族・地域・福祉（その1）
 3. 植村：家族・地域・福祉（その2）
 4. 斎藤：対人行動（その1）
 5. 斎藤：対人行動（その2）
 6. 遠藤：情報メディア史（その1）
 7. 遠藤：情報メディア史（その2）
 8. 宇野：イノベーション普及と文化（その1）
 9. 宇野：イノベーション普及と文化（その2）
 10. 森：集団行動（その1）
 11. 森：集団行動（その2）
 12. 松尾：ノンバーバル行動（その1）
 13. 松尾：ノンバーバル行動（その2）
- b : 1. イントロダクション
2. 西出：心理療法の基礎理論（その1）
 3. 西出：心理療法の基礎理論（その2）
 4. 江口：分析心理学（その1）
 5. 江口：分析心理学（その2）
 6. 古井：精神医学（その1）
 7. 古井：精神医学（その2）
 8. 吉崎：認知心理学（その1）
 9. 吉崎：認知心理学（その2）
 10. 杉本：脳とコミュニケーション（その1）
 11. 杉本：脳とコミュニケーション（その2）
 12. 清水：精神生理学（その1）
 13. 清水：精神生理学（その2）

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

各担当者による。

記号コミュニケーション論3b（言語行動）

二宮 昭

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

コミュニケーションを成立させるために用いられる記号には様々なものがあるが、我々人間にとって最も重要なものとなっているのは「ことば（言語）」である。本講義では、とくに「ことば」の発達や障害について、実証的な研究に基づきながら論じていくことにする。

【授業計画】

- 第1～8回 「ことば」の発達
- 1) シンボル機能および語彙の発達
 - 2) 文の発達
 - 3) 言語的現実の自覚の発達—3歳児はなぜしりとりができないのか
 - 4) 外言と内言
- 第9～12回 「ことば」の障害
- 1) 障害の原因と実態
 - 2) 改善のための働きかけ
- 第13回 試験

【評価方法】

学期末に行う筆記試験による。

【テキスト】

使用しない。適時参考資料を配付する。

文化社会学

丸山哲央

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間にとって「文化」とは何か。個人の生活や社会の構造と「文化」はどのようにかかわっているのか。そして、現代のグローバル化現象下における人類共通の文化は存在するのか、さらに日本固有の文化システムとは何か、ということについて社会的に考察する。

「文化」という言葉は日常よく用いられるが、必ずしもその意味が正確に理解されているとはいえない。「文化」には、普段の生活習慣や流行といったものから、哲学、宗教等の高度に抽象的な意味体系に至るまで、広い意味が含まれている。「文化社会学」とは、人間に特徴的な文化現象を社会的に解明していく学問である。この講義では、社会学における個人（パーソナリティ）や社会集団といった概念を明らかにしてゆくなかで、人間の文化とは何かという問題を論理的に考察してゆきたい。そのうえで、現代のグローバル化現象下における人類共通の文化について、さらに日本社会の文化システムについて考えてみたい。

【授業計画】

社会学という学問の文脈で、系統だてて文化について論ずるので、最低限の社会的知識が必要であり、テキスト（『社会学の理論』）に即して講義を進めてゆく。この中で、社会学という学問の考え方、視点等についても概略が理解できるように話してゆきたい。

【評価方法】

レポート又はペーパー・テスト。

【テキスト】

社会学の理論（碓井・丸山・大野・橋本編著、有斐閣、2,800円）

【参考文献・資料】

新しい世紀の社会学中辞典（N.アパークロンビー他 ミネルヴァ書房 4,800円）

スピーチ・コミュニケーション

松本雄子

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

“文化の違う人はコミュニケーションの方法が違う”とよく言われるが、どのように違うのか？

ここでは「異文化間コミュニケーション」の基礎知識と、文化がどのようにコミュニケーションに影響しているのか等を講義する。

最初は「コミュニケーション学」の基礎知識に重点を置いて授業を進め、後半は文化とコミュニケーションについて講義する。

【授業計画】

講義だけではなく、ビデオやグループディスカッション等を取り入れて授業を進める。

【評価方法】

テスト。

【テキスト】

異文化コミュニケーション（古田暁監修 石井敏・岡部郎一・久米昭元著 有斐閣）

ノンバーバル・コミュニケーション

松尾貴司

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

コミュニケーションにおいて言語以外の伝達手段を持つ重要性は、様々な分野で関心が持たれるようになってきている。このノンバーバルなコミュニケーションの諸相について、心理学的な知見ばかりでなく、行動学的なアプローチを含む幅広い視点から概観していく。

【授業計画】

- 1) コミュニケーションへの行動学的アプローチ
- 2) 動物のコミュニケーションの特徴と実際
- 3) ジェスチャーの分類と文化的変異
- 4) 表出としての表情と制御された表情
- 5) 視線の機能と規定因
- 6) パーソナルスペースと空間行動

各トピックスについて1～2回の講義をおこない、最終講に試験をおこなう予定。

【評価方法】

学期末におこなう筆記試験により評価する。レポートの提出を課した場合は、これを加算する。授業への出席状況および受講態度が不良の者は減点する。

【テキスト】

使用しない。

ジェンダー心理学

小倉千加子

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

心理学研究において新たに発明されたジェンダーという概念を中心に取り上げる。幅広い領域にわたって問題提起を行い、短期間に蓄積された膨大な研究結果を概観する。

【授業計画】

1. 心理学におけるジェンダー概念の登場
2. ジェンダー・パラダイムとジェンダー・イデオロギ-の歴史
3. 性差研究とジェンダーロール・ステレオタイプ
4. ジェンダー・アイデンティティ -発達と幼児期経験
5. ジェンダー・アイデンティティ -青年期の自己同一性との関係
6. 能力・学力・動機づけ
7. 女性とコミュニケーション
8. ジェンダーと精神病理
9. セクシュアリティの発達
10. 性同一性障害

【評価方法】

出席状況と試験により評価。

【テキスト】

ジェンダーの心理学（東清和・小倉千加子共編 早稲田大学出版部）

社会コミュニケーション論2b (対人行動)

齋藤和志

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現実の人間関係、集団間関係にはさまざまな問題が存在する。それらの中にみられる共通した特徴や法則性を、社会心理学的観点から考察する。社会の中の個人がもっている欲求や動機、対人関係の開始、継続、終結と関わる対人魅力、行動の交換や社会的相互作用のプロセスの問題などを取り上げる。講義を行うが、必要に応じてレポートを課す場合がある。また、調査や実験の被験者としての体験も重視する。

【授業計画】

1. 行動科学としての社会心理学
2. 社会的欲求・動機とは
3. 達成動機とその研究
4. 親和動機とその研究
5. 対人魅力の自己要因
6. 対人魅力の他者要因
7. 対人魅力の相互的要因と環境的要因
8. 対人魅力と社会的交換理論
9. 対人的相互作用の捉え方
10. 協同・競争と社会的交換理論
11. 実験ゲームと社会的交換理論
12. 衡平・公正と社会的交換理論
13. 試験

【評価方法】

試験による。レポートや調査・実験の被験者体験を成績に加味する場合には事前に通告する。

【テキスト】

社会心理学—個人と集団の理解— (吉田俊和・松原敏浩編 ナカニシヤ出版)

社会コミュニケーション論4b (イノベーション普及と文化)

宇野善康

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

この講義の題目は、「普及学的観点からみた異文化コミュニケーション論」である。普及学の最先端理論の一つが「異文化屈折理論」であるが、この講義では、この理論が捉えた異文化コミュニケーションのメカニズムを探究する。

最初に、イノベーションの普及過程を多角的に、かつ歴史的に究明する新しい学問分野である「普及学」について、その概略を説明したのちに、たとえば、つぎのような屈折的諸現象を検討する。

○Sit down please. (お座り下さい) という文章の発音をカタカナで、「シットダウンプリーズ」と書くと、この発音に相当する英語はShit down please. (そこにしゃがんで大便をして下さい) という意味になって、アメリカ人をびっくりさせる。

○カメラのニコン (NIKON) や自動車のダットサン (DATSUN) をアメリカ人は、NIKON→ナイコン、DATSUN→ダッツンと発音する。

○ドラキュラといえは、吸血鬼と思っている人が多いが、本当はルーマニアの国を救った英雄であった。

○アメリカ人の愛犬家に対して、「私も犬が好きです」といったつもりで「I like dog, too.」とdogの前の冠詞や後の複数形を省略すると、「私も犬の肉が好きです」というような意味になって、その愛犬家に怒鳴られることになる。

○一般に外国書の日本語訳の本の内容はその原書の内容とずい分違っていることが多いが、アメリカの週刊誌「News Week」の日本語版「ニューズウィーク」を読んで、元の英語版もその通りに書いてあると思うと大違いであって、表紙の写真も中身も表現もずい分違っていて、そのことを知らないと、国際的誤解を無意識のうちに助長していることになる。

その他多くの異文化コミュニケーションの屈折のメカニズムを検討し、異文化理解と国際コミュニケーションの健全なあり方を探る。

【授業計画】

講義時間の最初に説明する。

【評価方法】

毎時間のテスト結果の総合評価によって行う。

【テキスト】

異文化間ビジネス戦略—あらかじめ屈折の視点(榎博文 同文館)

普及学講義—イノベーション時代の最新科学— (宇野善康著 有斐閣)

家族社会学

山本正和

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

家族を社会学的な研究のレベルで理解する。従来の日本の社会学での家族研究は、制度的レベルから構造的な把握へ、さらに関係なレベルへと展開しているが、本授業では、そうした研究史の展開に応じて、その時々を経験的研究の代表的な文献を挙げながら論議を進めたい。

1. 社会学の立場からの家族理解
2. 家族の概念・定義・分類・類型
3. 「核家族」の意味理解とその批判的論議／日本における「核家族」論の展開
4. 日本家族の研究史、制度論的接近／「家」研究の展開
5. 構造論としての家族研究／地域社会の変容と家族／産業化、都市化と家族／地域政策と家族
6. 経験的日常的な対象としての家族とその問題性／家族問題の所在

【授業計画】

テキストを使用し、できるだけその内容に従う予定だが、時間的にはテキストの総ての範囲をカバーしきれないかも知れない。講義は、論述の形で行う。

質問は、授業時でも受け付けるので積極的にしてほしい。

【評価方法】

学期末の試験による。出席は評価の材料にならないが、出席することは当然である。

【テキスト】

新しい家族社会学（森岡清美ほか編、培風館）

老年社会学

西下彰俊

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

「老い」（エイジング）の光と影を社会的に分析する！

これまで高齢者問題は老人福祉として論じられることが多かった。高齢者は社会学の客体として位置づけられてきたのである。しかし、すべての高齢者が介護の必要な福祉の対象になっているわけではない。我々の周り的高齢者を見ればそれは明かである。本講では、社会の主体としての高齢者にも着目し、そうした高齢者が家族、友人、地域社会とどのような社会関係、コミュニケーション関係を形成しているのか、社会学の方法論を駆使しながら分析する。いわば、高齢者の光（プラス）と影（マイナス）の両面にせまり、理解を深めることが目的である。さらに、老人問題を自らの老後の問題として、言い換えれば、エイジング（加齢＝老いつつある過程）を現在進行中のプロセスとして感得できる「柔らかいセンス」をお互いに養っていきたい。

1. 高齢者福祉

在宅福祉 施設福祉

ゴールドプラン21 公的介護保険の概要

公的介護保険の問題点 スウェーデンのヒューマンサービス

2. 老年社会学

主要な社会学概念 友人ネットワーク

家族ネットワーク ビデオ『二人だけで生きたかった』の鑑賞

社会参加と生きがい 幸福感と自殺率

新しい老後問題－タイプA型老人－

【授業計画】

教科書とハンドメイドのプリントを併用する。

【評価方法】

テスト80点、平常点が20点の合計100点で評価を行う。平常点は、出席点と授業態度の合計である。適宜、出席の有無を確認する。

【テキスト】

改訂版 老人福祉論（浅野仁・西下彰俊編 川島書店 2,300円）

キャリア発達

宗方比佐子

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

本講では、キャリア発達の過程において多くの人が遭遇する重要なテーマを時系列的に取りあげ、各テーマに関する理論的研究および実証的研究を紹介する。また、人のキャリア発達がどのような要因によって促進され、阻害されるのかを論じ、キャリア発達に対するより深い理解を促す。

【授業計画】

- 第1講 キャリア発達とは何か
- 第2講 キャリア発達研究の歴史
- 第3講 職業選択
- 第4講 初期キャリア
- 第5講 メンタリング
- 第6講 職務満足
- 第7講 ワーク・モチベーション
- 第8講 組織コミットメント
- 第9講 職場におけるリーダーシップ
- 第10講 職業性ストレス
- 第11講 失業・転職・退職
- 第12講 キャリア発達に関する今日の問題
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績、出席状況、受講態度によって総合的に評価する。

【テキスト】

キャリア発達の心理学（渡辺・宗方編著 川島書店）

【参考文献・資料】

Theories of Career Development 4th Eds. (Samuel H. Osipow and Louise F. Fitzgerald Allyn and Bacon)

臨床コミュニケーション論1b（心理療法の基礎理論）

西出隆紀

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

不登校をはじめとする情緒障害、自閉症や学習障害などの発達障害、低出生体重児などハイリスク児の発達の問題や摂食障害など、思春期までの心の問題を取り上げ、そのような子ども達をどう理解し、どう関わっていくかを解説したい。

【授業計画】

- 1. 子どもと症状・問題行動
- 2. 発達障害
自閉症、学習障害、精神発達遅滞
- 3. 情緒障害
不登校、神経性習癖、非社会的行動、心身症、反社会的行動
- 4. 児童精神病（子どもの抑鬱を含む）
- 5. 思春期の問題行動
- 6. ハイリスク児の心理臨床
- 7. 遊戯療法について（その1）
Klein, M.の遊戯分析、Freud, A.の児童分析
- 8. 遊戯療法について（その2）
Axline, V.M.の児童中心療法、Allen, F.の関係療法、Moustakas, C.E.の制限設定

【評価方法】

成績は出欠を考慮してテストで評価する。テストは手書きのノートのみ持ち込み可（コピーを持ち込んだ場合は失格）とするので、毎回出席しないとテストの時に慌てることになる。

カウンセリング

西出隆紀

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

カウンセリングは、心理学以外の場面でもよく使われる言葉であるが、本講義では我が国における臨床心理学的な「カウンセリング」の代名詞でもある、Rogers, C.R. の「来談者中心療法」を中心にして、カウンセリングの理論や実際、問題点などについて論じたい。

【授業計画】

1. カウンセリングとは
2. 来談者中心療法の歴史的背景
3. 来談者中心療法における人格理論
4. 来談者中心療法の治療論
5. カウンセリングの技法
6. カウンセリングの過程
 受理面接、治療面接、終結面接、中断
 カウンセラーとクライアント
7. カウンセリングの問題点

【評価方法】

成績は出欠を考慮してテストで評価する。テストは手書きのノートのみ持ち込み可（コピーを持ち込んだ場合は失格）とするので、毎回出席しないとテストの時に慌てることになる。

コミュニケーションの精神病理

北畑英樹

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

- ①やさしい精神医学入門
 - ②こころの豊かさを求めて
- ①コミュニケーションとは、つまるところ対人関係であり、一方、精神医学で取り扱う疾患も、その症状の中心は対人関係の障害である。それ故に、そこには我々健常者(?)の中に時折みられるコミュニケーションのゆがみの先鋭化したものが認められる。そこで、ノイローゼ、うつ病、精神分裂症などの疾患について、やさしくかつ具体例をあげて解説する。
- ②現代科学の進歩は、テレビをはじめとするマス・メディア、コンピューター、インターネットなど無機質なコミュニケーションの発達をうながした。しかし、それが進めば進むほど、こころの豊かさに基づいた人間的なコミュニケーションの価値がますます高まる時代になるであろう。そこで、こころ豊かに生きるための精神科医からのアドバイスやヒントを提供する。

【授業計画】

“おもしろくて、役にたつ”をモットーに、①②に関した読みやすい書籍を紹介したり、受講生の質問に答えながら授業を進めたい。

【評価方法】

レポート提出による。

【テキスト】

使用せず。

パーソナリティ論

松田 惺

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

パーソナリティとは何か、パーソナリティについての心理学研究はどのように行われているか、代表的なパーソナリティ理論は何か、パーソナリティはどのように発達するか、パーソナリティの発達に影響する要因は何か、そして自分のパーソナリティをどのように把握するか、などについて講義する。

パーソナリティのとらえ方、性格や気質との対応関係、研究方法について、具体的なパーソナリティ測定・診断のための方法を紹介しながら検討を進める。

パーソナリティ理論についても、従来の精神分析理論や認知理論、学習理論に加えて、帰属理論やモデリング理論などとの関連、文化の問題、個性的あり方の問題などについても考察したい。

また、自我像、自尊心、自己効力感など、自分自身とのかかわりの中で、パーソナリティというものを再吟味することの意味を考えたい。

【授業計画】

主として講義になるが、できるだけ講義でとりあげたパーソナリティ調査・検査等を、自分自身について実施し、自己理解を深める一助にする。

【評価方法】

テストを行う。

【テキスト】

性格心理学への招待（詫摩武俊他著 サイエンス社 2,060円）

個人コミュニケーション論1b（認知心理学）

吉崎一人

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

人間の認知活動と脳機能の関連性について解説する。ヒトを情報処理的な観点でとらえる立場をとる。その視点から、脳の部位と機能との対応関係を論じる。

【授業計画】

認知を支える生理学的基礎

1. 神経心理学の研究法
2. ラテラルリティ
3. 物体認知と脳
4. 記憶機能と脳
5. 言語機能と脳
6. 注意機能と脳
7. 情動と脳
8. 脳機能の発達と可塑性

【評価方法】

期末テスト、中間テストさらには実験への参加（被験者）回数によって行われる。

【テキスト】

使用せず。授業ごとにプリント（A4）を配布する。

情報処理モデル

齋藤洋典

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間の情報処理活動における記憶と感情に焦点をあて、それらに関して提起されているモデルを概観し、それによって人間についての理解を深めることを目的とする。私たちは、「何を見ても何かを思い出す」。その際に、思い出される対象は、言葉であったり、特定の状況や場面であったり、あるいはそれらに付随する感情であったりする。このように思い出すという現象そのものは、通常考えられている以上に多岐にわたるにも関わらず、思い出すという行為自体が、日常的に極めて自然に行えるために、想起を実現しているメカニズムの不思議さに気づくことは希である。

同様に文字を見て、私たちは、語の読みや意味を想起できるが、その想起の過程を意識することは、希である。本講義では、日常的な記憶と感情に関わる事例をとりあげ、それらの背後に潜む人間の情報処理活動のメカニズムに注目する。具体的には、講義の前半では人間の知的な処理活動として「読み (reading)」に焦点をあて、後半では感性や感情の関わる処理活動として「思い出」に焦点をあてる。そして、これらの情報処理活動の過程を説明するために提起されているモデルを通じて、心的活動のモデルについて再考を促す。

講義全体を通じて、具体的には 実験・調査の計画立案、データの処理、結果の解釈、モデル提起の必要性を説き、人間の知識の「つながりと広がり」、及びその「運用と意義」について考えることの重要性に触れる。

【授業計画】

講義は、実験や調査のデモンストレーションとそれによって得られるデータに基づいて、具体的事例やデータを参考に進める。このために、講義と、その理解を促すためのデモンストレーションとを講義内で併用する。

【評価方法】

デモンストレーションへの参加、講義内での課題提出など、複数の項目を総合的に評価し成績の査定を行う。

【テキスト】

参考図書を授業時間に随時指示する。

語彙と辞書 言語の科学 第3巻 (岩波書店 1997)

比較行動論

石井 澄

集中 4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

ヒトの行動はどこまで動物的であり、また逆に動物にはどこまでヒトに近い能力があるのか。異なる種の生得的あるいは習得的な行動の特質を分析し、それらを比較することによって、ヒトという種が進化の過程においてどのように位置づけられるかを考える。

1. 比較行動研究の歴史：ヒトと動物の行動に関する視点の変遷
2. 生得的な行動の特質：種に特殊な行動の機構と機能
3. 学習行動の特質：ヒトのモデルとしての動物行動の研究
4. 動物の知的行動：比較認知科学の発展
5. ヒトの本能的行動：ヒューマン・エソロジー
6. 行動の可塑性と動物の「こころ」

【授業計画】

行動の特徴は視覚的に示すことによってもっともよく理解できる。そこで、重要な行動については OHP あるいは VTR を用いて解説する。

【評価方法】

最後の時間に筆記試験を行なう。

【テキスト】

使用しない。

文章と産出

小原朱美

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

私達は日常生活の中で、当然のように言語を用い、人と交流し、様々な情報をやりとりしている。しかし、一歩踏み込んで考えてみると、ことばの使用には一筋縄ではいかない側面が多くある。レポートが書けない、教科書の内容が単語は理解できるのに全体がわからない、気持ちよさをことばにできない、その他、言葉に関するトラブルは多い。それらの問題へのアプローチとして、ことばを「単語」「文」のレベルでなく、一塊の「文章」のレベルで考える。言葉の理解・産出のシステムに関する問題を提示していくので、一人一人がそれについて考えて欲しい。全体の流れは以下のようなものです。

1. 文章表現とは
2. 物語る枠組み
 - 1) ストーリーの図式
 - 2) こどもが語り始めるとき
 - 3) 物語る工夫
3. わかり易い文章
 - 1) よい文章の条件
 - 2) 語る文・伝える文
 - 3) 文章を磨くプロセス
4. 今日的な諸問題
漫画の文法・マニュアル文法・メール上での表現etc.
5. まとめ

【授業計画】

講義中心だが、実際に文章を聞いたり書いたりする課題が随時出される。

【評価方法】

学期末の試験が評価の中心。補助的に上記の課題の結果を用いる。課題の結果は12月頃一括で提出。

【テキスト】

なし。

広告・広報メディア論

大脇錠一

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

普段日常生活の中で、毎日多くの広告に接しているにもかかわらず、大部分の諸君はその広告に関して殆ど無意識に過ごしてきたと思われる。しかし、広告は企業のコミュニケーション（CC）活動の一環として重要な役割を担っており、企業のマーケティング活動の中核的機能を果たしている。また、パブリック・リレーションズ（PR）としての広報・広聴活動も広告とともに企業コミュニケーションの両輪を形成している。これらの関係を講義によって理解させる。

【授業計画】

<前期>

第1講企業コミュニケーション（CC）とは

- 2 CCの種類
- 3 PRと広告の違い
- 4 PRと広報の関係
- 5 広告の歴史
- 6 わが国におけるPRの歴史
- 7 CCメディアの種類
- 8 新聞・雑誌メディアの特性
- 9 ラジオ・テレビメディアの特性
- 10 その他のCCメディアの特性
- 11 パブリシティについて
- 12 受け手に与える影響
- 13 広告・広報の効果測定
- 14 今後のCCについて

*期中に一度、予告なしでペーパーテストを実施する。

【評価方法】

出席率を30%、期中のペーパーテスト20%（実施時期は予告しない）、期末のペーパーテスト50%の割合で評価する。

【テキスト】

使用しない。

ジャーナリズム論

五十川仁達

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

通信技術の進歩であらゆる分野の情報量が爆発的に増大、世界の政治・経済・社会のシステムに大きな変化をもたらしている。こうした激変する情報化社会の中で、自己を確立、自らが進むべき方向を見いだしていくためには、情報を取捨選択し、それを生かす力を身につけなければならない。37年余に及ぶ編集一筋の新聞記者としての経験を踏まえ、取材と編集、企画・キャンペーンの立て方、誤報・虚報、プライバシーと報道など具体的なジャーナリズムの世界を講義する。

具体的テーマは

- ①IT革命と激動する社会
- ②新聞小史と現状、新聞社の舞台裏・記者クラブ、報道協定、黒板協定、記者生活
- ③紙面編集 編集局の構成、新聞文章と紙面構成、用字・用語
- ④企画、キャンペーン、インタビューの実際
- ⑤時事問題、その裏にある民族・宗教の歴史
- ⑥テレビ 放送メディアの変容、多チャンネル化
- ⑦異文化間コミュニケーション
- ⑧事実報道と問題点：誤報・虚報
- ⑨報道の倫理：報道とプライバシー
- ⑩情報化社会の問題点—など

【授業計画】

講義が中心。人は、多くの問題に直面、その問題を判断し、自分で選び取って行かなければならない。情報化社会が進展、世界の出来事が私たちの日常生活にかかわってくる。このため、問題を大枠でとらえ、基本的な問題点を知り、全体的な視野で考えなければならない。基本となる問題とアプローチの仕方の一端を伝えたい。なお、時間的余裕があれば、文章の作成、校正などの実際も取り入れたい。

【評価方法】

受講態度とレポート。出欠席は調査。

【テキスト】

テキストは使用せず、必要に応じてコピーなどを配布する。参考図書などはテーマに応じて紹介。

放送メディア論

遠藤雄久

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

多メディア化、多チャンネル化、更には国際化の趨勢のなかで、放送システムとりわけテレビ放送の地位は大きく揺らぎ、新しい対応を迫られている。本講義は、日本の放送の「過去・現在・未来」を具体的な事実、データに基づいて考察し、情報化社会のなかでの放送の新しい可能性を探る。

- ①日本の放送の現状
- ②日本の放送制度（ヨーロッパ、アメリカ、アジア諸国との比較）
- ③放送デジタル化をめぐる（その問題点）
- ④国民国家とは何か（ベネディクト・アンダーソンの論議を中心に）
- ⑤国民国家のイデオロギー装置としての日本の放送
- ⑥戦時下のラジオ放送
- ⑦占領期の放送民主化の経過
- ⑧民間商業放送の開始
- ⑨テレビは何を放送してきたのか（テレビ番組論）
- ⑩メディア・リテラシーを考える
- ⑪主体的なオーディエンスを目指して
- ⑫放送の未来を展望する

【授業計画】

随時、講義のレジメと関連する参考資料を配付する。また、ビデオなど映像資料を見ながら進める。参考図書もその都度紹介する。

【評価方法】

学期末の所定のテスト期間に論文形式のテストを行う。

【テキスト】

使用しない。

情報システム論

西荒井学

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

情報ファイルの設計ならびに管理の問題、特に電子化されていく情報ファイルの問題に焦点を当てて学習していく。

- 1) ガイダンス
- 2) システム開発工程
- 3) 電子ファイリング・システムの必要性
- 4) 電子ファイリング・システムの機能と特徴
- 5) 画像イメージと記録媒体
- 6) 電子ファイリング・システムの適用分野
- 7) 開発実習
- 8) 開発実習（個人別課題）
- 9) 開発実習（グループ別課題）
- 10) まとめ

【授業計画】

前半では、システム開発全般に関する問題について講義を実施する。後半では、受講者をグループに分け、簡単なファイリング・システムを実際に開発する。

【評価方法】

出席状況、課題レポート、実習課題の成果、ならびに学期末試験にて評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず（プリント配布）。

尺度構成法

斎藤和志 石田靖彦

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

心理学の領域では質問紙によってデータを収集することが少なくない。社会的態度や性格を測定するための尺度は、ある概念をまとめた複数の項目によって測定するような1つの物差しと考えることができる。高い信頼性と妥当性をもつ尺度を作成する際には、測定しようとする概念の心理学的な検討が必要であると同時に、作成の手続きや統計的分析などと関連する技術の習得も必要となってくる。本講は、テーマを設定し、実際に尺度を作成する手続きを習得することを目的とする。基本的な事項の講義に加えて、参加者が積極的に参加することが必須である。演習・実習はグループで行う。基礎統計法、基礎実習、研究法実習をふまえての演習である。授業時間以外にも調査、実習を行う可能性が大きいので、覚悟の上履修すること（途中放棄厳禁）。なお、利用可能なコンピュータの台数や指導の都合から受講者を30名までとし、受講希望者が多い場合は抽選とするので、掲示等の連絡に注意すること。

【授業計画】

1. 心理学的尺度とは
2. 尺度構成の手続き
3. 尺度構成の技法
4. 尺度構成の実際
 - 1) 測定する概念の検討
 - 2) 項目の収集と予備調査
 - 3) 項目の分析とその評価
 - 4) 最終尺度の作成
 - 5) 尺度の実施とその評価
5. レポートの作成

【評価方法】

最終的なレポートに加えて、通常の参加態度等を含めて全体的に評価する。

【テキスト】

未定（おそらく使用しない。資料を配布する）。

心理検査法

西出隆紀 大矢寿美子 渡辺はま

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

各種の心理検査についての基礎知識と実施方法を学び、実際に検査を実施して結果を解釈し、報告書（クリニカル・レポート）を作成することで心理診断の基礎を築く。基本的には、病院の心理士や児童相談所等の心理判定員に就職したと仮定した場合に全く心理検査を知らないで冷や汗をかくようなことがない程度、という水準を目指している。

【授業計画】

全体的オリエンテーションと心理検査の基礎について講義した後、以下の検査について学ぶ。3グループのローテーションで指導するため、以下に示した順番通りに進まないグループもある。

1. 知能検査 (1) 知能の概念と知能検査の歴史についての講義の後、WAIS-R知能検査についての基礎知識と実施方法を学び、検査を実施して報告書を作成する。
2. 知能検査 (2) 知能検査の問題点に関して講義した後、全訂版田中ビネー式知能検査についての基礎知識と実施方法を学び、検査を実施して報告書を作成する。
3. 人格（性格）検査 (1) MMPI（ミネソタ多面人格目録）についての基礎知識と実施方法を学び、自らも被検査者になり、また他者にも検査を実施して報告書を作成する。
4. 人格（性格）検査 (2) PFスタディ、YG性格検査についての基礎知識と実施方法を学び、自らを被検査者として報告書を作成する。
5. 精神作業検査 内田クレペリン精神作業検査についての基礎知識と実施方法を学び、自らも被検査者になり、また他者にも検査を実施して報告書を作成する。
6. 発達検査 津守・稲毛乳幼児発達診断検査、遠城寺式乳幼児分析的発達検査法についての基礎知識と実施方法を学ぶ。乳幼児の発達検査に関して報告書を作成する。

【評価方法】

出欠・授業態度とレポートで成績評価する。レポートは各検査毎に提出しなければならない。また、1回でも欠席したりレポート提出を怠ったりした場合は単位を認めない。しかも、ペアの関係があるので、たとえ単位を断念したとしても、出席し続けなければならない。

データ解析

鈴木有美

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

心理学研究において収集されるデータについて、その性質を理解し、分析法の基本的な考え方や問題点などを踏まえたうえで、有意義な結果解釈を導くための適切な解析法を選択・利用できるようになることを目指します。

1. データの性質
2. データの分布—平均・分散・正規分布
3. 母集団と標本
4. 2変量の関係—相関・回帰
5. 平均値の差の検定—t検定・分散分析
6. 質的データの解析
7. 多変量解析について

【授業計画】

講義の内容については、基本的に上記の順に進めますが、受講者の理解・興味に応じて構成していく予定です。また、講義で学んだことについて理解を深めるための課題を随時設けます。

【評価方法】

課題の提出とその結果、および定期試験の結果をあわせて評価します。

【テキスト】

心理学のためのデータ解析テクニカルブック（森敏昭・吉田寿夫編著 北大路書房）

【参考文献・資料】

授業中に紹介します。

コミュニケーション専門演習1

植村勝彦

3年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

家族、地域社会、福祉状況の今日の課題や問題を「人間の実存の問題」として、また「自分の問題」として捉え、その状況把握と改善へ向けての方策を真剣に考える姿勢を養うこと。そしてそれを、自ら実証的方法によって検討できるようにすること、を課題と目標とする。

上記の課題と目標が達成できるようにするために、まずは社会心理学の研究法および質問紙調査法を正確に理解し、また家族や地域社会、福祉に関する心理学的・社会学的研究を扱った概説書を読むことを通して、今日の問題の全体像を視野に収めること（前期）、各自が関心を持つ卒論テーマを見つけて確定するとともに、卒論のデータ解析に欠かすことのできない多変量解析の諸種法を実際の調査データによって学習すること（後期）、を同年の内容とする。領域は、「社会コミュニケーション論 1 a・b」で扱った内容を中心に、その他家族心理学、環境心理学、生涯発達心理学、福祉心理学、コミュニティ心理学の各関連領域とする。

【授業計画】

前期：①教科書「心理学マニュアル：質問紙法」を解説する。これにより、質問紙調査の実際を理解する。

②個人研究発表。各自の関心テーマについて、著書・論文を読んでまとめた上で発表する。

後期：①教科書「多変量解析ガイド」を用いて各種の技法を解説するとともに、実際に調査を実施して得られたデータを用いて各自が体験的に理解する。

②個人研究発表。前期に引き続き、卒論に向けての発表を行う。

【評価方法】

毎回分担の個人発表や宿題が課せられ、レポートや発表レジュメの提出が求められるので、それらにより総合評価する。

【テキスト】

心理学マニュアル：質問紙法（鎌原雅彦他編 北大路書房）

数学が苦手な人のための多変量解析ガイド（古屋野亘著 川島書店）

コミュニケーション専門演習1

宇野善康

3年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

この専門演習では、宇野研究会のメンバーの卒論作製指導をおこなう。

卒業論文の作製の仕方、科学的な表現方法、実証的な研究方法、文献の参考や引用における注意事項などにわたって説明しますが、くわしくは、研究会所属のメンバーの学習水準に応じて、指導内容や指導水準を適宜、選択して指導をおこなう。

宇野研究会の既卒業生の卒業論文の輪読もあわせておこない、その批評や検討の上に、希望があれば今日までの宇野研究会の伝統的な研究の積み重ねをベースにして、各自の特定テーマのより深い研究を期したい。

4年生時のコミュニケーション専門演習2においては各自の研究テーマにしたがって卒業論文構想の進歩振りや論文作製上の諸問題について報告していただくもので、そのための準備をこの3年生時のコミュニケーション専門演習1において完了されることを期している。

【授業計画】

【評価方法】

成績評価は卒業論文の準備の達成度とその内容の水準を見て評価する予定。

【テキスト】

講義の最初の時間に相談の上、決定する。

コミュニケーション専門演習1

江口昇勇

3年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

演習の目標は臨床心理士を育てることであり、訓練の場と位置づけている。3年生は互いを知り合うための自己紹介を体験する。ここでは恥ずかしさとの直面化と、内面をさらけ出すときに生じる不安を深く味わい、ゼミのイニシエーションを受けることになる。その後は感受性訓練を丁寧に体験し尽くし、後期では、円枰家族描画法(F-C-C-D)により家族力動を診断し、次に言語連想検査によりコンプレックスを探る。また同時に自分史作成の課題が出されており、それらの資料が揃ったところで個人分析が後期の後半からスタートする。

【授業計画】

<前期> 1)ゼミ進行のオリエンテーション、2)～5)様々な状況を設定しての自己紹介、6)～10)感受性訓練、11)～13)F-C-C-Dを通じて家族力動を探る、<後期> 1)～2)言語連想検査の実践、3)～8)言語連想検査と自分史を媒体に個々のコンプレックスを探求する個人分析、9)～13)特定されたコンプレックスを球体アクティブ・イマジネーションによって探求する。

授業概要から明らかなように、ほとんどが実践的授業である。扱う内容が多義に渡るために学生はゼミの時間以外に予備学習や補習、実技の実践が必要となる。まとめの時間も膨大であると思われるので、時間的にかなりの余裕のある方しか参加は困難と思われる。それと自己と向き合う自我の強さも必要となる。

【評価方法】

ゼミでの積極的な参加態度、その都度のレポートの内容、自己に向かう姿勢、等を考慮する。何より自己に向かう姿勢は自ずと外に現れるものであり、自分に甘くなれば当然見えてくるものも見えなくなるので、成績評価は教員によるばかりでなく、むしろ自己申告する形となる場合が多い。

【テキスト】

その都度、指示する。

【参考文献・資料】

なし。

コミュニケーション専門演習1

遠藤雄久

3年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

- ①まず、各人がこれまでのメディアとの関わりを「自分史」風に(例:「私とテレビ」)まとめて発表しあう。そのことによって、これまで漫然と接してきたメディアとの関係を反省的に見つめ直し、個人的なメディアとの関わりを社会的文脈のもとに置き直してみる。
- ②次に、指定の教科書の購読を通じて、メディアとは何か、メディアに関する理論、研究領域、研究方法などを概観する。
- ③次いで、具体的なメディア内容(テレビ番組・ドラマ、ニュース、ワイドショーなど。新聞記事、雑誌記事、インターネットのHPなど)の分析を行い、メディア・テキストの内容・構造分析の技法に習熟するようにする。
- ④随時、メディアに関するトピックスを様々な角度から議論する。取り上げる話題は学生が輪番で提案することにする。そのためには、メディア関連のニュースに常に敏感であるように心がける。
- ⑤以上を通じて学年末には卒業論文の研究テーマを確定できるようにする。

【授業計画】

前期は教科書中心に進めるが、後期は学生のイニシアティブを徹底的に尊重する。そのため、関心領域別に班分けをすることも考える(たとえば新聞班、テレビ班、広告班など)。

【評価方法】

平常点を基準にする。発想の豊かさ、情熱、協調性などを考慮する。

【テキスト】

メディア・コミュニケーション論(竹内郁郎他編 北樹出版)

コミュニケーション専門演習1

斎藤和志

3年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

私たちの対人行動や集団行動に焦点を当て、社会心理学的な観点から考察していく。研究の対象となる行動が私たちの身近な問題であるだけに、自己を客観的に見つめ、他者を冷静に観察することが必要となる。そのためには、社会心理学におけるさまざまな考え方、モデル、理論などを理解し、データを客観的に分析する技法を習得しておくことが必須である。問題を明確化し、研究計画を立てることで、卒業論文への方向づけを行う。

ゼミ形式で行う。前半は、社会心理学における考え方、モデル、理論に関連する文献と、実験社会心理学研究、社会心理学研究等の研究論文の講読を中心に行う。後半は各人の問題意識の明確化と卒業論文に向けての予備実験、予備調査を目指し、具体的な問題を扱うことによって、研究の流れを把握することにつとめる。また、受講生は、3年次開講の「尺度構成法」にエントリーし、「データ解析」の単位を取得することが必須である。学生の自主性を尊重する。

【授業計画】

- ①社会心理学的研究法
- ②社会的認知対人認知、帰属過程、ステレオタイプの判断など
- ③態度の形成と変容社会的態度、対人的態度、説得的コミュニケーションなど
- ④対人的相互作用対人関係、対人感情、対人行動など
- ⑤研究計画の立案・実施

【評価方法】

ゼミ形式で行うので、授業への参加が必須である。与えられた課題・レポートおよび参加態度などを考慮した総合的評価を行う。

【テキスト】

使用せず。使用する場合は、事前に連絡する。

コミュニケーション専門演習1

清水 遼

3年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

生体内外の情報のコミュニケーション過程で生じる様々な反応のうち、我々の行動に直接変化をもたらす感情的プロセスを精神生理学的観点から検討する。

【授業計画】

前期は、精神生理学に関する基礎的知識の習熟のため配布プリントに添って解説をする。また、われわれの感情体験と深く関係したトピックスについて内外の文献も広く講読する。

後期は、講読文献に基づいて各自が選択した研究テーマとそれに関する内外の論文についてレポーター形式で発表、討論を重ねる中で、最終的に自己の研究テーマを決定し、生理学的手法を取り入れた実験計画を立てる。

【評価方法】

レポートの評点で評価する。

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

コミュニケーション専門演習1

杉本助男

3年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

下記テーマに関する研究論文の何れかを選択し、各自が読み、発表し、お互いに討論する。また、英語論文の輪読も併せて行う。この過程で自分の興味のもてる研究課題を選ぶ。

1. 誘発電位の個人差と行動特性
2. コーヒー、香りなどの鎮静、覚醒効果に関する生理心理学的研究
3. 感情と顔面表情との関係に関するポリグラフ研究
4. 対人同調のポリグラフ研究
5. 睡眠や生体リズムに関する生理心理学的研究
6. 脳障害部位と行動特性に関する臨床神経心理学的研究
7. 脳の老化と行動特性に関する臨床神経心理学的研究

【授業計画】

毎時間2名が発表し、討論する。最終的に研究計画を立てその吟味を行う。

【評価方法】

毎時間の発表、討論内容等から評価する。

コミュニケーション専門演習1

西出隆紀

3年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

家族に関わる臨床的テーマを取り上げ、それらについての論文や事例の講読演習とロールプレイング等による体験学習を行う。これにより心理臨床の実践のベースとなる体験の獲得と卒業論文作成の土台作りを目指す。また、授業時間枠とは別に情緒障害児短期治療施設での臨床実習を泊まり込みで行う予定である。臨床現場の厳しさを肌で感じ、1人の子どもの生き方に真剣に関わり、それを考え、ケースレポートをまとめてケースカンファレンスに臨む。それによって、心理臨床の本当の難しさを体験することになる。

【授業計画】

<前期>

1. オリエンテーション 対人関係の経験（運動場で実施）
2. 事例研究論文講読 2名ずつのペアで、神経症、不登校、摂食障害、自閉症、精神分裂病などの症例の論文を読んでレジメにまとめ、レポーター形式で討論する。各症例の発症メカニズムや治療方針を検討することにより、心理臨床実践に対する理解を深める。
3. 体験実習 箱庭療法体験、コラージュ療法体験、催眠療法体験などを通じて、クライアントの立場に立って理解を進める態度を養うと同時に、心理臨床実践への体験的理解を深める。

2、3の内容は毎週交互に行われる。箱庭療法体験などは授業時間外にも箱庭作成等のための時間が必要となる。

<後期>

1. 論文講読 「Family Process」等の家族心理学関係の研究誌に掲載された論文を中心に、広く家族心理学・家族臨床に関わる論文にふれ、研究論文の読み方・書き方を学ぶ。
2. 体験実習 ミニ試行カウンセリング、解決志向型短期療法のロールプレイ等を行い、体験的に心理療法を理解していく。

情緒障害児短期治療施設実習とその事前学習がこれに加わる。

【評価方法】

出欠と授業態度を中心にして成績評価する。

コミュニケーション専門演習1

古井 景

3年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

『いい子』とは、『相手にとって都合の“いい子”』のこと。『いい人』とは、『人がいい“お人好し”』のこと。『「これはこうに決まっている」という人』とは、『選択肢を一つしか持っていない人』のこと。『精神的に能力の高い人』とは、根性で物事を押し通すのではなく、『物事に対して“柔軟”に対応できる人』のこと。

このように、我々はいつの間にか多くの誤解を植え付けられている。“自分自身”にではなく、“他の誰か”にとって都合のいい理屈に支配されていることが少なくない。何故か“selfhood”すなわち“自分らしくあること”に罪悪感を感じてしまう。

こうした不自然さに目を向け討論を重ねることで、この演習に参加した学生が、『年齢相応の現実的主体性』を十分に成熟させることができるようにしていきたい。具体的な検討課題は、演習に参加する学生が個々に見つけだし、議論を深めていく。

【授業計画】

毎回、担当者を決め課題発表を行い、参加者全員での討論を通して、互いに知識を深めていく。

【評価方法】

知識の深さ、理論の構築能力、言語的表現力など総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。参考図書はその都度提示する。

コミュニケーション専門演習1

吉崎一人

3年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

認知神経心理学に関する研究方法全般を学習する。研究論文の検索、実験器具の使い方、プログラムの使用方法、データの整理、分析方法、レポートの書き方をグループでの実験を通じて学ぶ。

実験の実施と並行して研究論文を購読し、最近の認知神経心理学の動向について学習する。

【授業計画】

<前期>

4月～6月 実験研究のすすめ方について。

5月～7月 研究論文の購読。

<後期>

10月～12月 実験計画の立案、実施。

1月～3月 実験結果の分析とまとめ

【評価方法】

レポーター（プレゼンテーション）の内容と授業へ取り組む姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

心理学実験・研究レポートの書き方（B・フィンドレイ著 細江・細越 訳 北大路書房 ¥1,300）

要因計画法（後藤・大野木・中澤 編著 北大路書房 ¥1,500）

クリティカルシンキング入門篇（ゼックシスタ・ジョンソン著 ¥1,900）

コミュニケーション専門演習2

植村勝彦

4年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

3年次の「コミュニケーション特殊演習1」をふまえて、調査法、面接法などの、データを直接収集・分析するという実証的研究法により、卒業論文を作成することが課題と目標である。

【授業計画】

3年次末までに確定した各自のテーマに従って、調査や面接の項目を作成し、対象者を得て、実施・分析・論文作成に至るまでの全過程について、指導・助言する。

前期は、毎回個人発表を行い、進捗状況に応じての助言・指導をする。とくに調査票の完成までの段階に全力を注ぐ。

夏休み前から後期授業の開始時期にかけて調査を実施する。

後期は、各自のデータに基づく、解析の方法の解説と実践の個別指導を中心に進める。11月上旬に中間発表会を行い、12月上旬に下書きを提出してもらい、添削する。

【評価方法】

毎回の個人発表、および作成された論文によって評価する。

【テキスト】

使用せず。

コミュニケーション専門演習2

宇野善康

4年 通年 選択 2単位

この授業は、コミュニケーション専門演習1に準じてすすめます。

コミュニケーション専門演習2

江口昇勇

4年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

4年では便宜上、ゼミを時間的に自己探求を行うグループと臨床心理学研究を行うグループとに分けて行う。自己探求グループでは3年の延長として自己の問題に直面化し、自分が取り組むべきコンプレックスとの格闘を行う。その際、個々人の中心となるシンボルを球体アクティブ・イマジネーション体験によって拡充、あるいは直接的に扱うことで発展させる。その他にも、夢の分析やコラージュ療法、描画法、箱庭療法を用いる場合もある。臨床心理学研究を行うグループでは、これまでに、3年から継続している養護施設や障害児(者)施設における利用者とのボランティアのかかわり、あるいは絵画グループでのかかわり等であったクライアントに対して事例研究法的に接近を試みる者、調査法と臨床面接法を併用しながら臨床的テーマ(摂食障害、女性性の問題、心身症の問題等)に接近する者、実験的な手法でカウンセリング場面での治療的人間関係や転移・逆転移に焦点づけた研究を行う者等がいた。

【授業計画】

毎時間、発表者を決めて自己探求、対象研究の進行状況を報告する。事例研究の場合には、ゼミの時間がグループ・スーパービジョンの場となるし、主観性の濃い研究においては、ゼミの場でグループ検討することで客観性に近づく作業を行うことになる。なお、毎年、ゼミの時間だけでは足りなくなるので、合宿を行ったり、日曜日に登校して不足分を補うことが必ずあるので、時間に余裕を持っていない人はゼミを選ばない方が無難である。卒業論文のゼミでのメ切は12月1日となっている。

【評価方法】

ゼミでの積極的な参加態度、その都度のレポートの内容、自己に向かう姿勢、等を考慮する。何より自己に向かう姿勢は自ずと外に現れるものであり、自分に甘くなれば当然見えてくるものも見えなくなるので、成績評価は教員によるばかりでなく、むしろ自己申告する形となる場合が多い。

【テキスト】

その都度、指示する。

コミュニケーション専門演習2

遠藤雄久

4年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

前期中は各自の卒業研究についての発表を中心に進める。発表は前週に作成し配布したレジュメにもとづいて行う。レジュメの作成、発表の技法にも習熟するよう努める。後期は、論文完成のための個人指導を行う。

【授業計画】

【評価方法】

【テキスト】

使用せず。

コミュニケーション専門演習2

斎藤和志

4年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

3年次の「コミュニケーション専門演習1」で計画立案した卒業研究を実行に移し、対人行動に関する研究知見を卒業論文としてまとめあげることが最終的な目標とする。各学生は、明確な問題意識と自覚をもって自主的に研究活動に取り組まなくてはならない。

各学生の進度に応じて進める。学生の自主性を尊重する。

【授業計画】

- ①問題意識の明確化と目的の具体化および研究方法の検討
- ②データの収集およびその分析
- ③結果の考察と卒業論文の作成

【評価方法】

卒業論文作成の過程と成果によって評価する。

【テキスト】

使用せず。

コミュニケーション専門演習2

清水 遼

4年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

3年次に計画した実験について発表、討論を行い、卒業論文完成のための指導をする。

実験では、脳波、心電図、呼吸、筋電図、皮膚電気活動、血圧などの電気生理学的指標を用いるが、これに加え、本年は、心理学の分野でも注目されてきている精神内分泌物質（ホルモン等）を指標として用いる。

【授業計画】

以下の研究テーマのうち、同領域のテーマをもつ2～3人を1グループとし、グループ単位で研究指導する。

1. 環境の快適性に関する研究
 - 香りの感情に及ぼす影響
 - 音（音楽）の感情に及ぼす影響
 - 色（照明）の感情に及ぼす影響
2. アニマルセラピーが高齢者の感情コントロールに及ぼす効果
3. オーディオ・ビジュアル通信コミュニケーションにおける信号遅延の影響

【評価方法】

研究に取り組む姿勢および卒業論文で評価する。

【テキスト】

使用しない。

コミュニケーション専門演習2

杉本助男

4年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

卒業研究のための実験計画を立て、同時に関連論文を購読する。卒業論文のテーマは下記から選択する。

1. 誘発電位の個人差と行動特性
2. コーヒー、香りなどの鎮静、覚醒効果に関する生理心理学的研究
3. 感情と顔面表情との関係に関するポリグラフ研究
4. 対人同調のポリグラフ研究
5. 睡眠や生体リズムに関する生理心理学的研究
6. 脳障害部位と行動特性に関する臨床神経心理学的研究
7. 脳の老化と行動特性に関する臨床神経心理学的研究

【授業計画】

上記テーマについての実験を遂行し、その結果の分析を行い、卒業論文へとつなげていく。

【評価方法】

実験計画、結果の分析等から評価する。

コミュニケーション専門演習2

西出隆紀

4年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

3年次の内容を更に発展させて、心理臨床に必要な知識と技術を身につける。

また、卒業論文を作成するために、文献収集や研究法などの基礎を学び、実際にデータを収集して分析・考察をする。

【授業計画】

<前期>

1. 卒業論文指導

卒業論文の作成に向けて、各人が興味を持つ内容に関する論文をレポーター形式で発表してもらい、討論をする。

2. 体験実習

投影法を中心に心理臨床、特に病院臨床分野で必要な検査の実習を行う。

<後期>

1. 卒業論文指導

各自が卒業論文作成の進行状況をまとめて報告し、参加者全員で問題点などを討議しつつ、よりよい論文作成を目指す。おおよそ各自の発表は以下の過程をたどることになる。

1. 問題意識と研究目的の検討
2. 研究方法の検討
3. 結果と考察の検討
4. 論文提出前の全体的検討
5. 執筆した卒業論文の発表

【評価方法】

出欠と授業態度を中心にして成績評価する。

【テキスト】

その都度指定。

コミュニケーション専門演習2

古井 景

4年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

3年次のコミュニケーション専門演習1によって獲得された知識、理論構築能力、言語的表現能力を屈指し、それぞれが挙げた検討課題について卒業論文という形でまとめ上げる。学問とは、自ら問い・自ら学び、そこから得られた知識を智慧とし、人生の糧とするものである。単なる事務的作業では、許されない。

【授業計画】

参加者全員での文献講読・討論を中心とし、必要に応じて卒業論文作成のための個別指導を行う。

【評価方法】

まとめられた卒業論文を基に評価する。

“学士”の称号を得るにふさわしい論文でなければ、評価の対象とはならない。

【テキスト】

使用せず。

コミュニケーション専門演習2

吉崎一人

4年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

卒業研究完成を目指す。

各自自分のテーマにそって、実験を実施し分析する。自分の研究に関連する文献を購読し、発表する。

【授業計画】

各自卒業研究の進行状況並びに、関連論文の紹介を行う。

【評価方法】

授業への出席状況、卒業研究論文、卒業研究に取り組む姿勢、研究結果のプレゼンテーション（発表会・ホームページ）を総合的に評価する。

【テキスト】

なし。

コミュニケーション特殊講義1

加藤雄一

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

精神病理学上の基礎的な病態・今日的な精神的諸問題・アプローチの方法論などについての知識を与えるような諸項目を含んだ講義を行う。

以下に講義の項目をあげておく。

- ◇ 精神病理学の意味と方法論
- ◇ 基礎的な病態：神経症、心身症、気分障害、人格障害、児童・青年期の精神障害、精神分裂病など
- ◇ 今日的な諸問題：心的外傷後ストレス障害、アダルトチルドレン、多重人格、性同一性障害、テクノ依存症（インターネット中毒）、ターミナルケア、老年期の不安、エイズ不安など
- ◇ その他：精神分析学ABCなど

【授業計画】

精神病理学で問題にすることは、結局コミュニケーションの歪みについてでもある。コミュニケーション上の問題として、出来るだけ講師が経験した事例をあげて、分かりやすく説明する。

【評価方法】

単位認定試験と出席状況によって総合的に評価する。

【テキスト】

毎回講義についての刷り物を渡す。全部で一冊のテキストとなる。

コミュニケーション特殊講義2

二宮克美

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

生涯発達心理学の観点から、重要なキーワードを50選定し、解説していく。発達心理学の基礎的事項を一通り学んだ学生諸君が、さらに理解を深めるために計画されたものである。発達心理学を違った角度から見られるようになることが主たるねらいである。また、人前で発表するという経験をすることで、プレゼンテーションの技術を修得することも目的の1つである。

【授業計画】

- I. 発達心理学の研究法：コーホート分析、比較文化的研究法など9項目
- II. 発達の理論的諸問題：社会化、熟達化、児童観など14項目
- III. 誕生から幼児期まで：一語文、ファンタジー、愛他的行動など9項目
- IV. 児童期から思春期まで：リテラシー、ニューメラシー、プラン能力など7項目
- V. 青年期：職業選択、配偶者選択、同一性の危機など6項目
- VI. 成人期から老年期まで：加齢、孤独、幸福など5項目

【評価方法】

授業への貢献度、レポートや授業の出席状況など、総合的に加味して評価する。

【テキスト】

キーワードコレクション発達心理学（子安増生編著 新曜社）

コミュニケーション特殊講義3

加藤義信

集中 3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

私たちが日々生活している環境空間のイメージに関する諸問題を考えます。環境のイメージには、環境の物理的広がりをどう人間がとらえているかに関する認知的イメージと、環境に対する美的な感受性や、快適度の判断に関する評価的イメージの2つがありますが、この両者をともに視野に入れた講義を展開します。

- 1) 環境のイメージの種類
- 2) 環境の認知的イメージの形成
- 3) 大規模空間の経路表象の個人差に関わる問題の検討—方向感覚とは何か—
- 4) 環境の評価的イメージ—都市景観の知覚—
- 5) 風景論をめぐる問題

【授業計画】

参考文献と併せて、講義の進展に沿ってその都度、資料を配布します。また、ビジュアルな教材の利用を心がけた講義にしたいと思っています。

【評価方法】

試験の成績によって評価します。

【テキスト】

空間に生きる—空間認知の発達の研究—（北大路書房 1995年 3,296円）

コミュニケーション特殊講義4

植村勝彦

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代人の最新の関心事となっている「ストレス」について、心理学の立場からの研究成果の概要を講述する。コミュニケーション行動との関連については、コミュニケーション行動そのものがストレスを引き起こすストレス源（ストレス源）になる場合もあれば、ストレスをもつ人へのソーシャル・サポート（社会的支援）として、コミュニケーション行動を有効に用いることも可能である。

【授業計画】

第1講 序. 導入

第2講 1. ストレス研究の歴史

- 1) 医学におけるストレスの概念

第3講 2) 心理学におけるストレスの概念

第4講 2. 心理的ストレスの測定

- 1) 生活ストレスの研究

第5講 2) 生活ストレスの測定

第6講 3) 心理的ストレス反応の測定

第7講 3. ストレス対処行動

- 1) 対処行動とは

- 2) 対処行動の分類と測定

第8講 3) 対処の規定因

- 4) タイプA行動とストレス対処

第9講 4. ソーシャル・サポート

- 1) ソーシャル・サポートとは

第10講 2) ソーシャル・サポートの測定

第11講 3) ストレスとソーシャル・サポート

第12講 5. ストレス・マネジメント

- 1) パーンアウト現象

第13講 2) ストレス・マネジメント

【評価方法】

学期末の単位認定試験により評価する。

【テキスト】

毎回配布するプリントにより講義・解説する。

【参考文献・資料】

「ストレス」の肖像（林 峻一郎著 中公新書）

応用コミュニケーション1

斎藤和志

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

対人行動について、コミュニケーション学科在籍4年間で学びとったことを、「小論文」という形にまとめあげることがこの演習の目的である。各学生は、自覚をもって自主的に研究活動に取り組まなくてはならない。

各学生の進度に応じて進める。受講生は、3年次開講の「データ解析」の単位を取得することが必須である。学生の自主性を尊重する。

【授業計画】

- ①問題意識の明確化と小論文の方針決定
- ②資料データの収集とその整理・分析
- ③全体的考察と小論文の作成

【評価方法】

小論文作成の過程と成果によって評価する。

【テキスト】

使用せず。

応用コミュニケーション2

遠藤雄久

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

メディアを批判的に読み解くー「メディア・リテラシー」ーを身につけることを目的とする。テキスト『新版現代文化を学ぶ人のために』の講読を中心に各自の研究テーマを確定するよう指導する。

【授業計画】

テキスト『新版 現代文化を学ぶ人のために』の
第6章 ジャーナリズムのまなざしー客観報道と好奇心
第7章 映像化社会の成立と映画の変容
第9章 ポピュラー音楽へのアプローチ
第12章 「私らしさ」の神話ーファッションという制度ー
第13章 スポーツと日常生活に見る滑走感覚
第15章 愛と性をめぐる文化
以上の六つの章のうち各自の関心のあるものを選んで熟読し、それぞれレジメを作成する。レジメをもとに発表を行う。これを通じて小論文のテーマを確定するよう指導する。

また、その時々のメディアに関連したトピックスを資料に作成し配布し、メディア論的視点から解説を加え全員で論議を深める。

【評価方法】

小論文の内容で評価する。

【テキスト】

新版 現代文化を学ぶ人のために（井上俊編 世界思想社）

応用コミュニケーション3

西出隆紀

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

各自のテーマに基づいた小論文作成のための指導を行う。

各自関心のある心理学的テーマを取り上げ、小論文にまとめる。毎週数名が発表者となり、参加者全員の討議でその小論文がより良いものになることを目指す。

【授業計画】

演習形式で進める。小論文作成に関わるので、欠席は殆ど許されないと考えてほしい。

おおよそ各自の発表は以下の過程をたどることになる。

1. 関連論文の紹介
2. 問題意識と研究目的の検討
3. 研究方法の検討
4. 結果と考察の検討
5. 執筆した小論文の発表

【評価方法】

出欠・授業態度と小論文の出来で評価する。従って受講は小論文の指導を受けようとする学生に限る。

【テキスト】

その都度指定。

応用コミュニケーション4

江口昇勇

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

自己探求を目的とし様々な臨床心理学的接近を試みる。この授業は江口小ゼミにおける自己探求の総仕上げの場として位置づけられている。小ゼミでは自主ゼミながら3年次と4年前期までに様々な状況を想定しての自己紹介、感受性訓練、F-C-C-D（円枠家族描画法）による家族力動の解明、言語連想検査と自分史による個人分析を行ってきており、この授業だけを単独で受講すると理解しづらいことがあるので承知しておくこと。この授業ではこれまでの作業で明らかになっている個人のコンプレックスの解消、あるいは克服に向けた作業が球体アクティブ・イマジネーション体験を用いて行うことになる。授業の一部で、ドリーム・ワーク（夢を参加メンバーで共有する作業）を行う予定であるので、受講生には夢の記録が義務づけられている。

【授業計画】

ここでは3年からの一連の作業を紹介する。授業では最後の部分を実践することになる。①ゼミのオリエンテーション、②様々な状況を設定しての自己紹介、③感受性訓練、④F-C-C-D（円枠家族描画法）を通じて家族力動を探る、⑤言語連想検査によりコンプレックスを探る、⑥自分史により個人分析を行う、⑦球体アクティブ・イマジネーション体験によるコンプレックスの克服、離脱をさぐる。実践中心の講義であるため、欠席が続くと自分の居場所がなくなり、参加しにくくなる。自己理解という作業は「苦労した分だけ自分のものになる」ということが鉄則である。逃げたり、手を抜けばどこまでもそれは可能であるが、それでは意味を失うだけで時間の無駄となる。

【評価方法】

ディスカッションにおける発言内容、応答における積極的姿勢、レポート課題によって評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。必要なものはコピーを配布する。

【参考文献・資料】

なし。

応用コミュニケーション5

吉崎一人

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

小論文の完成を目指す。

【授業計画】

自分の研究に関連する研究の論文を購読する。
実験計画、実施の指導、小論文執筆指導を個別に行う。

【評価方法】

小論文と卒業研究に取り組む姿勢で評価する。

【テキスト】

心理学 実験・研究レポートの書き方 (B・フィンドレイ著 細江・細越 訳 北大路書房 ¥1,300)

応用コミュニケーション6

杉本助男

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

情動表出と認知、情動刺激の学習等に及ぼす効果などの論文を購読し、以下のようなテーマについて、実験研究、質問紙研究、または文献研究を行い、小論文を作成、提出する。

1. 顔の非対称と行動特性や感情に関する研究
2. 香りの人に及ぼす効果の生理心理学的研究
3. 睡眠と行動特性に関する生理心理学的研究
4. 生体リズムに関する生理心理学的研究
5. 脳と人間行動に関する文献研究

【授業計画】

各自の選んだテーマに関する論文を購読し、そのテーマに関して具体的研究計画を立て、研究を遂行する。

【評価方法】

論文購読、研究計画、小論文の内容等から評価する。

応用コミュニケーション7

清水 道

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

複雑で激変する現代社会にあって、われわれが如何に安定した生活を営んでゆくかの問題をストレスに焦点を当てて論じ、小論文完成のための指導をする。

【授業計画】

授業を前半と後半に分け、前半講義したテーマの論文を宿題と課し、後半はそれらに関して各人にレポーター形式で発表させ、討論することで小論文のテーマを決定する。

1. ストレスの仕組み
生理的メカニズム
心理的メカニズム
2. ストレスの反応と対応
生理的ストレス反応の測定法
心理的ストレス反応の測定法
3. 生活とストレス
家族のストレス
学校のストレス
職場のストレス

【評価方法】

小論文で評価する。

【テキスト】

配布プリント。

応用コミュニケーション8

古井 景

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

大学生として獲得された知識、理論構築能力、言語的表現能力を屈指し、それぞれが挙げた検討課題について小論文という形でまとめ上げる。学問とは、自ら問い・自ら学び、そこから得られた知識を智慧とし、人生の糧とするものである。単なる事務的作業では、許されない。

【授業計画】

精神力動論に関する文献講読・討論を中心とし、併せて、事前に作成された各自の小論文に対して、さらに内容を深めて完成させるための個別指導を行う。

授業履修時点までに各自で小論文を作成しておくこと。4年後期第一回目の授業開催時を『第1回小論文提出期限』とする。各自必要に応じて、担当教員（古井）と連絡を取り小論文作成に勤めること。

【評価方法】

まとめられた小論文を基に評価する。

小論文といえども“学士”の称号を得るにふさわしいものでなければ、評価の対象とはならない。

【テキスト】

使用せず。

法律学概論

大嶽 浩

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされています。そこで、法とは何か、という問題を「文学作品」、「映像作品」、「新聞記事」などを利用して考えてみたいと思います。

【授業計画】

総論

1. 法学の入門書と文学作品
2. 法学学習と文学作品
3. 法学学習の方法
4. 法学と政治と文学
5. 法学と活字
6. 法学と批評

各論

1. 法学と「収集」
2. 法学と「きる」
3. 法学と「引用」
4. 法学と「分類」
5. 法学と「技術」
6. 法学と「創造」

【評価方法】

試験による評価。

【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

国際法概論

岡田 泉

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代の国際法の生きた姿を知るために、海洋、宇宙、南極などの空間に関する法、外国人や国民の基本的人権に関する法、武力紛争（戦争）や軍縮に関する法に焦点をあてて、さまざまな事件を取り上げながら、解説する。

【授業計画】

- 第1回 講義の概要と計画の説明
- 第2回 領域とは何か、日本と海洋法
- 第3回 宇宙の平和利用、南極制度
- 第4回 日本の領土問題
- 第5回 外国人の人権——その1（市民的自由）
- 第6回 外国人の人権——その2（帰国の権利）
- 第7回 戦後補償の問題
- 第8回 国連と人権保障
- 第9回 戦争の放棄と国際法
- 第10回 安全保障の問題
- 第11回 核兵器と軍縮
- 第12回 国際人道法
- 第13回 国連の平和維持活動

【評価方法】

受講状況（出席、受講姿勢、質問）、中間レポート、期末試験。以上を総合評価する。

【テキスト】

使用しない。随時、講義資料を配布する。

政治学概論 a・b (国際政治を含む)

西尾林太郎

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

政治体制や政治制度との関わりで政治の動態をマクロ的に捉える能力を涵養すると共に、戦後日本の政治・外交を国際的視野で考察することを講義の目的とする。

また、政治との絡みではあるが、時事的な問題についても積極的に取り上げていく。特に、立法過程や外国為替の政治・経済的メカニズム、および政治指導者について重点的に取り上げたい。

【授業計画】

プロローグ：「政治」とは何か。

1. 国際社会の政治

- ①戦後の国際政治の流れはいかなるものか。
- ②トランス・ナショナル現象、相互依存性の増大

2. 市民社会と大衆社会

- ①市民社会、古典的デモクラシー
- ②大衆社会、マス・デモクラシー
- ③立法国家と行政国家

3. 政治制度と政治過程

- ①大統領制と議院内閣制
- ②議会、政党、利益団体、官僚、選挙
- ③マスメディアとマスコミュニケーション

4. 55年体制の成立とその崩壊

- ①高度経済成長と55年体制の展開
- ②日本の政治風土―田中角栄の場合―
- ③連立政権の時代

5. 政治権力

- ①権力とは何か
- ②社会契約説、政治的自由
- ③リーダーシップ、象徴

6. 政治文化と比較政治

【評価方法】

試験と出席状況とによる。なお、試験の際、自筆ノートとテキストの持込みを許可する。

【テキスト】

現代政治学の基礎 増補改訂版 (西尾林太郎 早稲田経営出版 2,000円)

社会学概論 a・b

長濱一夫

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

社会学というのは、社会的存在としての人間について様々な角度から考察する学問です。ここでは、私たちの暮らしに関連の深い問題に目を向け、それについて考えることを通して社会的な思考法を学んでほしい。

以下のそれぞれのテーマを主たる切り口として(順序は入れ替わることがあります)、私たちの社会生活について考えを深めていきたい。

【授業計画】

<前期>

- (1) 社会学とはどんな学問か
- (2) 都市と農村―地域社会の変容
(戦後～現代までの社会・経済的展開)
- (3) 「出稼ぎ」という就労形態について考える
- (4) 現代社会における「豊かさ」と「貧困」について考える・I

<後期>

- (1) 現代社会における「豊かさ」と「貧困」について考える・II
- (2) 現代の「家族」について考える
- (3) 「男」と「女」(社会化のメカニズム)について考える
- (4) 「社会福祉」について考える

授業は講義形式で行いますが、VTRなども随時、利用していきます。また、人数によっては、意見・感想を求めたり、ディスカッションしてもらうこともあります。

【評価方法】

試験(レポートor筆記)および出席状況、平常点によって評価します。

【テキスト】

使用しません。

経済学概論

石田好江

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

本講は、日本経済及び国際経済を考える上で必要と思われる基礎理論（考え方）を学ぶことを目的としている。別の言い方をすれば、経済学を学ぶ意義は（あるいは面白さは）、マスコミ等が流す俗説、通説に惑わされず、自分の頭で経済現象を理解する能力を身につけることにあると言える。したがって、現実の経済現象を経済理論でどう説明できるかを常に念頭に置きながらすすめていきたい。

1. 経済学とは何か
2. マクロ経済学の基本概念：国民所得 三面等価の法則
3. 有効需要の理論（その1）：国民所得はどう決まるか
4. 有効需要の理論（その2）：貯蓄と投資
5. 貨幣と信用創造
6. 貨幣の需要・供給と利子率：利子率はどう決まるか
7. 財政・金融政策のメカニズム：IS-LM分析
8. 消費者の行動：限界効用
9. 消費者の行動：無差別曲線
10. 企業の行動：供給曲線
11. 企業の行動：費用のしくみ
12. 市場の取引と市場の失敗

【授業計画】

講義では、フィードバックシートを使用する。一つのテーマが終了した授業の最後に紙を配って、授業についての感想、質問、要望などを自由に書いてもらうものである。

【評価方法】

前半（マクロ経済学部分）、後半（ミクロ経済学部分）の最後に授業内試験を行い、試験答案回収後すぐに回答についての説明を行う。成績は2回の試験の結果で評価する。

【テキスト】

入門 経済学（伊藤元重 日本評論社）

国際経済論

村主英雄

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現在世界経済のグローバル化の一層の進展とともに、各国経済の相互依存関係が深まり一国の経済改革も他国への影響を顧慮せずには実行できない。このような展開を把握するためには、国際経済を動かす基本モデルを正しく理解する必要がある。そのひとつは、国際マクロ経済の分野でGNPなど国民所得の概念とその開放経済体制のメカニズムであり、ふたつ目は比較優位に代表される国際貿易論である。本講義ではこれら二つに重点をおいて授業を行う。

1. 国民所得の諸概念
マクロの需給均衡とGNPの決定
貯蓄・投資バランス
国際収支表の構成原理
国際通貨制度
為替レートの決定
2. 国際貿易の基礎理論
比較優位と国際貿易
国際貿易の利益
生産要素の賦存と国際貿易
製品差別化と独占的競争
3. 貿易政策の理論
自由貿易主義と保護貿易主義
消費者余剰と生産者余剰
4. 国際貿易システムと地域経済統合
GATTからWTOへの発展
地域経済統合の動き

【授業計画】

基本的にテキストによるが、テーマに応じ随時プリントを配布して補う。

【評価方法】

期末テストおよび出席による。定期試験は穴埋めの形式および択一式併用。

【テキスト】

改訂 現代国際経済論（Ⅰ）（Ⅱ）（村主英雄著 自費出版 各分冊500円 計1,000円）

哲学概論 a・b

河邑光夫

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

哲学を一つの専門学科として限定してみるのではなく、ソクラテスのフィロソフィーの精神をうけ、時代を生きながら真理を探究することと解したい。哲学とは隣人との、時代との真摯な対話である。しかし同時に哲学はプラトン、アリストテレスなどのすぐれた原典をもっている。哲学の原典の根本にあるものを説明するが、受講者はそこに人間に共通なものを見出し、ともに考えるようにしてもらいたい。つまりプラトンを通して現代を生きる道を探りたい。

1. ガイダンス

日本の最初の哲学者西周を話し、東洋の日本人が西洋のフィロソフィーを学ぶことの意味を考えたい。

2. ギリシア哲学の立場

古代ギリシア文化を世界史的立場で捉え、インドの宗教や中国の儒教と比較する。

3. ギリシアの自然の哲学とソクラテス

4. プラトンとアリストテレスの哲学

この二大哲学にその後の哲学の原型をみる。

5. アウグスティヌスのキリスト教哲学

6. デカルトの哲学革命

ガリレイ以来の科学革命とデカルト哲学についてべる。

7. カントとヘーゲルの哲学

8. ヘーゲル以後の、現代の哲学

【授業計画】

講義はノートを取りながら聞いてほしい。前期にギリシアを終えたいと思って始めるのですが、プラトンやアリストテレスを現代の我々とつなげて話すようにしているのでつい後期までずれこみ、計画通り進まないことが多い。この点は御容赦ねがいたい。

【評価方法】

哲学は自分で考えないところには存在しない。だから試験はあらかじめ問題を出しておきます。自分で勉強して下さい。哲学的にみてよく書けているかをみます。

【テキスト】

西洋哲学史 (岩崎武雄 有斐閣 1,845円)

下記の科目は、本年度開講しません。

コミュニケーション概論 a・b

コミュニケーション基礎実習1 (研究法)

基礎統計法

コミュニケーション基礎実習2 (統計)

コミュニケーション研究法実習1 (調査法)

コミュニケーション研究法実習2 (面接法)

コミュニケーション研究法実習3 (実験法)

コミュニケーション研究法実習4 (観察法)

プログラム言語

記号コミュニケーション論 1 a・b

臨床コミュニケーション論 3 a・b (精神医学)

記号コミュニケーション論 2 a・b (空間理解)

個人コミュニケーション論 1 a (認知心理学)

記号コミュニケーション論 3 a (言語行動)

個人コミュニケーション論 2 a・b (脳とコミュニケーション)

社会コミュニケーション論 1 a・b (家族・地域・福祉)

個人コミュニケーション論 3 a・b (精神生理学)

社会コミュニケーション論 2 a (対人行動)

視聴覚論

社会コミュニケーション論 3 a・b (情報メディア史)

心理学概論 a・b

社会コミュニケーション論 4 a (イノベーション普及と文化)

臨床コミュニケーション論 1 a (心理療法の基礎理論)

臨床コミュニケーション論 2 a・b (分析心理学)

教育実習

小木曾通男 富安玲子 加藤文子

4年 通年 必修 2単位

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での2週間の教育実習を通じて、教員という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業計画】

それぞれの実習校において、教員としての仕事を行う。

- (1) 学級担任、ホームルーム担任として
朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。
また、学級（ホームルーム）事務を担当する。
- (2) 教科担任として
前半においては、指導教員の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教員の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。
- (3) 特別活動として
学校行事、生徒会活動、H.R活動、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』

教育実習指導

加藤文子 小林春治

4年 前期 必修 1単位

【授業の概要】

教育実習事前指導を通して教育実習生としての心構え教育実習内容の明確化、実習記録の記入等事務的処理能力を学ぶ。また学校教育全般にわたる基本的理解並びに指導技術を体得し、実習後には実習体験をもとに特殊教育の理解をも深める。

【授業計画】

- 1 教育実習の意義と目的
 - ・前年度実習者のアンケート結果
 - ・「先輩からの一言」
- 2 教育実習の内容と方法
 - ・教育実習の領域
 - ・教育実習の方法
- 3 教育実習記録
 - ・記録することの意義
 - ・記録の仕方
- 4 授業研究
 - ・よい発問
 - ・よい板書
 - ・教材・教具の意義、準備の工夫
- 5 教育実習への諸注意
- 6 特殊教育の理解
- 7 まとめ・アンケート実施

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果（実習校の評価を参考）で総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず。
必要に応じて資料を配布する。

教職入門

小木曾通男

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実体を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

【授業計画】

1. 東西の優れた教育者を取りあげ、教育とは何か、教育者とは何かを考える契機とする。
2. 近代市民社会の教育需用の増大と教育養成についてイギリス、アメリカにおける教員養成の概要及び日本における教員養成を歴史的に概観する。
3. 社会構造の変化の著しい現代社会における教員への期待について、地域構造、家族構造、職業構造等の変化に伴い教員の役割の変化と多様化・個性化した保護者・生徒の教員への期待と変化への対応を考える。
4. 中学校、高等学校における望ましい教員像とは何かを学級担任、教科担任、部活顧問、進路指導、生徒指導において各人の体験をもとに考えてみたい。
5. 信頼される教員とはどんな教員か、生徒の人間性の尊重とは何か、生徒との望ましいコミュニケーションのあり方を考えてみたい。
6. 21世紀の教育を担う教員の在り方を求め、社会の進歩と変化に対応する不断の研修と教育技術の開発により、常に新鮮な教育を行う努力は教員にとって不可欠であることを理解する。

【評価方法】

授業中にテキストに添付した用紙に記載する感想文とレポートによる総合評価とする。

【テキスト】

「教職入門」200円

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

教師論

佐藤実芳

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

日本における明治維新以降の教員養成制度について、教員免許・資格、教員に求められていた資質等の歴史を学習する。

多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することによって、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を歩む人材の育成を目指す。

【授業計画】

1. 日本における教員養成の制度
 - (1) 戦前の教員養成
 - (2) 戦後教育改革と教員養成
 - (3) 教職課程の仕組
 - (4) 教員の採用
2. 種々な教師に学ぶ
 - (1) もう一人のクラーク先生
 - (2) 宮澤賢治
 - (3) 個性的な教師
 - (4) 苦悩する教師
 - (5) 養護学校の教師の挑戦
 - (6) 大学生の教育実習
3. 教師物語に学ぶ

【評価方法】

レポート、受講態度などにより総合的に評価する。

教育原理

佐藤実芳

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思いうかべることが多いであろう。しかし学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。本講義では、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
第2回 教育とは何か
第3～5回 人間と教育
- ・動物学からみた人間の特殊性
 - ・人間の成長と環境
 - ・教育の重要性
 - ・人間形成の場
- 第6回 教育の本質
- ・注入主義
 - ・開発主義
- 第7～10回 教育の目的
- ・教育目的とは
 - ・教育目的の歴史の変遷
- 第11回～ 現代の教育

【評価方法】

レポート、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

教育原理－教育の目的・方法・制度－（七訂版）（教師養成研究会編著 学芸図書）

教育思想史

梅村敏郎

2・3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなくて、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあろうが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生は先ずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

【授業計画】

- 1 教育思想史を勉強することの意義
- 2 コメニウス
- 3 ルソー
- 4 ベスタロッチ
- 5 フレーベル
- 6 デューイ

【評価方法】

評価はレポートの提出、あるいは資料持ち込み自由の試験による。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。参考文献は授業中に適宜紹介する。

欧米教育文化史

江藤恭二

2・3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」とは具体的に何を意味するのか、という点に焦点をあて、欧米教育・文化の全体的・構造的な変遷過程に着目しつつ、比較教育史的なアプローチを試みる。

1. 欧米教育文化史の視点と課題
2. 中世後期の欧米教育・文化
3. ルネサンスと宗教改革
4. 近代教育・文化の生誕と展開
5. 啓蒙思想と教育
6. 市民革命期の教育思想

【授業計画】

講義方式、時折、欧米文化に関するVideo教材を用いる。

【評価方法】

試験又は、レポート

【テキスト】

西洋近代教育史（江藤他編 学文社 2,300円）

教育心理学Ⅰ

富安玲子

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達の姿を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。

【授業計画】

1. 教育心理学を学ぶということ
 - ・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 発達について考える
 - ・生涯発達の視点
 - ・障害の意味と発達可能性
 - ・発達段階と発達課題
 - ・認知の発達
3. 学習の過程を考える
 - ・学習の成立過程
 - ・学習における知識の役割
 - ・学習意欲を育てる
 - 外発的動機づけと内発的動機づけ／
 - 原因帰属をめぐって／知的好奇心の喚起
 - 報酬の意味／目標のありかた

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学Ⅱ

富安玲子

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間を発達可能性をもつ存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをする事を目的にしたい。自己意識の発達のプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考え、今日の問題への理解を深めると共に、自分自身の自己形成のプロセスへの関心も深め、自己理解を促進していくことも視野に入れて学んでいく。

【授業計画】

I 教職課程の中での発達の心理学

—発達心理学を学ぶ／発達の心理学から学ぶ—

1. 教育の対象者への理解
2. 教育対象の理解から自己理解へ
3. 発達の可塑性（可変性）の存在と限界
4. 青年期の意味

II 発達と学習

1. 発達を規定する要因
2. 成熟と学習
3. 発達の個人差
4. 発達と教育

III 自己意識の発達

1. 「自分」の諸相
2. 乳児期「自分でない」世界の認識から
3. 幼児前期 第一「反抗」期
3. 幼児後期 自我と他我
4. 児童期 他律的規範への順応
5. 青年期 第二の誕生／アイデンティティの確立
6. 成人期以降

IV 生涯発達の視点と生き方

—自分探しの旅と人間関係

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず

【参考文献・資料】

発達と教育の心理学（神谷・酒井・杉江・富安編 協同出版）

その他は授業の中で紹介する。

障害児の教育

加藤文子

2・3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

障害児についての基本的理解をし、障害児の教育的環境、福祉施設の役割などの実情を理解する。また、就学指導の仕組みを理解し、特殊教育の現状と課題を認識するとともに、基本的には人間尊重の精神を涵養する。

【授業計画】

1 心身障害児の理解

- ・「心身障害児理解のために」VTR視聴（感想文）
- ・心身障害児と家族の関係 VTR視聴（感想文）

2 心身障害児の種類と程度

- ・心身障害児とは
- ・学校教育で対象とする障害児と児童福祉施設で対象とする障害児
- ・視覚・聴覚・肢体不自由・病虚弱児の障害の程度と発生原因
- ・知的障害児の障害の程度と発生原因
- ・言語障害・情緒障害・重度重複障害児の教育的環境

3 心身障害児の早期教育、後期中等教育の重要性

- ・なぜ早期発見、早期教育が必要か
- ・社会自立に向けた後期中等教育の現状

4 心身障害児の就学指導の仕組み

5 心身障害児（者）教育の歴史

- ・心身障害児（者）教育を開拓した人々
- ・心身障害児（者）教育の歴史の変遷

6 まとめ

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・期末試験の成績により総合的に評価する

【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する

教育制度

佐藤実芳

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業計画】

- 第1回 教育制度の意義
- 第2～3回 現代学校教育制度の起源
 - ・大学の成立
 - ・中等学校の成立
 - ・初等学校の成立
- 第4回 学校教育制度の類型
- 第5～6回 外国の学校教育制度
- 第7～9回 日本の学校教育制度
- 第10回～ 教育法規
 - ・教育法規とは
 - ・日本国憲法
 - ・教育基本法
 - ・学校教育法
 - ・学校教育法施行令
 - ・学校教育法施行規則
 - ・その他

【評価方法】

定期試験、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

教育原理－教育の目的・方法・制度－（七訂版）（教師養成研究会編著 学芸図書）

比較教育論

江藤恭二

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

国際化社会の到来に直面した今日、比較教育に対する関心は高まってきている。比較教育学とは、日本を含めた各国の教育の比較研究を通して、わが国の教育の特色や課題を明らかにする研究分野である。できるだけ具体的な問題を取りあげながら、現代の教育課題に迫っていく。

1. 比較教育学の概念と歴史
2. 各国の教育と文化
 - アメリカ ●イギリス ●ドイツ
 - フランス ●中国 ●韓国 etc.
3. 教育問題の比較
 - カリキュラム
 - いじめ問題
 - 女性と教育
 - 教育方法 etc.
4. 世界の中の日本の教育

【評価方法】

試験又はレポート。

【テキスト】

比較国際教育学（石附実編 東信堂 3,500円）

教育課程

渡辺かよ子

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程（カリキュラム）を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

【授業計画】

1. 教育課程についての考え方を歴史的に考察する。
 - (1) ヨーロッパにおける教育課程の歴史的概観
 - (2) 日本の江戸時代における教育課程の概観
 - (3) 明治以降の日本の近代教育における教育課程の概観
2. 現代の欧米諸国における教育課程の概観
3. 第二次世界大戦後の日本の教育課程の変遷の概観
4. 現在の日本の教育課程の考え方
 - (1) 中学校の教育課程の構造と教育目標
 - (2) 高等学校の教育課程の構造と教育目標
5. 生きた授業のための望ましい教育課程の展開

【評価方法】

レポート、学期末試験

【テキスト】

【新版】カリキュラム研究入門（安彦忠彦編 勁草書房）

【参考文献・資料】

中学校学習指導要領（文部省）
高等学校学習指導要領（文部省）
学びのためのカリキュラム論（グループ・ディダクティカ編 勁草書房）
教育課程 カリキュラム入門（柴田義松 有斐閣）
“実践に学ぶ” 特色ある学校づくり 全6巻（教育開発研究所）

国語科教育法 I

佐々木亜紀子

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

中学校学習指導要領には、「国語」の教科目標として、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。」とある。この目標を正しく理解して、高等学校あるいは中学校生徒にいかにか教えるかを考える授業にしたい。具体的には、教材研究の方法、学習指導案の作成方法、板書方法、授業の進め方、評価の方法などを学び、教育現場に対応し得る力を養う。

【授業計画】

- 1 講 導入
国語科教育の概観
新・学習指導要領における国語科教育の目標
- 2 講 学習指導案の作成方法
- 3～5 講 「論説文」（中学校）の学習指導
（教材研究・指導案・授業・評価などの方法）
- 6～8 講 「評論」（高等学校）の学習指導
（同上）
- 9・10 講 古典導入教材の学習指導（中学校）
（同上）
- 11・12 講 古典導入教材の学習指導（高等学校）
（同上）

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点、及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

実践の国語科教育法—新・学習指導要領準拠—（原國人編 新典社 2,000円）

【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 国語編
中学校学習指導要領解説 国語編

国語科教育法Ⅱ

佐々木亜紀子

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

中学校学習指導要領の趣旨に沿って、中学校において、国語を正確に理解し、適切に表現する能力を高めるためにどのような授業を行えばよいのか、中学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

【授業計画】

1 講 導入

新・学習指導要領における中学校の国語科教育

2～4 講 「論説文」教材の学習指導

(教材研究・指導案・授業・評価などの方法と模擬授業)

5～8 講 「物語」「小説」教材の学習指導

(同上)

9～12 講 「詩」「俳句」「短歌」教材の学習指導

(同上)

13 講 「言語活動例」を用いた学習指導

(同上)

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点、及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

実践的国語科教育法—新・学習指導要領準拠—
(原國人編 新展社 2,000円)

【参考文献・資料】

中学校学習指導要領解説 国語編

国語科教育法Ⅲ

佐々木亜紀子

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

高等学校学習指導要領の趣旨に添って、国語への関心を高め、表現力を伸ばし、日本の文化と伝統について理解を深める総合的な国語教育の在り方を求め、高等学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導方法を研究する。

【授業計画】

1 講 導入

新・学習指導要領における高等学校の国語科教育

2 講 『国語表現』の学習指導

(教材研究・指導案・授業・評価などの方法と模擬授業)

3 講 『国語総合』現代文教材の学習指導

(同上)

4～8 講 『国語総合』古文教材の学習指導

(同上)

9～13 講 『古典』漢文教材の学習指導

(同上)

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

実践的国語科教育法—新・学習指導要領準拠—
(原國人編 新展社 2,000円)

【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 国語編

英語科教育法Ⅰ

松本青也

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

中学校及び高等学校の学習指導要領に準拠し、英語教育法について目的論、技能論、方法論を中心にして、日本における英語教育の歴史、諸外国における言語政策と英語教育、マルチメディアを活用した英語教育等の話題を含めて、英語教育の在り方を考察する。

【授業計画】

1. 目的論：問題提起。コミュニケーション能力
2. 学習指導要領。学校英語教育の目標
3. 異文化と国際理解
4. 機能論：Sound
5. Listening
6. Speaking
7. Reading & Writing
8. 方法論：教授法の歴史（日本）
9. 教授法の歴史（外国）
10. 外国語教授理論
11. 新しい教授法
12. マルチメディア利用の可能性と課題
13. 〈模擬授業〉指導過程の構成
14. まとめ：これからの英語教育
15. テスト

【評価方法】

テストの成績、学習態度、出席状況等による総合評価。

【テキスト】

自作教材。

英語科教育法Ⅱ

宮田 修

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

中学校学習指導要領の趣旨に沿って、特に必要性が高まっている国際理解とコミュニケーション能力を育成するためには、中学校において、どのような授業を行えばよいのか、中学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

【授業計画】

2時間：学習指導案の書き方と実際の授業。

1時間：中学校の授業の進め方、テクニックをビデオを用いて研究。

10～11時間：班ごとに模擬授業を行い、コミュニケーション能力を育成する効果的な授業方法を研究する。

数名で一つの班を構成し、中学校の教科書の中から適切な教材を選び出し、50分の授業を行う。準備は教材選びから始まり、各班ごとに授業の進め方を研究し、学習指導案を作成する。授業実践のあと授業を批評しあい、よりよい授業を工夫していく。

【評価方法】

出席状況、模擬授業の取り組み方、研究態度を大きく評価する。さらにレポートを課し、学習指導案の作成、授業研究を評価する。試験は実施しない。

【テキスト】

なし。

英語科教育法Ⅲ

宮田 修

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

高等学校学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力を育成することに主眼を置いて、生徒の多様化した高等学校において英語教育を効果的に行うにはどのようにするか、高等学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

【授業計画】

2時間：学習指導案の書き方と実際の授業。

1時間：高等学校の授業の進め方、テクニックをビデオを用いて研究。

10～11時間：班ごとに模擬授業を行い、コミュニケーション能力を育成する効果的な授業方法を研究する。

数名で一つの班を構成し、高等学校の教科書の中から適切な教材を選び出し、50分の授業を行う。準備は教材選びから始まり、各班ごとに授業の進め方を研究し、学習指導案を作成する。授業実践のあと授業を批評しあい、よりよい授業を工夫していく。

【評価方法】

出席状況、模擬授業の取り組み方、研究態度を大きく評価する。さらにレポートを課し、学習指導案の作成、授業研究を評価する。試験は実施しない。

【テキスト】

なし。

公民・社会科教育法Ⅰ

小林春治

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

中学校社会科の公民的分野を視野にいれて、高等学校学習指導要領（公民科）の構造とその目的を学習し、民主主義社会の担い手としてふさわしい資質の育成を目指す。

「現代社会」の授業においては、中学校社会の公民的分野を發展させて、現実的・具体的な問題を取り上げるとともに、高等学校教科書（現代社会）を使用して、学習指導案の作成、模擬授業の実施によって、具体的・実践的な指導を行う。

【授業計画】

1. 公民科設置の趣旨と基本理念に基づいて、「公民の概念」と「公民としての資質」を育む公民教育について、中学校公民分野との関連にも留意し学習する。
2. 「総合的な学習」を視野にいれ、特に「現代社会」の新しい課題として平和教育、人権教育、環境教育を取り上げ具体例に基づいて考察する。
3. 「現代社会（公民科）」の年間指導計画と学習指導案の作成について学習する。
4. 各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、授業の在り方を考察する。

【評価方法】

小テスト、学習指導案、模擬授業の評価及び出席率を総合する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説 公民編（文部省 実教出版 予価 230円）

現代社会（高等学校教科書 一橋出版 予価 760円）

公民・社会科教育法Ⅱ

小林春治

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

「倫理」及び「政治・経済」の学習を通して、深い洞察力をそなえた民主的な行動の実践を行える人間の育成をめざす。

「倫理」及び「政治・経済」の授業においては、特に今日的な問題を取り上げるとともに、高等学校教科書（倫理、政治・経済）を使用して、学習指導案の作成、模擬授業の実施によって、具体的・実践的な指導を行う。

【授業計画】

1. 学習指導要領が目指す高等学校公民科の「倫理」及び「政治・経済」の目標と内容について概説する。
2. 生涯学習にも深いかかわりをもつ自己指導能力の育成を目的とする「倫理」と、現代における政治、経済、国際関係等の諸課題について公正な判断力を養うことを目標とする「政治・経済」について中学校公民分野との関連にも留意しつつ、具体例に基づいて考察する。
3. 「倫理」及び「政治・経済」の年間指導計画と学習指導案の作成について学習する。
4. 各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、創造的な授業の在り方についても考察する。

【評価方法】

小テスト、学習指導案、模擬授業の評価及び出席率を総合する。

【テキスト】

政治・経済（高等学校教科書 教育出版 予価 240円）
倫理（高等学校教科書 教育出版 予価 450円）

道徳指導法

加藤文子

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探究する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実際についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

【授業計画】

- 1 道徳と道徳教育
- 2 児童・生徒を生かす道徳教育
- 3 公教育における道徳教育の歴史
 - ・明治5年学制公布から明治23年教育勅語発布までの過程
 - ・戦後の道徳教育の変遷
- 4 道徳性の発達理論と学校道徳教育
- 5 学校における道徳教育の実際
 - ・道徳教育の目標
 - ・道徳教育の内容
 - ・「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
 - ・「道徳の時間」の指導の実際 VTR視聴
 - ・まとめ

【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する。

特別活動指導法

小林春治

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察する。

そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

【授業計画】

1. 教育課程の位置と目標

特別活動は、各教科、道徳とともに教育課程を構成する領域の一つであり、これらそれぞれの充実と相まって、中学校・高等学校の教育目標を達成することができることを学習する。

2. 戦後の教育状況と教育改革

敗戦直後の教育状況と教育基本法・学校教育法の施行（六・三・三制の実施）にいたる大要を、GHQのとった教育政策にも注目しながら学習する。

3. 特別活動の変遷

特別活動の変遷を中学校・高等学校の学習指導要領を通して論じ、その社会的背景についても具体的な資料に基づいて学習する。また、平成12年度から移行措置がとられている新しい学習指導要領にも言及する。

4. 特別活動の基本となる指導法

中学校の学級活動、高等学校のホームルーム活動が、生徒会活動、学校行事などと相互に関連していることの学習を通して、これらの集団生活の在り方、心身ともに健康で安全な生活習慣の形成などを基本にした指導法を、現状にも注目しながら考察する。

【評価方法】

期末試験の成績とレポートの評価及び出席率を総合する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説 特別活動編（文部省 東山書房 予価 130円）

学級経営

小木曾通男

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きした学級作りを具体的な事例から求めていきたい。

【授業計画】

1. 学級（ホームルーム）の歴史的外観

明治以来今日まで、学級（ホームルーム）がどのように位置づけられてきたかを、欧米と比較しながら概観する。

2. 学級（ホームルーム）の編成

現在の中学校・高等学校の学級（ホームルーム）の編成は、どのように行なわれているか、その長所と短所は何かを学習する。

3. 学級（ホームルーム）の組織と活動

現在の中学校・高等学校の学級（ホームルーム）の組織と役割について、様々な事例を取り上げ学習する。

4. 学級（ホームルーム）担任の仕事

- (1) L T S Tの運営
- (2) 生活指導
- (3) 進路指導
- (4) 教育相談

【評価方法】

授業時に提示する感想文、小テスト及びレポートによる総合評価

【テキスト】

必要な資料をその都度配布する

【参考文献・資料】

その都度指示する

教育方法

霜田一敏

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

今日親も教師も子どもの本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、一人一人の子ども理解を深め、子どもの立場に立って教材を開発し教育課程を組み、授業を構想して実践できる力量が求められている。そのような力量を培う教育方法を解明する。

I. 人間回復の学力と教師のあり方を学力論と教師論の検討から具体的に明らかにする。更に、II. 子どもの思考の発展をめざす授業 III. 自主的な学習を育てる学習指導 IV. 子どもの側に立つ指導技術 V. メディアの進歩と新しいリテラシーの育成 VI. 個を生かす学習集団等について学習者の立場に立って、幅広く教育方法を究明したい。

【授業計画】

テキストを中心に、ビデオ教材や学生同士の討議を入れた参加型授業形態で行う。学生からのミニレポートによる授業評価を生かしながら講義を進めたい。

【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

【テキスト】

子どもの側に立つ授業論（霜田一敏著 明治図書 2,370円）

学習メディア論

東浦信博

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

わが国の教育においても、従来の視聴覚教育機器からマルチメディア教育機器やネットワークメディア利用の学習まで多様なメディアが活用されている。主要な教育メディアや教育技術の新展開について、その背景となる学習理論やメディア自体のメカニズム・特性、ときには学習事例などもあげて学ぶ。

【授業計画】

1. 学習とは（学習とは何か、学習の定義、学習理論、学習条件、主体的学習など）
2. 学習とメディア（学習者－学習素材・教材のコミュニケーションメディア）
3. メディア各論（集団学習と個別学習、音声・映像・音声映像・コンピュータ・マルチメディア）
4. 遠隔地とのコミュニケーション（通信ネットワーク [=インターネット] による学習）
5. メディアリテラシー（21世紀におけるメディア活用の技術は人間生活の基本技術となる。この技術の欠如は文盲にたとえられる時代がくる。）
講義中心であるが、可能な限り実物を用意する。OHP、ビデオを多用する。

【評価方法】

ノート持ち込み可による論述式定期試験。

【テキスト】

なし。

生徒指導（進路指導を含む）

加納篤憲

2年 前・後期 必修 2単位

【授業の概要】

生徒指導を生徒の管理監督、青少年非行の防止といった消極的な視点からとらえるのではなく、正しい人間観（生徒観）に基づいて生徒の健全な育成、個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導を基本とする。なかでも進路指導については、その理念及び目的を、学習指導要領に基づいて具体的に学習する。こうした学習をとおして生徒に接する教師の在り方についても具体例を示して指導する。

【授業計画】

1. 旧約聖書・新約聖書における人間観（アダムとイブなど）、カントの人格主義における人間観、法然・親鸞はじめその他先哲の人間観を学習する。
2. 戦前の「修身・教育勅語」、昭和初期にはじまる「軍国主義教育」の生徒指導と戦後の「民主主義教育」による生徒指導に視点をあて、その歩みを概観する。
3. 現代社会における社会構造の変化に注目し、社会学的視点から新しい教育観と社会集団のもつ教育機能の変質のなかで、生徒指導が果たす役割を青少年非行と矯正教育の現状にも注目しながら、中学校・高等学校における教育の現状と問題点を考える。
4. 進路指導の基本理念及び目的と内容を学習するなかで、中学校・高等学校における進路指導の現状と問題点に触れながら教師の在り方を、教育相談・カウンセリング・進路情報などを通して、具体的に学習する。

【評価方法】

期末試験の成績と小テスト、レポートの評価及び出席率を統合する

【テキスト】

生徒指導講義ノート（小木曾通男編 250円）

教育相談（カウンセリングを含む）

富安玲子

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心に情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 教師と生徒の人間関係
 - ・「自分」は他者との関係の中で育つ
 - ・教師－生徒の相互影響過程
 - ・生徒理解
3. 教育相談
 - ・学校における教育相談
教育相談の位置づけ
教育相談の特質
 - ・教育相談の進め方
カウンセリングの基礎
4. 学校という生活環境と適応
 - ・適応と不適応
 - ・問題行動のとらえ方とその対応
 - ・学校への不適応を考える
 - ・非行へ・いじめを考える

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

総合演習

梅村敏郎 加藤文子 小木曾通男 小林春治 佐藤実芳
霜田一敏 富安玲子 東浦信博 渡辺かよ子

集中 3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次のテーマ担当者で演習を行う。

- ① いじめ問題 (梅村敏郎)
- ② 福祉—障害のある人も健全な人も共に生きるコミュニティについて— (加藤文子)
- ③ 学校教育における環境教育の在り方 (小木曾通男)
- ④ 人権という権利 (小林春治)
- ⑤ 社会と子育て (佐藤実芳)
- ⑥ 高齢者福祉の実態と将来 (霜田一敏)
- ⑦ ジェンダーと教育 (富安玲子)
- ⑧ 情報化時代の学習について (東浦信博)
- ⑨ 生涯学習における学校 (渡辺かよ子)

【授業計画】

- ① 8月2日 (木)
 - (1) 総合演習とは、これからの進め方 (希望テーマの提出)
 - (2) テーマ別に学習内容と方法の指導
- ② 9月10日 (月)
課題レポート (A4 1枚以上) の提出
- ③ 9月17日 (月)
 - (1) テーマ別に学習内容の発表と指導
 - (2) 全体発表者の選出
- ④ 9月26日 (水)
 - (1) 各テーマ代表者の発表 (15分程度)
 - (2) 各テーマ指導教員の講評 (15分程度)
 - (3) 全体講評

【評価方法】

提出レポートと出欠による

【参考文献・資料】

各テーマ毎に指導する

教育実習指導 (介護体験事前指導を含む)

加藤文子 小林春治

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業計画】

- 1 教育実習の意義と目的
 - ・ 前年度実習者からのアンケート結果
 - ・ 「先輩からの一言」
- 2 教育実習の内容と方法
 - ・ 教育実習の領域
 - ・ 教育実習の方法
- 3 教育実習記録
 - ・ 実習記録の意義
 - ・ 実習記録の方法
- 4 授業研究
 - ・ 教材研究、教具の意義
 - ・ 学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
- 5 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
- 6 介護体験事前指導
 - ・ 社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念
 - ・ 特殊教育諸学校教育の理解
 - ・ 障害児 (者) 介護への心構え
- 7 介護体験事後指導
- 8 まとめ、アンケート実施

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果 (実習・体験評価を参考) により総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布
介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」(全国特殊学校長会編著 ジアーズ教育新社)

生涯学習概論

渡辺かよ子

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

生涯教育ないしは生涯学習とは、従来の学校教育・家庭教育・社会教育を垂直的・水平的に統合してとらえ、生涯発達を支援しようとする教育学の一分野である。本講義では、生涯教育ないしは生涯学習に関する理論、ならびに各国における生涯学習の実態と問題点の理解を通じて、人間が学ぶことの社会的意味、生涯発達と自己形成における生涯学習の意義を概説し、社会教育施設の独自の教育的役割とその可能性を論究する。

【授業計画】

- 第1-2講 オリエンテーション、生涯学習の理念
- 第3-5講 社会教育の伝統と生涯学習の現状(先進国、発展途上国、日本)
- 第6-7講 現代日本の学習機会と生涯学習に関する法制
- 第8-11講 生涯発達と生涯学習の内容と方法
- 第12-13講 生涯学習における教養・人権と社会改革
- 第14講 生涯学習の今後の課題、総括

【評価方法】

平常レポート、書評、学期末試験。

【テキスト】

生涯発達と生涯学習 (麻生誠・堀薫夫 放送大学教育振興会)

【参考文献・資料】

- 社会教育基礎論 (小林文人・末本誠編 国土社)
- 苦悩する先進国の生涯学習 (黒沢唯昭他編 社会評論社)
- 生涯教育 (ジェルビ 東京創元社)
- 被抑圧者の教育学 (フレイレ 亜紀書房)
- 国際成人教育論 (ポーラ 東信堂)
- 高齢者教育論 (松井政明他編 東信堂)
- 「わざ」から知る (生田久美子 東京大学出版会)
- 学びの復権 (辻本雅史 角川書店)
- 学問のすすめ (福沢諭吉 岩波文庫)
- 水と原生林のはざままで (シュヴァイツェル 岩波書店)
- 大学改革と生涯学習 (宮坂広作 明石書店)
- 消費社会の神話と構造 (ボードリヤール 紀伊国屋書店)
- ハマータウンの野郎ども (ウィリス ちくま文芸文庫)

国際理解教育論

小木曾通男

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような教育経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。中学校、高等学校の日常的な教科指導、特別教育活動等において、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

【授業計画】

1. 日本の近代化の過程における外国文明の摂取について、次の視点から考察する。
 - (1) 海外留学生の派遣と帰国後の活躍
 - (2) 外国人教員の雇用とその教育への影響
 - (3) 技術伝習による日本の産業の近代化
2. 現代の学校教育における国際化について次の視点から考察する。
 - (1) 教科教育における国際理解教育
 - (2) 特別活動、学校教育における国際理解教育
 - (3) 海外留学生の派遣と海外からの留学生の受け入れ
 - (4) 外国人英語教育の雇用とその役割
3. 現在の日本の国際化の現状を分析し、真の意味での日本の国際化について、教育の視点から考察する。
(授業において、皆さんの体験を踏まえて具体的な事例について、ともに考えて行きたい)

【評価方法】

授業中に課す「感想、意見」の提出及びレポートにより総合評価を行なう。

【テキスト】

国際理解教育論講義概要 (300円)

【参考文献・資料】

授業中にその都度紹介する。

読書指導

梅田卓夫

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

今日の中高生は全くという程本を読まないといわれている。この実態を解明するために、本好きになった要因や本嫌いになった原因をまず明らかにしたい。そこで漫画本や少女小説が読書好きにさせるかなど具体的な問題も取り上げたい。本講義は、読書指導法の講義ばかりでなく、受講者自身が読書好きになるような参加型授業にしたい。特に学校内における制約のない読書の時間、「黙読の時間」や「自由選択読書の時間」などの実例を取り上げ、その実体と教育的な意義を論究する。

【授業計画】

1. 読書のよろこび
人はどのようにして読書の楽しみと出会うか
先人たちの例、受講者自身の場合
2. 人間形成と読書
読み聞かせの意味—幼児期の精神形成との関わり
黙読の意味—読書の本質。内言語・内省・思索の能力と読書
学校の中の読書指導—「読み聞かせ」「10分間読書」
「朝の黙読」などの実践例
他人による助言—家庭、学校、図書館、読書の友、
読書サークル
3. 読書の技術
情報化時代の読書—探す・調べる・読む・考える
本を読む生活—愛読書、「書物の敵」
4. 文化史の中の書物
古代アレキサンドリア大図書館から今日まで「英知の容れ物」に関わった人間の営み

【評価方法】

授業の中で与えるテーマに沿っての小レポート、および期末試験、によって行う

【テキスト】

本の歴史（B. ブラセル著、荒俣宏監修、木村恵一訳 創元社）

ほかに適宜プリントを配布する

学校経営と学校図書館

小木曾通男

集中 3・4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功事例を紹介し学習する。

【授業計画】

- (1)学校図書館の管理運営組織
 - ①生徒の利用時間の設定
 - ②生徒への図書等の貸し出し方法
 - ③長期休業期間中の開館状況
- (2)魅力ある学校図書館について
 - ①生徒が親しみやすい雰囲気の学校図書館
 - ②学校図書館の図書・資料等の整備拡充
 - ③生徒が利用しやすい学校図書館経営
- (3)学校図書館と生徒会活動の連携
 - ①生徒会図書委員会の組織と活動
 - ②読書週間、読書コンクール、図書館だより
 - ③学校図書館の利用PR活動
- (4)学校図書館の充実
 - ①PTA組織を活用した寄贈図書等
 - ②地域社会への呼びかけによる寄贈図書等
 - ③関係機関への呼びかけによる寄贈図書等

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

学校図書館メディアの構成

中村和夫

集中 3・4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

【授業計画】

- (1)児童生徒が喜んで利用するメディア構成
 - ①現在の学校図書館のメディア構成の実態の分析
 - ②児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の蔵書選定
 - ③児童生徒の学校図書館に期待するものは何か
- (2)教育課程にマッチしたメディア構成
 - ①教養中心から教科学習に必要なメディアの収集
 - ②「総合学習の時間の学習」の視点からのメディア構成
 - ③「情報」「オーラル英語」等の新しい教科科目の教材
- (3)情報化時代にふさわしいメディアの特質の理解
 - ①ビデオ、DVD、CD等の視聴覚的メディア
 - ②CDRom、マイクロフィルム等の活字メディアに代わるもの
- (4)学校図書館の資料分類と目録
 - ①分類の意義と必要性、分類表の構造、日本十進分類表の使い方
 - ②目録の意義と種類、目録規則、目録作業の基本

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

学習指導と学校図書館

加納篤憲

集中 3・4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

学校図書館は、児童生徒の豊かな人間性の育成に貢献することが必要であるのは論をまたないところであるが、同時に、学校における学習指導に深くかかわるものであることを看過してはならない。学習指導に効果的な学校図書館のあり方やその活用方法について、教育実践例に基づいて、次の視点に立って学習する。

【授業計画】

- (1) 学習活動を促進する学校図書館
 - ① 利用しやすい本や資料の配架の工夫
 - ② 教科・科目別の配架、コーナーの設定
 - ③ 教科・科目に関係のある本や資料の充実
- (2) 学習指導と学校図書館の利用
 - ① 各教科・科目の課題学習と学校図書館の利用
 - ② 学校図書館を利用した共同研究・グループ研究
- (3) 各教科・科目の学習指導
 - ① 学校図書館を利用する各教科・科目の課題学習
 - ② 学校図書館を利用する各教科・科目の予習課題
- (4) 新設された「情報」の学習指導
 - ① 「情報」における学校図書館の活用方法
- (5) 新設された「総合的な学習の時間」
 - ① 「総合的な学習の時間」における学校図書館の役割
 - ② 学校図書館を利用した「総合的な学習の時間」におけるテーマ別学習、課題学習、グループ学習の展開

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

読書と豊かな人間性

梅田卓夫

集中 3・4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な事例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

【授業計画】

- (1) 読書のよこび
 - ① 人はどのようにして読書の楽しみと出会うのか
 - ② 代表的な先人の読書経験から学ぶもの
 - ③ 受講者自身の学校図書館での本との出会い
- (2) 人間形成と読書
 - ① 幼児期における読み聞かせの教育的意味
 - ② 少年期の決定的・運命的な読書との出会い
 - ③ 読書における、内省、思索の意義
- (3) 学校教育における読書指導
 - ① 教員による本の紹介、読み聞かせ
 - ② 「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
- (4) 読書と仲間作り
 - ① 家庭での読書についての親子の対話
 - ② 友達同士の読書グループ、読書会
 - ③ 学区図書館を利用した共同研究
- (5) 読書の技術
 - ① 情報化時代の読書のあり方
 - ② 愛読書、好きな作家

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

情報メディアの活用

東浦信博

集中 3・4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

【授業計画】

- (1)学校図書館と情報機器
 - ①学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
 - ②学校図書館に設置する情報機器
- (2)学校図書館とコンピュータとの関わり
 - ①図書検索とコンピュータ (OPAC)
 - ②インターネットを使用する資料の収集
- (3)学校図書館の情報メディアの活用
 - ①視覚メディアとしてのVTR等
 - ②聴覚メディアとしてのDVD、CD等
 - ③活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

生涯学習概論

古野有隣

集中 3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

生涯学習という言葉は最近かなり知名度が高くなってきているが、その意味や意義については必ずしも正確に理解されているとはかぎらない。

この講義では生涯学習の意味するところを、その理念の提唱時からの推移の説明をまじえて、理解を深めることをねらいとしたい。また、先の長い人生を持っている自分にとって生涯学習とは何なのかを考える契機となればとも思っている。

1. 生涯教育の理念～推移を含めて～
ユネスコ以降わが国における推移
生涯教育のめざすもの
生涯教育と生涯学習の関係
2. 生涯教育と社会教育・学校教育との関係
生涯教育と社会教育
生涯教育と学校教育
3. 社会教育の内容・方法・形態
行政社会教育の主要領域
社会教育の内容・方法・形態
4. 生涯学習関連施設の現状と展望
生涯学習関連施設の範囲
社会教育施設の種類と現状
5. 生涯学習指導者
生涯学習指導者の範囲
生涯学習指導者の役割

【授業計画】

講義。

【評価方法】

テスト。

【テキスト】

資料集（予価500円）を開始時に頒布。

図書館情報学概論 a・b

村主朋英

1年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学分野の世界への入り口となる科目である。前半は、図書館情報学における基本的な考え方について論ずる。後半は、情報に関する研究の世界や図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

【授業計画】

0. オリエンテーション：分野と専門、学術と実務
1. 情報や知識をどのように捉えるべきか
2. 情報の流通過程
3. 情報と知識の研究と実務に関わる分野
4. 図書館・情報サービスにおける機能と構造
5. 情報サービスと人間
6. まとめ：人とメディアのつくる宇宙の中で

【評価方法】

前期：定期試験

後期：定期試験と夏休みレポート

※なお「図書館情報学概論 a」の単位を取得済でない学生については、「同 b」の単位は認定しない。また、前期末に夏休みレポート課題を提示するので、今年度「同 b」のみ履修予定の学生は問い合わせること。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典（日本図書館学会用語辞典編集委員会編 丸善 税別定価 3,800円）

図書館経営論

山本 進

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

図書館の技術的な面—分類・目録等—資料組織とは別に図書館運営上の諸問題—司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

【授業計画】

- 0.オリエンテーション・図書館の経営論の意義 …… 1回
 - 1.図書館館種別の経営上の問題点と管理原則 …… 1回
 - 2.図書館学の五法則と図書館員の関わり …… 1回
 - 3.図書館の自由に関する宣言 …… 2回
 - 4.図書館員の倫理綱領 …… 2回
 - 5.図書館員と労働基準法解説 …… 1回
 - 6.図書館関係法規と図書館の基準解説 …… 1回
 - 7.図書館サービスの測定と評価（実例課題によるレポート提出）1回
 - 8.図書館計画の立案と実例解説 …… 2回
 - 9.生涯学習と図書館及び利用者教育 …… 2回
- ※講義の中から関心のある事項についてのレポート提出 …… 2回

【評価方法】

期末テスト実施—記述式、前期全体の講義の中から問題を2～3問と、提出されたレポートと記述試験の採点とを併せて評価する。

【テキスト】

講義レジュメを配付する。

情報サービス基礎論 a・b

逸村 裕

2年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

図書館で行われる情報サービスには幅広いものがある。また、これらのサービスはその対象、館種、主題、規模ごとに多くの特徴を持つ。さらに今日、伝統的な図書館サービスに加え、情報技術の普及発展に伴う新たな対応を迫られている。

これら図書館情報サービスの紹介と評価の視点から講義を行なう。

前後期は連続する内容である。

1. この講義の対象と範囲
2. パブリック・サービス（奉仕—直接サービス）
 - A. 貸出閲覧
 - B. レファレンス
 - C. 相互協力
 - D. 視聴覚資料
 - E. パブリックサービスの今後
3. テクニカル・サービス（資料組織—間接サービス）
 - A. 選書
 - B. 収書
 - C. 整理
 - D. 雑誌
 - E. テクニカルサービスの今後
4. 評価の視点から見た情報サービス
 - A. 蔵書
 - B. 人的サービス
 - C. その他のサービス

【授業計画】

講義中心に行う。適宜、小テスト、レポートを課すインターネット講習会を受講しておくこと

【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による評価。詳細は初回講義の際に説明する。

【テキスト】

使用せず。

レファレンスサービス論

長澤雅男

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

図書館における情報サービスという広い観点から情報提供の問題を解説するが、とりわけレファレンスサービスを重点的に取り上げ、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセスのあり方について理解を深めることを主な目的とする。この科目は、「レファレンスメディア論」と相互に補完するものとして扱う。講義を中心に進める。

【授業計画】

1. 情報ニーズに応える情報サービス
2. レファレンスサービスから情報サービスへ
3. レファレンス機能に基づくレファレンス業務
4. レファレンスサービスのための情報源
5. レファレンスプロセス
6. 質問の受付から内容の確認へ
7. 質問内容の分析から探索の実行へ
8. 質問回答とレファレンスプロセスの終結
9. レファレンスサービスの組織と運営

【評価方法】

期末試験（多肢択一式問題）を予定しているが、出題形式については、試験日の1、2週間前に改めて説明する。

【テキスト】

レファレンスサービス—図書館における情報サービス
(長澤雅男 丸善 2,369円)

レファレンスメディア論

長澤雅男

2年 前・後期 必修 2単位

【授業の概要】

レファレンス質問の処理に役立つ情報源の種類とその特性を理解し、情報と文献の探索技術を習得できるようにするため、各種の参考図書、データベース等、探索ツールとしての印刷メディアと電子メディアの特性を解説したうえで、質問事例を用いて情報および文献の探索方法について演習を行う。

【授業計画】

1. レファレンスサービスにおける情報源／問題解決と情報源／記録メディア／参考図書とデータベース
2. 参考図書・データベース関係の情報源／参考図書の解題書誌／書誌の書誌／データベースディレクトリ
3. 図書・叢書関係の情報源／書誌／目録（所蔵目録、総合目録）／叢書合集索引
4. 逐次刊行物関係の情報源／逐次刊行物リスト／新聞雑誌記事索引／抄録誌
5. 人物・団体関係の情報源／人名事典／名鑑／人物文献索引
6. 歴史関係の情報源／歴史事典／年表／年鑑類
7. 地理関係の情報源／地名事典／地図帳／地名索引
8. 事物・事象関係の情報源／事典／便覧類／図鑑類
9. 言語・文字関係の情報源／国語辞書／特殊辞書・諺語辞書／用語索引・詩歌索引
講義と演習（主として時間外に問題回答演習を行い、レポートを提出）。

【評価方法】

レポート、期末試験（出題形式は試験日の1、2週間前に説明する）の総合評価。

【テキスト】

情報と文献の探索 第3版（長澤雅男 丸善 3,296円）

情報検索演習B

逸村 裕 廣田 慈子

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。また、索引語の付与と抄録の作成による書誌レコード作成過程も習得する。さらに、検索効率やユーザー・インタフェースの検討とともに、各自の情報ニーズに基づくテーマ検索の結果も検討し、システムの評価方法を学ぶ。

1. 情報検索とは

蓄積と検索/索引作業/検索効率/探索コマンドの標準化

2. オンライン情報検索システムとCD-ROM

各種データベースの特徴/検索方法（メニューとコマンド）

3. DIALOGの検索（その1）

通信方法/デモンストレーション（DIALOG）/論理演算子/基本的な検索コマンド

4. DIALOGの検索（その2）

トランケーション/近接演算子/ストップワード/二次検索/フィールド指定子

5. DIALOGの検索（その3） 検索語の列举/著者名検索

6. JOISの検索

7. 索引・抄録作成作業

索引語の付与とシソーラス/抄録作成の基準（SIST-01）

8. システム評価（DIALOGとJOISの比較）

9. テーマ検索（DIALOGとJOISの活用）

10. 各種システムとDBのデモンストレーション

STN-International/PATOLIS/日経ニューステレコン/MEDLINE/各種CD-ROM

【授業計画】

8号棟情報検査室で実習を中心に進める。実習助手も指導に加わり、受講生の理解度を確認しながら進める。「インターネット講習会」を受講しておくこと。

【評価方法】

サブテーマごとに小テストを行う。また各自のテーマ検索での結果をまとめたレポートも評価の対象とする。

【テキスト】

なし（プリント配布）。

情報メディア論V（科学技術情報メディア）

山崎 茂明

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

自然科学領域における二次情報源としての文献データベースと一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。文献データベースの理解は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。また、学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。

1. 文献情報の世界

2. 文献調査

3. 医学情報へのアプローチ

4. 文献データベースの世界

5. 癌領域のデータベース

6. 引用索引データベース

7. 学術雑誌の歴史と生態

8. 総合科学雑誌とはなにか

9. レビュー誌とレター誌の重要性

10. 電子ジャーナルと電子出版

11. 電子情報環境と電子メディア（データベース、一次雑誌）

参考資料：

Lambert, J.『電子時代の学術雑誌』日本図書館協会

Thompson, J.W.『出版産業の起源と発達』出版同人

中山茂『歴史としての学問』中央公論社

山崎茂明『生命科学論文投稿ガイド』中外医学社

【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

【評価方法】

期末レポート、小レポート（授業時間内）。

【テキスト】

医学文献サーチガイド第2版（山崎茂明 日本医書出版協会）

資料組織論

伊藤真理

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と主題分析について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。

目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

【授業計画】

回	講義内容
1	ガイダンス 資料の組織化；資料組織業務の位置づけ
2	目録について
3	書誌コントロール 書誌ユティリティ；全国書誌
4	目録規則の標準化，統一 主なMARCの種類
5	記述目録と主題目録 記述目録（1）AACR 2r, NCR
6	記述目録（2）アクセス・ポイントの選定； 標目形
7	記述目録（3）；典拠管理
8	主題目録（1）分類法
9	主題目録（2）NDC, LCC, DDC, UDC 図書記号法
10	主題目録（3）件名標目表：NDLSH, BSH, LCSH
11	MARC
12	インターネット情報資源：CORC インターネット情報資源の記述：Dublin Core

【評価方法】

平常点，小テスト，期末試験

【テキスト】

テキストは特に指定しない（プリント配布）

資料組織演習

岡澤和世

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

人間が他の動物と決定的に異なる点は、人間が時間と空間を越えて、情報を蓄積して、必要な時に再現する能力を持っていることである。それを体内（脳）だけでなく、体外の貯蔵庫（図書館）に蓄えることを学んだことである。もう一つ特筆すべき人間の知恵は、その体外貯蔵庫の中身を簡単に再現できるように整理したことである。人間のインテリジェンスの始まりであり、専門職としてのライブラリアンの誕生である。本講義では演習問題を中心に、分類と目録の目的・機能を明らかにし、現在使われている分類・目録の問題点を通して図書の実態に即した分類法を与える。

【授業計画】

オリエンテーション 図書館における図書の分類
前期の講義についての復習テスト

1. 分類とは何か（2回）
 1. 1 基本用語の整理
 1. 2 分類と図書の歴史
2. 図書分類とその基本的条件（2回）
 2. 1 分類表の種類とその特性
 2. 2 基本的条件
3. 特殊分類法（3回）
 3. 1 十進分類法
 3. 2 ファセット分類法
 3. 3 その他
4. 目録とは何か（2回）
 4. 1 目録の機能
 4. 2 目録作業
5. 現代図書館と情報サービス（2回）
 5. 1 自動目録
 5. 2 図書の検索法

オリエンテーション後に基本的な知識を確認するテストを各授業毎に実施し、NDC、UDCその他の分類法を使っての出題を出し翌週回収し、問題点を解明する。目録作業を最初の授業時から指示し毎週各自の興味のある図書の目録（10枚）を作成し、最終的に100枚の目録カードを提出する。

【評価方法】

試験は行わない。各週毎の宿題及び作成した目録カード、小テスト、レポートで評価する。

【テキスト】

プリント。

【参考文献・資料】

情報学講義ノート〈1〉（岡澤和世著 敬文堂）1987。
情報学講義ノート〈2〉（岡澤和世著 敬文堂）1989。
情報検索理論の基礎（中村幸雄著 共立出版株式会社）1998。
目録と分類（L.M.チャン上田修一他訳 勁草書房）1987。
図書館のサービスの再構築（M.K.バックランド 高山正也他訳 勁草書房）1994。

資料組織演習

村主千賀

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

NDC、NCR、BSHを中心に概説し、演習としては様々なタイプの資料についての主題分析、様々な情報源からの書誌情報の読み取り、および目録作成ができることを目標とします。演習自体は和書が中心になります。

【授業計画】

1. ガイダンス
- 2～3 目録規則NCRの理解・書誌情報のリーディング
4. MARCデータについて
- 5～6 目録記入の作成
(カードおよびデータベース入力を想定したデータの作成)
7. NDC、BSH概説
- 8～9 主題分析と主題表現(1)件名
- 10～12 主題分析と主題表現(2)分類
- 13～ 総合的な目録作業

【評価方法】

出席状況、授業内の課題、期末テスト

【テキスト】

プリント配布。

【参考文献・資料】

随時指示する。

資料組織演習

伊藤真理 鹿島みづき

オムニバス 3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、実習を通してより深い理解と習得を目的とする。

目録規則は、国際的な標準規則として認められている英米目録規則を用いる。主題分類法では日本十進分類法と、基本件名標目表および米国議会図書館件名標目表を取り上げる。洋書と電子情報資源を対象として、書誌レコードを作成する。

【授業計画】

回	講義テーマ
1	目録作業の概要
2	記述目録法
3	英米目録規則第2版(1)
4	英米目録規則第2版(2) アクセス・ポイント
5	英米目録規則第2版(3) 標目形
6	主題目録法(1) 分類：日本十進分類法
7	主題目録法(2) 件名：基本件名標目表
8	主題目録法(3) 件名：米国議会図書館件名標目表
9	MARCについて
10	CORC(1) システムの概要
11	CORC(2)
12	CORC(3)

【評価方法】

実習およびレポート提出

【テキスト】

テキストは特に指定しない(プリント配布)

図書館学特殊Ⅲ（児童サービス論）

堀川照代

集中 4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

わが国の公共図書館児童サービスがモデルとしてきた米国のその歴史を振り返りながら、児童サービスの意義と定義、児童資料、サービスの内容・方法などを概説し、公共図書館における児童サービスの位置づけや児童図書館員の専門性について考える。

なお、ストーリーテリングの実習を行う予定である。

【授業計画】

1. 児童サービスの意義
2. 児童資料の特色と選択
絵本、児童文学、ノンフィクション
参考資料、出版と流通
3. 児童コレクションの形成と管理
4. 児童サービスの業務
資料提供サービス、フロアワーク
レファレンスサービス
集会・行事、展示・PR
5. 児童サービスの方法・技術
ストーリーテリング、読み聞かせ、
ブックトーク、書評
6. 児童サービスの運営
管理運営、評価、施設・設備、
児童図書館員の役割・能力
7. ヤングアダルト・サービス
8. 各種機関との連携・協力
学校との連携・協力
幼稚園・保育所との連携・協力

【評価方法】

出席状況やレポートなどによって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

絵本と想像性：三歳まえの子どもにとって絵本とは何か
増補版（佐々木宏子著 高文堂）
児童サービス論（堀川照代編著 日本図書館協会）

情報学Ⅱ a・b

村主朋英

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

図書館サービスと情報検索サービスの発達過程を中心に、人類の情報環境の発達過程を概観する。まず、図書館等の情報サービス機関や図書館員等の情報専門職に焦点を当てながら、情報流通の制度・機構や情報の蓄積・検索の技術・技法がどのように整備されていったかを概観する。その上で、そうした情報環境に囲まれて、人類が情報や知識をどのように蓄積・継承してきたか、展望する。

【授業計画】

1. 図書館・情報サービスの起源と学術情報
 1. 1 古代・中世の知識と図書館
 1. 2 印刷革命
 1. 3 近代における学術情報流通システム
 1. 4 近代公共図書館と図書館界の成立
 1. 5 図書館学とドキュメンテーション
2. 現代の図書館・情報サービス
 2. 1 ドキュメンテーション運動その後
 2. 2 情報技術の起源
 2. 3 情報検索サービスの成立
 2. 4 情報学の成立
 2. 5 情報環境の変化
3. 理想の情報検索システムを求めて
Vannevar BushとそのMemex構想／MemexとWorld
Brain, インターネット
4. 総括
情報学と情報サービスの今後

【評価方法】

定期試験。※穴埋め・訂正問題、論述問題。

【テキスト】

図書及び図書館史（新・図書館学シリーズ12、樹村房税別定価1,900円）
図書館情報学用語辞典（日本図書館学会用語辞典編集委員会編 丸善 税別定価3,800円）

個人コミュニケーション論 I a (認知心理学)

岩原昭彦

2・3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

本講義では、認知心理学の概説を行う。人間がどのように外界の情報を取り入れ、処理するのかに関する心理学的アプローチについて学習する。具体的には、人間の知覚、記憶、学習、思考、言語活動と理解について講義する。

【授業計画】

1. 認知心理学とは／講義計画指示
2. 知覚
- 3～4. 記憶
5. 学習
6. 概念の構造
- 7～9. 思考
- 10～12. 記号としての言葉（単語認知）

【評価方法】

期末テスト、または講義内で課すレポートによって行う。実験（あるいは調査）への参加回数も加味する。

【テキスト】

使用せず。講義内で理解の助けになるよう、プリントを配布する予定。

情報メディア論 I a・b (通信・マルチメディア)

東浦信博

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

司書・学芸員の資格取得に必要な視聴覚教育メディア論を主として I a (前期) で、図書館情報学科の学生にとって必要と思われる情報通信のメディアと仕組みの概観を I b (後期) で扱う。

【授業計画】

1. 視聴覚教育メディアの意義・目的

① 図書館・博物館とメディア② コミュニケーションとメディア

③ 具象的記号としての視聴覚教育メディア④ 視聴覚教育メディアのもつ特性

2. 視聴覚教育メディア各論

① 領域と種類② 音声メディア

③ 映像メディア④ 音声映像メディア

3. マルチメディア

① マルチメディアとは② 要素技術

③ アナログとデジタル

④ レーザー光線と光ファイバー

⑤ デジタル通信のメリット

4. 情報通信のメディアとシステム

① 電気通信事業（情報産業）② VAN（付加価値の意味等）

③ CATV（初期の意義、現在の意義）④ 衛星通信・衛星放送

⑤ HDTV⑥ 移動体通信

⑦ 情報ハイウェイ⑧ マルチメディア

図・表を多用する。主として OHP を用いて授業を進める。

【評価方法】

論述式定期試験（テキスト・ノート持ち込み可）。

【テキスト】

新訂視聴覚教育（学芸図書 ¥1,800）

情報通信とマルチメディア（共立出版 ¥2,835）

博物館概論

長谷川鏗治

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

博物館とは何かからはじめて、その発達の歴史をたどり、日本と世界の博物館を概観する。

- ア はじめに…学芸員の資格、博物館学とは何かなど学習の基礎となる事項を説明する。
- イ 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に「博物館」とは何かを考えていく。
- ウ 博物館の始原…博物館の歴史を概観するにあたって、その始原をたずねてみる。
- エ 博物館の萌芽…ルネサンス期からの人々の文芸に対する態度の探求と博物館的な施設の形式を探る。
- オ 近代博物館の発元Ⅰ…王権の誇示の手段としての財宝の展示などから博物館を考える。
- カ 近代博物館の発元Ⅱ…市民革命などの動きにあわせて市民への公開がなされていく過程を考える。
- キ ヨーロッパの博物館…近世から現代までを主要な博物館を例にとり、その特徴をまとめる。
- ク アメリカの博物館…独立から現代までをヨーロッパの博物館と対比しつつ、その特徴を探る。
- ケ 博物館の新しい波…企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど、今後の博物館の形態をみすえて、新しい動きをひろってみる。
- コ 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
 - ・大陸文化の請来から床の間の普及まで
 - ・幕末から明治期にかけての博物館の発元
 - ・国威の宣揚と博物館
 - ・通俗教育による教化と博物館
 - ・十五年戦争と博物館
 - ・戦後の再発元

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義する。

【評価方法】

- ・小テストと数回にわたるレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川鏗治 戸谷印刷）

博物館概論

早川正一

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組まないと脱落しかねない。十分な心構えが肝要である。

次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

【授業計画】

- 博物館や美術館の基本概念と必要性
- 専門職員としての「学芸員」とは何か
- 博物館と美術館の発達とその時代背景
- 博物館と呼ぶ施設の機能と多様性
- 博物館の分類と現代性
- 博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮
- 博物館の相互協力と情報の活用

毎時間、入念にノートをさせる。コピーは許さない。無用な欠席は不合格につながるので、注意されたい。

長谷川鏗治『博物館学論考』（1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川鏗治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅰ

長谷川鋳治

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

博物館について、その機能、役割、組織、運営、学芸員、施設・設備、情報化、協力などにふれ、学芸員資格にかかわる基本的事項を学習する。

- ア 博物館の機能…生涯学習のための施設の一つと定義づけられていることを念頭におき、その機能について考える。
- イ 博物館の分類…種類別、設置者別、制度別などの分類わけをとおして、博物館の役割やあり方を考えていく。
- ウ 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織の状態をみていく。
- エ 博物館の運営…名古屋市博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- オ 学芸員考…現在、学芸員のおかれている地位、実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。外国のCURATORとも比較してみる。
- カ 予算など…博物館のマネジメントについて、予算を中心に考える。
- キ 博物館の施設・設備…人文系博物館・動物園・植物園・水族館などについて、その設置基準をもとに施設・設備についてみる。
- ク 博物館と情報…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探ってみる。
- ケ 博物館の協力…博物館はもちろんのこと、大学・研究機関などとの連携について考える。

【授業計画】

授業概要の展開順によって講義する。

【評価方法】

- ・小テストと数回にわたるレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川鋳治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅰ

早川正一

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす学科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

【授業計画】

次の単元を土台として講義を展開する予定である。

- 博物館や美術館の展示と陳列構造
- 博物館がとり扱う資料の収集と保存
- 博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究
- 博物館や美術館のおこなう普及活動と教育
- 文化財の種類と保護にかかわる諸問題
- 生涯学習の必要性と博物館の関連事業

毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。無用な欠席は不合格につながるので、注意してほしい。

博物館学論考（長谷川鋳治 1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川鋳治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅱ

長谷川鏑治

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

博物館は「もの」による生涯学習の機関である。そこで、博物館資料とは何かの定義づけからはじめ、資料の取扱い方を含めて学習する。また、博物館の調査・研究についても考えるとともに、文化財の保護についても考察してみる。

- ア 博物館の資料…「物」が博物館資料と位置づけられるのはどのようなことかを考え、一次資料、二次資料の具体的な内容を知る。
- イ 博物館資料の実際…資料について実技を含めて具体的に学ぶ。
 - 1 資料の収集
 - 2 資料の取扱い
 - ・掛軸
 - ・古文書
 - ・和装本
 - ・茶碗
 - ・瓦など
 - 3 資料の整理・保存
 - 4 資料の保全
- ウ 資料情報の管理…資料情報の管理についてその実際と今後の方向を探る。
- エ 調査・研究…博物館における調査と研究、成果の公表などについて考えていく。
- オ 文化財の保護…わが国の文化財保護の現状、実態、問題点などについて考察する。
あわせて世界遺産についても考えてみる。

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義し、実技も行う。

【評価方法】

- ・小テストと数回にわたるレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

改訂博物館学論考（長谷川鏑治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅱ

秋元悦子

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

博物館の活動の基礎は「資料」にあり、それを有効活用することではじめて博物館と言えよう。本講座では、その収集・取り扱い・整理・保存・活用について具体的事例や実習を取り入れながら学んでいく。

【授業計画】

- ①博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的種類を知る。
- ②資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
- ③資料の取り扱い……基本資料の取り扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。
やきもの、和装・卷子本、掛け軸その他で実習する。
- ④資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
- ⑤資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
- ⑥資料保管……資料の保管に關しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
- ⑦資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。
また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、準備について説明する。

【評価方法】

実習態度、小テストおよび数回のレポートで評価する。

【テキスト】

改訂博物館学論考（長谷川鏑治 戸谷印刷 2,000円）
必要に応じてプリントを配布し、スライド等も利用する。

博物館学各論Ⅱ

松村冬樹

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

「資料」のない博物館はありえない。では、「もの」があれば博物館といえるだろうか? 「もの」と「資料」はどう違うのだろうか。この講座では博物館資料の考え方にはじまり、実際の資料取扱いまでの基本を学習する。

【授業計画】

かび臭い貴重品という「博物館資料」のイメージを、体験や基礎知識の修得によって、身近なものとする。

- ア 資料とはなにか
- イ 収集方法
- ウ 資料の取扱いかた(理論と実際)
- エ 整理・分類(観察とドキュメンテーション)
- オ 調査・研究(ドキュメンテーションを支える知識)
- カ 保管・保全
- キ 管理と活用
- ク 資料情報の公開

【評価方法】

出席は重視する。実技の巧拙ではなく、文化財取扱いの心がまえの修得を評価する。

【テキスト】

改訂博物館学論考(長谷川鏑治 戸谷印刷)。
随時プリントを配布する。

博物館実習

長谷川鏑治

4年 通年 必修 3単位

【授業の概要】

学芸員の基本的な役割について、人文系博物館に例をとり、講義、展示演習、博物館見学などを通して、実践的に学習する。

ア 展示論……展示とは何かからはじめて、展示についての学問的側面、実際の運びなどをみていく。

- 1 展示とは
- 2 展示のポイント
 - ・動線 ・視線
 - ・照明
 - ・温度 ・湿度

- 3 展示の施設
- 4 展示のプロセス
- 5 展示と保全

イ 普及・教育論……生涯学習が重要課題となっている現代社会にあって、博物館が果たす役割はどんなものかを探っていく。

ウ 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。

エ 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。

オ 海外特別実習……夏休み中に希望者と海外の博物館の見学に出かけ現地で学習する。

カ 県外実習……エ、オに参加できない者は、9月に県外へ博物館の見学に出かける。

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義・実習・見学をすすめる。

【評価方法】

- ・実習はもちろん、学外での研修にかならず参加し、それぞれレポートを提出する。
- ・実習にあたってはすすんで学習する姿勢で臨む。
- ・その都度、提出させるレポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

【テキスト】

改訂博物館学論考(長谷川鏑治 戸谷印刷)

博物館実習

秋元悦子

4年 通年 必修 3単位

【授業の概要】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習、博物館見学、博物館実習を中核に、具体的な学芸員活動を様々な観点から学習する。

【授業計画】

- ①展示とは……展示という手法について、その実際と未来像を考える。
- ②展示の実際……計画から、手法、条件などの展示の実際の概要を具体的事例をふまえながら、学んでゆく。
- ③展示にかかわる事業……展示をとりまく、様々な事業（解説、広報、印刷物、講座など）の存在を知る。
- ④展示の実習……模擬展示の計画書を作成し、展示方法やその活用法を実習する。
- ⑤展示と教育普及事業……展示を通じての生涯学習機関として、博物館の今後になう役割と未来を探る。

授業以外に、

- 土曜日に、博物館の展示・施設見学を行う。
- 夏休み中に、各博物館に依頼し館務実習を行う。

【評価方法】

授業および学外での研修の出席、レポートで評価する。

【テキスト】

改訂博物館学論考（長谷川鏑治 戸谷印刷 2,000円）
必要に応じてプリントを配布し、スライド等も利用する。

博物館実習

川合剛

4年 通年 必修 3単位

【授業の概要】

「展示」をキーワードにして、博物館の諸活動に必要な知識と技術を実践的に学ぶ。

【授業計画】

履修学生が手を動かし、自分で考える「実技」の時間をできるだけ多くとる。

- (a) 展示とは；博物館活動の中での展示の位置づけ。
 - (b) 展示のプロセス；展示の企画から実施までの実際。
 - (c) 展示と資料の保全；展示室での資料を傷めない工夫。
 - (d) 展示室にあるもの；展示資料以外のさまざまな小道具。
 - (e) 展示の実際；展示を企画し、シナリオ、設計書の作成。
 - (f) 展示の解説；展示解説の種々の方法とそれぞれの長所・短所。
 - (g) 展示と印刷物；展示に関わる印刷物の制作。
 - (h) 生涯学習と博物館；生涯学習社会での博物館の役割。
 - (i) まとめ
- ①土曜日に近隣の博物館の展示見学、施設見学を行う（年間5～6回程度）。
 - ②夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
 - ③夏休み中に海外博物館見学の研修を行う。
- ※②、③に参加しなかった者は、県外博物館の見学を行う。

【評価方法】

実技を行うので出席状況を重視する。あわせて、レポートと課題の提出、（時間内の）小テストの結果などにより評価をする。

【テキスト】

改訂博物館学論考（長谷川鏑治 戸谷印刷）
適宜、プリントを配付し、参考文献・論文を紹介する。

生涯学習概論

渡辺かよ子

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

生涯教育ないしは生涯学習とは、従来の学校教育・家庭教育・社会教育を垂直的・水平的に統合してとらえ、生涯発達を支援しようとする教育学の一分野である。本講義では、生涯教育ないしは生涯学習に関する理論、ならびに各国における生涯学習の実態と問題点の理解を通じて、人間が学ぶことの社会的意味、生涯発達と自己形成における生涯学習の意義を概説し、社会教育施設の独自の教育的役割とその可能性を論究する。

【授業計画】

- 第1-2講 オリエンテーション、生涯学習の理念
- 第3-5講 社会教育の伝統と生涯学習の現状(先進国、発展途上国、日本)
- 第6-7講 現代日本の学習機会と生涯学習に関する法制
- 第8-11講 生涯発達と生涯学習の内容と方法
- 第12-13講 生涯学習における教養・人権と社会改革
- 第14講 生涯学習の今後の課題、総括

【評価方法】

平常レポート、書評、学期末試験。

【テキスト】

生涯発達と生涯学習(麻生誠・堀薫夫 放送大学教育振興会)

【参考文献・資料】

- 社会教育基礎論(小林文人・末本誠編 国土社)
- 苦悩する先進国の生涯学習(黒沢唯昭他編 社会評論社)
- 生涯教育(ジェルビ 東京創元社)
- 被抑圧者の教育学(フレイレ 亜紀書房)
- 国際成人教育論(ポーラ 東信堂)
- 高齢者教育論(松井政明他編 東信堂)
- 「わざ」から知る(生田久美子 東京大学出版会)
- 学びの復権(辻本雅史 角川書店)
- 学問のすすめ(福沢諭吉 岩波文庫)
- 水と原生林のはざままで(シュヴァイツェル 岩波書店)
- 大学改革と生涯学習(宮坂広作 明石書店)
- 消費社会の神話と構造(ボードリヤール 紀伊国屋書店)
- ハマータウンの野郎ども(ウィリス ちくま文芸文庫)

生涯学習概論

古野有隣

集中 3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

生涯学習という言葉は最近かなり知名度が高くなってきているが、その意味や意義については必ずしも正確に理解されているとはかぎらない。

この講義では生涯学習の意味するところを、その理念の提唱時からの推移の説明をまじえて、理解を深めることをねらいとしたい。また、先の長い人生を持っている自分にとって生涯学習とは何なのかを考える契機となればとも思っている。

1. 生涯教育の理念～推移を含めて～
 - ユネスコ以降わが国における推移
 - 生涯教育のめざすもの
 - 生涯教育と生涯学習の関係
2. 生涯教育と社会教育・学校教育との関係
 - 生涯教育と社会教育
 - 生涯教育と学校教育
3. 社会教育の内容・方法・形態
 - 行政社会教育の主要領域
 - 社会教育の内容・方法・形態
4. 生涯学習関連施設の現状と展望
 - 生涯学習関連施設の範囲
 - 社会教育施設の種類と現状
5. 生涯学習指導者
 - 生涯学習指導者の範囲
 - 生涯学習指導者の役割

【授業計画】

講義。

【評価方法】

テスト。

【テキスト】

資料集(予価500円)を開始時に頒布。

視聴覚教育メディア論

東浦信博

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

「学芸員のための」を前提としながらも幅広く視聴覚教育メディア全般の特性を検討し、最近のマルチメディアまでの各視聴覚教育メディアを論ずる。

【授業計画】

1. 視聴覚教育の意義と効果
2. 博物館と視聴覚教育メディア（手段としてのメディア、目的物としてのメディア）
3. 視聴覚教育メディア各論

領域と種類

録音メディア（レコード・テープ・CD等）

映像メディア1（スライド・OHP等）

映像メディア2（映画・ビデオ等）

マルチメディアと情報ネットワーク

講義中心であるが、OHP、ビデオを多用する。

【評価方法】

論述式定期試験（テキスト・ノート持込み可）。

【テキスト】

新訂視聴覚教育（学芸図書 ¥1,800）

情報メディア論 I a

東浦信博

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

司書・学芸員の資格取得に必要な視聴覚教育メディア論を主としてIa（前期）で扱う。

【授業計画】

1. 視聴覚教育メディアの意義・目的
 - ① 図書館・博物館とメディア② コミュニケーションとメディア
 - ③ 具象的記号としての視聴覚教育メディア④ 視聴覚教育メディアのもつ特性
2. 視聴覚教育メディア各論
 - ① 領域と種類② 音声メディア
 - ③ 映像メディア④ 音声映像メディア
3. マルチメディア
 - ① マルチメディアとは② 要素技術
 - ③ アナログとデジタル④ レーザー光線と光ファイバー
 - ⑤ デジタル通信のメリット

図・表を多用する。主として OHP を用いて授業を進める。

【評価方法】

論述式定期試験（テキスト・ノート持込み可）。

【テキスト】

新訂視聴覚教育（学芸図書 ¥1,800）

情報通信とマルチメディア（共立出版 ¥2,835）

教育学概論

小木曾通男

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

教育とは何かを総合的にとらえ、皆さんの被教育者としての体験をもとに、現代社会における様々な教育課題について考えてみたい。

また、21世紀に求められる教育とはどんな教育であるかを考える契機としたい。

【授業計画】

- (1) 欧米諸国の教育について、著名な教育者の事例を交えて歴史的に概観する。
 - ① ギリシャ・ローマ時代の教育
 - ② ヨーロッパ中世・近世における教育
 - ③ 市民社会における教育の発達（イギリス、ドイツ、フランス、アメリカ）
- (2) 日本における教育の歴史を概観する
 - ① 寺子屋教育に代表される日本の教育
 - ② 明治維新の文明開化と教育の発展
 - ③ 戦前における軍国主義教育の展開
 - ④ 戦後における民主主義教育への転換
- (3) 現代における日本の教育の課題
 - ① 社会構造の変化と教育の変化
 - ② 現代の教育病理の諸相
 - ③ 新教育課程の概観
 - ④ これからの教育に求められるもの

【評価方法】

テキストの末尾に添付した課題用紙（2枚）の提出と定期試験との総合評価による。

【テキスト】

教育概論講義ノート 300円

【参考文献・資料】

必要な参考図書は授業中に紹介する。

民俗学

谷沢明

2年 前・後期 必修 2単位

【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

【授業計画】

- 1、民俗学を学ぶ～方法論と調査研究法～
- 2、稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
- 3、農耕儀礼～田遊びを中心に～
- 4、年中行事～正月行事を中心に～
- 5、年中行事～盆行事を中心に～
- 6、人生儀礼～人生の折り目にあたって～
- 7、暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
- 8、暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
- 9、庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
- 10、日本民俗学のあゆみ～柳田国男の役割～
- 11、日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～
学外教育を1回実施する（自由参加）

【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による

【テキスト】

フィールドワークで探る民俗と地域文化

日本美術史

小池富雄

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

学芸員が知っておくべき日本美術の内容は複雑多岐にわたっている。掛物や屏風といった絵画作品のみならず、「蒔絵」という日本独自の漆工芸品をはじめ刀剣や茶陶などの工芸品にも注目し、通史的に論じる。また単に名品の諸作品を追うのではなく背景となった社会や建築様式との関連について述べたい。展覧会の見学のしかた、作品論レポートの書き方も指導します。ビデオやスライドで各時代を代表する作品を見ます。配布プリントでは、文献史料を講読します。予習・復習をしておいて下さい。

【授業計画】

- 1 学芸員のための日本美術史概論 日本美術史の方法・領域など、作品論レポートの書き方を指導
- 2 原始・古代 縄文以降奈良・平安時代の美術と工芸
- 3 原始・古代 寝殿造と平安貴族の生活の中で生み出された日本独自の仮名や蒔絵の意匠
- 4 原始・古代 蒔絵の発達と調度、日本の伝統家具の祖型がなぜこの時期に発生したのか
- 5 中世 鎌倉時代の美術、絵画、彫刻、建築、蒔絵
- 6 中世 書院造りと会所のかざり、この時代の建築、生活様式の中で生み出された室内装飾美術の諸相
- 7 中世 『君台観左右帳記』にみる 室町將軍家の部屋かざり、用いられた諸美術品
- 8 中世 海外から輸入された請来美術である唐絵（からえ）、唐物（からもの）
- 9 近世 安土桃山時代の美術と工芸
- 10 近世 近世大名婚礼調度と幸阿弥派の蒔絵
- 11 近世 菊の白露蒔絵調度、1633年加賀前田家四代光高夫人の婚礼調度 12 近世 初音の調度、1639年尾張徳川家二代光友夫人の婚礼調度 13 試験

【評価方法】

定期試験と作品論レポートによる。レポートは参考図書の記事では不可です。自ら考え感じた内容を評価します。量より質、あなたが何をどう見るか、を注目します。

【テキスト】

日本の国宝 81（週刊朝日百科 徳川美術館 1998年9月 朝日新聞社 560円）

日本考古学概論

柴垣勇夫

集中 3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

考古学は、遺跡・遺物をもとに人間の営んできた歴史を明らかにする学問である。その研究方法には、層位学や型式学、分類学などの科学的方法論がとられ、人文科学の中でもとりわけ自然科学との結びつきが強い学問でもある。そうした学問の基本を学び、考古学が明らかにしてきた日本の歴史の一面を把握する。特に、全国各地で行われている遺跡の発掘調査によって、知られるようになった最近の新しい遺構、遺物を紹介し、学際的な研究の進展を学ぶ。また遺跡調査への関心を高め、文化財の保護という現代的課題についても考える。現代に生きる我々がどのような社会を築くかを、歴史の中から学ぶ際に、考古学の果たす役割と受け継ぐべき文化遺産の重要性を認識する。

まず、考古学の方法を学び、世界の考古学研究の発展過程を眺める。次に日本の旧石器時代から近世に至る、日本考古学の研究成果を把握する。なかでも原始・古代遺跡における最近の新発見や社会構造の捉え方の変化、中世から近世の城館や都市遺跡の発掘調査から判明してきた当時の生活様式などに理解を深める。また日本考古学の研究対象が近世・近代にまで広がっていることを認識するとともに、遺跡や遺物の文化財としての保存の必要性とその活用方法についても考える。

【授業計画】

各時代毎の解説の後、スライド・OHPなどにより視覚的に確認し、次の時代に進める。新聞記事等最近のニュースも逐次取り入れる。旧石器時代から近世の江戸時代まで12章にて構成する。

【評価方法】

講義内容から出題するテスト。集中授業での欠席 1/3 を越えたものは受験資格を失うこととする。

【テキスト】

印刷物をテキストとして配布する。

ドイツ語 a・b

浜田義孝

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

ドイツ語の基礎を習得する。

ドイツ語は英語と同じく西ゲルマン語から出た言語で類似点も多いが、英語に比べてかなり保守的で、面倒な語形変化などがある。しかし一見やっかいそうな文法もいったん慣れてしまえば、かえって語句の関係が明確であり構文の把握も容易になる。

言葉は何よりもまず音声であるから、初めにドイツ語の発音に慣れること。そのためには教師（あるいはテープ）のドイツ語をよく聞いて、積極的に口を動かして真似ること。こうして繰り返し反復練習することによって、基本的なドイツ語の語句や言い回しになじみ、やさしい文を覚えていけば、週一回という短時間の学習でも、ドイツ語の基礎をマスターできるでしょう。

またドイツ語の学習を通してドイツやオーストリアの生活と文化に触れることもできる。

【授業計画】

テキストは、全14課で各課とも基本的な文法事項、練習問題、そしてドイツの生活をテーマにした読本（ディアローク）で構成されている。

1課を2回の授業で修了するようゆっくりしたペースで進む。

【評価方法】

授業での平常点と期末試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新・じゃあ、またあした！（山本著 同学社）

フランス語 a・b

清水ベアトリックス

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

この授業は初級者を対象とし、フランス語の習得だけでなく、フランスの風俗、文化、習慣も「味わいながら」学ぶことを意図する。担当講師はフランス語の授業を通じて受講者の対仏国理解を深める手助けをすることを切に望む。

前期

日本で出版された平易なフランス語テキスト（CD付き）、漫画、ポップス、ビデオなどを使用する。

前期には、テキストの目次に沿って進み、フランス人講師が直接教えるので、受講者は「フランスに浸り」、「純粋な」フランス語の発音と文法の基礎を身に付ける。

できる限り前期では、下記の文法を学ぶ：

発音、名詞の『性』と『数』、冠詞、不定詞と動詞の活用：直接法現在形、疑問文：疑問代名詞と疑問形容詞、否定文、品質形容詞。

後期

前期に引き続き同じテキストを使用し、より高レベルの文法・語彙を学ぶ。しかし、特にコミュニケーションに重点を置くので、「純粋なフランスの環境」の中で簡単な作文を書いたり、寸劇をすることにより、受講者自身の考えをフランス語で表現する能力を養成することを主目的とする。

後期では、下記の文法事項を学ぶ：

目的語となる人称代名と強勢形、指示形容詞、所有形容詞、冠詞の縮約、半過去、複合過去。

【授業計画】

毎回学んだフランス語を会話練習に積極的に使用するとともに、文法を体系的に学んだり、平易なフランス語の文章を和訳する。

【評価方法】

定期試験を重視するが、宿題、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

Le français Passionné'ment (Fumiyo ANAN, Ce'cile MORIN 第三書房)

ロシア語 a・b

杉本一直

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができるところは本当に少ないですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？

この授業では、初歩のロシア語を学びながらロシアの芸術や文化や街について楽しく紹介していきます。映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしててくださいね。

【授業計画】

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を覚え、発音を覚え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- a. キリル文字と発音
- b. 大きな声であいさつしよう
- c. 買い物に行ってみよう
- d. 乗り物に乗ろう
- f. おながすいたら...
- g. 自分について話してみよう
- h. 好きな音楽について
- i. 手紙を書こう (本当にロシアへ送るぞ！)

【評価方法】

定期試験の成績による。

【テキスト】

ロシア語ミニ辞典 (白水社)

Intensive English 2001A 1・2

ポール・ルイス プレット・スティープンソン
ジョナサン・E. ロング ベヴァリー・F・M. カレン

1～4年 前期 選択 各2単位

【Course Content】

This unique course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal language learning goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills—including vocabulary, comprehension, and grammar—will also be cultivated.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching on this course, providing a well-rounded perspective of the contemporary themes found in the text and encouraging critical thinking.

Students will have a choice of four two-day courses of study (see student handbook for more detailed information).

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

Examples of such themes include the following:

- 1) GENDER STEREOTYPES AND WORK
- 2) THE AFFECT OF FOOD ON MOOD
- 3) VACATION SPOTS AROUND THE WORLD
- 4) STAYING HEALTHY
- 5) UNEXPLAINED PHENOMENA
- 6) OUTDOOR LEISURE ACTIVITIES

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

- * ATTENDANCE
- * CLASS PARTICIPATION/EFFORT
- * HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
- * END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

TO BE ANNOUNCED.

Intensive English 2001B 1・2

ポール・ルイス ブレット・スティーンソン
ジョナサン・E. ロング ベヴァリー・F.M. カレン

1～4年 後期 選択 各2単位

【Course Content】

This unique course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal language learning goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural. Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills—including vocabulary, comprehension, and grammar—will also be cultivated.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching on this course, providing a well-rounded perspective of the contemporary themes found in the text and encouraging critical thinking.

Students will have a choice of four two-day courses of study (see student handbook for more detailed information).

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers. Examples of such themes include the following:

- 1) GENDER STEREOTYPES AND WORK
- 2) THE AFFECT OF FOOD ON MOOD
- 3) VACATION SPOTS AROUND THE WORLD
- 4) STAYING HEALTHY
- 5) UNEXPLAINED PHENOMENA
- 6) OUTDOOR LEISURE ACTIVITIES

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

- * ATTENDANCE
- * CLASS PARTICIPATION/EFFORT
- * HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
- * END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

TO BE ANNOUNCED.

言語文化海外セミナー I

馮 富榮

集中 1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

この授業では、言語実践を通して、言葉を知り、理解し、発信し、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

1. 南京師範大学において3週間の中国語研修を行う。
 - ◎月曜～金曜の午前中は8:00～11:30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
 - ◎午後は課外活動として南京市内見学（中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など）を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
 - ◎夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
 - ◎土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう！
 - ◎風光明媚な「瘦西湖」で名高い揚州へ、庭園で知られている蘇州への一日旅行。
2. 言語文化論 I の講義内容と呼応した1週間旅行。
3. 定員は20名程度。
4. 今年度の2月中旬から3月中旬にかけて実施する。
5. 修了者には2単位を認定する。

【授業計画】

4月のガイダンスで研修の内容などを説明する。後期開講科目であるが、参加希望者は履修登録を必ずする。9月下旬頃、参加者最終決定。10月中旬頃、第1回説明会。11月下旬頃、第2回説明会。1月下旬頃、オリエンテーションを実施する。2月中旬頃に出発し、3月中旬頃に帰国する。費用は30万円程度。

【評価方法】

引率者が平常点で評価する。

【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

言語文化海外セミナーⅡ

窪田守弘

集中 1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

韓国の大邱市にある大邱カトリック大学で、3週間の語学研修を行なう。参加学生は、必ずしも韓国語の知識は必要でなく、意欲的に異文化体験しようとする者であれば、だれでも自由に参加出来る。ただ、キャンパス内の寄宿舎では規則正しい時間を送りながら語学中心の勉強生活となるので、事前の心構えがしっかり定まっている人が望ましい。

この研修は単に語学や文化の研修をするだけでなく、韓国の学生との交流を通じて相互理解を図り、多くの新しい友人を得ることも大きな目的の一つである。

期間：8月6日～8月25日（予定）

内容：

A. 韓国語研修（月～金）

○毎朝3コマ（1コマ50分）

B. 文化研修（午後週1～2回）

○陶磁器実習

○韓国料理実習

○韓国伝統舞踊鑑賞

C. 文化講座（午後週1回）

○韓日文化比較論

○韓日文化交流論

【授業計画】

参加学生は、必ず事前研修（週1回）を受けて、韓国語、文化、歴史などの基礎知識を得ることとする。

なお、参加希望者は、4月より始まるNHKのハンゲル講座を受講することが望ましい。

【評価方法】

研修後にレポートを提出し、全員で報告書を作成する。

【テキスト】

プリント、資料を配布する。

英語コミュニケーション5

石橋千鶴子

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

パラグラフ・ライティングを含む英語総合演習。

【授業計画】

英語の4技能、すなわちリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングにおける運用能力の育成を目指し、総合的な英語活動を行う。

授業では英語ビデオ教材を使い、内容把握のための活動を英語で行っていく。また、ライティング学習では、英文の基本であるパラグラフの構成と、その中でいかにしてトピックを展開させるかを学ぶ。与えられたトピックでパラグラフ・ライティング、レター・ライティングなどを行い、ライティングにおける運用能力の育成をはかる。

なお、後期「英語コミュニケーション6」の履修を希望する者は、「英語コミュニケーション5」を履修しておくことが望ましい。

【評価方法】

期末試験及び日常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

Survival Writing for College Students (Yasusada Uechi著 三修社)

英語コミュニケーション6

石橋千鶴子

2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

TOEIC問題対策を含む英語総合演習。

【授業計画】

英語の4技能、すなわちリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングにおける運用能力の強化を目指し、総合的な英語活動を行う。

前期「英語コミュニケーション5」に引き続き、ビデオ英語教材を使い、内容把握のための活動を英語で行う。また、TOEIC問題の演習を行い、さらなる個人学習を促したい。

なお、本科履修希望者は、前期「英語コミュニケーション5」を履修しておくことが望ましい。

【評価方法】

期末試験及び日常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

TOEICテスト スーパー模試600問（発行 アルク）

英語コミュニケーション7

中村栄造

2～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

世界の様々な出来事が国際ニュースとして、われわれの手にすぐ届けられる時代を迎えて久しい。この授業では、日々われわれが接する膨大な情報から必要な情報を的確に入手することを念頭に、主にリスニングとリーディングを中心とした英語運用能力の獲得を目指す。

主にリスニング教材とするのは、VOA (Voice of America) のニュースである。これを毎回、ディクテーションする。リーディングは英字新聞や、雑誌 Newsweek などから幅広く教材を選び、読解を試みる。

【授業計画】

リスニングのトレーニングを60分、リーディングを30分毎回行う。なお、リスニングに関しては、5回ごとに小テストを実施する。

【評価方法】

授業内に行う小テスト2回、およびリーディング教材の読解度、定期試験を総合して判断する。

【テキスト】

使用せず。毎回プリント配布。

英語コミュニケーション 8

大鐘洋司郎

2~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

商社、外資系会社、製造業者、外国為替銀行、海運会社、航空貨物会社、国際運送会社や保険会社などに就職しようとする学生に役に立つ体験から帰納した授業内容。

海外からの商品の物流、代金決済方法の理解は一般企業就職希望者にも役に立つ。

授業担当者は全米最大の小売業者シアーズ社などの取引経験から、教科書の事例を解説し、英語ビジネスコミュニケーションの手法を学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 場面を設定して受講生が英文ビジネスレターを作成する。英和・和英辞典を持参すること。
- 第2回 海外取引先紹介依頼及び取引先紹介者への礼状
- 第3回 信用照会及びその返信
- 第4回 取引開始申し込み
- 第5回 ビデオ視聴（内容は下記参照）
- 第6回 一般取引条件協定書の交換
- 第7回 基本貿易価格FOB及びCIF
- 第8回 オファー、価格表及びカウンターオファー
- 第9回 発注及びその確認
- 第10回 注文書、売約書の送付
- 第11回 信用状修正依頼及び受領確認
- 第12回 船積みに関して
- 第13回 ビジネス英会話（時間と受講生数次第で実行）

【評価方法】

出席状況・定期試験・その他による。

英語関係の資格（英検・商英検・TOEFL, TOEICなど）は自己研修点として成績に加味する。資格を証明するもの（コピー可）を持参して授業担当者に報告のこと。授業に取り組む積極性も評価する。

【テキスト】

ケーススタディで学ぶ英文ビジネス文書のライティングとプレゼンテーション増補版（大鐘洋司郎他 嵯峨野書院 税込 2,520円）

ビデオ「貿易実務の基礎知識」又は「外国為替について」
授業担当者作成資料（プリント教材その他）

英語コミュニケーション 9

小野迪雄

2~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

アーネスト・ヘミングウェイは、20世紀を代表するアメリカの作家であり、多難な激しく変動した時代を生き抜いた作家でもある。『老人と海』でノーベル賞を受賞したが、彼の文学の本質を探ってみると、円環を描いて、初期の作品世界につながっているようにみえる。それ故、初期の短編を読み解くことは重要であり、彼の文学の本質に迫れるかもしれない。

ヘミングウェイの文章は簡潔で引き緊った文体で、現代の標準的な文章の一つの型をもっていて、読みやすい。

【授業計画】

テキストを中心に読み進み、随時プリントを配布して、作者や作品の理解を深めるようにする。

【評価方法】

定期試験の成績を主とするが、日常の授業に対する準備も判断の資料とする。

【テキスト】

Indian Camp and Other Stories (Hemingway)

『ヘミングウェイ短編集』 成美堂

【参考文献・資料】

授業時に随時紹介する。必要に応じてプリントを配布する。

英語コミュニケーション10

ダグラス・L. ドイル

2～4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

The objective of this course is to revise and augment students' knowledge of English vocabulary and non-verbal features, as well as developing their speaking, listening, reading and writing skills. Students who opt for this course will be expected to be able and highly motivated. Students who are less able will be expected to be extra-highly motivated.

【Assessment】

Assessment will be based on a combination of the following: general classroom performance (continually assessed) general standard of homework (continually assessed) and by examination.

【Textbooks】

Text: To be advised.

英語コミュニケーション10

テリー・ワコルツ

2～4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

The aim of the course is to engage students actively in conversation with a partner or in a group. Students will try to express their ideas fully and coherently. The course will begin with exercises aiming to get the students to talk about things they like, dislike and providing simple reasons. The course and textbook will be based on providing examples of how students can express themselves and they will have plenty of chances during class to do so. Some listening will also be done.

【Schedule】

Term 1 will focus on structured discussion with preset topics from the textbook.

Term 2 will focus on structured discussion with preset topics from the textbook.

【Assessment】

Evaluation will be based on attendance, participation and monthly vocabulary tests.

【Textbooks】

Let's Talk About It

英語コミュニケーション10

ディビッド・P・レヴィ

2～4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

This course aims to further develop students' skills in speaking, listening, reading and writing. The emphasis however will be on speaking and listening. Students who choose this course will be expected to be highly motivated.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, writing assignments, homework assignments and a test.

【Textbooks】

To be advised.

【Reference】

Students are expected to bring English-Japanese and Japanese-English dictionaries (book or electronic) to class.

英語コミュニケーション10

ポール・ルイス

2～4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

This course aims to focus on improving speaking and listening skills, particularly focussing on the latter. In particular, the different ways of listening will be covered, including extensive and intensive styles. The course will be given in English, and students are expected to use English as much as possible during class.

【Schedule】

Lessons 1 - 12: Various topics/listening skills.

【Assessment】

Assessment will be based on class participation and attendance, and a combination of continuous assessment, tests, and/or a final examination.

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class meeting.

英語コミュニケーション10

ディビッド・C. ダイカス

2~4年 後期 選択 2単位

[Course Content]

This course will focus on developing speaking and listening skills, and expanding vocabulary, through topic-based discussion. Most topics will come from reading material (both from textbooks and newspapers), so reading will also play an important part in the course.

[Schedule]

The textbook will provide many of the topics to be studied, but the ones studied in class, and the order in which they are studied, will vary according to student interest and ability level. Some classes will include the use of outside materials, such as short newspaper articles, classroom surveys, and guided discussion activities.

[Assessment]

Assessment will be based on a combination of the following: general classroom performance (attendance AND participation, and using English instead of Japanese in class), quality of homework, and a final examination.

[Textbooks]

To be announced

英語コミュニケーション10

ハリー・T. ノリス

2~4年 後期 選択 2単位

[Course Content]

This course is designed to be a one semester course.

The course aims to improve the students' ability to communicate using English. To help them transmit their ideas to other Japanese people and native speakers of English. The course will show students key points about public speaking that will allow them to speak English confidently in front of small groups. Teaching strategies and techniques, voice control, and use of teaching aids will be studied. Reading, writing, listening and speaking will be addressed throughout the course. Speaking and listening being the main areas of assessment.

The course will be aimed mainly at developing confidence when speaking English in front of small groups of people.

[Schedule]

Introducing yourself.

Pronunciation "L/R", "B/V" and "Th".

Voice control and eye contact.

How to use TV, OHC, OHP and pictures in a classroom.

Talking about travel experiences using photos.

Talking about family using photos.

3 minute seminar on hobbies

[Assessment]

Assessment will be based on attitude, attendance, speaking ability and improvement and a written report.

[Textbooks]

No text, as necessary worksheets will be given.

英語コミュニケーション10

ブレット・スティープンソン

2～4年 後期 選択 2単位

[Course Content]

Although this is an introductory level subject, classes will be conducted entirely in English. Students should thus avail themselves of the opportunity to develop both their listening comprehension and non-linguistic inter-cultural skills. Students will have the opportunity to discover elements of language and culture otherwise overlooked by traditional classroom techniques. Vocabulary building and development of the ability to think in the target language will also be emphasised during this program.

[Assessment]

Classroom activities will be the focus of the course. Regular attendance, active participation and completion of in-class assignments will be the criteria for assessment. Students who are enthusiastic about English are most welcome.

[Textbooks]

Hand-outs will be provided at the commencement of each class. These will be periodically collected for assessment purposes.

A final examination based on the content studied throughout the semester will also be a major part of the assessment.

英語コミュニケーション10

ジェームス・A・ジョリー

2～4年 後期 選択 2単位

[Course Content]

This course will provide development and expansion of listening, speaking and reading skills in English. While conversational topics of each lesson provide practice in expressing personal information, each lesson is set in a different country to provide students with new vocabulary and knowledge to be able to converse about other people and cultures. Exercises and practice in class will be aimed at strengthening the ability of each student to express their thoughts accurately.

[Schedule]

A precise schedule of class dates and assignments will be provided at the second class meeting. Lessons will cover one unit of the textbook each week. A short quiz will be given after every third lesson, with a final examination over the whole course after the last lesson.

[Assessment]

The students will be assessed by their performance in (1) attendance and class participation, (2) homework assignments, (3) quizzes and (4) final examination.

[Textbooks]

The textbook will be *Speaking Internationally* (Paul McLean, MacMillan LanguageHouse). Additionally, each student is expected to bring to class her or her own personal English / Japanese dictionary.

英語コミュニケーション11

ジョナサン・E. ロング

2～4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

Students who meet the prerequisites will in the class have to meet the challenges of reading scripts in English, watching the videos without subtitles, discussing them in English and writing reaction papers about them.

Usually, three weeks will be allowed for each video:

Week 1 : script

Week 2 : video

Week 3 : discussion; homework: reaction paper

【Assessment】

Assessment will be based on attendance and the reaction papers.

【Textbooks】

none.

英語コミュニケーション12

ディビッド・C. ダイカス

2～4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

This course will focus on skills and techniques needed for informative and persuasive writing and speaking. An important focus will be on recognizing and understanding the differences in rhetorical patterns between Japanese and English. Students will study how to gather, evaluate, and organize information, and assignments will include writing informative and persuasive essays and making presentations and speeches based on the information gathered.

The course be topic/theme oriented. Students will read about, discuss, research and write about these topics. Writing practice will include the study of paragraph organization and effective presentation and support of ideas in written English. Once this level of writing is mastered, we will move on to longer pieces of writing.

【Schedule】

As described above, the course will move from basic organization and presentation of ideas in short pieces of writing to essays and discussions based on their content.

【Assessment】

Grading will be based on attendance and participation, homework assignments, and a test .

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅠ

ディビッド・C. ダイカス ジョナサン・E. ロング
ハリー・T. ノリス ジェームズ・A. ジョリー ディビッド・P. レヴィ

1・2年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】 TOEFL (1)

高校時代の英語学習単位数、ネイティブの授業経験の有無、英語の学力等の点からみて、英語の聞き取り及び表現の基礎的能力のトレーニングを必要とする者を対象とする。授業では、TOEFL やTOEICなどの試験を目標として、各自の学習歴及び学力によりクラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の基礎的運用能力を強化する。

TOEFL means “Test Of English as a Foreign Language”.

This course is not available for students who have completed TOEFL level II (2) or higher.

This is an introductory level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
 - A. Short conversations
 - B. Long conversations
 - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
 - A. Structure
 - B. Written expression
3. Reading comprehension
 - A. Reading comprehension
 - B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL I (1) will be based on the students TOEFL ITP total score and their attendance. Students combined TOEFL ITP score and attendance will be used to set grade.

A minimum TOEFL ITP score of 339 must be achieved to receive a passing grade

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEFL test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEFL class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅠ

ディビッド・C. ダイカス ジョナサン・E. ロング
ハリー・T. ノリス ジェームズ・A. ジョリー ディビッド・P. レヴィ

1・2年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】 TOEIC (1)

高校時代の英語学習単位数、ネイティブの授業経験の有無、英語の学力等の点からみて、英語の聞き取り及び表現の基礎的能力のトレーニングを必要とする者を対象とする。授業では、TOEFL やTOEICなどの試験を目標として、各自の学習歴及び学力によりクラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の基礎的運用能力を強化する。

TOEIC means “Test Of English for International Communication”.

This course is not available for students who have completed TOEIC level II (2) or higher.

This is an introductory level course for preparation for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
 1. Sentences about photographs.
 2. Questions/responses
 3. Dialogues
 4. Short talks
- B. Reading comprehension
 5. Sentence completion
 6. Error identification
 7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students' needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC I (1) will be based on the students TOEIC ITP total score and their attendance.

A minimum TOEIC ITP score of 220 must be achieved to receive a passing grade

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEIC test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEIC class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅡ

ジョナサン・E. ロング ディビッド・P. レヴィ
シャレル・A. ラインツマ

1・2年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】TOEFL (2)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 500点、TOEIC 640点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This course is not available for students who have completed TOEFL level Ⅲ(3) or higher.

This is a basic level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
 - A. Short conversations
 - B. Long conversations
 - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
 - A. Structure
 - B. Written expression
3. Reading comprehension
 - A. Reading comprehension
 - B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

1. Assessment for students who have not completed TOEFL I (1).

TOEFL II (2) will be based on the students TOEFL ITP score and their attendance. A minimum TOEFL ITP score of 375 must be achieved to receive a passing grade

2. Assessment for students who have completed TOEFL I (1).

TOEFL II (2) will be based on the students TOEFL ITP total score and their attendance. The score will be based on an improvement from their TOEFL I (1) total score.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEFL test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEFL class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅡ

ジョナサン・E. ロング ディビッド・P. レヴィ
シャレル・A. ラインツマ

1・2年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】TOEIC (2)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 500点、TOEIC 640点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This course is not available for students who have completed TOEIC level Ⅲ(3) or higher.

This is a basic level course for preparation for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the student's to the type of questions to expect in the TOEIC test.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
 1. Sentences about photographs.
 2. Questions/responses
 3. Dialogues
 4. Short talks
- B. Reading comprehension
 5. Sentence completion
 6. Error identification
 7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students' needs.

【Assessment】

1. Assessment for students who have not completed TOEIC I (1).

TOEIC II (2) will be based on the students TOEIC ITP score and their attendance. A minimum TOEIC ITP score of 310 must be achieved to receive a passing grade

2. Assessment for students who have completed TOEIC I (1).

TOEIC II (2) will be based on the students TOEIC ITP total score and their attendance. The score will be based on improvement from their TOEIC I (1) total score.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEIC test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEIC class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅢ

ジョアン・M. ウッドマン

ジェームズ・A. ジョリー

1～3年 前・後期 選択 2単位

[Course Content] TOEFL (3)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅣの授業につなげる。

This course is not available for students who have completed TOEFL level IV (4) or higher.

This is a high-beginner course for the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEFL score.

[Schedule]

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

[Assessment]

1. For students who have completed TOEFL I (1) or TOEFL II (2) courses.

The TOEFL III (3) grade will be based on the students classwork, homework and attendance. Assessment will not be based on TOEFL score.

Students can, but will not have to do the TOEFL ITP test.

2. For students who have not completed a previous TOEFL course. A minimum score of 400 must be achieved to receive a passing grade.

It will be necessary for students to do the TOEFL ITP test.

Grades of "A, B or C" will be based on classwork, homework and attendance.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEFL test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEFL class.

[Textbooks]

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅢ

ジョアン・M. ウッドマン

ジェームズ・A. ジョリー

1～3年 前・後期 選択 2単位

[Course Content] TOEIC (3)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅣの授業につなげる。

This course is not available for students who have completed TOEIC level IV (4) or higher.

This is a high-beginner course for the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

[Schedule]

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students' needs.

[Assessment]

1. For students who have completed TOEIC I (1) or TOEIC II (2) courses.

The TOEIC III (3) grade will be based on the students classwork, homework and attendance.

Assessment will not be based on TOEIC score.

Students can but will not have to do the TOEIC ITP test.

2. For students who have not completed a previous TOEIC course.

A minimum score of 375 must be achieved to receive a passing grade.

It will be necessary for students to do the TOEIC ITP test.

Grades of "A, B or C" will be based on classwork, homework and attendance.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEIC test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEIC class.

[Textbooks]

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングⅣ

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

1～3年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】 TOEFL (4)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 550点、TOEIC 720点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This course is not available for students who have completed TOEFL level V(5) or VI(6).

This is a pre-intermediate level course(TOEFL 420+) for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

1. Assessment for students who have not completed a TOEFL ITP test.

TOEFL IV(4) will be based on the students TOEFL ITP score and their attendance. A minimum TOEFL ITP score of 422 must be achieved to receive a passing grade

2. Assessment for students who have completed TOEFL II(2) or III(3).

TOEFL IV(4) will be based on the students TOEFL ITP total score and their attendance. The score will be based on an improvement from their previous TOEFL ITP total score.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEFL test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEFL class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅣ

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

1～3年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】 TOEIC (4)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 550点、TOEIC 720点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This course is not available for students who have completed TOEIC level V(5) or VI(6).

This is a pre-intermediate level course (TOEIC 425+) for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students' needs.

【Assessment】

1. Assessment for students who have not completed a TOEIC ITP test.

TOEIC IV(4) will be based on the student's TOEIC ITP score and their attendance. A minimum TOEIC ITP score of 430 must be achieved to receive a passing grade

2. Assessment for students who have completed TOEIC II(2) or III(3).

TOEIC IV(4) will be based on the students' TOEIC ITP total score and their attendance. The score will be based on improvement from their previous TOEIC ITP total score.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEIC test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEIC class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングV

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

2~4年 前・後期 選択 2単位

[Course Content] TOEFL (5)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこからより自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、学力差に対応したキメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅥの授業につなげる。

This course is not available for students who have completed TOEFL level VI (6).

This is an intermediate course(TOEFL 440+) for the TOEFL test.

TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEFL score.

[Schedule]

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

[Assessment]

1. For students who have completed TOEFL III(3) or IV(4) courses.

TOEFL V(5) grade will be based on the students classwork, homework and attendance.

Assessment will not be based on TOEFL score.

Students can but will not have to do the TOEFL ITP test.

2. For students who have not completed a previous TOEFL course, a minimum score of 400 must be achieved to receive a passing grade.

It will be necessary for students to do the TOEFL ITP test.

Grades of "A, B or C" will be based on classwork, homework and attendance.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEFL test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEFL class.

[Textbooks]

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングV

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

2~4年 前・後期 選択 2単位

[Course Content] TOEIC (5)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこからより自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、学力差に対応したキメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅥの授業につなげる。

This course is not available for students who have completed TOEIC level VI (6).

This is an intermediate course(TOEIC 475+) for the TOEIC test.

TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

[Schedule]

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students' needs.

[Assessment]

1. For students who have completed TOEIC III(3) or IV(4) courses.

TOEIC V(5) grade will be based on the students classwork, homework and attendance.

Assessment will not be based on TOEIC score

Students can but, will not have to do the TOEIC ITP test.

2. For students who have not completed a previous TOEIC course, a minimum score of 375 must be achieved to receive a passing grade.

It will be necessary for students to do the TOEIC ITP test.

Grades of "A, B or C" will be based on classwork, homework and attendance.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEIC test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEIC class.

[Textbooks]

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングⅥ

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

2～4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】 TOEFL (6)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 600点、TOEIC 860点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is a high-intermediate to advanced level course (TOEFL 450+) for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. Listening comprehension and reading comprehension will be the main areas of study

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

1. Assessment for students who have not completed a TOEFL ITP test.

TOEFLⅥ(6) will be based on the students TOEFL ITP score and their attendance. A minimum TOEFL ITP score of 458 must be achieved to receive a passing grade

2. Assessment for students who have completed TOEFL IV (4) or V(5).

TOEFLⅥ(6) will be based on the students TOEFL ITP total score and their attendance. The score will be based on an improvement from their TOEFL IV(4) or V(5) total score.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEFL test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEFL class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅥ

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

2～4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】 TOEIC (6)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 600点、TOEIC 860点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is a high-intermediate to advanced level course(TOEIC 550+) for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. Listening comprehension and reading comprehension will be the main areas of study

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students' needs.

【Assessment】

1. Assessment for students who have not completed a TOEIC ITP test.

TOEICⅥ(6) will be based on the students TOEIC ITP score and their attendance. A minimum TOEIC ITP score of 520 must be achieved to receive a passing grade

2. Assessment for students who have completed TOEIC IV (4) or V(5).

TOEICⅥ(6) will be based on the students TOEIC ITP total score and their attendance. The score will be based on improvement from their TOEICⅣ(4) or V(5) total score.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEIC test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEIC class.

【Textbooks】

To be announced

英語海外セミナー

石橋千鶴子 ジョナサン・E. ロング

集中 1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

英語／アメリカ文化研修を目的としたウェストバージニア大学での夏期英語研修プログラム。全学が対象。キャンパス内の大学寮に滞在し、約4週間の集中授業を受ける。さらに、週末のホームステイ、小旅行、現地学生および留学生との交流などが用意されている。出発前に行われる数回のオリエンテーションおよび事前事後のライティング課題なども含めて全てを修了すれば、本学の2単位が与えられる。8月下旬から9月下旬の約1ヶ月間を予定している。定員は、約30人。

2000年度実施上記研修プログラムにおける教室での学習時間は、合計約45時間、1日（9：00AM～3：30PM）の学習内容は、以下の通りだった：

午前 少人数で行われる会話クラスと総合英語の授業。
午後 アメリカ文化の授業およびプロジェクト。音楽／ドラマ／ニュースレター作成／ホームページ作成などから、各自興味のあるものを選び、英語による意見交換を行いながら仕上げていき、卒業パーティーで発表する。

【授業計画】

本研修は、ウェストバージニア大学が本学学生のために用意する特別プログラムであり、全期間の学習および生活面全ての指導は、現地教員およびその他のプログラムスタッフが当たる。(期間中、本学教職員は滞在しない。)

【評価方法】

ウェストバージニア大学授業担当者の評価による。

【テキスト】

現地にて用意される。

米国NPOインターンシッププログラム

榎田勝利

集中 1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるポイント・オブ・ライト財団との共同プログラムとして実施する。米国の民間非営利組織（NPO）でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

(活動可能な分野) 老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。(米国側協力団体) ポイント・オブ・ライト財団 (Points of Light Foundation)

【授業計画】

- (事前研修) ・インターンシップの活動分野の決定
- ・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習
- ・日本のNPO、ボランティア団体へフィールドワーク
- ・英会話のトレーニング
- (現地プログラム) ・オリエンテーション合宿
- ・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン
- ・1日特別研修プログラム
- ・インターンシップの体験報告書の作成と提出
- ・評価会、修了式、さよならパーティ
- (事後研修) ・フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価(受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書)の評価を考慮し全体評価を行う。

情報処理技術特殊 I

中野雅晴

集中 1~4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

基本情報技術者試験合格のための教育科目である。

情報技術全般の基礎知識を活用し、情報システム開発においてプログラムの設計・開発を行うとともに、将来高度な技術者を目指す者として、以下の知識・能力を身につける。

- 1) 情報技術全般に関する基本的な用語・内容の知識
- 2) 上位技術者の指導のもとにプログラム設計書を作成する能力
- 3) プログラミングに必要な論理的思考能力
- 4) プログラムのテスト手法を理解し実施する能力

【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎
- ステップ2 データベース技術
- ステップ3 コンピュータシステムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 情報と経営
- ステップ6 セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊 II

中野雅晴

集中 1~4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

ソフトウェア開発技術者試験合格のための教育科目である。

情報システム開発のソフトウェア開発技術者として、外部仕様に基づいて内部設計・プログラム設計・プログラム開発を行い、高品質なソフトウェアを開発するための、以下の知識・能力を身につける。

- 1) ネットワーク、データベース、システム構成などの情報技術に関する全般的な知識と、上位技術者の指導のもとに情報システムの設計ができる能力
- 2) 内部設計書・プログラム設計書の作成能力
- 3) プログラミングに必要な高度の論理的思考能力
- 4) ネットワーク、データベースなどに関する実装技術と知識
- 5) プログラムのテスト手法を熟知し、単体テスト・結合テストの計画と管理が行え、テストの実施についてはプログラム開発要員を指導できる能力

【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎上級
- ステップ2 コンピュータシステム上級
- ステップ3 システムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 データベース技術
- ステップ6 セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊Ⅲ

黒部晃一

集中 1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

CG検定2級の合格を目指す教育科目である。

2級のレベルは、CGを実務に活用できるレベルであり、期待できる効果として以下のことがある。

- (1) アルゴリズムを理解し、目的に応じてCGの技法を活用できる。
- (2) デザインの知識をCG画像やCGアニメーションの制作に活用できる。
- (3) CGに必要なシステムを目的に応じて選び使用できる。

【授業計画】

1. CG基礎。2次元画像生成
2. 〃
3. モデリング
4. 〃
5. 3次元座標変換
6. 〃
7. レンダリング
8. 〃
9. 〃
10. 画像処理
11. 〃
12. 著作権その他。

【評価方法】

出席状況について評価

【テキスト】

Computer Graphics 技術編CG標準テキストブック（画像情報教育振興協会）

【参考文献・資料】

Turbo Cによる3Dコンピュータ・グラフィックス（山岡祥著 森北出版）

CG検定対策講座3級 理論編（株式会社ユーミックス編著）

情報処理技術特殊Ⅳ

黒部晃一

集中 1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

CG検定1級の合格を目指す教育科目である。

1級のレベルは、高度な知識と指導力に加えCGを制作や開発に応用できるレベルであり、期待できる効果としては以下のことがある。

- (1) アルゴリズムの記述やプログラミングによる高度なCG制作ができる。
- (2) デザインの知識を効果的に活用し高度な表現ができる。
- (3) CGに関する総合的な知識が身につiki指導できる。

【授業計画】

1. VisualC++によるプログラミング
2. 〃
3. 〃
4. 〃
5. CGアルゴリズムのプログラミングと実例
6. 〃
7. 〃
8. 〃
9. 〃
10. CG検定1級の過去問題検証
11. 〃
12. 〃

【評価方法】

出席状況について評価

【テキスト】

CG検定1級問題集（画像情報教育振興会）

【参考文献・資料】

基礎から学ぶVisualC++プログラミング（山岡祥著 CQ出版）

上級英語セミナー2001A

横山綾子

2~4年 前期 選択

【授業の概要】

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。

それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。

このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO (First - in First - out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。

最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

- 第一回 通訳一般概論 Sight translation
第二回 The Student Times からの記事使用 (テープ)
Shadowing Sight translation メモ取り
逐次通訳演習
同時通訳入門
第十回

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2001A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日4限)、ポール・リンガー先生(水曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2001A

ポール・C・リンガー

2~4年 前期 選択

【Course Content】

This course is designed to provide students with both the language tools necessary for good communication and the stimulus to use those skills in daily life. Its combination of reading, listening, and discussion centered on a single topic will help students to integrate new ideas, vocabulary, and idioms into everyday speech.

A variety of language learning materials taken from newspapers, books, and magazines will be used to encourage lively discussion and enthusiastic exchanges of ideas.

All the listening exercises and many of the speaking activities are task - based to give students a sense of realism and involvement.

Vocabulary plays a key role on this course and will be introduced in two main ways: productive vocabulary will be presented through a wide variety of vocabulary exercises and through speaking and grammar activities; receptive vocabulary is introduced through reading and listening exercises.

Guidelines will be given to help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test.

【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION / EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORTS
TOEIC SCORES

【Textbooks】

To be announced.

「上級英語セミナー2001A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日4限)、ポール・リンガー先生(水曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2001B

横山綾子

1~4年 後期 選択

【授業の概要】

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。

それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。

このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO (First - in First - out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。

最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

- 第一回 通訳一般概論 Sight translation
第二回 The Student Times からの記事使用 (テープ)
Shadowing Sight translation メモ取り
逐次通訳演習
同時通訳入門
第十回

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2001B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日4限)、ポール・リンガー先生(水曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2001B

ポール・C・リンガー

1~4年 後期 選択

【Course Content】

This course is designed to provide students with both the language tools necessary for good communication and the stimulus to use those skills in daily life. Its combination of reading, listening, and discussion centered on a single topic will help students to integrate new ideas, vocabulary, and idioms into everyday speech.

A variety of language learning materials taken from newspapers, books, and magazines will be used to encourage lively discussion and enthusiastic exchanges of ideas.

All the listening exercises and many of the speaking activities are task - based to give students a sense of realism and involvement.

Vocabulary plays a key role on this course and will be introduced in two main ways: productive vocabulary will be presented through a wide variety of vocabulary exercises and through speaking and grammar activities; receptive vocabulary is introduced through reading and listening exercises.

Guidelines will be given to help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test.

【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION / EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORTS
TOEIC SCORES

【Textbooks】

To be announced.

「上級英語セミナー2001B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日4限)、ポール・リンガー先生(水曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2001C

ジョアン・M. ウッドマン

2～4年 前期 選択

[Course Content]

This is a new and exciting course designed for higher level students who are keen to further improve their English skills. Candidates will be selected on the basis of their TOEIC IP test scores, and part of the final grade will include a component of "TOEIC IP test score improvement".

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists/tests will be generated from :

- a) teacher presented materials - (ie. CNN and BBC news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)
- b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article).
- c) TOEIC vocabulary texts /materials

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask and answer questions about it.

[Schedule]

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

[Assessment]

Assessment will include the following components :-

- 1) Vocabulary tests - 3 types
- 2) Preparation for (and participation in) class discussions
- 3) Listening comprehension activities
- 4) TOEIC IP test score improvement
- 5) Attendance

「上級英語セミナー2001C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生（火曜日5限）、ブレット・スティーブンソン先生（木曜日4限）の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2001C

ブレット・スティーブンソン

2～4年 前期 選択

[Course Content]

This course is intended to be a practical introduction to interpretation of both English and Japanese source materials. The focus of the course content will be on current affairs issues, therefore it will be useful for students to have some understanding of major contemporary economic, political and social issues.

[Schedule]

The topics to be covered include :

- Unit1 (Lessons 1-3) Note-taking skills workshop
- Unit2 (Lessons 4-5) Economic Issues
- Unit3 (Lessons 6-7) Political Issues
- Unit4 (Lessons 8-9) Social Issues
- Unit5 (Lesson 10) Review

[Assessment]

Assessment will be based on in-class participation and a final practical examination. Students will be required to practice the skills of interpretation diligently in order to obtain a passing grade.

[Textbooks]

No textbook will be used but a series of worksheets will be provided.

「上級英語セミナー2001C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生（火曜日5限）、ブレット・スティーブンソン先生（木曜日4限）の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2001D

ジョアン・M. ウッドマン

1～4年 後期 選択

【Course Content】

This is a new and exciting course designed for higher level students who are keen to further improve their English skills. Candidates will be selected on the basis of their TOEIC IP test scores, and part of the final grade will include a component of "TOEIC IP test score improvement".

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists/tests will be generated from :

- a) teacher presented materials - (ie. CNN and BBC news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)
- b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article).
- c) TOEIC vocabulary texts /materials

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask and answer questions about it.

【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

【Assessment】

Assessment will include the following components :-

- 1) Vocabulary tests - 3 types
- 2) Preparation for (and participation in) class discussions
- 3) Listening comprehension activities
- 4) TOEIC IP test score improvement
- 5) Attendance

「上級英語セミナー2001D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生（火曜日5限）、ブレット・スティーブンソン先生（木曜日4限）の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2001D

ブレット・スティーブンソン

1～4年 後期 選択

【Course Content】

This course is intended to be a practical introduction to interpretation of both English and Japanese source materials. The focus of the course content will be on current affairs issues, therefore it will be useful for students to have some understanding of major contemporary economic, political and social issues.

【Schedule】

The topics to be covered include :

- Unit1 (Lessons 1-3) Note-taking skills workshop
- Unit2 (Lessons 4-5) Economic Issues
- Unit3 (Lessons 6-7) Political Issues
- Unit4 (Lessons 8-9) Social Issues
- Unit5 (Lesson 10) Review

【Assessment】

Assessment will be based on in-class participation and a final practical examination. Students will be required to practice the skills of interpretation diligently in order to obtain a passing grade.

【Textbooks】

No textbook will be used but a series of worksheets will be provided.

上級英語セミナー2001D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生（火曜日5限）、ブレット・スティーブンソン先生（木曜日4限）の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

スポーツ特殊講座

松田秀子

集中 1～4年 前期 2単位

【授業の概要】

〈マリンスポーツ〉

各種のマリンスポーツを通し、海という自然を体験し、より深く理解する。各種目の基礎的技術の向上と知識の習得、生涯スポーツの実践へつなげる。

【授業計画】

〈内容〉

1. 期日

実習 平成13年8月6日(月)～9日(木)
3泊4日

第1回説明会 平成13年5月23日(水) 5限目

第2回説明会 平成13年7月4日(水) 5限目

2. 場所 ヤマハマリーナ浜名湖 静岡県

3. 実習種目

ウェイクボード、ボードセーリング、
セーリングクルザー等

4. 実習費 約74,000円

5. 定員 約20名

(定員に満たない場合は中止になります。)

*実習費に関しては、12年度のものでありますので変更する場合があります。

*説明会には必ず参加すること。(やむを得ない場合を除く)

【評価方法】

実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。

スポーツ特殊講座

松田秀子

集中 1～4年 前期 2単位

【授業の概要】

〈ボウリング〉

ボウリングを通して、基礎技術の向上と知識の習得を目標とし、生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業計画】

〈内容〉

1. 期日

実習 平成13年9月5日(水)・6日(木)・
7日(金)・10日(月)・
11日(火)・12日(水)

計6日間 午前中のみ

第1回説明会 平成13年5月23日(水) 5限目

第2回説明会 平成13年7月4日(水) 5限目

2. 場所 星ヶ丘ボウル

3. 実習費 6,000円

4. 募集人数 40名

*実習費に関しては、12年度のものでありますので変更する場合があります。

*説明会には必ず参加すること。(やむを得ない場合を除く)

【評価方法】

実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。

スポーツ特殊講座

杉山 和

集中 1～4年 前期 2単位

【授業の概要】

〈スクーバダイビング〉

「海の中」の自然を体験し、より視野を広める、スクーバダイビングに必要な初級のライセンスを取得し、生涯スポーツの実践へつなげる。

【授業計画】

〈内容〉

1. 期日

プール実習 平成13年8月20日(月)～25日(土)
この期間中に時差をつけて3日間実施します。

海洋実習 平成13年9月10日(月)～13日(木)
3泊4日

第1回説明会 平成13年5月23日(水)

第2回説明会 平成13年7月21日(土)

2. 場所

プール実習 ロコダイバーズ 室内プール(一社)
海洋実習 沖縄県 伊江島

3. 諸経費

実習費 約50,000円(講習費、テキスト代、申請料)

用具代 約50,000円(重器材レンタル代、個人器材)

海洋実習費 約78,000円(交通費、宿泊費)

その他 約30,000円(ウェットスーツ) 希望者のみ

4. 定員 約20名

*諸経費については、12年度のものでありますので変更になる場合があります。

*説明会には必ず参加すること。(やむを得ない場合を除く)。

【評価方法】

1. 実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。
2. 実習期間中、欠席した場合は単位が認められません。

スポーツ特殊講座

松田秀子

集中 1～4年 後期 2単位

【授業の概要】

〈スケート〉

スケートを通して、基礎的技術の向上と、知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へつなげる。

【授業計画】

〈内容〉

1. 期日

実習 平成14年2月6日(木)・7日(金)・
8日(金)・12日(火)・
13日(水)・14日(木)

6日間 午前のみ

第1回説明会 平成13年11月7日(水) 5限目

第2回説明会 平成14年1月9日(水) 5限目

2. 場所 名古屋スポーツセンター (大須)

3. 実習費 約7,200円

4. 定員 約40名

*実習費に関しては、12年度のものでありますので変更する場合があります。

*説明会には必ず参加すること。(やむを得ない場合を除く)。

【評価方法】

実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。

スポーツ特殊講座

金子恭久

集中 1～4年 後期 2単位

【授業の概要】

〈スキー〉

スキーを通して大自然の厳しさやおおらかさに接し、スキーの基礎的技術の向上と知識の習得を目標とする。

【授業計画】

〈内容〉

1. 期日

実習 平成14年2月17日（日）～2月21日（木）
4泊5日の予定

第1回説明会 平成13年11月7日（水）5限目

第2回説明会 平成14年1月9日（水）5限目

2. 場所 長野県 信州菅平高原スキー場

3. 宿泊所 福美津屋旅館

4. 実習費 約40,000円

（宿泊費・交通費・食事代・保険料・雑費）

5. その他の費用

リフト券代 約12,000円（レベルによって異なる）

レンタルスキー（板、ブーツ、ストック） 6,500円

レンタルウェア 4,000円

小物（帽子、手袋、ゴーグル） 1,500円

6. 定員 約40名

7. オプション企画（体験）

スノーボード（レンタル代、講習費） 6,000円

ヘリスキー（ヘリコプターの搭乗費） 6,000円

スキー検定（検定料） 6,000円

*定員に大きく満たない場合は中止になります。

*実習費及びその他の費用に関しての料金は、12年度のものでありますので、変更になる場合があります。

*説明会には必ず参加すること。（やむを得ない場合を除く）

【評価方法】

1. 実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。
2. 実習期間中、欠席した場合は単位が認められません。